

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛冶屋敷 A 遺跡 鍛冶屋敷前遺跡

－市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書－

2000年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛治屋敷 A 遺跡 鍛治屋敷前遺跡

－市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書－

2000年3月

仙台市教育委員会

序

日頃より仙台市の文化財保護行政に対しまして、ご理解とご協力を賜り、仙台市教育委員会といたしまして、誠に感謝にたえません。

仙台市の南部に位置する富田・富沢地区は市内でも遺跡が数多く分布する地域です。北に隣接する長町・富沢地区においては上地区画整理事業によって都市としての基盤整備が進められ、地域環境が大きく変わりつつあるところです。こうした動きの中で開発に伴う発掘調査が頻繁に行われ、年毎に先人の生活文化の様相が解明されつつあることは喜ばしいところであります。現在まで継承されてきた先人たちの貴重な遺産を新しい「まちづくり」の中でどのように活用していくのか、地域の方々と共に考えてまいりたいと存じます。

さて、この度の鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡の発掘調査では、縄文時代から奈良・平安時代の人々の生活の一端が明らかにされ、この地域の歴史を解明するための一助となる成果が得られております。本報告書はその成果をまとめたものであります。

文化財保護行政に対しまして、今後とも市民の皆様のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げ、刊行のご挨拶といたします。

平成12年3月

仙台市教育委員会

教育長 小松 弥生

本文目次

序文

例言

I. 調査に至る経過.....	1
II. 調査要項.....	1
III. 遺跡の位置と環境.....	2
(1) 遺跡の位置.....	2
(2) 地理的環境.....	2
(3) 歴史的環境.....	2
IV. 調査の方法と経過.....	6
(1) 確認調査.....	6
(2) 本調査.....	6
V. 錫治屋敷A遺跡.....	8
〔1〕基本層序	8
〔2〕検出遺構と出土遺物	8
(1) 古代以降の遺構と出土遺物.....	12
(2) 縄文時代の遺構と出土遺物.....	37
〔3〕まとめ	72
VI. 錫治屋敷前遺跡.....	73
〔1〕基本層序	73
〔2〕検出遺構と出土遺物	74
(1) 古代以降の遺構と出土遺物.....	74
(2) 縄文時代の遺構と出土遺物.....	108
〔3〕まとめ	135
写真図版.....	137

例　　言

1. 本書は仙台市市道「富田富沢線」建設に先立って行った錫治屋敷A遺跡、錫治屋敷前遺跡の発掘調査報告書である。
3. 報告書作成にあたって次の方々の参加を得た。
 青山涼子、伊藤幸子、小泉幸子、菅谷裕子
4. 本調査における出土遺物、図面、写真等の資料は仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。
5. 発掘調査、報告書作成にあたって次の方々のご指導、ご協力を賜った。
 遠藤昭一、早川五兵衛

I. 調査に至る経過

平成8年1月24日付で、仙台市長より市道「富田富沢線」の拡幅工事に係る発掘届が提出された。予定地区は鍛冶屋敷A遺跡の中央部と南ノ東遺跡の北辺部を東西方向に横断している。仙台市教育委員会では事業主体者と協議し、遺構の密度を調査するための確認調査を平成8年度に実施することとしていた。確認調査実施に先立つ平成8年3月に鍛冶屋敷A遺跡の東側の水路以東の水田で道路予定地の耕作土が犁取られていた部分約600mに、土器等の遺物の散布と、遺構と思われるプランが認められた。この中には堅穴住居跡と思われる方形のものや、焼土等も確認されたため、直ちに工事主体者にその旨を連絡し、工事の中止を指示した。周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の範囲外であったため、所在地の地名から「鍛冶屋敷前遺跡」として新規登録し、当初予定していた鍛冶屋敷A遺跡と南ノ東遺跡の確認調査の結果を待つて、約4,000m²を調査対象面積として、発掘調査に取りかかるとした。

平成8年6月26日から7月8日まで実施した確認調査では、鍛冶屋敷A遺跡から南ノ東遺跡にかけて13区画の調査区を設定し、鍛冶屋敷A遺跡の東端から順に1区から13区とした。調査の結果、鍛冶屋敷A遺跡では昭和55年～59年にかけて行われた圃場整備の際に削平や擾乱を受けている部分があったものの、古代のものと思われる堅穴住居跡、土坑、溝跡等の遺構、水田耕作土と思われる土層が確認された。鍛冶屋敷A遺跡の西側から南ノ東遺跡にかけては削平や擾乱が東側より著しく、時期不明の溝跡1条のほかには遺構は確認されなかった。以上のことから鍛冶屋敷A遺跡の東側の約3,000m²を本調査の対象範囲とし、鍛冶屋敷前遺跡と同時に発掘調査に着手することとした。平成9年5月2日付で提出された鍛冶屋敷前遺跡に係る発掘届けを受けて、平成9年7月1日より両遺跡の発掘調査を実施した。

II. 調査要項

遺跡名	鍛冶屋敷A遺跡（宮城県遺跡番号 01085、仙台市文化財登録番号C-152） 鍛冶屋敷前遺跡（宮城県遺跡番号 01511）
所在地	鍛冶屋敷A遺跡 仙台市太白区富田字京ノ北地内他 鍛冶屋敷前遺跡 仙台市太白区富沢字鍛冶屋敷前、熊ノ前他
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課調査第2係 担当職員 確認調査 工藤哲司、竹田幸司 本 調 査 主浜光朗、平間亮輔、工藤信一郎
調査期間	確認調査 平成8年6月26日～同7月8日 本 調 査 平成9年7月1日～同10年2月6日



第1図 調査地 位置図

調査対象面積	鍛冶屋敷A遺跡 約3,100m ² （発掘面積：約1,550m ² ） 鍛冶屋敷前遺跡 約4,000m ² （発掘面積：約2,700m ² ）
調査参加者	（野外調査・室内整理） 阿部あき子、板橋栄子、伊藤 卓子、遠藤 福子、加藤けい子、神崎 是夢、菊地 恵子、菊地 純二、小松千代子、小山つるよ、斎藤喜恵子、佐藤 洋子、佐藤 優子、関谷 栄子、富永美輪子、渡辺 節子、渡辺 芳裕、 （野外調査） 阿部 敬子、阿部みはる、阿部八重子、石井千代子、内田 節子、小川 良子、金沢沙知子、狩野 吉則、菊地 富子、熊谷きぬ子、熊沢 とも、小林 斎美、佐藤しよし、佐野たみえ、島崎なつ子、庄子かつえ、菅原 弘、高橋たづよ、三浦たか子、三浦つよの、森 ミヨノ、吉田 公治、那須 孝夫、 （室内整理） 鳴託 森 刚男、相沢美佐子、石川カツ子、井上里映子、及川のり子、小形 尚子 小林 由美、佐藤 悅子、高橋 弘子、千葉 朱美、橋本 孝、若生 洋子、渡辺まさ子
申請者	仙台市長 藤井 黎
調査協力	遠藤 昭一（町内会長）、早川五兵衛、

III. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡は、JR東北本線長町駅より南西およそ3kmの地点、仙台市太白区富田字京の北、富沢字鍛冶屋敷前地内に所在する。遺跡の南方約0.5kmには名取川が、東方約4.5kmには名取川と広瀬川の合流点が望める所である。遺跡の範囲は鍛冶屋敷A遺跡が東西約300m、南北約150mで面積は約39,000m²、鍛冶屋敷前遺跡が東西約250m、南北約350mで面積は約58,000m²に及ぶものと推定される。

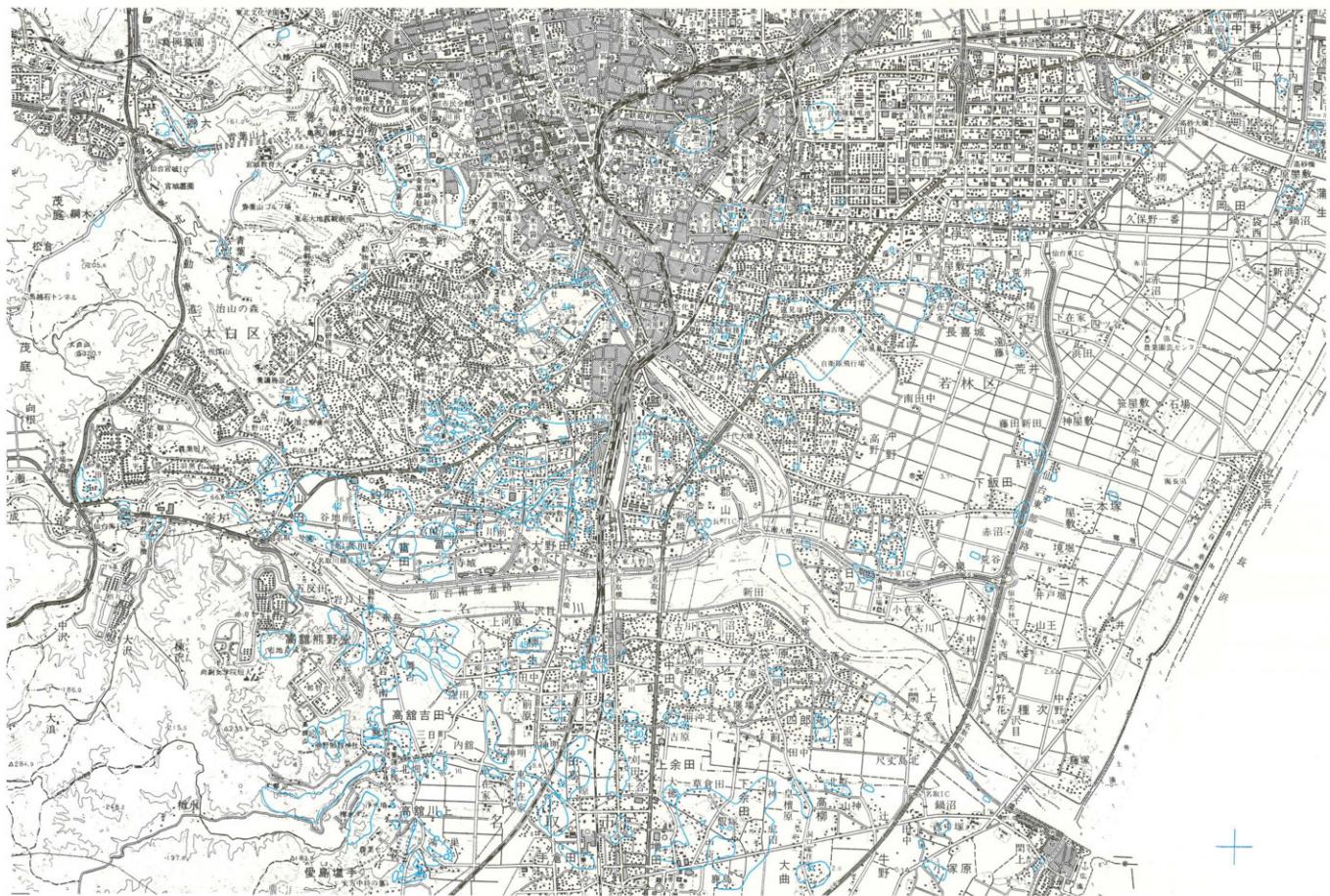
(2) 地理的環境

遺跡周辺の地形を概観すると、西側に南北に連なる奥羽山脈と、その東麓から派生する陸前丘陵、さらに東方に宮城野海岸平野が広がっている。仙台市南部付近では、陸前丘陵を広瀬川と名取川が東流しており、その河間段丘を青葉山丘陵（最高標高212m）、広瀬川以北を七北田丘陵（標高500m前後）、名取川以南を高館丘陵（標高200m前後）と呼称されている。広瀬、名取両河川は中流域に下刻作用により、4～5段の段丘地形を発達させている。それらは古期より青葉山段丘、台原段丘、上町段丘、中町段丘、下町段丘と呼称されている。また、両河川は丘陵を貫流した後、冲積作用により宮城野海岸平野を形成している。宮城野海岸平野は地理的条件や成因、地質などからいくつかに地形区分されており、仙台市南部の広瀬川と名取川の合流点付近では河間低地を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼称している。

遺跡の所在する富田富沢地区は宮城野海岸平野の中でも郡山低地に所属する。郡山低地は、北東縁と南縁を広瀬川と名取川によって画され、北西縁は長町－利府構造線で画された扇状地性の冲積面である。標高はおよそ7～20mである。また、広瀬川と名取川両河川沿いに自然堤防が良好に発達している他、その中央部を南北に走る自然堤防も見られる。自然堤防の背後には後背湿地が広がっている。

富田富沢地区は郡山低地南西端部に位置し、北側に名取川の支流である笊川が曲流している。笊川は青葉山丘陵中の太白山付近に源を発する河川で、改修以前には流路を変じつつ頻繁に氾濫を繰り返していたことが知られている。遺跡の周辺は標高が15m～20mで、名取川と笊川によって旧河道、自然堤防、後背湿地が形成されており、現在は水田地帯となっている。

(3) 歴史的環境



第2図 周辺の遺跡

郡山低地南西端部及びその周辺には数多くの遺跡が分布しており、近年の開発の進展に伴い仙台市内でも発掘調査が比較的多く行われている地域である。これまでの調査で各時代の様相が次第に解明されてきている。

旧石器時代では、青葉山丘陵から南に張り出した小丘端部に山田上ノ台遺跡、北前遺跡がある。中期及び後期旧石器時代の文化層が確認され各種の石器が出土している。また、沖積面に位置する富沢遺跡では後期旧石器時代の森林が検出され、樹木や石器の他に焚き火跡や、動物の糞などが検出されており、すでにこの時期には沖積地まで生活の場が広がっていたことが明らかになっている。

縄文時代では、丘陵地から沖積地まで広範囲な地域に遺跡の分布が見られる。前述の小丘端部や低位の段丘上に、人来田遺跡、山田上ノ台遺跡、北前遺跡、三神峯遺跡、上野遺跡等の遺跡がある。早期から後期にかけての遺構や遺物が検出されている。低地には自然堤防上や自然堤防から後背湿地にかけて下ノ内浦遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、伊古田遺跡、王ノ塙遺跡等がある。早期から晩期にかけての遺構や遺物が検出されている。特に下の内浦遺跡では早期末葉の堅穴住居跡や後期前葉の配石墓群が検出され、大野田遺跡でも後期前葉の配石墓群を伴う配石、集石、列石等の祭祀遺構群が検出されている。更に郡山低地東部の郡山遺跡、北日城跡では後期後葉から晩期にかけての遺構や遺物が検出されている。これらの自然堤防上の地域は居住域として後世に連続している。

弥生時代では、遺跡数は減少するが、丘陵部から低湿地まで、広範囲な遺跡の分布が見られる。丘陵上には土手内遺跡、段丘部には船渡前遺跡等があり、堅穴住居跡や遺物包含層が検出されている。低地の自然堤防上から後背湿地にかけては西台遺跡、下ノ内浦遺跡、富沢遺跡、山口遺跡等の遺跡があり、前2者からは変形棺墓や墓壙、堅穴遺構等が検出され、後2者からは水田跡が検出されている。これらに伴う集落跡は明らかではないが、後背湿地周辺の自然堤防上や段丘縁辺に存在すると考えられている。

古墳時代では、更に遺跡の分布範囲が海岸近くの浜堤上にまで広がっている。高塚古墳をみると、丘陵頂部から麓にかけて三神峯古墳群、裏町古墳、一塚古墳、二塚古墳等があり、さらに原遺跡では11基の古墳が検出されている。低地の自然堤防上には荒川を挟んで北側には兜塚古墳、教塚古墳、金岡古墳等があり、南側には春日社古墳、王ノ塙古墳を含む大野田古墳群がある。その他に丘陵斜面には横穴墓群が多数みられ、埴輪窓跡や須恵器窓跡がある。集落跡は丘陵上の土手内遺跡の他、自然堤防上に六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡等がある。富沢遺跡からは水田跡が検出されている。また、王ノ塙遺跡から山田上ノ台遺跡にかけての地域では古墳時代後半から奈良時代にかけての畑耕作に関すると考えられる小溝状遺構群が広範囲に検出されている。一方、名取川と広瀬川の合流点の

地名	ア	地	種	別	年	代	No.	地名	立	地	種	別	年
1 山田上ノ台遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	25 滝原遺跡	自然・砂質	水路跡	牛込、会津、安達、中村、近代			
2 北前遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	27 串越跡	自然堤防	栗原跡	仙台、古賀、御前原			
3 人来田遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	28 水辺跡	自然堤防	火葬跡	仙台、古賀、会津、安達、中村			
4 三井田古墳群	丘陵	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	29 春山遺跡	自然堤防	水路跡	仙台、古賀	遺文(先・古)・海田(中)・馬場、安達、中村、平安		
5 山田遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	30 伊賀ヶ崎跡	段丘	火葬跡	仙台、平成			
6 上野田遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	31 清瀬古墳群	段丘	火葬跡	仙台、平成			
7 下ノ内浦遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	32 丹波山遺跡	段丘・砂質	火葬跡	仙台、古賀、会津、安達、中村、近代	印文(先・古・中・近)・馬場(中)			
8 ドノリ遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	33 美澤古墳群	丘陵	古墳					
9 六反田遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	34 千子寺古墳群	自然堤防	水路跡	仙台(中)				
10 金岡古墳	丘陵	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	35 遠見原古墳	自然堤防	水路跡	宮城(中)			
11 駒瀬川遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	36 船岡古墳	丘陵	古墳	宮城(中)			
12 西田古墳群	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	37 一城古墳	丘陵	古墳	宮城(中)				
13 相模野古墳群	丘陵	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	38 七ヶ所古墳	丘陵	古墳	宮城(中)			
14 黒木小塙遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	39 鶴屋古墳	段丘	古墳	宮城(中)				
15 四合ヶ原跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	40 小川南古墳	自然堤防	乳頭跡	仙台(中)・馬場(中)・仙台、古賀、安達、中村	遺文(先・古)・佛手(中)			
16 大野田遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	41 鶴堂古墳	谷戸	古墳	仙台、平成				
17 安久志遺跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	42 田中平古墳	冲積平野	古墳	仙台、平成、近代				
18 安久志跡	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	43 鶴ノ巣古墳	谷戸	古墳	仙台、平成				
19 銀河原町古墳群	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	44 鶴ヶ崎古墳	冲積平野	古墳	仙台、中村				
20 銀河原町古墳群	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	45 鶴ケ崎古墳	冲積平野	古墳	仙台、会津、安達、中村				
21 早川遺跡	段丘	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	46 朝日加賀跡	自然	古墳	仙台			
22 今泉古墳	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	47 二ノ山古墳	自然	古墳	仙台、会津、安達、中村、近代				
23 十字山古墳	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	48 佐久湊跡	自然	古墳	仙台、会津、安達、中村、近代				
24 ニノ山古墳	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	49 井岸城跡	自然	古墳	仙台、古賀、会津、安達、中村、近代				
25 丁山古墳	自然	浴	古	石器(先・古・中・近)	代	50 吉井城跡	自然	古墳	仙台、古賀、中村、近代				

表1 周辺の遺跡名表

西側には、多賀城以前の官衙跡である郡山遺跡とその付属寺院である郡山廃寺がある。

奈良・平安時代では、自然堤防上に山口遺跡、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、大野田遺跡、元袋遺跡等があり、山口遺跡では水田跡と集落跡が、その他の遺跡では集落跡が検出されている。富沢遺跡、山田条里遺跡では水田跡が検出されている。

中世から近世にかけては、丘陵上に茂ヶ崎城跡、熊野堂大館等があり、平野部でも鎌治屋敷前遺跡の北側に隣接した富沢館跡や北目城跡等数多くの城館が建てられ、富沢遺跡や山口遺跡では水田跡が検出されている。中世では王ノ壇遺跡や柳生台畠遺跡、中田南遺跡で屋敷跡、大野田古墳群では道路跡、近世では元袋遺跡で御仮屋と考えられる屋敷跡、山田条里遺跡で屋敷跡の一部と考えられる堀跡が検出されている。

以上のように富田、富沢地区周辺地域には、旧石器時代から現代まで各時代に亘って連続と人間生活の痕跡が見られ、仙台市南部の遺跡群を形成している。

IV. 調査の方法と経過

(1) 確認調査（第3図）

平成8年度に実施した鎌治屋敷A遺跡から南ノ東遺跡にかけての確認調査は、道路建設予定地全域を対象範囲とし、鎌治屋敷A遺跡に7区、鎌治屋敷A遺跡と南ノ東遺跡の間に4区、南ノ東遺跡に2区の調査区を設定し、鎌治屋敷A遺跡の東端から順に1区から13区とした。確認調査の結果、鎌治屋敷A遺跡に設定した1区、2区では昭和55年～59年にかけて実施された柵場整備の際に大規模な削平や攪乱を受けており、遺構は残存しなかった。3区から5区にかけては古代のものと思われる竪穴住居跡ないし掘り方7基、土坑5基、溝跡2条、ピット等の遺構が確認され、土器、石器などが出土した。6区、7区では時期は不明であるものの水田作土と思われる土壤が灰白色火山灰を含む層の上部に確認された。7区の西側から南ノ東遺跡にかけては削平や攪乱が東側より著しく、時期不明の溝跡1条が確認されたのみで他に遺構は確認されず、若干量の遺物が出土したのみであった。これらのことを受け、鎌治屋敷A遺跡に設定した3区から5区にかけての範囲は全域に本調査区を設定し、6区、7区については水田作土の時期決定のために水田作土と思われる土壤が確認された6区及び7区の東半部に本調査区を設定することとし、1区、2区及び7区の西半部より西側は本調査の必要は無いものと判断された。

(2) 本調査

本調査は確認調査によって遺構の状況が把握されている鎌治屋敷A遺跡から実施し、その後、鎌治屋敷前遺跡の調査に着手することとした。鎌治屋敷前遺跡の遺構の検出状況によって調査期間を検討し、次年度まで延長するかどうか判断する予定で開始したが、遺構の検出状況は希薄であり、遺物の出土量についても特に多量に出土することが予想されなかつたことから鎌治屋敷前遺跡についても平



第3図 調査区位置図・確認調査区配置図

成9年度中に調査を終了することとした。

野外調査は平成9年7月1日より開始し、平成10年2月6日に終了した。

銀治屋敷A遺跡（第3図、4図）

銀治屋敷A遺跡では、発掘調査以前に道路予定地を横断する水田作業のための乗り入れ用通路が6か所敷設されていたため、調査区はそれらの間に設定し、調査区の名称について確認調査時の調査区名を変更して、西側から順に1区から5区とした。調査にあたっては、予定道路のセンター杭のNo34杭を原点として、No24とNo34を結ぶ線を東西の基準線とし、これに直交して南北の基準線を設定した。この基準線を基にして10m×10mのグリッドを設定した。調査は東側の5区から西側の1区に向かって重機を用いて表土を除去し、その後人力によって遺構検出、精査を行った。遺構精査は西側の1区から東に向かって進めた。1区、2区で現代の水田作上の下層に確認調査の際に認められた水田作土は検出されず、確認調査で確認された水田作土の時期は明らかにできなかった。3区から5区にかけての3層面で、古代の竪穴住居跡4軒、土坑21基、溝跡6条、河川跡等の遺構と土器類、須恵器、鉄製品、鉄滓等の遺物が出土した。4区及び5区の北壁際で排水と下層の観察を兼ねた側溝を掘り下げた際、下層から縄文土器が出土したため、他の調査区の壁際にも側溝を掘り下げたところ4区の東側から5区全域に縄文時代後期の土器が包含される上層が認められた。更に東側へ拡がることが想定されたため当初は確認調査時に遺構、遺物共に検出されていないことから本調査区から除いていた確認調査時の2区を本調査の6区として設定し、包含層上面まで重機で上層の土層を除去し、トレンチを設定して調査し、遺物の包含状況によって全面の掘り下げを行うか判断することとしたが、遺物の密度が極めて低かったことから全面の調査は行わなかった。

古代の遺構面の調査が終了した部分から下層の調査に移行したが、4区の縄文後期の遺物包含層の上層で配石遺構と列石、石組みかね等の遺構が検出された。

縄文後期の遺物包含層の調査は4区及び5区の全域と6区に設定したトレンチで行った。遺物包含層上面まで重機で土層を除去した後、人力で精査した。遺物包含層の上面で竪穴住居跡2軒の他、倒木痕が検出された。遺物包含層の下層の上面では、竪穴遺構1基、土坑12基、ピット、倒木痕等が検出され、多数の縄文土器、石器等が出土した。

銀治屋敷前遺跡（第3図、58図）

銀治屋敷前遺跡の遺跡発見時には遺跡内の道路予定地内を横断する水路の東側の大部分の範囲で水田耕作土の犁取り工事が行われ、遺構面以下まで掘り下げられた部分も認められていた。工事の中断後、発掘調査開始までの間遺構面保護の処置がとられなかつたため遺構面はかなり荒れた状態になっていた。発掘調査開始時には道路予定地を横断する水田作業のための乗り入れ用通路が2か所、埋設管が2か所敷設されていたため、調査区はそれらの間に6か所設定した。西から2番目の調査区は面積が狭かつたため、3番目の調査区と合わせて1つの調査区とし、西側から順に1区から5区とした。調査にあたっては、銀治屋敷A遺跡と同様にセンター杭のNo12とNo21を結んだ線を東西の基準線とし、これに直交して南北の基準線とした。この基準線を基にNo21杭から西へ60m延長して10m×10mのグリッドを設定した。調査は東側の5区から西側の1区に向かって重機を用いて表土を除去したが、4区から2区の東半部までは水田耕作土の犁取りの残りの部分のみであったため、人力で表土を除去した部分もある。その後、人力によって遺構確認、精査を行った。精査は東側の5区から西に向かって進めた。3層面で古代の竪穴住居跡2軒、土坑35基、溝跡5条、河川跡等の遺構と土器類、須恵器等の遺物が出土した。5区の南、北壁際で排水と下層の観察を兼ねた側溝を掘り下げたところ1区の西端と2区の東半から4区の東寄りまでの範囲で縄文土器が包含される土層が認められた。

古代の遺構面の調査が終了した部分から下層の調査に移行したが、側溝での遺物の出土量から5区は遺物包含層として土層の分布する範囲全域を掘り下げ、他の調査区では調査区の中央に2m幅、南壁際に2m幅のトレンチを

設定し、遺構の検出など必要に応じてトレントを拡張して掘り下げることとした。その結果、石組炉2基、地床炉2基、土坑9基、倒木痕等が検出され、多数の縄文土器、石器等が出土した。

遺物包含層からの遺物の取り上げについては、鍛冶屋敷A遺跡4区、5区、鍛冶屋敷前遺跡5区の10m×10mのグリットを更に2m×2mの小グリットに分割し、北西を1として東へ5まで、2段目を6～10までとし、順に25まで番号を付して小グリット毎に取り上げた。

実測図は、調査区全体に設定したグリットを基準とした簡易遺り方を設け、調査区全体を1/40の平面図、1/20の土層断面図を作成し、各遺構は1/20の平面図、土層断面図、必要に応じて1/10の図面を作成した。記録写真は、35mm版及び6×7版の白黒及びカラーリバーサルを用い、調査の進行状況を随時35mmカラープリントで撮影した。

V. 鍛冶屋敷A遺跡

〔1〕基本層序（第5図）

調査区が細長い範囲にわたるため、土性、土色などに若干の違いは見られるがI～VI層まで大別6枚、細別16枚の層が確認された。

I層は、2層に細分される。暗褐色～灰黄褐色で、シルト質土壤である。現代の水田作土であると考えられる。

II層は、2層に細分される。黒褐色の粘上層である。調査区の西寄りでは顯著にみられるが、3区以東では島状に分布する部分がみられる程度である。

III層は、3層に細分される。にぶい黄褐色～灰黄褐色の砂質シルト層である。本層上面で検出された河川の削平により、4区以東でのみ分布が確認されており、西側にはみられない。本層の上面及び本層上面検出の河川跡上面が古代以降の遺構検出面であるが、下層のIIIb層上面でも古代の堅穴住居跡が検出されている。層中には古代以前の遺物が含まれている。また、6区では攤拌された状態で検出され、二次堆積の層であると考えられる。

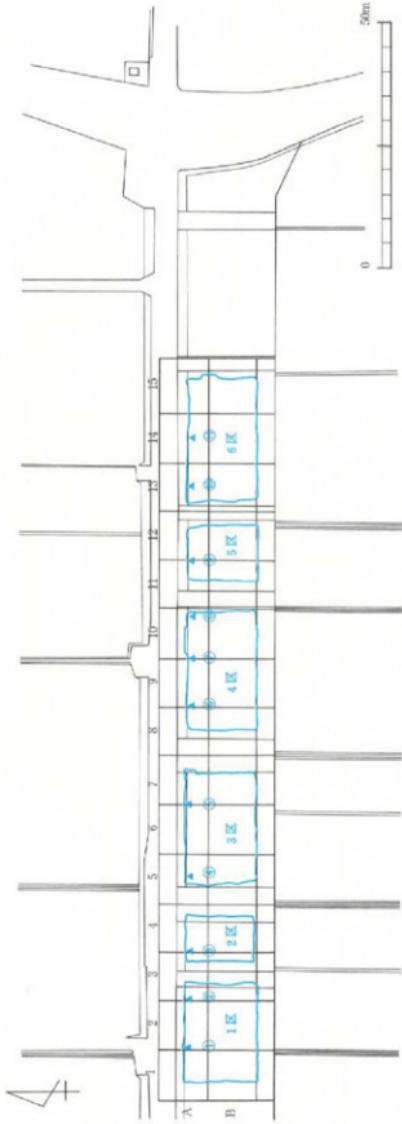
IV層は、4層に細分される。灰黄褐色～黒褐色で、砂質シルト～粘上層である。III層同様4区以東に分布している。IVa層は4区西半部のみにみられ、上面で詳細な時期は不明であるが、縄文時代の後期以降の集石遺構、配石遺構等が検出されており、4区以東のIVb層の上面が縄文時代後期の遺構検出面である。4区～5区にかけて縄文時代後期の遺物包含層を形成している。また、6区では2層に細分されるが、攤拌された状態で検出され二次堆積の層であると考えられる。

V層は、にぶい黄褐色の粘土層である。IV層と同様の分布状況を示している。本層上面が縄文時代後期以前と考えられる遺構の検出面である。本層以下は無遺物層となっている。

VI層は、4区の中央部の深掘区でのみ確認したもので、調査区全域での状況は不明である。このため、一括してVI層とした。層No12～層No15はにぶい黄褐色～オリーブ色で、粘土質シルト～シルト質粘土層、層No16は褐色の粗砂層で、下部につれて砂粒が大きくなる。

〔2〕検出遺構と出土遺物

今回の調査では、古代以降の遺構がIII層上面で堅穴住居跡3軒、土坑21基、溝跡6条の他、性格不明遺構1基、河川跡、ピットが検出され、IIIb層上面で堅穴住居跡1軒が検出された。縄文時代の遺構として、IVa層上面で、集石遺構1基、配石遺構2基、石組み炉1基、更に下層のIVb層上面で堅穴住居跡2軒の他、倒木痕、V層上面で堅穴遺構1基、土坑9基、倒木痕、ピットが検出された。遺物は整理用平箱（テンパコ32）にして30箱程度の出土量である縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、金属製品等がある。



第4回 鋼冶屋敷A遭跡調査区配置図

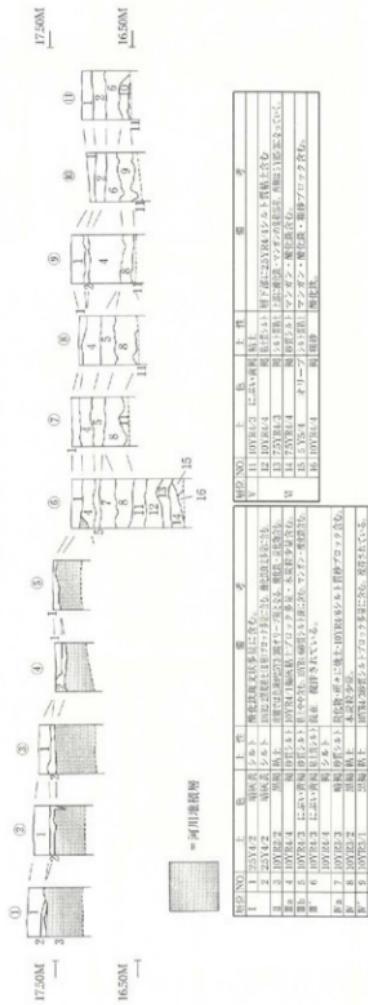
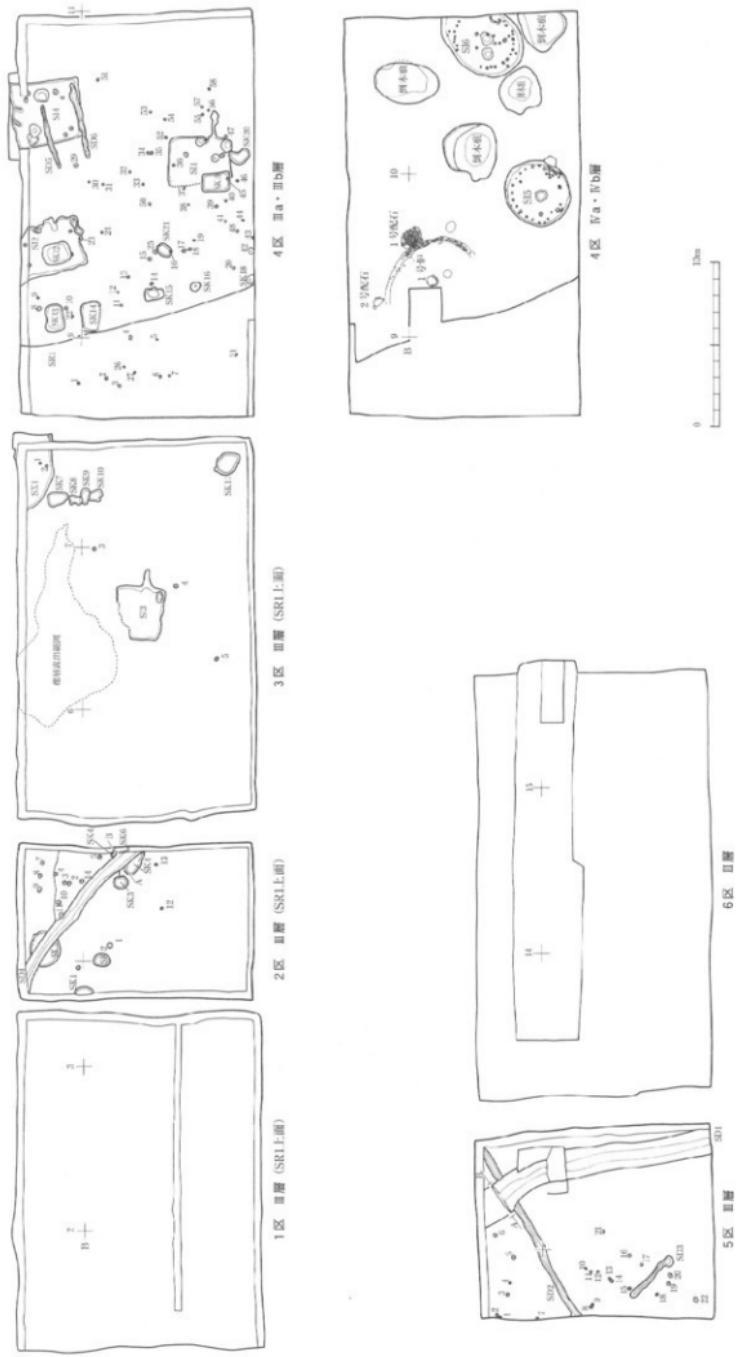
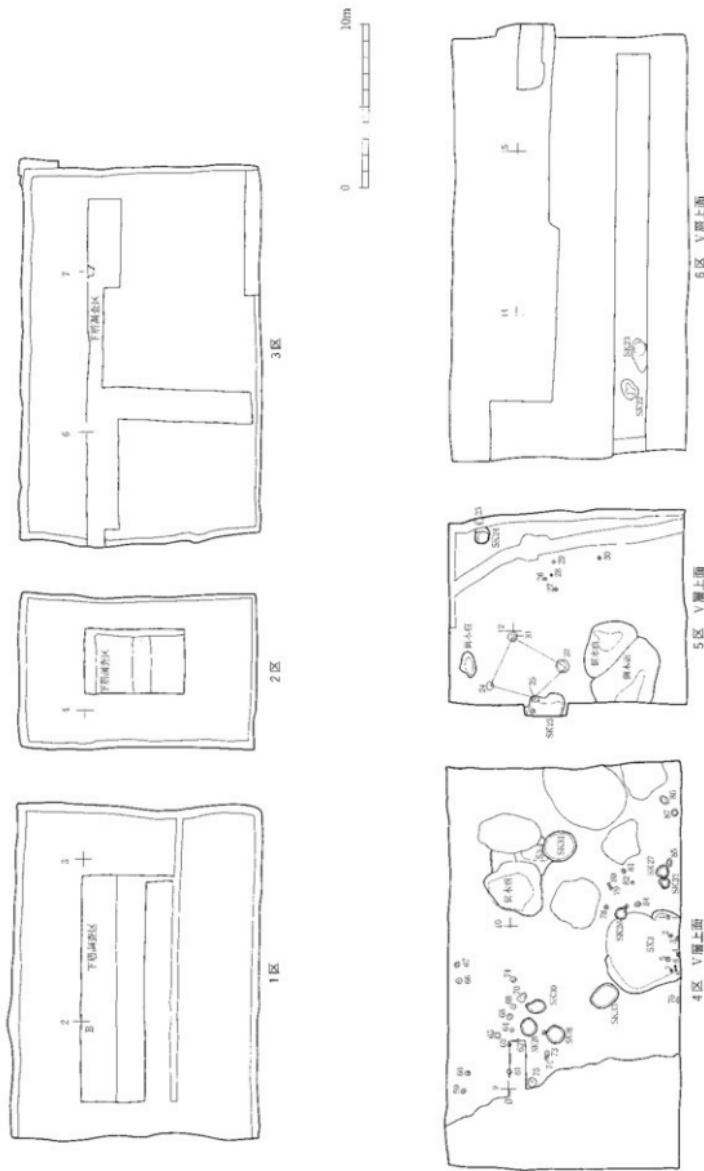


图 5-2 钢筋混凝土灌注桩基本施工方式图



第6図 箕面層帶A・B・C・D・E・F層帶地質圖



第7圖 鐵冶屋敷A遺跡V層上面遺構配置・深掘区平面図

(1) 古代以降の遺構と出土遺物

竪穴住居跡

S I-1 竪穴住居跡（第8図）

〔遺構の確認〕本住居跡は確認調査時に確認されていたものである。4区中央南東寄りのB-9・10グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認された。確認調査時には、住居跡の全体が確認されていたが、本調査時には住居跡東半部の東壁及び南壁、北壁の一部が検出されたのみで西半部は削平のためか検出されなかった。本住居跡はSK-19、20、ピットと重複関係にあり、それぞれが本住居跡を切っていることから、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕平面形は南北40m、東西3.0m以上の方形を基調としたものであると考えられるが、南東隅がやや凹んでいる。東壁を基準とした方向はN-0° -E-Wである。

〔堆積土〕3層に大別される。全体的に炭化物、焼上が混入している。

〔壁面〕最も保存の良い南壁で9cmと残存状況は良くない。床面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がる部分も見られる。

〔床面〕掘り方底面を直接床面としている。南壁際に床面下の土坑上面を床面としている部分がある。凸凹はなく平坦である。

〔柱穴〕床面で10個のピットが検出された。規模、配置から住居東側のP2・7が柱穴であると考えられるが西側の柱穴についてはピットが検出されず不明である。

〔カマド〕住居跡東壁南寄りに付設され、燃焼部、煙道部、煙出しピットが検出された。燃焼部は幅75cm、奥行き85cmでやや煙道に食い込んでおり、中央部が幅50cm、深さ20cmの凹みになっている。左側壁は崩れしており、壁面は残存していないが、中央の凹み及び右側壁、奥壁は火然により赤変している。煙道部は煙出しピットを含めた長さ155cm、幅15~25cm、深さは先端部分で4cmと残存状況は良くない。底面は先端部分に向かって徐々に高くなっている。煙出しピットは長さ50cm、幅40cmの楕円形で、確認面からの深さは24cmである。煙道途中にピットが掘られており煙出しピットから煙道部先端までは25cmある。その他に支脚等の施設は検出されなかった。

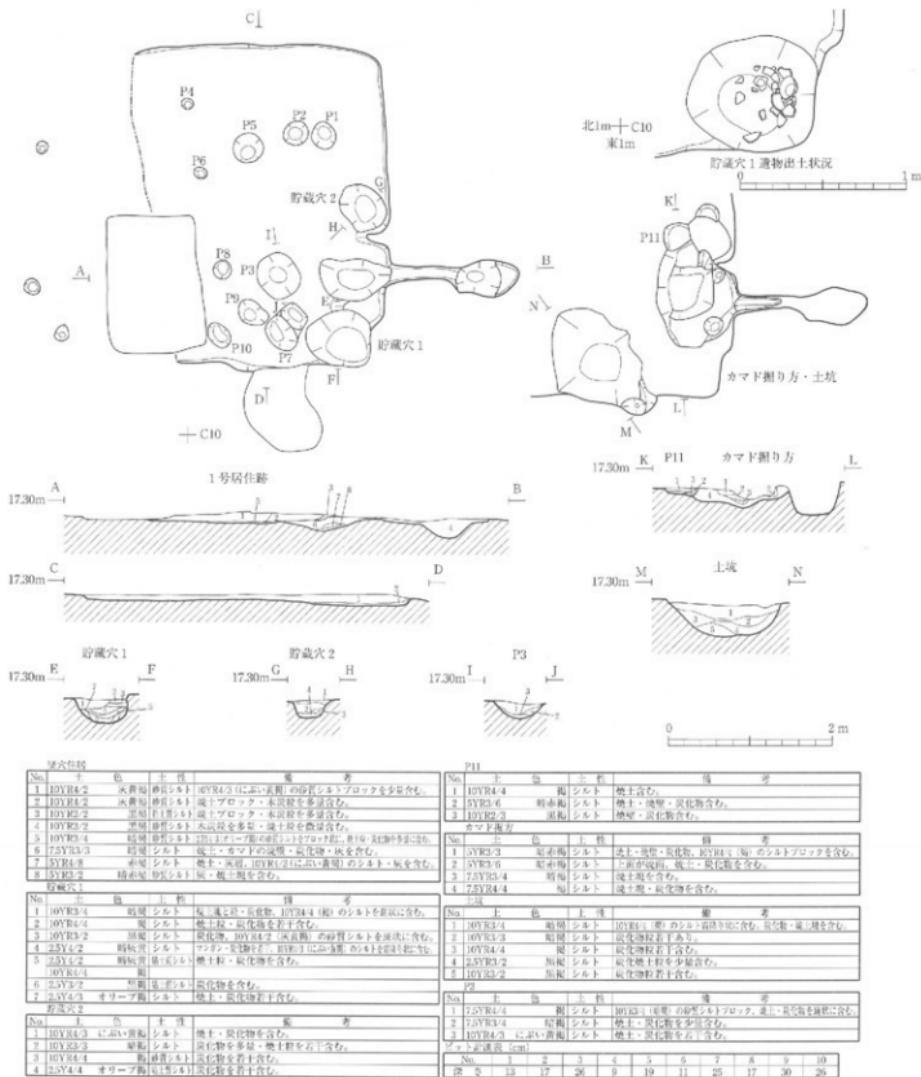
カマドの掘り方は、南側を貯蔵穴1、北側を貯蔵穴2とピット11によって切られており、正確な規模は不明であるが、幅130cm以上、奥行き95cmで、深さは10cm前後、中央手前には幅65cm、奥行き70cm、深さ13cmの方形に一段深く掘り凹められている部分がある。また、奥壁の左右に直径18cm~23cm、深さ10cm~15cmのピットが検出された。支脚を掘るために掘り方である可能性もある。煙道部にもカマド奥壁から55cmの位置まで、先端に向かって浅くなるが、幅14cm、深さ5cmの掘り方が認められた。

〔周溝〕検出されなかった。

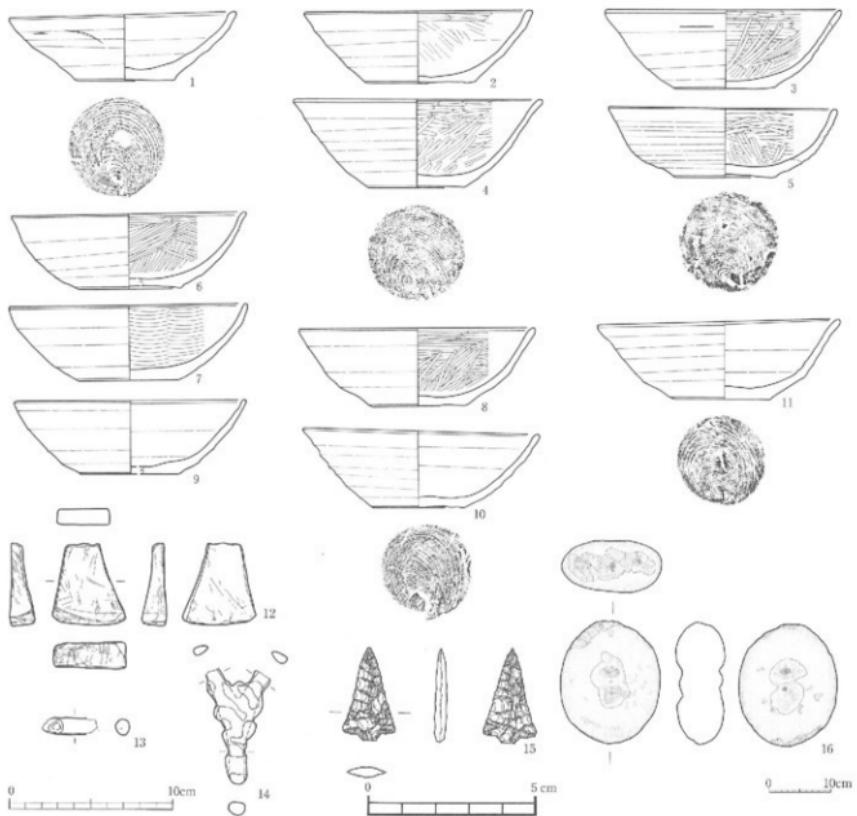
〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡南東隅のカマド南脇に、貯蔵穴2は東壁際中央部のカマド北脇にカマドを挟むように位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸80cm、短軸68cmの楕円形である。床面からの深さは34cmで、内部から土師器壺、須恵器壺がまとまって出土した。貯蔵穴2の平面形は長軸63cm、短軸45cmの不整な楕円形である。床面からの深さは23cmである。

〔その他の施設〕その他の施設として、住居跡南壁際の床面上に土坑が検出された。平面形は長軸160cm、短軸110cmの不整な楕円形で、床面からの深さは42cmである。多量の焼土の粒や塊、炭化物が混入している。

〔出土遺物〕遺物は床面近くの堆積土中及び、貯蔵穴1の底面近くから比較的まとまって出土している。遺物には土師器壺、甕、鉢、赤燒上器壺、須恵器壺、壺、鉢、鐵製品、石器類等がある。そのうち土師器壺8点、赤燒土器壺1点、須恵器壺2点、鐵製品2点、石器3点を図示した。



第8図 S11堅穴住居跡

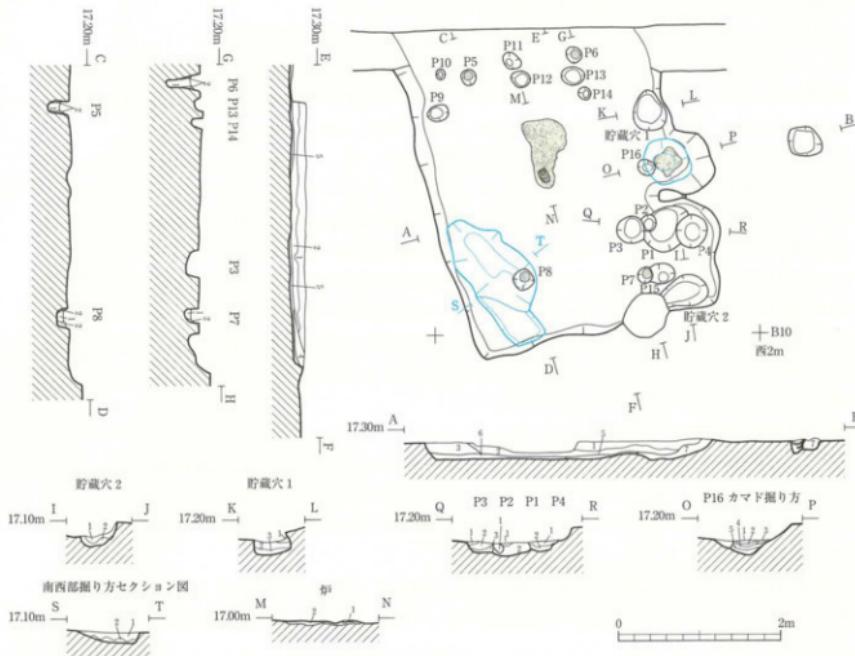


No.	器物番号	種類	質	厚さ	径	高さ	底	成形法	目	参考	写真回数
45	45-1	上部盤	漆柄土	ロクロ				内板余留型	赤地		53-25
	45-2	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-26
	45-3	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロ	内板余留型		53-27
	45-4	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-28
	45-5	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-29
	45-6	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-30
	45-7	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-31
	45-8	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-32
	45-9	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-33
	45-10	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-34
	45-11	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-35
	45-12	上部盤	漆柄土	ロクロナデ				ロクロナデ→ラミガキ、黒色絵理	内板余留型		53-36
	45-13	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-37
	45-14	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-38
	45-15	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-39
	45-16	上部盤	漆柄土	ロクロナデ				ロクロナデ→ラミガキ、黒色絵理	内板余留型		53-40
	45-17	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-41
	45-18	上部盤	漆柄土	ロクロナデ				ロクロヘラミタケ、黒色絵理	内板余留型		53-42
	45-19	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロ	内板余留型		53-43
	45-20	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロ	内板余留型		53-44
	45-21	上部盤	漆柄土	ロクロ				ロクロ	内板余留型		53-45
No.	空器番号	種類	質	厚さ	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	底	備考		写真回数
45	45-22	舟形	粘土	50.0	45.0	15.0	35.0				22番回数
	45-23	舟形	粘土	28.5	16.0	3.5	10.0	アスファルト付岩削れ			35-46
	45-24	舟形	粘土	101.0	80.0	43.0	361.0	船、圓			35-47
No.	空器番号	種類	質	厚さ	深さ(cm)	底	成形法	目	参考		写真回数
45	45-25	不明	漆柄土	31.0	11.0	3.0	34.0	漆柄土			57-7
	45-26	不明	漆柄土	72.0	46.0	8.0	29.0				57-8

第9図 S11堅穴住居跡出土遺物

SI-2 穫穴住居跡（第10図）

〔遺構の確認〕4区中央北側のA・B-9 グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構は北側の調査区外に延びており、遺構全体を検出することはできなかった。本住居跡とSK-12、17が重複関係にあり、それぞれが本住居



SI-2 穫穴住居跡				
層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR4/2	灰黃褐+シルト	木炭粒を微量含む。
2	2	10YR4/2	灰黃褐+シルト	木炭粒多量・焼土粒を少量含む。
2	3	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒を少量含む。
3	4	10YR3/2	黒褐+シルト	木炭粒
		10YR4/2	灰黃褐+シルト	夏層
		10YR4/2	灰黃褐+細砂	
4	5	10YR3/2	黒褐+シルト	木炭粒多量に含む。
6	6	10YR3/4	暗褐+シルト	
6	7	10YR3/2	暗褐+シルト	焼土ブロック・木炭粒多量に含む。

SI-2 穫穴住居跡				
層位	No.	土色	土性	備考
SI-2 穫穴1	1	10YR3/2	暗褐+シルト	焼土粒を若干含む。
	2	10YR3/4	暗褐+シルト	10YR3/1 (10R) のシルトブロック・焼土・炭化物を若干含む。
	3	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒を微量含む。

SI-2 穫穴住居跡				
層位	No.	土色	土性	備考
SI-2 穫穴2	1	10YR3/4	暗褐+シルト	10YR3/1 (10R) のシルトブロック・焼土・炭化物を若干含む。
	2	10YR4/4	オーリーブ緑+シルト	炭化物・焼化物を含む。

SI-2 穫穴住居跡				
層位	No.	土色	土性	備考
SI-2 穫穴3	1	SYR7/6	褐+シルト	焼土を含む。
	2	10R3/3	暗赤褐+シルト	熱で変色した箇所。

南北掘り方セクション図				
層位	No.	土色	土性	備考
南北掘り方1	1	10YR2/3	黒褐色+シルト	焼土粒・炭化物を含む。
	2	10YR3/4	暗褐+シルト	人為的堆積層。
	3	10YR2/3	暗褐+シルト	炭化物・燒土・マンガンを含む。

南北掘り方セクション図				
層位	No.	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2	黒褐色+シルト	焼土粒・木炭粒を多量に含む。
	2	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒多量に含む。
P2	1	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒・焼土粒を少量化。
P3	1	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒・焼土粒を少量化。
	2	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒を微量含む。
	3	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒を微量含む。
P4	1	10YR4/2	に高い黄褐色+シルト	木炭粒多量に含む。
	2	10YR4/3	に高い黄褐色+シルト	木炭粒多量に含む。
P5	1	10YR3/2	黒褐色+粘土	粘土質。
	2	10YR4/2	に高い黄褐色+シルト	焼土粒・木炭粒を多量に含む。下部焼土ブロックを含む。
P6	1	10YR3/2	黒褐色+粘土	粘土質。
	2	10YR4/2	に高い黄褐色+シルト	焼土粒・木炭粒を多量に含む。
P7	1	10YR3/2	黒褐色+粘土	粘土質。
	2	10YR4/2	黒褐色+粘土	粘土質。
P8	1	10YR3/2	黒褐色+粘土	粘土質。
	2	10YR4/2	に高い黄褐色+シルト	焼土粒を含む。

第10図 SI-2 穫穴住居跡

跡を切っており、木住居跡が古い。

【平面形・規模】平面形は南北4.2m以上、東西3.1mの南東コーナーがやや丸みを帯びる長方形を基調としたものであると考えられるが、東壁のカマド部分がやや膨らんでいる。西壁を基準とした方向はN-16°-Wである。

〔堆積土〕 5層に大別される。炭化物、焼土が混入している層がみられる。

〔壁面〕最も保存の良い西壁で17cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がる。

[床面] 挖り方底面を直接床面としている。南東隅付近に土坑状の掘り方上面を床面としている部分がある。細かい凸凹がみられる。南壁際では、床面がやや低くなってしまい、窓の上面が見える部分がある。この窓は下層の集石及び配石遺構の一部であり、窓に当たる深さで掘り方の掘り下げを止めたものであると考えられる。

【柱穴】床面で16個のピットが検出された。規模、配置からP5・6・7・8が柱穴であると考えられる。これらには柱跡跡が認められた。

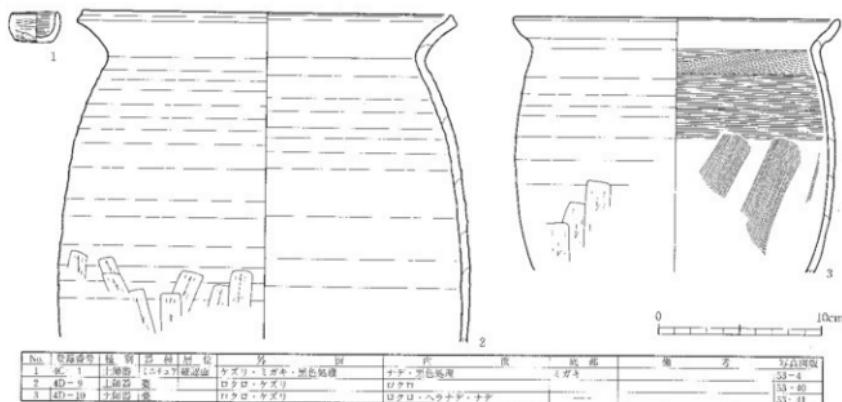
【カマド】住居跡東壁中央よりやや南寄りに付設されており、煙道部は削平のために検出されなかったものの、燃焼部、煙出しピットが検出された。燃焼部は幅80cm、奥行き90cmで奥側の40cmは住居跡東壁から外側へ張り出している。左側壁は崩れており、住居跡東壁から外側へ張り出した部分しか残存しないが、その残存部分と右側壁、奥壁、燃焼部中央は火熱により赤変している。煙出しピットは燃焼部奥壁から1mの位置にあり、長軸40cm、短軸35cm、深さ19cmの楕円形のもので、焼土ブロック、炭化物が多量に混入している。燃焼部の焼け面下の手前側に長軸30cm、短軸18cm、深さ20cmの焼上が詰まっていたピットが検出された。また、燃焼部には直径60cm、深さ20cmの掘り方が検出され、多量の焼土、炭化物が混入していた。

〔周 溝〕検出されなかった。

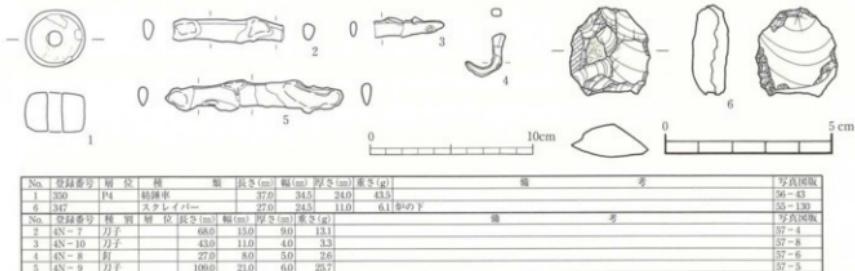
〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡東壁中央部のカマド北脇に、貯蔵穴2は住居跡南東コーナーのやや西寄りに位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸50cm、短軸40cmの楕円形で、床面からの深さは23cmである。貯蔵穴2はSK-17によって一部削平されているが、平面形は長軸55cm以上、短軸40cmの楕円形で、床面からの深さは15cmである。

〔その他の施設〕住居跡中央付近に焼け面が検出された。長軸85cm、短軸50cmの不整形で、暗褐色より焼け縮まっており、南側の一部が橙色に特に焼け縮まり、還元状態になっている。非常に高い温度で使用された炉であると考えられる。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、貯藏穴、ピット、カマドの煙出しピット内部から出土している。遺物には土師器壊、甕、須恵器壊、甕、台付甕が出土している。その他に多量の金属製品や鉱滓層、石器類が出土している。そのうち、土師器壊 2 点、ミニチュア土器 1 点、土製品 1 点、鉄製品 4 点、石器 1 点を図示した。



第11圖 SI 2 聚穴住居跡出土遺物（1）



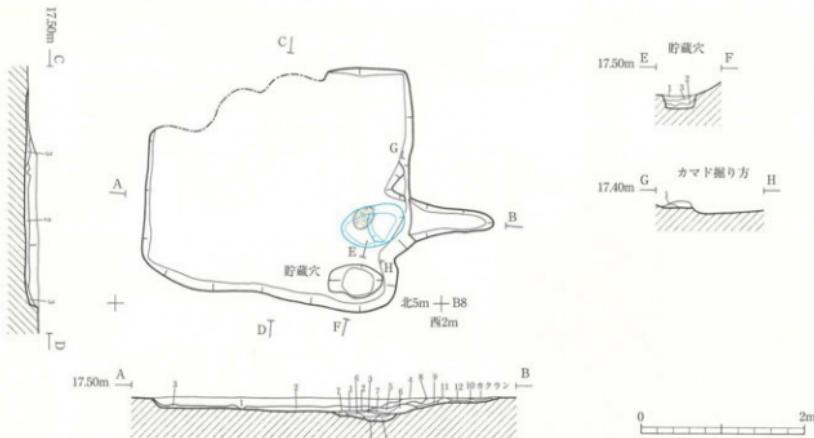
第12図 SI 2 積穴住居跡出土遺物 (2)

SI-3 積穴住居跡 (第13図)

〔構造の確認〕 3区中央部のB-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。住居跡北西部が削平を受けており検出されなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は南北3.0m、東西3.2mの方形を基調としたもので、南東、南西コーナーが丸みを持ち、西辺がやや狭くなっている。東壁を基準とした方向はN=0° - E-Wである。

〔堆積土〕 2層に大別される。床面近くには焼土、炭化物が混入している。



SI 3 積穴住居跡

規格	No.	土	色	土性	標	考
1	10YR3-2	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、2.5Y3/2(黒褐色)のシルトブロックを多く含む。		
2	10YR4/2	灰褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、2.5Y3/2(黒褐色)のシルトブロックを多く含む。		
3	25Y4/2	オーブン灰	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
4	10YR3-2	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
5	10YR3-2	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
6	5YR3-1	暗褐色	砂質シルト	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
7	7.5YR4/2	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
8	10YR3-4	暗褐色	シルト質砂	2.5YR2/2(黒褐色)のシルトブロック、焼土片を含む。		
9	10YR3-2	暗褐色	砂質シルト	2.5YR2/2(黒褐色)のシルトブロックを多く含む。		
10	7.5YR3/4	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
11	7.5YR4/4	暗褐色	シルト質砂	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		
12	10YR2/2	暗褐色	砂質シルト	マット・光澤有り、炭化物・炭化物を含む。		

SI 3 カマド掘り方

No.	土	色	土性	標	考
1	10YR3-2	暗褐色	シルト		砂粒を含む。
2	7.5YR3/3	暗褐色	シルト		炭化物・焼土を含む。
3	5YR3-6	暗褐色	シルト		砂粒を含む。
4	2.5YR3-3	暗褐色	シルト		砂粒を含む。
5	7.5YR3/4	暗褐色	シルト		砂粒を含む。
6	7.5YR2/2	暗褐色	シルト		砂粒の部分有り。
7	2.5Y3/1	暗褐色	シルト		炭化物・焼土を含む。
8	10YR3/4	暗褐色	シルト		炭化物を含む。

SI 3 豊穴

No.	土	色	土性	標	考
1	2.5Y3/2	暗褐色	シルト		炭化物を含む。
2	10YR3/4	暗褐色	シルト		炭化物を含む。
3	2.5Y3/1	暗褐色	シルト		炭化物・焼土を含む。

SI 3 カマド下セクション及びエレベーション図 (G-H)

No.	土	色	土性	標	考
1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト		カマドソホルト。

第13図 SI 3 積穴住居跡

【壁面】最も保存の良い東壁の南東コーナー付近で19cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がっている。

【床面】掘り方底面を直接床面としている。ほぼ平坦である。削平されている北西コーナー付近では下層の河川跡の砂礫がみられる部分もあり、一部砂礫層上面が床面であった可能性もある。

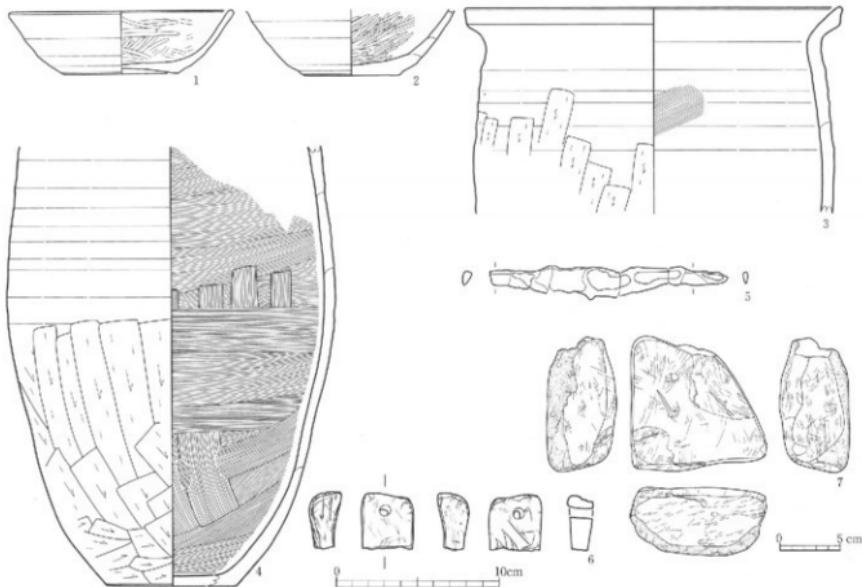
【柱穴】床面でピットは検出されなかった。

【カマド】住居跡東壁の南寄りに付設されており、燃焼部、煙道部が検出された。側壁は崩れて残っていないが、住居跡の東壁際に側壁の残存部が検出されており、カマド中央部の床面の焼土が検出された部分までをカマドの範囲とすると、燃焼部の規模は、幅75cm、奥行き70cmである。焼土下には長軸35cm、短軸20cmの楕円形に暗赤褐色に焼け縮まった部分がみられる。煙道部は長さ100cm、幅50~20cm、深さは燃焼部との境で12cmあり、底面は先端に向かって徐々に高くなる。燃焼部下の掘り方は長軸80cm、短軸50cm、深さ13cmの楕円形で、中央に段が付いており奥壁側が一段低くなっている。また、左右の側壁下部で礫が検出されている。

【周溝】検出されなかった。

【貯蔵穴】1個検出された。貯蔵穴はカマド南脇の住居跡南東隅に位置し、平面形は長軸65cm、短軸40cm、の楕円形で床面からの深さは17cmである。

【出土遺物】堆積土中及び床面、カマド内部及び底面から出土している。遺物には土師器坏、高台付坏、壺、赤燒土器坏、須恵器坏、壺、壺、金屬製品、石器等がある。そのうち土師器坏2点、壺2点、金属製品1点、石製品2点を図示した。



No.	空器番号	種別	施	外 面	内 面	横 断	備 考	写真区段
1	SD-1	土器部	上	素地土	ロクロ	ミガキ・黒色鉄斑	刮削系切り	
2	SD-2	土器部	上	素地土	ロクロ	ミガキ・黒色鉄斑	ナフ	
3	SD-7	土器部	上	素地土	ロクロ+ケズリ	ロクロ+ナフ		
4	SD-6	土器部	上	素地土	ロクロ+ケズリ	ヘラナフ	ケズリ	
No.	骨器番号	種別	施	底 径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真区段
5	SN-4	刀	素地土	45.0	30.0	5.0 26.8		写真区段
No.	空器番号	種別	施	底 径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真区段
6	11	陶壺	硬石	134.5	32.0	17.0 24.3		写真区段
7	27	陶壺	硬石	110.0	111.1	57.5 44.4	備考	56-46

第14図 S1-3 穴住跡出土遺物

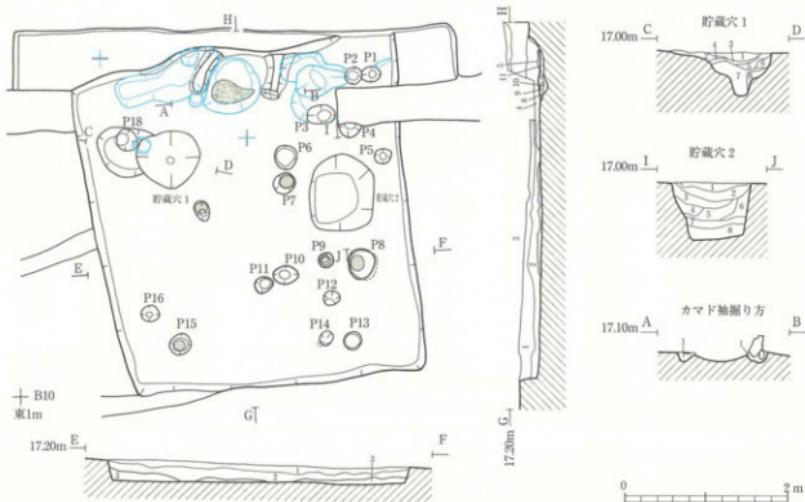
SI-4 穫穴住居跡（第15図）

〔構造の確認〕4区北東部A-10グリッドに位置し、Ⅲb層上面で確認された。4区北壁際に側溝を掘り下げた際に焼土及び土器がまとまって出土し、遺構の存在が明らかになったものである。Ⅲb層上面で確認された遺構は本住居跡のみである。調査区を拡張して遺構全体の検出に努めたが、北東コーナーと煙道部、煙だしピットは調査区外にあり、確認できなかった。

〔平面形・規模〕平面形は南北4.2m、東西4.05mの方形を基調としたものであるが、南辺がやや狭くなっている。西壁を基準とした方向はN-10°-Wである。

〔堆積土〕2層に大別される。全体に焼土粒、炭化物粒が混入している。

〔壁面〕最も保存の良い東壁の南西コーナー付近で30cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がって



SI-4 穫穴住居跡

No.	名	土色	土性	地質	備考
1	10YR4/4	暗褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒下、23Y4(2)層(?)のシルトを斑状に含む。	
2	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	炭化物多量・焼土粒若干、一部細砂の部分有り。	
3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒若干含む。	
4	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む、カマド埋植土。	
5	3YR2/2	暗褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む。	
6	10YR4/3	に赤み有る褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む。	
7	7.5YR3/3	褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む、上間に灰がる。	
8	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む。	
9	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む。	
10	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物・焼土・焼土塊多量に含む。	

ピット計画表(cm)

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深	5	13	14	32	31	12	17	28	35
幅	5	10	11	12	13	14	15	16	17

No.	5	6	7	8	9
深	57	30	47	42	63
幅	5	10	11	12	13

SI-4 穫穴1

No.	名	土色	土性	地質	備考
1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物・焼土を若干含む。	
2	10YR3/3	褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。カメがつぶれていた。	
3	5YR3/4	褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。2層より大粒。	

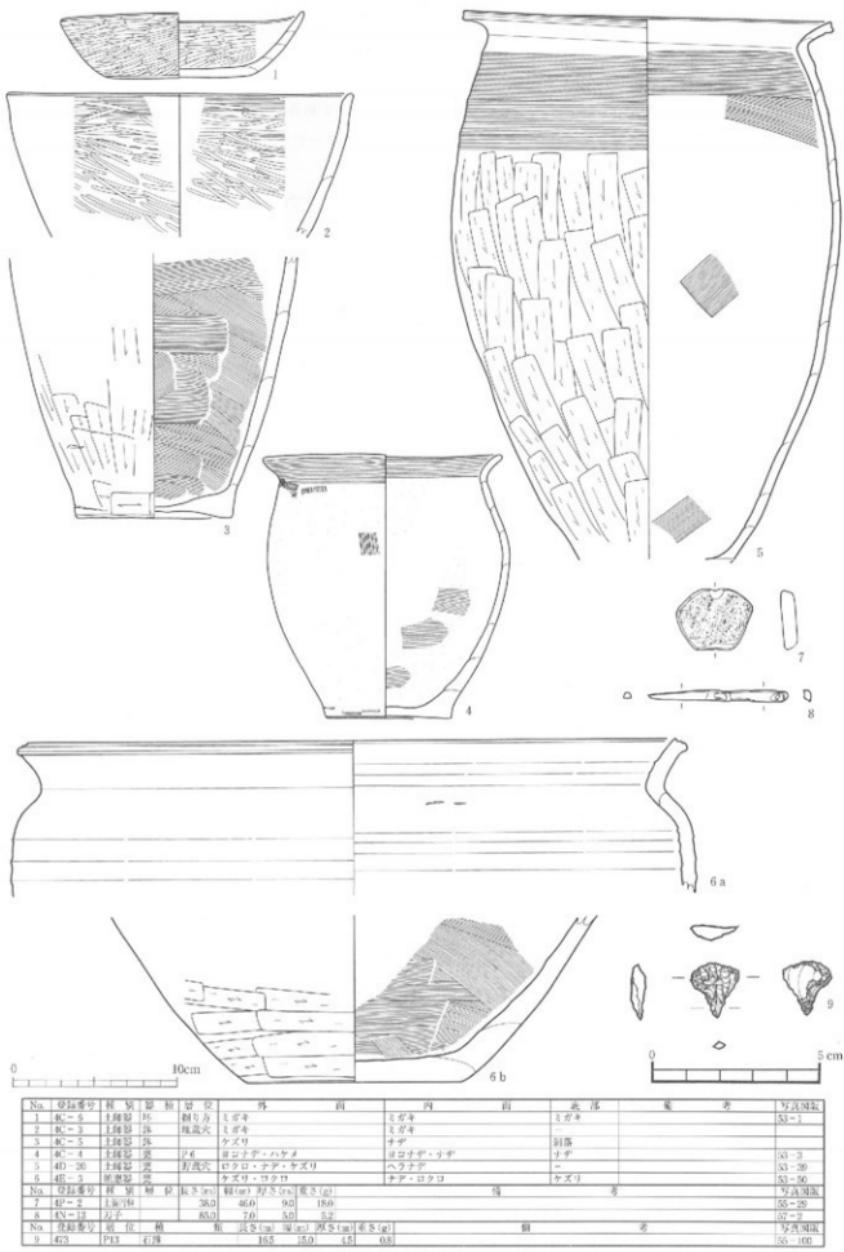
SI-4 穫穴2

No.	名	土色	土性	地質	備考
1	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物・23Y4(4) (リーフ層)の砂質シルトを盛り土に含む。	
2	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を若干。20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。	
3	10YR4/3	褐色	シルト	炭化物・シルトと20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。炭化物を若干含む。	
4	7.5YR3/3	褐色	シルト	炭化物・シルトと20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。	
5	7.5YR3/4	褐色	シルト	炭化物・焼土を若干。20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。	
6	7.5YR3/4	褐色	シルト	炭化物・焼土を若干。20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。	
7	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物・焼土を若干。20YR8(4)のシルトを盛り土に含む。	
8	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を若干含む。	

SI-4 カマド掘り方

No.	名	土色	土性	地質	備考
1	7.5YR3/3	褐色	シルト	炭・焼土を含む。	

第15図 SI-4 穫穴住居跡



第16図 SI 4 壁穴住居跡出土遺物

いる。

〔床面〕床面の大部分は掘り方底面を直接床面としているが、北壁際の一部に掘り方埋土上面を床面としている部分がある。ほぼ平坦である。

〔柱穴〕床面及び床下で23個のビットが検出された。規模、配置からP3・4・8・12・15・16・18・19が柱穴であると考えられるが、P3・4とP8・12、P15・16、P18・19が若干ずれて配置されており、特にP18・19は重複していることから、造り替えの可能性も考えられ、組み合わせは不明である。

〔カマド〕住居跡北壁中央に付設されている。前述のとおり燃焼部のみが検出された。幅79cm、奥行き65cmで、燃焼部の手前側の幅55cm、奥行き30cmの焼け面を中心に側壁、奥壁が火熱を受けて変色している。側壁は遺存状況が悪く、左右とも高さ2~3cmしか残存しなかった。右側壁の幅25cmの掘り方の先端部に礫が検出されており、焼けていることからカマド抽部の補強用に用いられたものであると考えられる。燃焼部の下部には幅70cm、奥行き70cmの不整形円形で、深さ10cmの掘り方が検出された。

〔周溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡中央やや北西寄りのカマド西手前に、貯蔵穴2は住居跡中央東寄りに位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸130cm、短軸70cmの瓢箪形に近い楕円形で、床面からの深さは50cmである。もっとも深いところはビット状になっている。貯蔵穴2の平面形は長軸95cm、短軸80cmの楕円形に近い長方形で床面からの深さは70cmである。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、貯蔵穴、カマド、ビットから出土している。遺物には土師器壺、甕、鉢、須恵器壺、甕が出土している。その他に鉄製品、繩文土器、土製品、石器が出土している。そのうち、土師器壺1点、甕2点、鉢1点、須恵器甕1点、鉄製品1点、土製品1点を図示した。

性格不明遺構

SX-1性格不明遺構（第17図）

〔遺構の確認〕3区北東端A-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。3区北東部の北壁及び、東壁際に側溝を掘り下げた際に焼土及び、土師器がまとまって出土し、遺構の存在が明らかになったものである。遺構の南西部が検出されたため、調査区を拡張して遺構全体の検出に努めたが、カマドの一部が検出されたのみで遺構の全体は確認出来なかった。

〔平面形・規模〕遺構の全体は調査区外の東～北側に拡がっており、検出されたのはその一部であるため全体の平面形、規模は不明であるが、調査区内では南北2.4m以上、東西5.3m以上の規模で、不整形である。円形あるいは楕円形を基調とした平面形である可能性がある。

〔堆積土〕3層に大別される。焼土粒、炭化物を多量に混入している。

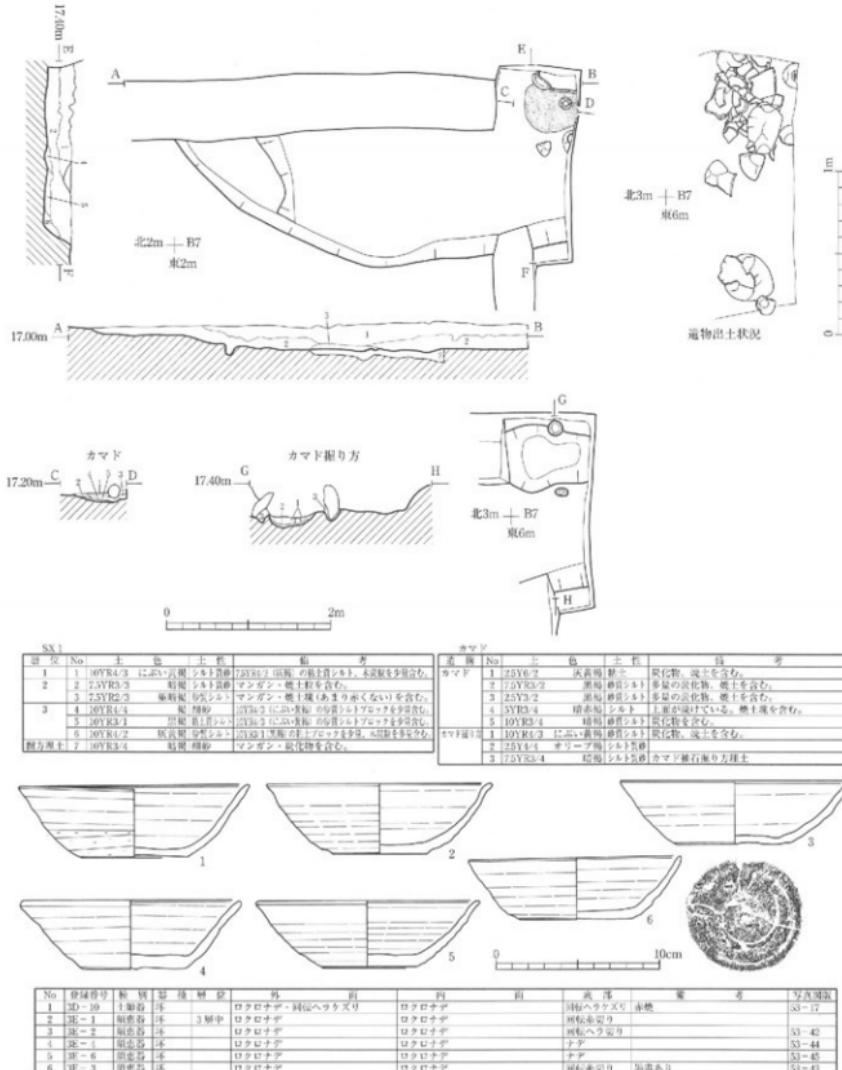
〔壁面〕最も保存の良い南壁の調査区東端寄りで30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がっている。

〔底面〕掘り方底面を直接底面としているが、カマド前に掘り方埋土上面を底面としている部分がある。側溝によって削平された部分と調査区外に拡がる部分が認められ、範囲は不明である。ほぼ平坦で大きな凸凹はない。また、底面の西側に段があり、約10cm高くなっている。

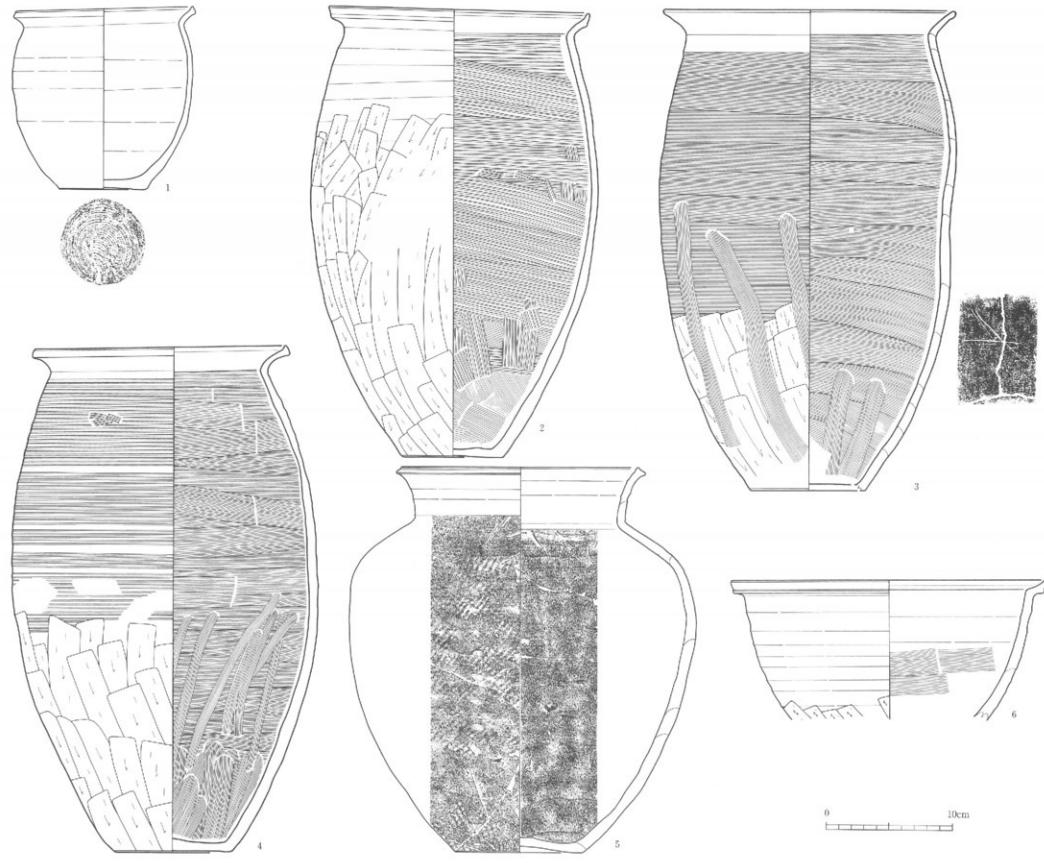
〔底面上の施設〕底面上でビットや甕は検出されなかったが、調査区内の北東隅でカマドが検出された。燃焼部の一部が検出されたのみで、燃焼部の奥壁、通道部、煙出しビット等は調査区外の東側へ延びていると思われ、検出されなかった。左側壁は底面から15cmの高さで残存し、先端に礫が立てられている。右側壁は先端に立てられていた礫のみが存在している。燃焼部は幅70cm、奥行きは検出された部分のみで65cmである。燃焼部内部の幅50cmの範

間に焼土粒、炭化物、灰が詰まっており、側壁及び側壁先端の礫が火熱を受けて赤変している。燃焼部中央に土師器の小型甕が倒立状態で据えられており、支脚であると考えられる。カマドの下部には深さ10cmの掘り方が認められ、側壁の礫も掘り方に据えられていた。

〔出土遺物〕カマド上部及びカマド周辺に集中して土師器、須恵器が多量に出土した。土師器には壺、高台付壺付壺、甕があり、須恵器には壺、甕、鉢がある。その他に石器が出土している。そのうち土師器壺1点、甕4点、須恵器壺5点、甕1点、鉢1点を図示した。



第17圖 SX1 性格不明遺構・出土遺物（1）



No	出土地名	種類	記号	現位置	外寸	内寸	組成	重 量	参考文献
1	SD-11	千葉型	1	87(18)面にクロロテリ	ロクロロテリ	河原町発見	ナメ	12	13
2	SD-13	千葉型	2	87(18)面にクロロテリ	ハメヌド出テリ	ナメ	ハメヌド出テリ	23	27
3	SD-14	千葉型	3	87(18)面にクロロテリ	ハメヌド・ナメ	ハメヌド・ナメ	ハメヌド・ナメ	33	38
4	SD-12	千葉型	4	87(18)面にクロロテリ	ハメヌド・ナメ	ハメヌド・ナメ	ハメヌド・ナメ	25	30
5	SD-5	千葉型	5	87(18)面にクロロテリ	ナメ	ナメ	ナメ	51-49	
6	SD-7	千葉型	6	87(18)面にクロロテリ	ロクロロテリ	ロクロロテリ	ロクロロテリ		

第18図 SX1 性格不明遺構出土遺物 (2)

土坑

SK-1 土坑（第19図）

2区の西壁際A・B-3グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。調査区西壁際の個溝によって削平され、東半部のみを確認するにとどまった。平面形は長軸1.15m以上、短軸0.45m以上の円形あるいは楕円形を基調としたものであると考えられる。検出部分での長軸方向はN-3°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に細かい凸凹がある。底面レベルは中央部分が最も低く、壁際が高い。遺物は出土しなかった。

SK-2 土坑（第19図）

2区の中央部やや西寄りB-3・4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.68mの楕円形で、長軸方向はN-4°-Eである。堆積土は単層で、灰白色火山灰が混入している。壁面は最も保存の良い北壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面の中央部が直径35cmの歪んだ円形に9cmの深さで凹んでいる。土師器、須恵器が出上した。

SK-3 土坑（第19図）

2区の中央部やや東寄りB-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形で、長軸方向はN-30°-Eである。堆積土は4層に分けられ、焼土、炭化物、灰を多量に混入している。壁面は最も保存の良い南壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁が低くなっている。また、南西壁際が底面から10cmの深さで一段下がっており、南西壁はオーバーハングしている。土師器、須恵器が出上し、土師器坏1点を図示した。

SK-4 土坑（第19図）

2区の中央部東寄りB-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。調査区東壁際の個溝によって削平され、西半部を確認したのみである。SD-4溝跡、SK-6土坑と重複関係にあり、SD-4溝跡に切られ、SK-6土坑を切っていることから、本遺構はSD-4溝跡より古く、SK-6土坑より新しい。平面形は削平のため不明であるが、規模は南北2.1m以上、東西1.4m以上である。南壁を基準とした方向はW-23°-Nである。堆積土は4層に分けられ、焼土粒、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁際が低くなっている。土師器、須恵器が出土した。

SK-5 土坑（第19図）

2区の東北寄りA-3・4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SD-4溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸2.0m、短軸1.75mの不整な長方形に近い楕円形で、長軸方向はW-0°-N-Sである。堆積土は単層で、炭化物、灰白色火山灰を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はない。底面レベルは中央部分が最も低く、壁際が高くなる。土師器、須恵器、石器が出土し、石器1点を図示した。

SK-6 土坑（第19図）

2区の東壁際B-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。東側の調査区外に延びており、全体は確認できなかった。SK-4上坑、SD-4溝跡と重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構がそれより古い。平面形は長軸1.05m、短軸0.37m以上の隅丸の長方形を基調にしたもので、長軸方向はN-0°-E-Wである。堆積土は2層に大別される。上層はシルト層、下層は細砂層である。焼土塊、焼土粒、炭化物を多量に混入している。壁面は調査区の個溝と重複する遺構による削平で残存状況は良くないが、

調査区の壁面では北壁で45cmの高さが確認できる。底面からおよそ30cmの部分まで火熱を受けて変色しており、急角度で立ち上がる。底面に細かい凸凹はない、平坦である。遺物は出土しなかった。

SK-7 土坑（第19図）

3区の北東部A-7グリッド、SK-8土坑の北に並んで位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸1.25m、短軸0.80mの不整な楕円形で、長軸方向はN-11°-Wである。堆積土は単層で微量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁際が低い。土師器、須恵器、鉄洋、石製品が出土し、上師器坏2点、石製品1点を図示した。

SK-8 土坑（第19図）

3区の北東部A-7グリッドに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-9土坑と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸0.82m以上、短軸0.60mの不整形で、長軸方向はN-27°-Eである。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で19cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは中央部が最も高く盛り上がっており、壁際が低くなる。土師器が出土し、高台付坏1点を図示した。

SK-9 土坑（第19図）

3区の北東部A・B-7グリッドに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-8土坑、10土坑と重複関係にあり、それぞれを切っていることから、本遺構が最も新しい。平面形は長軸1.0m、短軸0.67mの不整な楕円形で、長軸方向はW-5°-Nである。堆積土は3層に分けられ、炭化物を混入している。3層上面に焼け面がみられる。壁面は最も保存の良い東壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは一定しないが、中央部が低く、壁際が高くなる。土師器が出土した。

SK-10 土坑（第19図）

3区の北東部B-7グリッドに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-9土坑と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸0.95m以上、短軸0.70mの不整な楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。堆積土は2層に分けられ、炭化物、微量の焼上がりが混入している。壁面は最も保存の良い南壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは一定しないが、中央部が低く、壁際が高くなる。遺物は出土していない。

SK-11 土坑（第19図）

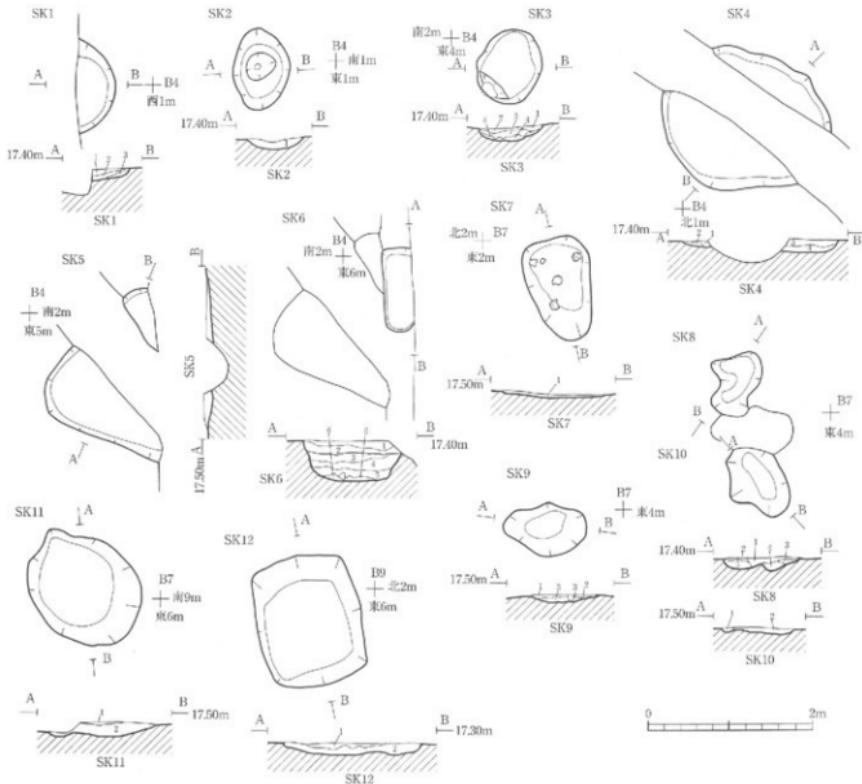
3区の南東端B-7グリッドに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。遺構の西側は確認調査時のトレチによって一部削平されている。平面形は長軸1.60m、短軸1.25mの不整な楕円形で、長軸方向はN-32°-Wである。堆積土は2層に分けられ、炭化物が混入している。壁面は最も保存の良い東壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹が多く、底面レベルは一定しないが、中央部が高く、壁際が低くなる。土師器、須恵器が出土した。

SK-12 土坑（第19図）

4区中央北側のA-9グリッドに位置し、SI-2堅穴住居跡の堆積土上面で確認された。平面形は長軸1.6m、短軸1.2mの長方形で、長軸方向はN-10°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁北側で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、須恵器、赤焼け土器、かわらけ等が出土した。中にはSI-2堅穴住居跡堆積土中の遺物も含まれている可能性がある。そのうち土師器ミニチュア土器1点、坏1点、かわらけ3点を図示した。

SK-13 土坑（第20図）

4区中央北西寄りA-9グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.73m、短軸1.2mの開丸長方形で、長軸方向はW-2°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い西壁北側で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、赤焼け土器が出土した。



施号	No.	主 色	未 着	施 痕	考
SK1	1	褐色	シルト	マングン、焼土等を含む。	
	2	2.57T-2	黒泥	黒泥シルト、マングン、焼土等を含む。	
	3	10YR4/3	灰褐色	シルト	マングン、焼土等、礫十枚を含む。
SK2	1	10YR3/2	黒泥	シルト	白灰石山田、サンゴン、炭化物、砂粒を含む。
	2	10YR3/2	黒泥	シルト	炭化物、焼土等を含む。マングンを含む。
SK3	1	10YR3/2	黒泥	シルト	炭化物、焼土等を含む。
	2	10YR3/2	黒泥	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	3	10YR4/3	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK4	1	2.57T-2	黒泥	シルト	シルト、マングン、焼土等を含む。
	2	2.57T-2	黒泥	シルト	マングン、焼土等を含む。
	3	10YR3/2	灰褐色	シルト	マングン、焼土等を含む。
SK5	1	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	3	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	4	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK6	1	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK7	1	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK8	1	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK9	1	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK10	1	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	10YR3/2	灰褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK11	1	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
SK12	1	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。
	2	2.57T-2	褐色	シルト	シルト、炭化物、焼土等を含む。

施号	No.	主 色	未 着	施 痕	考
SK 7	1	10YR4/1	2.5m、黄褐色	赤鉄シルト	HP-2型壁の上部(?)でアーチブロックを置き、
SK 8	1	2.57T-2	黒泥	シルト	HP-2型壁の上部(?)でアーチブロックを置き、
2	2.57T-2	黒泥	シルト	赤鉄シルト	木炭灰を幾層含む。
3	10YR3/2	2.5m、黄褐色	赤鉄	赤鉄	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量含む。
4	10YR4/2	2.5m、黄褐色	赤鉄	赤鉄	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量含む。
5	10YR4/2	2.5m、黄褐色	赤鉄	赤鉄	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量含む。
SK 9	1	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	HP-2型壁の上部(?)でアーチブロックを置き、木炭灰を幾層含む。
2	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	シルト	木炭灰を幾層含む。
3	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	シルト	木炭灰を幾層含む。
SK10	1	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	HP-2型壁の上部(?)でアーチブロックを置き、木炭灰を幾層含む。
2	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	シルト	木炭灰を幾層含む。
SK11	1	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	木炭灰を幾層含む。
2	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	シルト	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量、10YR3/2(壁)のシルト置換ブロックを少量、木炭灰を多量に含む。
SK12	1	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量、10YR3/2(壁)のシルト置換ブロックを少量、木炭灰を多量に含む。
2	10YR3/2	12.5m、褐色	シルト	シルト	10YR3/2(壁)の軽石ブロック多量、木炭灰を多量に含む。

第19図 SK1 土坑～SK12土坑

SK-14土坑（第20図）

4区中央北西寄りA・B-9グリット、SK-13土坑の南に並んで位置し、Ⅲ層上面で確認された。削平のため南北の一部は確認されなかった。平面形は長軸1.83m、短軸1.1m以上の隅丸長方形を基調としたもので、長軸方向はSK-13土坑と同方向のW-2°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い東壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、赤焼け土器が出土した。

SK-15土坑（第20図）

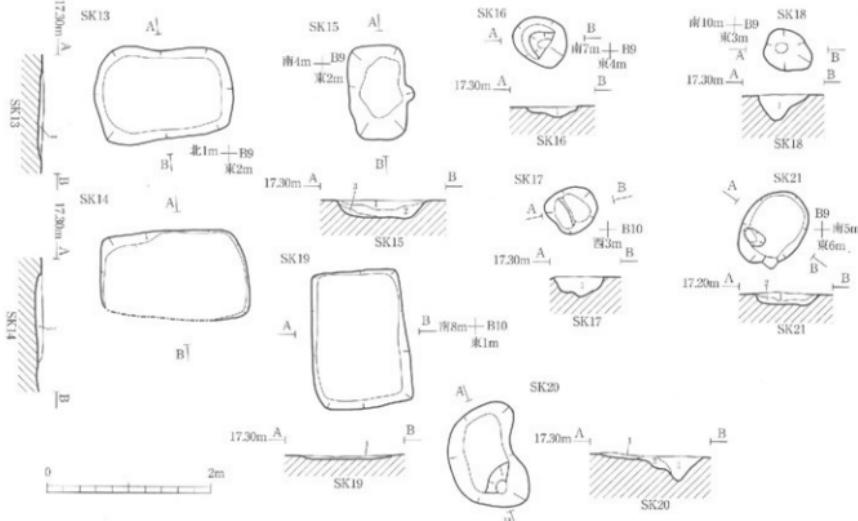
4区中央B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.15m、短軸0.7mの隅丸長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は3層に分けられ、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で22cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹が多い。底面レベルは一定しないが、北壁際が最も高く、南壁際が低くなっている。土師器、須恵器が出土した。

SK-16土坑（第20図）

4区中央南西寄りB-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.77m、短軸0.55mの不整な橢円形で、長軸方向はW-28°-Nである。堆積土は単層で、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い東壁で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は中央部が最も低く、西側が一段高くなっている。その比高差は7cmである。土師器、須恵器が出土した。

SK-17土坑（第20図）

4区中央A-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-2竪穴住居跡と重複関係にあり、本造構が切っていることから、本造構が新しい。平面形は長軸0.65m、短軸0.55mの不整な橢円形で、方向はW-26°-Sである。



遺構	No.	土	色	土性	標	考
SK13	1	HOTYR4/2	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上にブロックを多く含む。		
SK14	3	HOTYR4/2	II-4.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上にブロックを多く含む。木炭灰を多量含む。		
SK15	1	HOTYR4/2	II-4.5(黄褐色)	少含シルト、木炭灰を多量含む。		
	2	HOTYR3/1	II-4.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
SK16	3	HOTYR4/3	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、木炭灰を少量含む。		
SK17	1	HOTYR4/2	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
SK18	1	HOTYR4/2	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
SK19	1	HOTYR4/2	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
SK20	1	HOTYR4/2	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
	2	HOTYR4/3	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
SK21	1	HOTYR3/4	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		
	2	HOTYR4/4	II-3.5(黄褐色)	少含シルト、DOTEKA(黒褐色)の塊上に少含シルトの塊を多く含む。		

第20図 SK13土坑～SK21土坑

堆積土は単層で、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北東壁で22cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は東側が最も低く、西側が一段高くなっている。土師器が出土した。

SK-18土坑（第20図）

4区南端B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.57m、短軸0.48mの不整な楕円形で、方向はW-27°-Nである。堆積土は単層で、多量の炭化物、少量の焼土粒を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で34cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。土師器、赤焼土器が出土した。

SK-19土坑（第20図）

4区南寄りB-9・10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1堅穴住居跡、ピットと重複関係にあり、SI-1堅穴住居跡を切り、ピットに切られていることから、本遺構はSI-1堅穴住居跡より新しく、ピットより古い。平面形は長軸1.7m、短軸1.17mの長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い東壁南側で4cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。土師器、縄文土器が出土した。

SK-20土坑（第20図）

4区南端B-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの不整な楕円形で、方向はN-0°-E-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、南東部が深さ20cmの凹みになっている。土師器、縄文土器が出土し、土師器环1点を示した。

SK-21土坑（第20図）



No.	登録番号	施 築	縫 線	縫 線	外 周 長	内 周 長	底 面	底 面	考	写 真 図 版
1	2D-3	土師器	井	SK 3	セクロナデ	ハツミギサ・褐色風呂				53-15
2	2D-4	土師器	井	SK 7	ロクロ	コカラミギサ・褐色風呂	目口系切引			
3	2D-5	土師器	井	SK 7	ロクロ	ハツミギサ・褐色風呂	目口系切引			
4	4D-21	土師器	井	SK 12	セクロナデ	ハツミギサ・褐色風呂				53-19
5	4D-22	土師器	井	SK 8	セクロナデ	ハツミギサ・褐色風呂	目口系切引			
6	5D-5	土師器	井	SK 8	セクロナデ	ミキサ・褐色風呂	目口系切引			
7	4D-2	土師器	カワラケ	SK 12	ロクロ	コカラミギサ	目口系切引	村高台		
8	4D-4	土師器	カワラケ	SK 12	ロクロ	ロクロ	目口系切引			
9	4D-3	土師器	カワラケ	SK 12	ロクロ	ロクロ	目口系切引			
10	2B	SK 7	磁石		(490)	37.5	13.8	27.7		
11	058	SK 1	縄文器		920	29.0	8.5	65.0	・造	

第21図 土坑出土遺物

4区中央B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ピットと重複関係にあり、ピットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.0m、短軸0.75mの不整な楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。堆積土は2層に分けられ、焼土、炭化物を混入している。縁面は最も保存の良い北壁で15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凹凸はないが、南西部に深さ20cmのピットがある。土師器、須恵器、繩文土器が出土した。

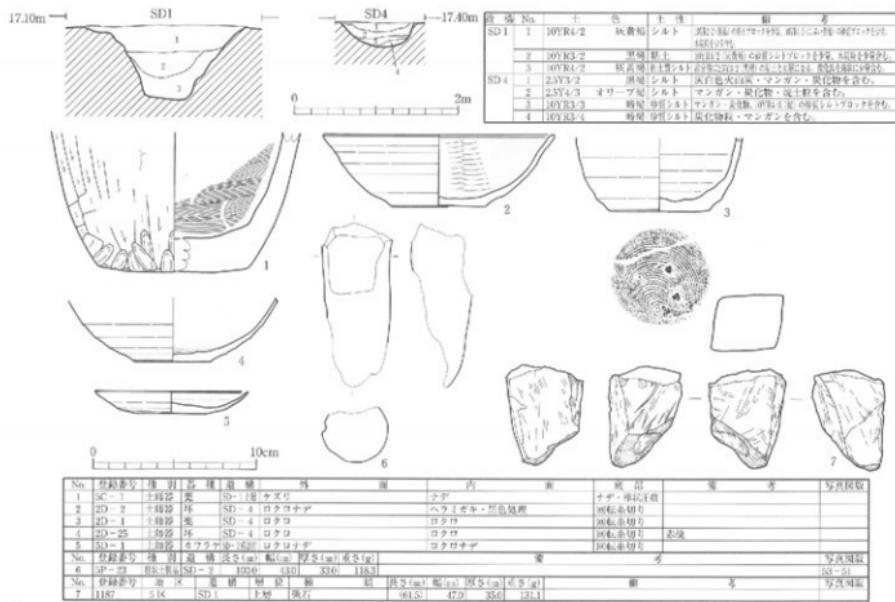
溝跡

SD-1 溝跡（第6・22図）

5区の東部A・B-12グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北と南は調査区外へ更に延びている。SD-2溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。Bラインより南では直線的に延びており、方向はN-7°-Wである。北側では西へ向かって湾曲しながら延びている。確認された長さは約15mで、上端幅は北端で2mあり、南へ行くにしたがって狭くなっている。下端幅は55~35cmで、上端幅と同様に南へ行くにしたがって狭くなっている。堆積土は3層に分けられる。壁面は75~87cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がり、上半部は緩やかな角度で傾斜している。底面は平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器、丸瓦、繩文土器、石製品が出土し、土師器窯1点を図示した。

SD-2 溝跡（第6図）

5区の北部A・B-11・12グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東と西は調査区外へ更に延びている。SD-1溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。ほぼ直線的に延びており、方向はW-27°-Sである。確認された長さは約12mで、上端幅は30~50cmで西端でやや広くなっている。下端幅は10~30cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルトで、10YR5/2（にぶい黄褐）砂質シルトを混入する。壁面は5~10cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦であるが、底面のレベルは東から西に向かって緩やかに低



第22図 SD 1・SD 4 溝跡断面図・溝跡出土遺物

くなっている。土師器、かわらけ、土製品が出土し、かわらけ1点、土製品1点を図示した。

SD-3溝跡（第6図）

5区の南西部B-11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ややくねりながら延びている。方向はおよそW-42°-Nである。確認された長さは約7mで、上端幅は22~40cmで南側が幅65cmと広くなっている。下端幅は5~12cmで上端幅に対応して南側が幅40cmと広くなっている。堆積土は単層である。黒褐色（10YR3/2）粘土質シルトである。壁面は3~12cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは南から北に向かって低くなっている。遺物は出土していない。

SD-4溝跡（第6・22図）

2区の北東部A-3~B-4グリットにかけて位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。北西及び南東の調査区外に更に延びている。SK-4・5・6の各土坑、ピットと重複関係にあり、ピットに切られ、3基の土坑を切っていることからピットより古く、各土坑より新しい。北東側にやや弧を描きながら延びている。方向はおよそW-35°-N~W-47°-Nである。確認された長さは約11m、上端幅は70~85cmで、南側がやや広くなっている。下端幅は20~40cmで上端幅に対応して南側が広くなっている。堆積土は2層に大別される。層No.1に灰白色火山灰が混入している。壁面は20~26cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは北西から南東に向かって低くなっている。土師器、須恵器、かわらけが出土し、土師器坏1点、甕1点、かわらけ1点を図示した。

SD-5溝跡（第6図）

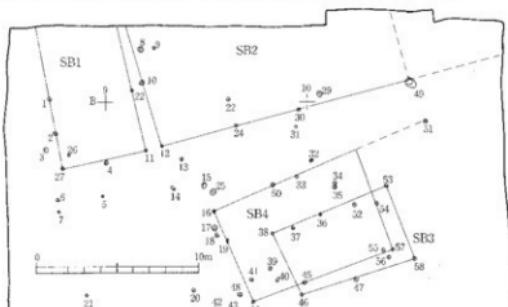
4区の北東部A-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。やや弧を描きながら延びているが、両端は削平のためかすばまりながら途切れている。方向はおよそW-20°-S~W-9°-Sである。確認された長さは約8m、上端幅は18~30cmである。下端幅は8~15cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色（10YR4/2）シルトで、微量の炭化物粒を混入している。壁面は3~7cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは西から東に向かって低くなっている。土師器が出土した。

SD-6溝跡（第6図）

4区の北東部A・B-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ほぼ直線的に延びているが、両端は削平のためかすばまりながら途切れている。方向はおよそW-11°-Sである。確認された長さは約8m、上端幅は18~30cmである。下端幅は8~15cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色（10YR4/2）シルトで、少量の炭化物粒を混入している。壁面は3~7cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは西から東に向かって低くなっている。土師器が出土した。

ピット群（第6図）

2区から5区にかけてⅢ層上面及び、SR-1上面でピットが確認された。2区では14個、3区では5個、4区では58個、5区では22個のピットが検出された。後世の開墾整備や水田耕作による削平によって失われてしまったものも有るとと思われ、遺存状況は悪い。2区のSD-4と5区のSD-1に挟まれた範囲に多く、2区のSD-4より西には4個のピットがみられたのみである。SD-1とSD-4は方向も似ており、何らかの施設を区画する溝である可能性がある。ピット



第23図 4区溝跡

群は柱痕跡が確認できるもの、埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性のあるものの中にはみられるが、掘立柱建物跡として組み合う可能性を指摘できるものは4区の4棟のみであり、2、3、5区では掘立柱建物跡として確認することは出来なかった。ピットからの出土遺物は土師器、須恵器、かわらけ、鉄滓等があり、焼土や炭化物が混入しているものも多い。図示したものは土師器壺1点、かわらけ3点である。

S B-1 掘立柱建物跡（第23図）

4区の北西部A・B-8・9に位置し、Ⅲ層上面及びS R-1上面で確認された。位置的にSK-13・14土坑と重複していると思われるが、直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北1間以上の南北棟と考えられる。南側柱列では6.35m、東側柱列では5.85m以上、西側柱列では6.95m以上である。方向は西側柱列でN-11°-Wである。P1から土師器、かわらけが出土した。

S B-2 掘立柱建物跡（第23図）

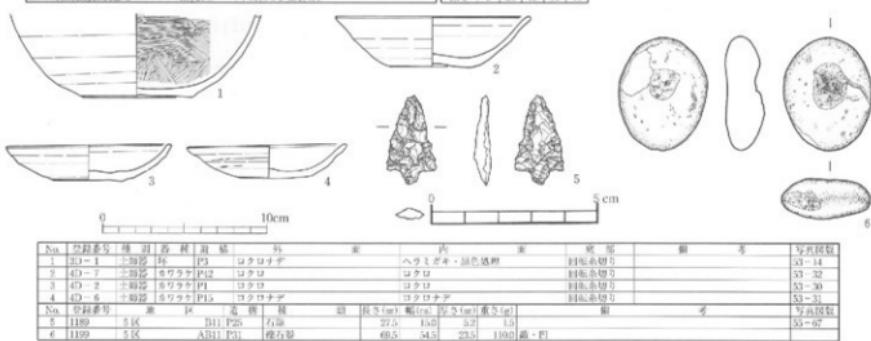
4区の北西部A・B-9に位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSI-2、4竪穴住居跡、SK-12、13、17土坑、SD-5、6溝跡と重複しており、直接の関係はSI-4竪穴住居跡、SD-6溝跡を切っていることから本遺構が新しい。その他の遺構との直接の新旧関係は不明である。東西3間、南北1間以上の東西棟と考えられる。南側柱列は12.7mであるが、南東隅がP30とすると7.0mとなる。西側柱列では5.6m以上である。東側柱列では3.7m以上、P30からでは3.75m以上となる。この東側の柱がP30あるいは49で北に折れなければ、南側柱列が更に東へ延び、L字型の扉あるいは柵のようなものであることも考えられ、その場合は南側柱列の長さは17mとなる。方向は南側柱列でE-13°-Nである。P12、24、49から土師器、須恵器が出土した。

2区ピット土坑記録										2区 ピット (cm)											
	セ	施	土	性	発	考	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	
海	方		A	粘	黄褐色	1.5m	14	12	27	29	36	25	22	16	3	36	36	29	13	16	24
海	方		B	粘	黄褐色	1.5m	5	14	27	29	36	25	22	16	3	36	36	29	13	16	24
海	方		C	粘	黄褐色	1.5m	2	14	27	29	36	25	22	16	3	36	36	29	13	16	24

3区ピット土坑記録										3区 ピット (cm)										
	セ	施	土	性	発	考	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14
A	10YRC1		黑褐色	1.5m			14	12	13	9	16									
B	10YR2/1		黑褐色	1.5m																
C	10YR2/1		黑褐色	1.5m																

4区ピット土坑記録										4区 ピット (cm)										
	セ	施	土	性	発	考	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14
A1	10YR4/2		灰褐色	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考	14	12	13	9	16									
A2	10YR4/2		灰褐色	1.5m	1.5m															
A3	10YR4/2		灰褐色	1.5m	1.5m	水紋面を少部分含む。														
A4	10YR4/2		灰褐色	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考、水紋面を含む。														
B1	10YR2/2		暗褐色	1.5m	1.5m	水紋面を少部分含む。														
B2	10YR2/2		暗褐色	1.5m	1.5m															
C1	10YR2/2		暗褐色	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考、水紋面を少部分含む。														
C2	10YR2/2		暗褐色	1.5m	1.5m															
D1	10YR2/2		にじ白	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考、水紋面を少部分含む。														
D2	10YR2/2		にじ白	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考、水紋面を少部分含む。														
E1	10YR2/1		黒褐色	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考含む。														

5区ピット土坑記録										5区 ピット (cm)										
	セ	施	土	性	発	考	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14
P1-2			灰褐色	1.5m	1.5m	HOR2/1 (にじ白) の静止ショックを参考含む。	14	15	18	16	18	16	11	27	14	8	13	13	17	9
P22	海	方	5Y4-1																	
			5Y4-1			水紋面を少部分含む。														



第24図 ピット出土遺物

SB-3 挖立柱建物跡（第23図）

4区の中央南寄りB-9・10に位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1堅穴住居跡、SK-19、21土坑と重複しており、それぞれの遺構を切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSB-4建物跡と重複しているが直接の新旧関係は不明である。北西隅の柱穴は確認できなかったが東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は7.4mである。西側柱列では4.85mである。東側柱列では5.15mと考えられる。北側柱列は7.85mと考えられるが、更に東のP51まで延びて11.4mとなり、それに対応して南側の柱列も長くなることが考えられる。また、北側柱列がP51から更に東へ延び、SB-3建物跡に取りつく場所があるいは横のようなものであることも考えられ、その場合は北側柱列の長さは14.9m以上となる。方向は南側柱列でE-19°-Nである。P16、45、51、から土師器が、P44から丸瓦が出土した。

SB-4 挖立柱建物跡（第23図）

4区の南東寄りB-9・10に位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1堅穴住居跡と重複しており、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSB-3建物跡と重複しているが直接の関係は不明である。東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.9mである。西側柱列では3.35mである。東側柱列では4.85mである。北側柱列は6.1mである。方向は南側柱列でE-16°-Nである。P58から土師器が出土した。

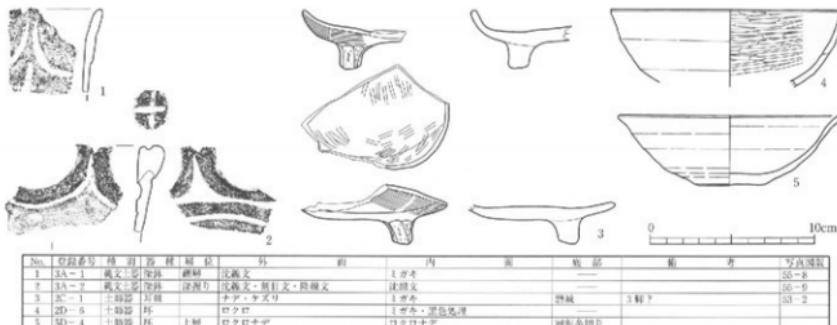
SR-1 河川跡（第6図・26図）

〔遺構の確認〕 1区～4区の西寄りA～C-1～9にかけて位置し、Ⅱ層下面で確認され、4区まで遺構検出作業が進んだところで東岸が明らかになったものである。西岸は西側の調査区外であると考えられる。検出層位はⅢ層上面である。南北方向のものであると考えられるが流れの方向は不明である。

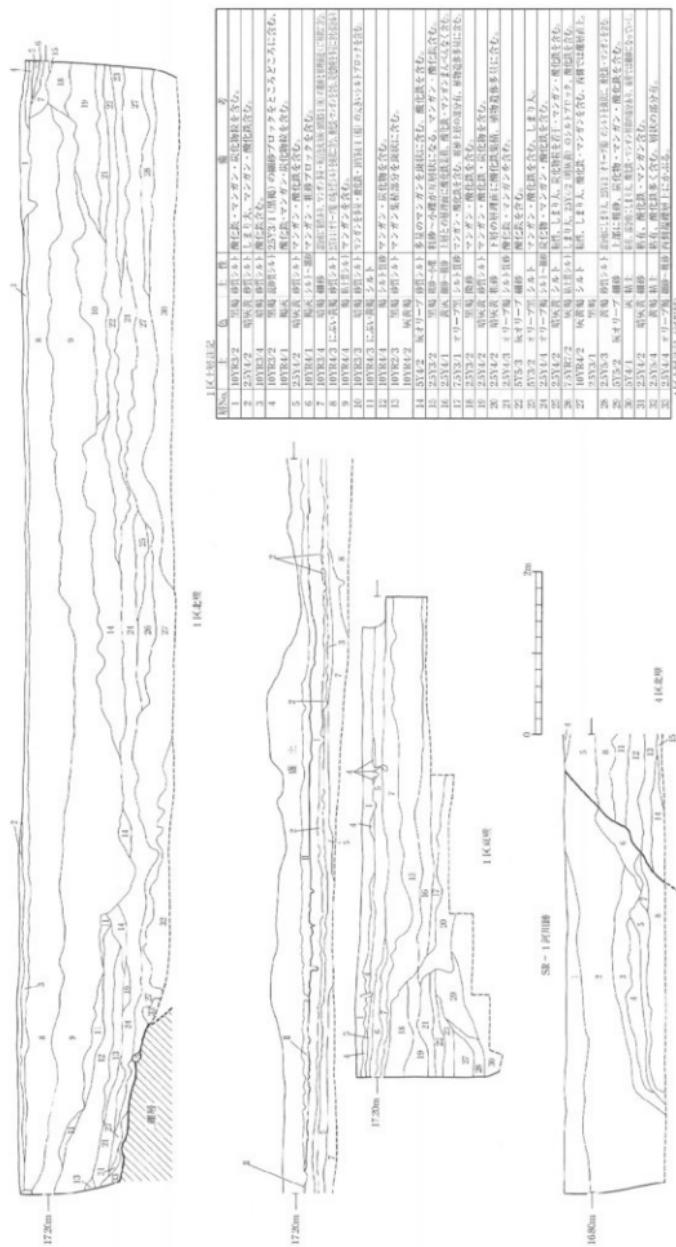
〔堆積土〕 1区では33層、2区では32層、3区では16層、4区で9層に細分されるが、それぞれの対応関係は不明である。特に3区では砂利層、礫層が検出面に見られる部分があり、4区の6層はIVb層遺物包含層に対応し、豊原に堆積している。また、4区のA～C-9以西では、上面が古代以降の遺構確認面となっており、古代には大部分が埋まっていたものと思われるが、灰白色火山灰を混入する層もあり、出土遺物からも古代以降にも完全に埋まりきらなかつた部分もあったことが考えられる。

〔壁面・底面〕 壁面は3区で検出された。底面からの立ち上がりは不明であるが、緩やかに立ち上がり、検出面近くで更に緩やかな角度になっている。1区の西側で底面の一部が検出され、人頭大一手のひら大の礫が積み重なって、南東方向に緩やかに下がっている。

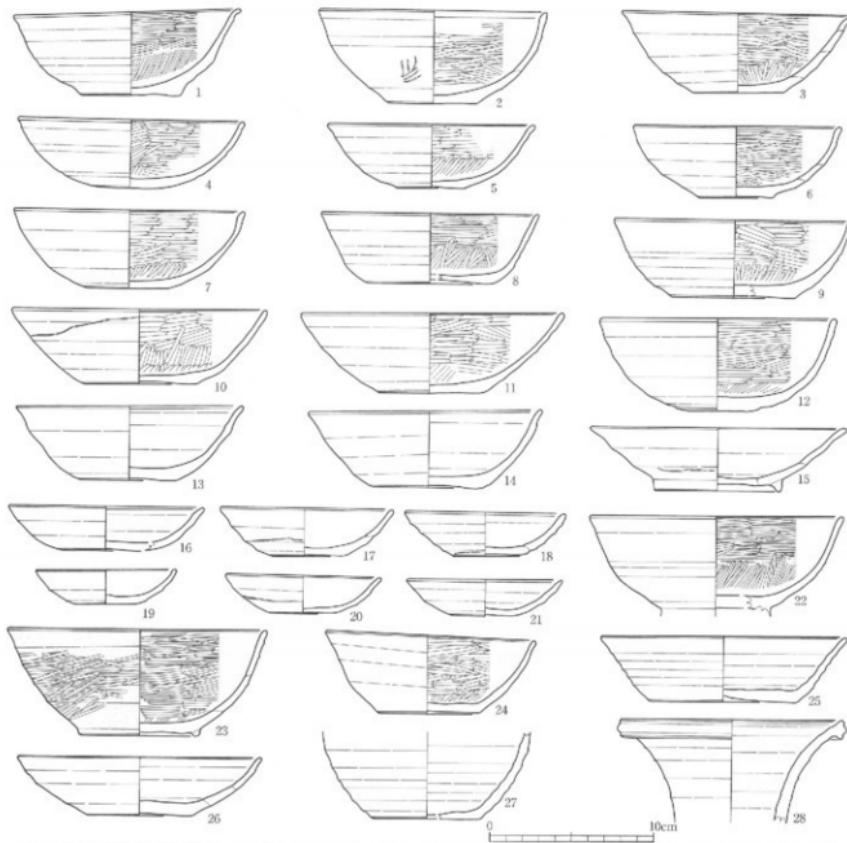
〔出土遺物〕 土師器、須恵器、繩文土器、赤焼土器、かわらけ、石器、石製品等が出土している。これらは全て混在して出土した。これらのうち繩文土器2点、土師器坏16点、高台付坏2点、須恵器坏2点、壺2点、赤焼土器坏2点、かわらけ4点、土製品2点、石器4点、石製品1点を図示した。



第25図 SR-1 河川跡出土遺物（1）

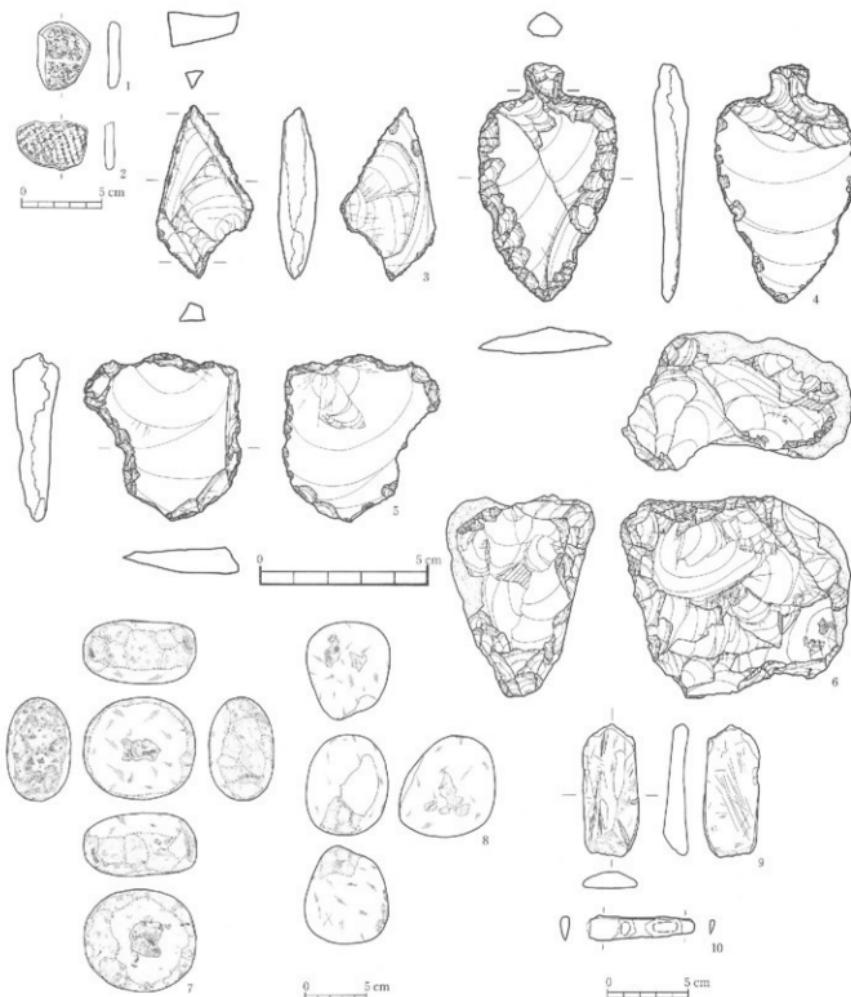


第26図 SR 1 河川跡土層断面図



No.	内鉢形	外鉢形	内	外	底	側	高	寸法
1	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-3
2	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-6
3	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-7
4	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-8
5	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-9
6	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-10
7	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-11
8	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-12
9	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-13
10	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-14
11	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-15
12	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-16
13	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-17
14	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-18
15	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-19
16	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-20
17	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-21
18	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-22
19	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-23
20	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-24
21	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-25
22	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-26
23	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-27
24	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-28
25	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-29
26	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-30
27	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-31
28	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-32
29	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-33
30	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-34
31	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-35
32	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-36
33	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-37
34	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-38
35	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-39
36	上輪切	上輪切	直底	直口	コクロ	ハラミガキ・糞色刷	斜板直切り	33-40

第27図 SR1河川跡出土遺物(2)



No.	登錄番号	種	固有名	原产地	鉱物名 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	大きさ (g)	備考	参考文献	参考範囲
1	3P-1	手斧		石縫	4.76	13.0	7.0	11.5			55-27
2	3P-2	手斧		石縫	3.00	40.0	55.0	97			55-28
10	3P-3	手斧		石縫	6.67	40.0	6.0	9.0			57-27
3	3P-4	石器		石縫	2.25	20.0	16.5	13.0			55-29
4	3P-5	石器		石縫	2.25	41.5	10.0	22.2			55-30
5	3P-6	石器		石縫	5.10	47.0	9.5	45.6			56-21
6	3P-7	石器		石縫	6.90	61.5	42.0	194.4			56-12
7	3P-8	石器		石縫	9.10	84.0	49.0	493.1	精・底・凹		56-19
8	3P-9	石器		石縫	8.25	78.0	68.0	629.0	精・底・凹		56-23
9	3P-10	石器		石縫	9.00	30.0	19.4	55.4			56-45

第28図 SR 1 河川跡出土遺物 (3)

(2) 縄文時代の遺構と出土遺物

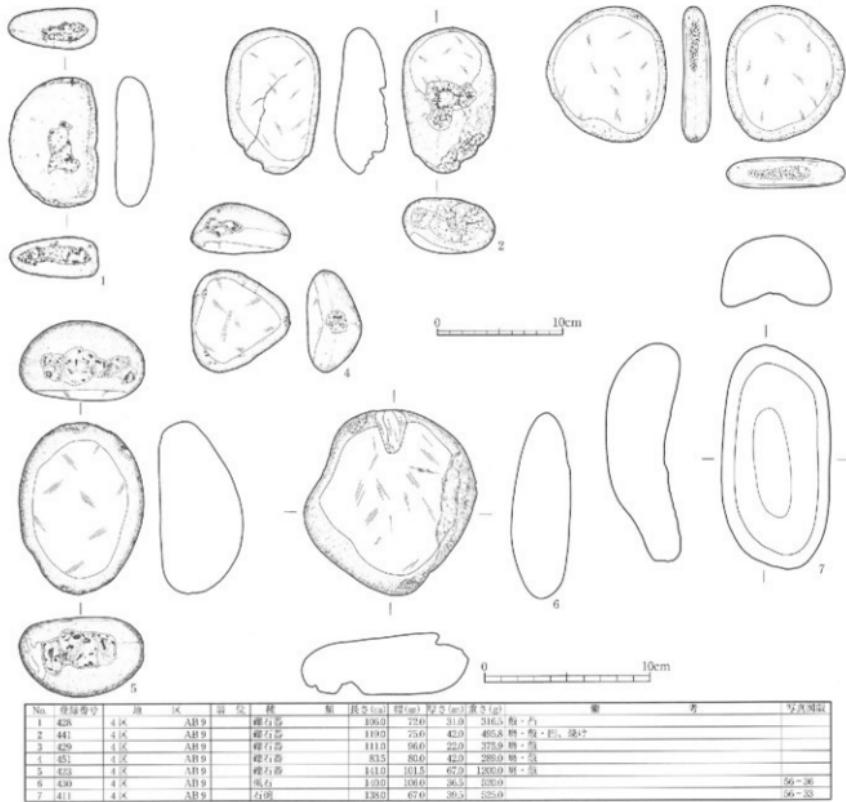
IVa層検出遺構

配石遺構

1号配石（第31図）

〔遺構の確認〕4区の中央A・B-9グリットに位置している。上層検出のSI-2堅穴住居跡の床面及び掘り方底面で既に配石の上面が表面に現れていたものである。Ⅲ層を除去しⅣ層上面（遺物包含層上面）を検出しようとした際に遺物包含層の上位の土層の上面で全体が現れたものである。確認面はⅣa層上面ということになる。配石遺構とその南西及び北西に配石に伴う形で弧状に延びる列石が確認された。これらには重複関係は認められず、一体の遺構であると考えられる。また、列石の北西端の北に隣接して2号配石が検出され、南側の列石をはさんで焼土遺構が2基検出されている。これらの遺構との直接の関係は不明である。

〔平面形・規模〕配石部分は弧状の列石から北東に方形に張り出すような形になっており、一部にSI-2堅穴住居による削平で窪が抜けている部分もみられるが、列石部分を含めると一辺1.3mの方形である。列石から張り出している方向はE-30°-Nである。



第29図 1号配石出土遺物

列石は長軸6.5m前後、短軸5.5m前後の楕円形であったものがSR-1河川跡等によって削平され、配石の南側と西側に弧状に残存したものか、本来が弧状のものであったのかは不明であるが、約30cmの幅に礫が並べられている。【配石】配石はやや平らで長楕円形あるいは長方形の礫を立て並べている。北辺沿いは一部を除いて礫が外されているため、その状況は明らかではないが、南辺沿いにはやや厚みのある礫を並べ、東半部は東辺に沿って南辺同様やや厚みのある礫を並べ、中央近くには小振りの礫を並べている。中央部から列石迄の間は厚みのない小振りの礫を列石から張り出している方向に並べている。いずれの礫も平らに敷き並べたものより、立てて並べているものが多いところが一つの特徴である。

礫の下部には掘り方が検出された。二段構造になっている。上段の平面形は南北1.3m、東西1.25mの不整な五角形である。壁の高さは5cm～13cmで底面から緩やかに立ち上がる。下段は底面の北西側に掘り込まれている。平面形は東西1.03m、南北0.6mの不整な隅丸の長方形である。壁の高さは15cmで、底面から緩やかに立ち上がる。全体の深さは約30cmである。下段の長軸方向はE-42°-Nで、集石の方向と約12°ずれている。堆積土は4層に分けられ、炭化物が混入しているが、その他の混入物は見られなかった。

【列石】配石の北西部にSI-2堅穴住居跡の掘り方によって削平されている部分があり、礫は削平部分の南側に多く残存し、西側ではほとんど残っておらず、掘り方と考えられる幅30cmの溝が検出され、礫が疎らに見られるのみである。弧状に残存している部分の弦に当たる線の方向はN-28°-Wで配石の方向とは垂直の方向を示している。列石に用いられている礫は配石に接している部分では、20cm前後の比較的大振りのものであるが、その他の部分では10cm以下の小振りのものである。配石と同様に礫は立て並べられているものが多い。

礫の下部の掘り方は配石に接する付近が最も幅が広く35cm～50cmあり、西端部で25cmである。壁の高さは3cm～10cmで、底面から緩やかに立ち上がり、断面形は緩やかな「U」字形である。底面は凸凹しており、一定しない。底面レベルは配石に接する付近が最も低く、両端に向かって徐々に高くなる。礫は掘り方底面に接しているものと、底面から浮いた状態のものがある。

【出土遺物】配石及び列石の掘り方から縄文土器細片が出土している。また配石及び列石中に礫石器が転用されていた。そのうち石器6点、石製品1点を図示した。

2号配石（第30図・31図）

【遺構の確認】4区の北東寄りA-9グリット、1号配石西端の北西に隣接して位置し、IVa層上面で確認された。他の遺構との重複関係はない。

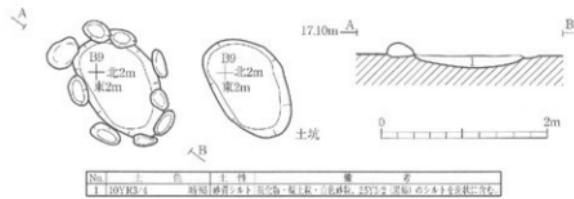
【平面形・規模】配石は4個の礫が残存していたのみであったが、精査の結果、4個の礫の他に5か所の礫

の抜取り痕と土坑を検出した。残存する礫と礫の抜取り痕から配石の平面形、規模は長軸0.9m、短軸0.65m程度と考えられる。長軸方向はN-43°-Wである。

【土坑】土坑は長軸0.75m、短軸0.45mの楕円形である。堆積土は単層で、炭化物、焼土粒、白色砂粒を混入している。壁の高さは5cmで、底面から緩やかに立ち上がる。底面に凸凹はみられず、底面レベルは中央が最も低く、壁際に向かって徐々に高くなる。

【出土遺物】配石上面、土坑内部から遺物の出土はなかったが、配石中に礫石器が転用されていた。

3号配石（第32図）



第30図 2号配石

No.	上	色	土性	種	名
1	褐色	褐色	砂質土	粘土・板土・泥炭土	1512

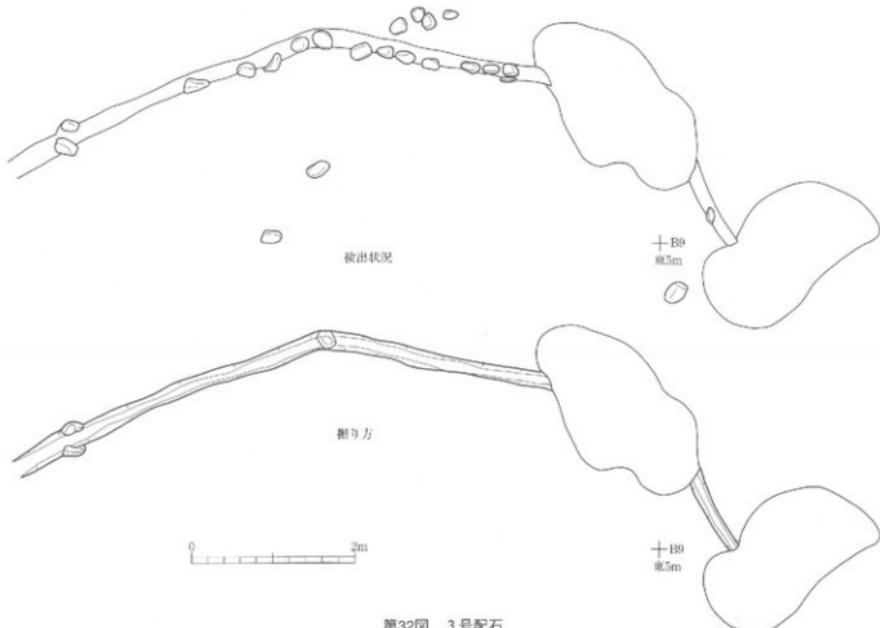


〔遺構の確認〕4区の北東寄りA-9グリット、1号配石の列石北側部分の掘り方底面で1号配石の列石と方向が若干異なる礫の列が検出され、精査の結果、疎らではあるが礫が並ぶ部分と散乱する部分、掘り方と思われる溝を確認した。これらを3号配石とした。確認されたのはIVa層上部である。

〔平面形・規模〕配石は1号配石の掘り方に重なっている部分があり、屈曲する部分もあるが、ほぼ一列に礫が並べられている。北側に散乱している礫は列から外れたものであると考えられる。礫は約3.6mの長さに並んでいる。礫の方向は屈曲部の西がW-23°-S、東がW-12°-Nである。

〔掘り方〕掘り方は1号配石の配石部分の掘り方の北から削平を受けている部分を除いて計4mの長さで検出された。屈曲しながら西へ延びている。幅は7~12cm、深さは1号配石の列石部分の掘り方による削平で2cm前後と残存状況は良くない。底面は礫の痕跡か凸凹がみられるが、レベルはほぼ一定である。東側の掘り方の方向はN-28°-Wである。

〔出土遺物〕配石中に砾石器が転用されていた。

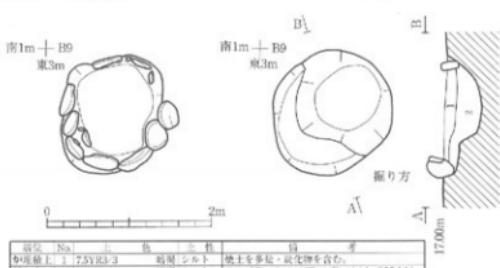


第32図 3号配石

炉跡

1号炉（第31図・33図）

〔遺構の確認〕4区の中央やや北東寄りB-9グリット、1号配石の列石の弧状に残存している部分の弦に当たる線のほぼ中央に位置している。グリットラインに沿って土層観察のため、先行トレンチを掘り下げ中、礫が



第33図 1号炉

弧状に並んでいるのが検出され、更に弧状の縁の反対側に縁の抜き取り痕跡と遺構の輪郭線を確認した。縁が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土や炭化物が認められたため石組炉であると判断された。位置的に1号配石と関連した施設の可能性があるが、確認面が3号配石と同様、IVa層上部であり、直接の関連は不明である。

〔平面形・規模〕 縁が南側に多く残存し、北側は縁が一側と二箇所の縁の抜き取り痕跡、遺構の輪郭線しか検出されなかつたが、それから直径70cmの不整な円形を基調とした平面形であると考えられる。

〔堆積土〕 単層である。多量の焼土、炭化物を混入している。

〔壁面・底面〕 縁が掘り方の内側にすき間無く並べられていたものと思われ、残存する縁の内側の面が加熱を受けて赤変しているが、縁が抜き取られている部分の壁面は赤変していない。縁には内側に傾斜しているものもみられる。底面まで掘り下げるに、北側の確認面下の壁面に縁が検出され、いずれも内側の面が赤変している。底面は掘り方理上上面から成っており、火熱を受けて赤変しているが、焼け締まった状態ではなかった。底面は凸凹ではなく平坦である。底面レベルは南側が若干高く北壁際が低くなっている。

〔掘り方〕 掘り方は、長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形で、長軸方向はN=45°-Eである。底面は二段になっており、南西側が約10cm高くなっている。低い部分では中央がもっとも低く壁際が高くなっている。

〔出土遺物〕 掘り方埋土中から繩文土器片が出土し、石組中に縁石器が転用されていた。

焼土遺構

1号配石東焼土遺構（第31図・34図）

4区の中央寄りB-9グリット、1号配石南側の列石の東に位置し、焼土の広がりとして確認されたため、焼土遺構として取り扱った。IVa層上面で確認され、東部は先行して掘り下げた部分に入っており、既に削平されていた。他の遺構との重複関係はなく、1号配石との関係も不明である。平面形は長軸55cm以上、短軸55cmの楕円形を基調としたものであると思われる。土坑状に落ち込んでいる。堆積土は5層に分けられる。上面に焼土層がみられ、焼土、炭化物が多量に混入している。壁は保存の良い北壁で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、南西側が約5cm高くなっている。底面には細かい凸凹がある。壁面及び底面に火熱を受けた痕跡は見られなかった。繩文土器片が出土した。

1号配石西焼土遺構（第31図・34図）

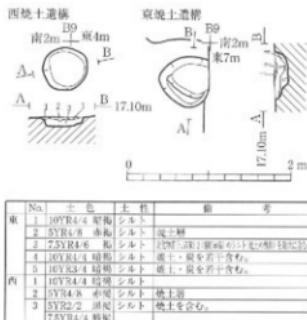
4区の中央やや西寄りB-9グリット、1号配石南側の列石の西に位置し、焼土の広がりとして確認された。1号配石東焼土遺構と同様に焼土遺構として取り扱った。IVa層上面で確認された。他の遺構との重複関係はない。平面形は直径約50cmの不整な円形である。堆積土は3層に分けられる。上面に焼土層がみられ、焼土、炭化物を多量に混入している。壁は保存の良い西壁で12cmの高さで残存している。大部分が底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。底面はほぼ平坦である。壁面及び底面に火熱を受けた痕跡は見られなかった。遺物は出土しなかった。

IVb層検出遺構

豎穴住居跡

SI-5 豊穴住居跡（第35図）

〔遺構の確認〕 4区の南部B-9・10グリットに位置し、IVb層上面で確認された。検出当初は7号倒木痕として握



第34図 1号配石東・西焼土遺構

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/4 黄褐色	シルト	
2	SYR4/4 水色	シルト	焼土層
3	7.5YR4/6 白	シルト	火打石(鉄)・網籠の1枚(火打石1枚)
4	10YR4/4 暗褐色	シルト	道寸・壁を若干食む。
5	10YR3/4 暗褐色	シルト	道寸・壁を若干食む。
6	10YR4/4 暗褐色	シルト	
7	SYR4/8 水色	シルト	地上層
8	SYR2/2 淡灰	シルト	燒土を含む。
9	7.5YR4/4 黄褐色	シルト	

り下げを開始したが、壁が立ち、倒木痕ではないと考えられたため、SX-2として掘り下げ、出土遺物を取り上げた。整理時に表記の遺構名に変更した。IVb層上面での他の遺構との重複関係はないが、上層のSI-1 竪穴住居跡の土坑によって遺構南東壁の一部が削平されている。

〔平面形・規模〕 平面形は長軸4.3m、短軸3.85mの楕円形である。長軸方向はE-31°-Nである。

〔堆積土〕 3層に分けられるが、上半部の堆積土については土層観察の処置が不十分だったため不明である。

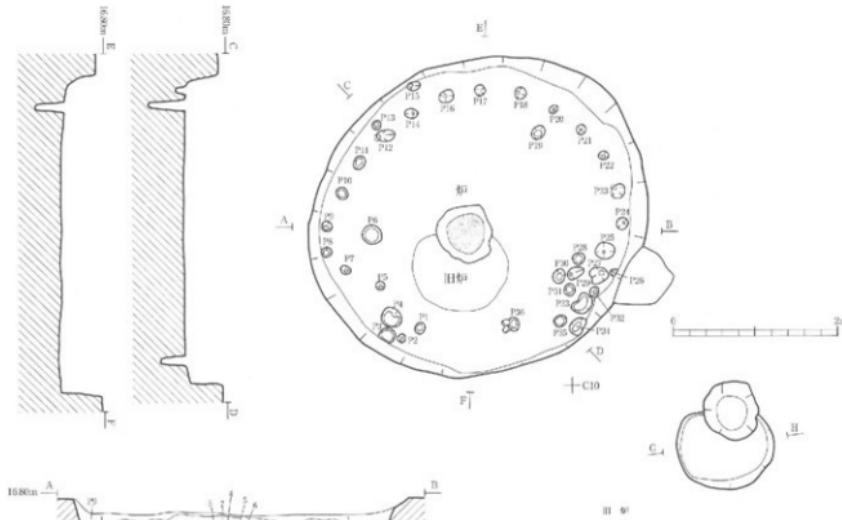
〔壁・面〕 最も保存の良い南壁で50cmの高さで残存している。大部分床面から急角度で立ち上がっているが、遺構北東部に緩やかに立ち上がる部分がある。

〔床・面〕 掘り方底面を直接床面としている。凸凹はなく平坦である。床面のレベルは炉の周辺が最も低く、壁際が若干高くなっているが、その中では南壁際が低くなっている。

〔柱・穴〕 床面で36個のピットが検出された。壁際に規則的に巡っている21個のピットが柱穴に関連するものと考えられる。

〔炉〕 住居跡中央や南西寄りに位置する。焼け面と、それを取り巻く火熱を受けて赤変している部分が炉である。焼け面は径約50cmの不整な円形で、その周囲約10cmの範囲で赤変している。焼け面下には深さ10cm程の掘り方が認められる。また、炉の南側に炉と重複する、焼土と炭化物が混入した落ち込みが検出された。古いかであると考えられる。平面形、規模は、長軸120cm、短軸100cm前後の楕円形を基調としたものであると思われる。深さは東側で8cmあり、西側に向かって徐々に浅くなる。

〔その他の施設〕 その他に周溝等の施設は検出されていないが、住居跡南壁際周辺の床面では壁際を巡るピットが

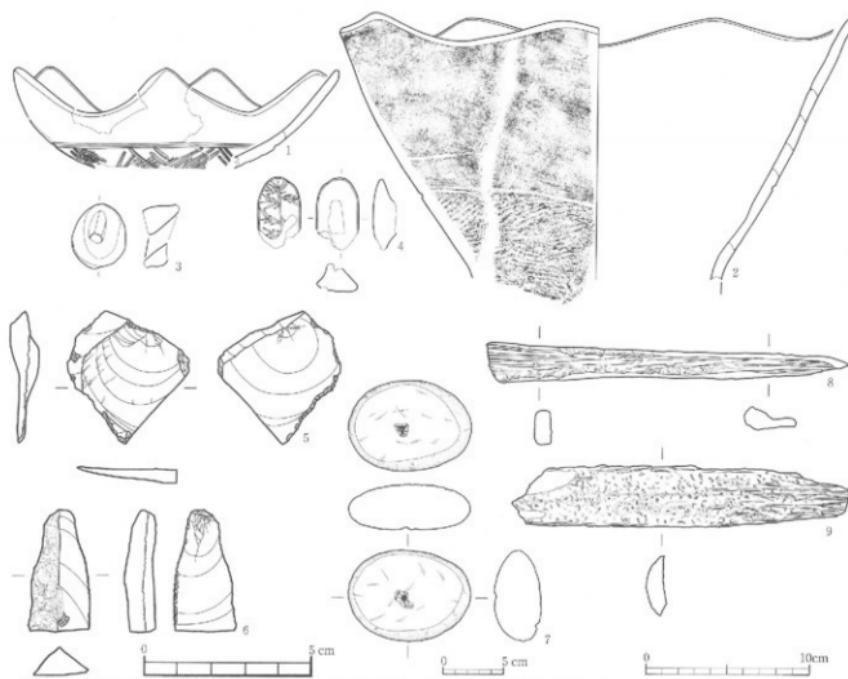


遺構	No.	I	II	III	IV	V	VI
壁・天井	1.SYTR3-3	粘土	砂質土	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	2.SYTR3-4	粘土	砂質	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	3.SYTR3-5	比較的粘土	砂質	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	4.SYTR4-2	粘土	砂質土	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	5.SYTR4-4	粘土	砂質	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	6.SYTR4-5	粘土	砂質	砂質少石	砂質少石	砂質少石	砂質少石
	7.SYTR4-6	粘土	砂質土	この付近は	この付近は	この付近は	この付近は

遺構	No.	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	VII	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX	X	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX	X	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
II-1	1.SYTR4-4	II-2	II-3	II-4	II-5	II-6	II-7	II-8	II-9	II-10	II-11	II-12	II-13	II-14	II-15	II-16	II-17	II-18	II-19	II-20	II-21	II-22	II-23	II-24	II-25	II-26	II-27	II-28	II-29	II-30	II-31	II-32	II-33	II-34	II-35	II-36	II-37	II-38	II-39	II-40	II-41	II-42	II-43	II-44	II-45	II-46	II-47	II-48	II-49	II-50	II-51	II-52	II-53	II-54	II-55	II-56	II-57	II-58	II-59	II-60	II-61	II-62	II-63	II-64	II-65	II-66	II-67	II-68	II-69	II-70	II-71	II-72	II-73	II-74	II-75	II-76	II-77	II-78	II-79	II-80	II-81	II-82	II-83	II-84	II-85	II-86	II-87	II-88	II-89	II-90	II-91	II-92	II-93	II-94	II-95	II-96	II-97	II-98	II-99	II-100	II-101	II-102	II-103	II-104	II-105	II-106	II-107	II-108	II-109	II-110	II-111	II-112	II-113	II-114	II-115	II-116	II-117	II-118	II-119	II-120	II-121	II-122	II-123	II-124	II-125	II-126	II-127	II-128	II-129	II-130	II-131	II-132	II-133	II-134	II-135	II-136	II-137	II-138	II-139	II-140	II-141	II-142	II-143	II-144	II-145	II-146	II-147	II-148	II-149	II-150	II-151	II-152	II-153	II-154	II-155	II-156	II-157	II-158	II-159	II-160	II-161	II-162	II-163	II-164	II-165	II-166	II-167	II-168	II-169	II-170	II-171	II-172	II-173	II-174	II-175	II-176	II-177	II-178	II-179	II-180	II-181	II-182	II-183	II-184	II-185	II-186	II-187	II-188	II-189	II-190	II-191	II-192	II-193	II-194	II-195	II-196	II-197	II-198	II-199	II-200	II-201	II-202	II-203	II-204	II-205	II-206	II-207	II-208	II-209	II-210	II-211	II-212	II-213	II-214	II-215	II-216	II-217	II-218	II-219	II-220	II-221	II-222	II-223	II-224	II-225	II-226	II-227	II-228	II-229	II-230	II-231	II-232	II-233	II-234	II-235	II-236	II-237	II-238	II-239	II-240	II-241	II-242	II-243	II-244	II-245	II-246	II-247	II-248	II-249	II-250	II-251	II-252	II-253	II-254	II-255	II-256	II-257	II-258	II-259	II-260	II-261	II-262	II-263	II-264	II-265	II-266	II-267	II-268	II-269	II-270	II-271	II-272	II-273	II-274	II-275	II-276	II-277	II-278	II-279	II-280	II-281	II-282	II-283	II-284	II-285	II-286	II-287	II-288	II-289	II-290	II-291	II-292	II-293	II-294	II-295	II-296	II-297	II-298	II-299	II-300	II-301	II-302	II-303	II-304	II-305	II-306	II-307	II-308	II-309	II-310	II-311	II-312	II-313	II-314	II-315	II-316	II-317	II-318	II-319	II-320	II-321	II-322	II-323	II-324	II-325	II-326	II-327	II-328	II-329	II-330	II-331	II-332	II-333	II-334	II-335	II-336	II-337	II-338	II-339	II-340	II-341	II-342	II-343	II-344	II-345	II-346	II-347	II-348	II-349	II-350	II-351	II-352	II-353	II-354	II-355	II-356	II-357	II-358	II-359	II-360	II-361	II-362	II-363	II-364	II-365	II-366	II-367	II-368	II-369	II-370	II-371	II-372	II-373	II-374	II-375	II-376	II-377	II-378	II-379	II-380	II-381	II-382	II-383	II-384	II-385	II-386	II-387	II-388	II-389	II-390	II-391	II-392	II-393	II-394	II-395	II-396	II-397	II-398	II-399	II-400	II-401	II-402	II-403	II-404	II-405	II-406	II-407	II-408	II-409	II-410	II-411	II-412	II-413	II-414	II-415	II-416	II-417	II-418	II-419	II-420	II-421	II-422	II-423	II-424	II-425	II-426	II-427	II-428	II-429	II-430	II-431	II-432	II-433	II-434	II-435	II-436	II-437	II-438	II-439	II-440	II-441	II-442	II-443	II-444	II-445	II-446	II-447	II-448	II-449	II-450	II-451	II-452	II-453	II-454	II-455	II-456	II-457	II-458	II-459	II-460	II-461	II-462	II-463	II-464	II-465	II-466	II-467	II-468	II-469	II-470	II-471	II-472	II-473	II-474	II-475	II-476	II-477	II-478	II-479	II-480	II-481	II-482	II-483	II-484	II-485	II-486	II-487	II-488	II-489	II-490	II-491	II-492	II-493	II-494	II-495	II-496	II-497	II-498	II-499	II-500	II-501	II-502	II-503	II-504	II-505	II-506	II-507	II-508	II-509	II-510	II-511	II-512	II-513	II-514	II-515	II-516	II-517	II-518	II-519	II-520	II-521	II-522	II-523	II-524	II-525	II-526	II-527	II-528	II-529	II-530	II-531	II-532	II-533	II-534	II-535	II-536	II-537	II-538	II-539	II-540	II-541	II-542	II-543	II-544	II-545	II-546	II-547	II-548	II-549	II-550	II-551	II-552	II-553	II-554	II-555	II-556	II-557	II-558	II-559	II-560	II-561	II-562	II-563	II-564	II-565	II-566	II-567	II-568	II-569	II-570	II-571	II-572	II-573	II-574	II-575	II-576	II-577	II-578	II-579	II-580	II-581	II-582	II-583	II-584	II-585	II-586	II-587	II-588	II-589	II-590	II-591	II-592	II-593	II-594	II-595	II-596	II-597	II-598	II-599	II-600	II-601	II-602	II-603	II-604	II-605	II-606	II-607	II-608	II-609	II-610	II-611	II-612	II-613	II-614	II-615	II-616	II-617	II-618	II-619	II-620	II-621	II-622	II-623	II-624	II-625	II-626	II-627	II-628	II-629	II-630	II-631	II-632	II-633	II-634	II-635	II-636	II-637	II-638	II-639	II-640	II-641	II-642	II-643	II-644	II-645	II-646	II-647	II-648	II-649	II-650	II-651	II-652	II-653	II-654	II-655	II-656	II-657	II-658	II-659	II-660	II-661	II-662	II-663	II-664	II-665	II-666	II-667	II-668	II-669	II-670	II-671	II-672	II-673	II-674	II-675	II-676	II-677	II-678	II-679	II-680	II-681	II-682	II-683	II-684	II-685	II-686	II-687	II-688	II-689	II-690	II-691	II-692	II-693	II-694	II-695	II-696	II-697	II-698	II-699	II-700	II-701	II-702	II-703	II-704	II-705	II-706	II-707	II-708	II-709	II-710	II-711	II-712	II-713	II-714	II-715	II-716	II-717	II-718	II-719	II-720	II-721	II-722	II-723	II-724	II-725	II-726	II-727	II-728	II-729	II-730	II-731	II-732	II-733	II-734	II-735	II-736	II-737	II-738	II-739	II-740	II-741	II-742	II-743	II-744	II-745	II-746	II-747	II-748	II-749	II-750	II-751	II-752	II-753	II-754	II-755	II-756	II-757	II-758	II-759	II-760	II-761	II-762	II-763	II-764	II-765	II-766	II-767	II-768	II-769	II-770	II-771	II-772	II-773	II-774	II-775	II-776	II-777	II-778	II-779	II-780	II-781	II-782	II-783	II-784	II-785	II-786	II-787	II-788	II-789	II-790	II-791	II-792	II-793	II-794	II-795	II-796	II-797	II-798	II-799	II-800	II-801	II-802	II-803	II-804	II-805	II-806	II-807	II-808	II-809	II-810	II-811	II-812	II-813	II-814	II-815	II-816	II-817	II-818	II-819	II-820	II-821	II-822	II-823	II-824	II-825	II-826	II-827	II-828	II-829	II-830	II-831	II-832	II-833	II-834	II-835	II-836	II-837	II-838	II-839	II-840	II-841	II-842	II-843	II-844	II-845	II-846	II-847	II-848	II-849	II-850	II-851	II-852	II-853	II-854	II-855	II-856	II-857	II-858	II-859	II-860	II-861	II-862	II-863	II-864	II-865	II-866	II-867	II-868	II-869	II-870	II-871	II-872	II-873	II-874	II-875	II-876	II-877	II-878	II-879	II-880	II-881	II-882	II-883	II-884	II-885	II-886	II-887	II-888	II-889	II-890	II-891	II-892	II-893	II-894	II-895	II-896	II-897	II-898	II-899	II-900	II-901	II-902	II-903	II-904	II-905	II-906	II-907	II-908	II-909	II-910	II-911	II-912	II-913	II-914	II-915	II-916	II-917	II-918	II-919	II-920	II-921	II-922	II-923	II-924	II-925	II-926	II-927	II-928	II-929	II-930	II-931	II-932	II-933	II-934	II-935	II-936	II-937	II-938	II-939	II-940	II-941	II-942	II-943	II-944	II-945	II-946	II-947	II-948	II-949	II-950	II-951	II-952	II-953	II-954	II-955	II-956	II-957	II-958	II-959	II-960	II-961	II-962	II-963	II-964	II-965	II-966	II-967	II-968	II-969	II-970	II-971	II-972	II-973	II-974	II-975	II-976	II-977	II-978	II-979	II-980	II-981	II-982	II-983	II-984	II-985	II-986	II-987	II-988	II-989	II-990	II-991	II-992	II-993	II-994	II-995	II-996

途切れている部分がある。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、ピットから縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器、石製品が出土している。そのうち縄文土器6点、土製品2点、剥片石器4点、礫石器1点、石製品2点を図示した。



No.	登録番号	種類	器	種類	器	外観	内観	底	部	輪	考	写真回数
1	4A-26	縄文土器	片	LB溝文・浅溝文・ミダラ		ミガキ					穴居ニコ	54-1
2	4A-27	縄文土器	片	粗面溝文・浅溝文		ミガキ					穴居ニコ	54-3
No.	登録番号	種類	別	種類	器	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	考	写真回数
3	BP-12	骨	片	骨	片	400	310	160	160			55-33
4	BP-13	骨	片	骨	片	(440)	350	(170)	140			55-33
No.	登録番号	種類	別	種類	器	長さ(mm)	幅さ(mm)	厚さ(mm)	底	部	輪	考
5	270	Pis	片	骨	片	41.0	20.0	2.5				写真回数
6	270	骨	片	骨	片	37.5	18.0	2.7				56-10
7	276	骨	片	骨	片	101.0	75.0	30.0	233.2	骨+肉		56-11
8	282	骨	片	骨	片	(220.0)	25.0	32.0	121.8			56-33
9	244	骨	片	骨	片	(305.0)	33.0	11.0	114.2			56-40

第36図 SI-5 壁穴住居出土遺物

SI-6 壁穴住居跡（第37図）

〔遺構の確認〕4区の東端B-10グリッドに位置している。遺構は東側の調査区外に延びており、遺構全体を確認することはできなかった。遺構検出当初は、V層上面で確認された9号倒木痕として掘り下げ、出土遺物を取り上げたが、底面まで掘り下げたところで炉跡、ピットが検出され壁穴住居跡と認定された。壁面の精査の結果、本遺構はIVb層上面から掘り込まれていることが確認されたことから、IVb層上面検出遺構としてここで記述する。整理時に遺構名を表記の遺構名に変更した。IVb層上面での他の遺構との重複関係はない。

〔平面形・規模〕 平面形は長軸5.25m以上、短軸4.05mの楕円形を基調としたものであると考えられる。長軸方向はE-45°-Nである。

〔堆積土〕 4層に大別される。第1層は遺物包含層の流入土と思われ、炭化物、焼土粒が多量に混入しており、遺物も多い。第4層は床面上の火熱を受けて赤変した粘土である。

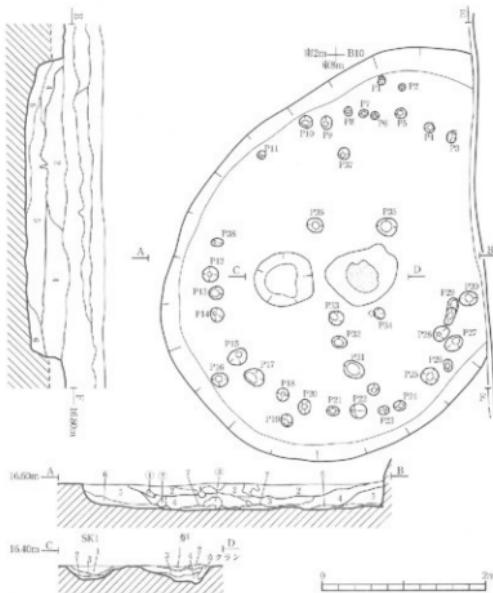
〔壁面〕 最も保存の良い西壁で27cmの高さで残存しているが、調査区東壁の断面をみると、本住居跡北壁で33cm、南壁で38cmの高さで残存していたことを確認できる。床面からやや緩やかな角度で立ち上がっている。

〔床面〕 挖り方底面を直接床面としている。凸凹は少なく、ほぼ平坦である。床面レベルは炉の周辺が最も低く、壁際に向かって高くなる。

〔柱穴〕 検出された範囲の床面で38個のピットが検出された。それらのピットは柱穴に関連するものと考えられる。壁際には29個のピットが巡っている。

〔炉〕 住居跡中央やや南寄りに位置する。焼け面と、それを取り巻く火熱を受けて赤変している部分が炉である。焼け面は長軸約50cm、短軸40cmの不整な楕円形で、その周囲約15cm～25cmの範囲で赤変している。遺構内の堆積土の状況から、赤変している部分は、粘土が土手状に盛り上げられていたものと考えられる。赤変している部分の下には深さ20cm程の掘り方が認められる。

〔その他の施設〕 その他に周溝等の施設は検

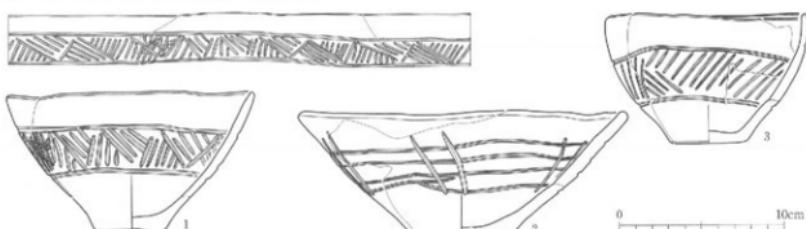


No.	Na.	上色	性	種	量	考
1	1	SYR83-1	無規則シルト	粘土・炭化物を含む。		
	2	SYR82-2	無規則シルト	炭化物・遺物を多く含む。		
2	2	SYR82-4	無規則シルト	炭化物を多く含む。SYR82-1と同様の土の小ブロックを含む。		
	3	10YR83-3	無規則シルト	SYR82-1と同様の土の小ブロックを含む。		
3	5	10YR83-4	無規則シルト	SYR82-1と同様の土の小ブロックを含む。		
	6	10YR84-4	無規則シルト			
7	7	SYR84-3	表面粗粒土	炉の上に残っている。		
	8	SYR84-4	無規則シルト	炭化物を含む。		
9	9	SYR84-3	表面粗粒土	SYR84-2と同様の土の小ブロックを含む。		
	10	SYR84-6	無規則シルト	SYR84-5と同様の土の小ブロックを含む。		

No.	Na.	上色	性	種	量	考
SK1	1	10YR82-2	無規則シルト	炭化物・25%を多く含む。		
	2	10YR82-4	無規則シルト	炭化物を少部分含む。		
6	3	10YR84-4	無規則シルト	SYR83-3(粘土)の土の小ブロックを含む。		
	7	SYR83-2	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰・炭灰を含む。		
	8	SYR83-4	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	9	SYR84-6	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	10	SYR84-8	無規則シルト	SYR84-4(粘土)のシルトを下部に多く含む。		
	11	SYR84-9	無規則シルト	SYR84-8(粘土)のシルトを下部に多く含む。		

No.	Na.	上色	性	種	量	考
SK1	1	2	3	4	5	6
	2	10YR82-2	無規則シルト	炭化物・25%を多く含む。		
	3	10YR82-4	無規則シルト	炭化物を少部分含む。		
6	4	3	2	1	0	1
	7	SYR83-2	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰・炭灰を含む。		
	8	SYR83-4	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	9	SYR84-6	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	10	SYR84-8	無規則シルト	SYR84-4(粘土)のシルトを下部に多く含む。		
	11	SYR84-9	無規則シルト	SYR84-8(粘土)のシルトを下部に多く含む。		

No.	Na.	上色	性	種	量	考
SK1	1	2	3	4	5	6
	2	10YR82-2	無規則シルト	炭化物・25%を多く含む。		
	3	10YR82-4	無規則シルト	炭化物を少部分含む。		
6	4	3	2	1	0	1
	7	SYR83-2	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰・炭灰を含む。		
	8	SYR83-4	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	9	SYR84-6	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	10	SYR84-8	無規則シルト	SYR84-4(粘土)のシルトを下部に多く含む。		
	11	SYR84-9	無規則シルト	SYR84-8(粘土)のシルトを下部に多く含む。		

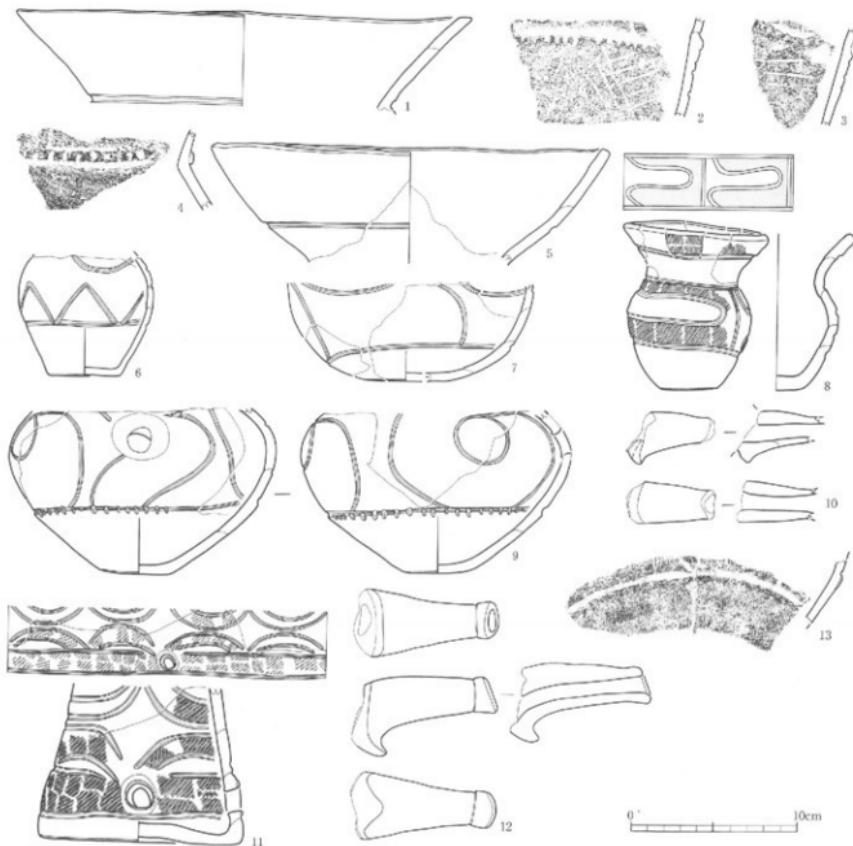


No.	Na.	上色	性	種	量	考
NA-52	1	2	3	4	5	6
	2	10YR82-2	無規則シルト	炭化物・25%を多く含む。		
3	NA-53	3	2	1	0	1
	4	SYR83-2	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰・炭灰を含む。		
	5	SYR83-4	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	6	SYR84-6	無規則粗粒土	炭・骨少々・灰を含む。		
	7	SYR84-8	無規則シルト	SYR84-4(粘土)のシルトを下部に多く含む。		
	8	SYR84-9	無規則シルト	SYR84-8(粘土)のシルトを下部に多く含む。		

第37図 S16 穴立住居跡・出土遺物 (1)

出されていないが、炉の西側に土坑が1基検出された。平面形、規模は長軸75cm、短軸65cmの不整な楕円形で、床面からの深さは16cmあり、壁は床面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。また、住居跡北西壁中央部の壁際周辺に壁際を巡るピットが途切れている部分がある。

〔出土遺物〕住居跡北半部の堆積上第1層から縄文土器がまとまって出土した。また、床面から一括土器が出土している。その他に剥片石器、礫石器、石製品が出上している。そのうち縄文土器36点、剥片石器8点、礫石器15点、石製品3点を図示した。



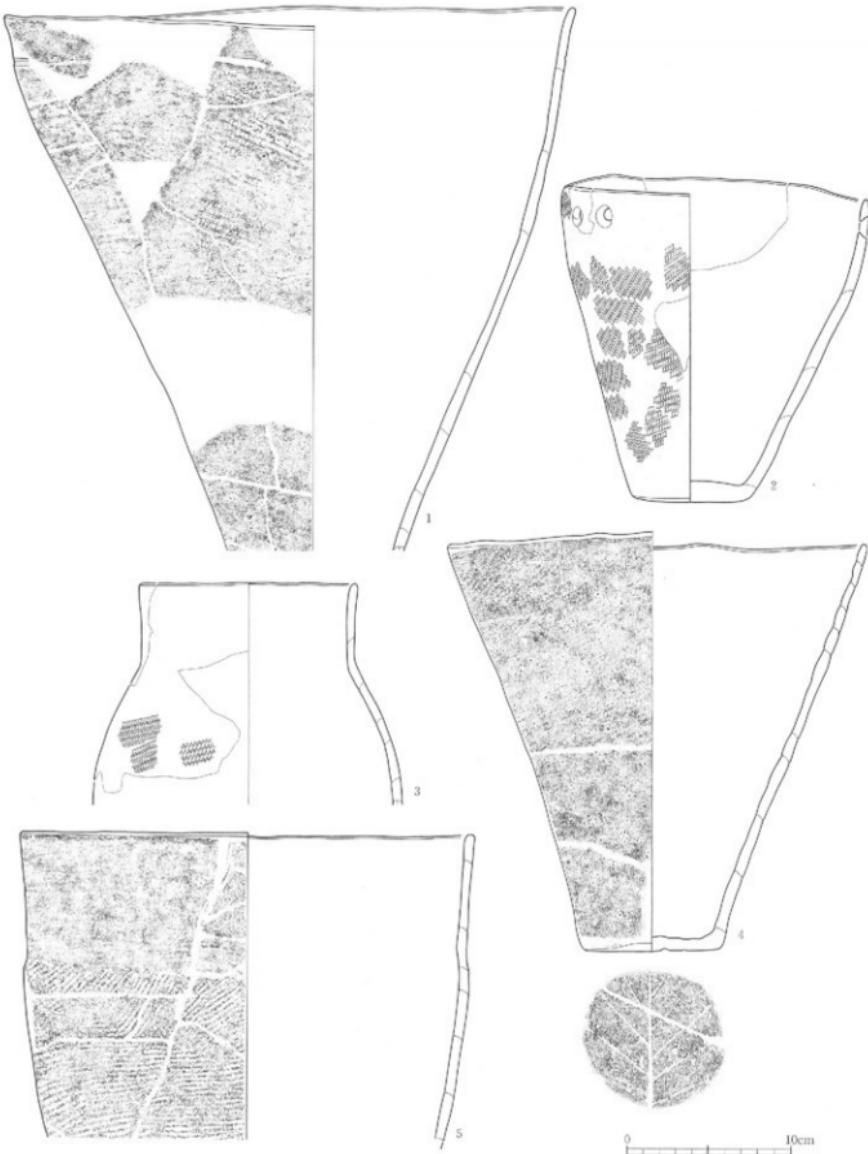
No.	登録番号	種類	形	質	装飾	外観	内観	底面	側面	参考	当該回数
1	6A-58	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-16
2	6A-9	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-6
3	6A-10	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		55-1
4	6A-10	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-7
5	6A-10	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-17
6	6A-35	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-18
7	6A-35	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸	斜板多い	54-11
8	6A-50	縄文土器	小鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-12
9	6A-59	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-3(a)
10	6A-34	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		54-5
11	6A-36	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸	側面板	54-4
12	6A-37	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸	底土被覆	54-14
13	6A-12	縄文土器	深鉢	土	無	2	2	丸	丸		55-6

第38図 S16 整穴住居跡出土遺物 (2)



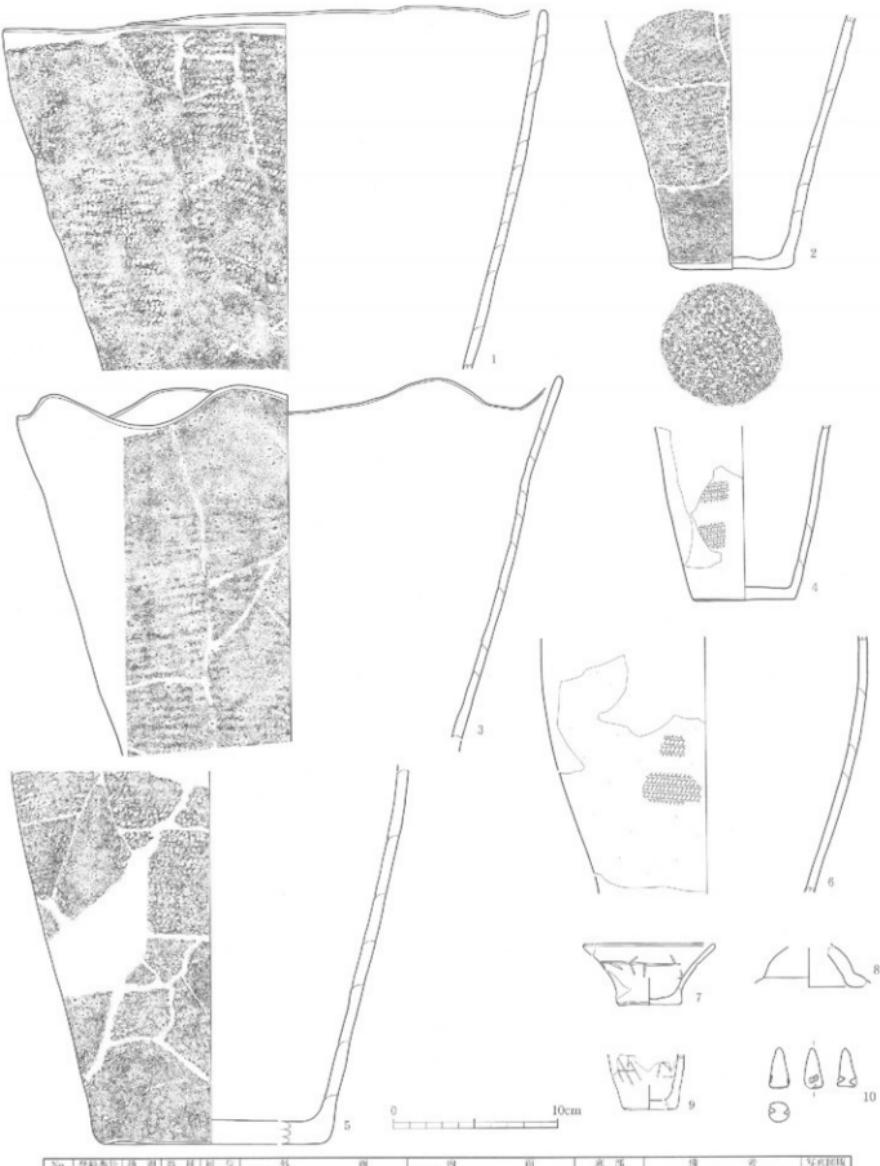
No.	器種番号	種	式	記	標	留	現	外 面	内 面	底 面	備 考	写真複数
1	4A-12	周文式	深腹		7	留	LR刷文	虎纹	文	文		54-15
2	4A-44	周文式	深腹		2	留	LR刷文	虎纹	文	文		54-20
3	4A-53	周文式	深腹		3	留	LR刷文	虎纹	文	文		
4	4A-45	周文式	深腹		2	留	LR刷文	虎纹	文	文		
5	4A-30	周文式	深腹	重輪	1	留	LR刷文	虎纹	文	文		54-27

第39回 SI 6 積穴住居跡出土遺物 (3)



No.	埋藏場所	層	目	器種	形	外 面	内 面	底 部	備 考	参考実例
1	4A-35	馬文化2期	2号	縦縞文	2号	LR縞文・波綱文	無	—	—	54-18
2	4A-61	馬文化2期	2号	縦縞文	1号	LR縞文	無	—	一列の斜縞れあり	54-22
3	4A-29	馬文化2期	2号	縦縞文	1号	LR縞文	無	—	—	54-28
4	4A-54	馬文化2期	2号	縦縞文	2号	LR縞文	ミサキ・ナフ	本形態	—	54-23
5	4A-40	馬文化2期	2号	縦縞文	2号	LR縞文	ミサキ	—	—	54-20

第40図 SI 6 整穴住居跡出土遺物 (4)



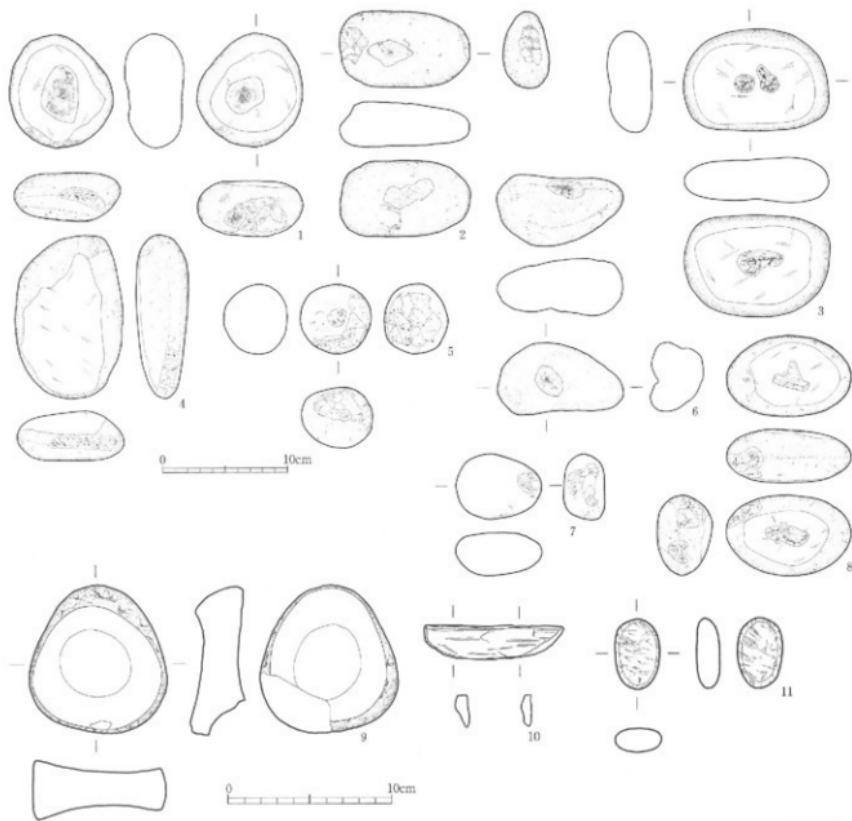
No.	器物番号	地 理 位 置	形 状 特 徴	材 質	外 觀	内 部	内 部	備 考	写真枚数
1	4A-36	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ		24-25
2	4A-37	周文二号	直腹	陶	LR硬文+ミガキ	ミガキ	ミガキ	網代板	24-25
3	4A-41	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	網代板	24-25
4	4A-50	周文二号	直腹	陶	LR硬文+施鐵	ナガ	ナガ	網代板	24-25
5	4A-57	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25
6	4A-58	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	櫟木炭化物瓦着	24-25
7	4A-59	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25
8	4A-60	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25
9	4A-57	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25
10	4P-16	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25
No.	登録番号	地 理 位 置	形 状 特 徴	材 質	外 觀	内 部	内 部	備 考	写真枚数
10	4P-16	周文二号	直腹	陶	LR硬文	ミガキ	ミガキ	木系板	24-25

第41図 SI 6竪穴住居出土遺物(5)



No.	登錄番号	種類	形態	直徑 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	重さ (g)	参考範囲
1	648	石鏃	石頭	41.5	17.0	5.1	1.3	55~59
2	645	石鏃	石頭	20.5	13.5	3.3	0.6	55~91
3	647	石鏃	石頭	21.0	17.5	2.5	0.6	55~93
4	529	3型 石鏃	石頭	33.0	23.0	5.2	2.8	55~94
5	529	石鏃	石頭	28.0	15.5	3.0	0.9	55~99
6	559	石鏃	石頭	27.0	19.0	3.0	4.1	55~111
7	557	石鏃	石頭	27.0	29.0	9.5	6.0	55~106
8	606	スクレーパー	石頭	21.0	18.0	0.5	1.6	55~132
9	645	P凹	石片	60.5	43.0	7.3	15.0	56~60
10	578	削製石器	石頭	43.0	21.0	5.1	14.9	55~95
11	600	刮石器	石頭	69.0	63.5	48.0	30.1	55~95
12	605	刮石器	石頭	63.0	55.0	48.5	127.6	55~95
13	606	刮石器	石頭	76.0	51.5	21.0	103.9	55~95
14	611	刮石器	石頭	22.0	13.5	12.5	5.000	55~95
15	661	刮石器	石頭	72.0	107.0	79.0	183.0	55~95

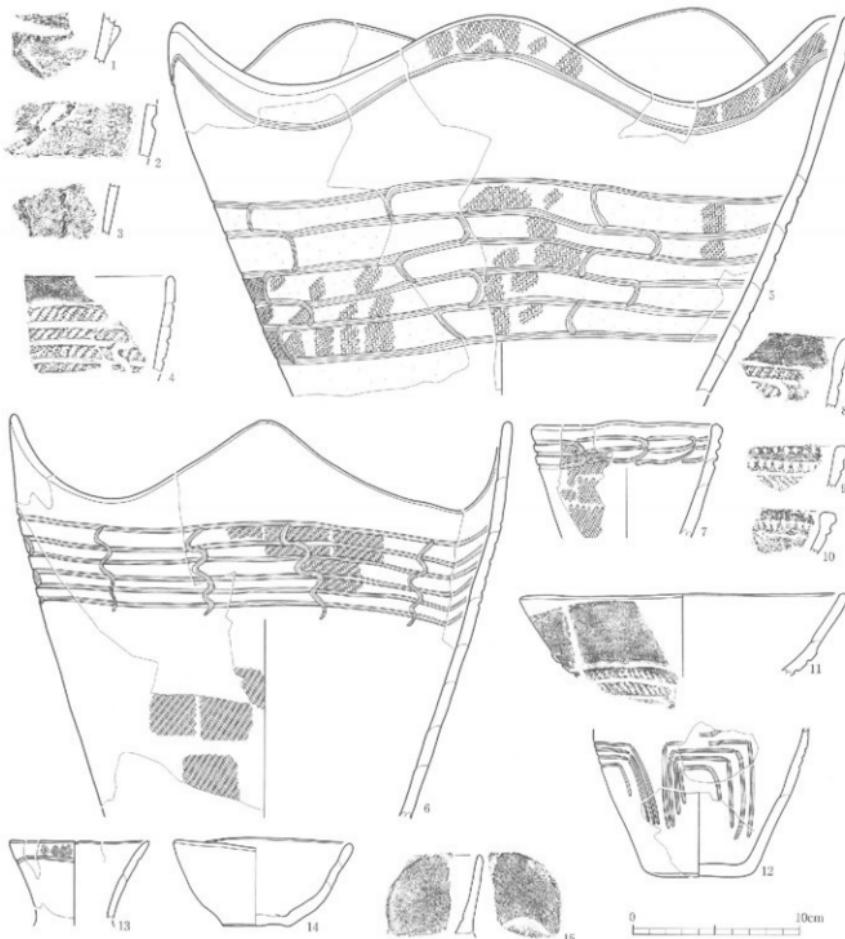
第42図 S16 穴住居跡出土遺物 (6)



第43図 S16 穴住居跡出土遺物 (7)

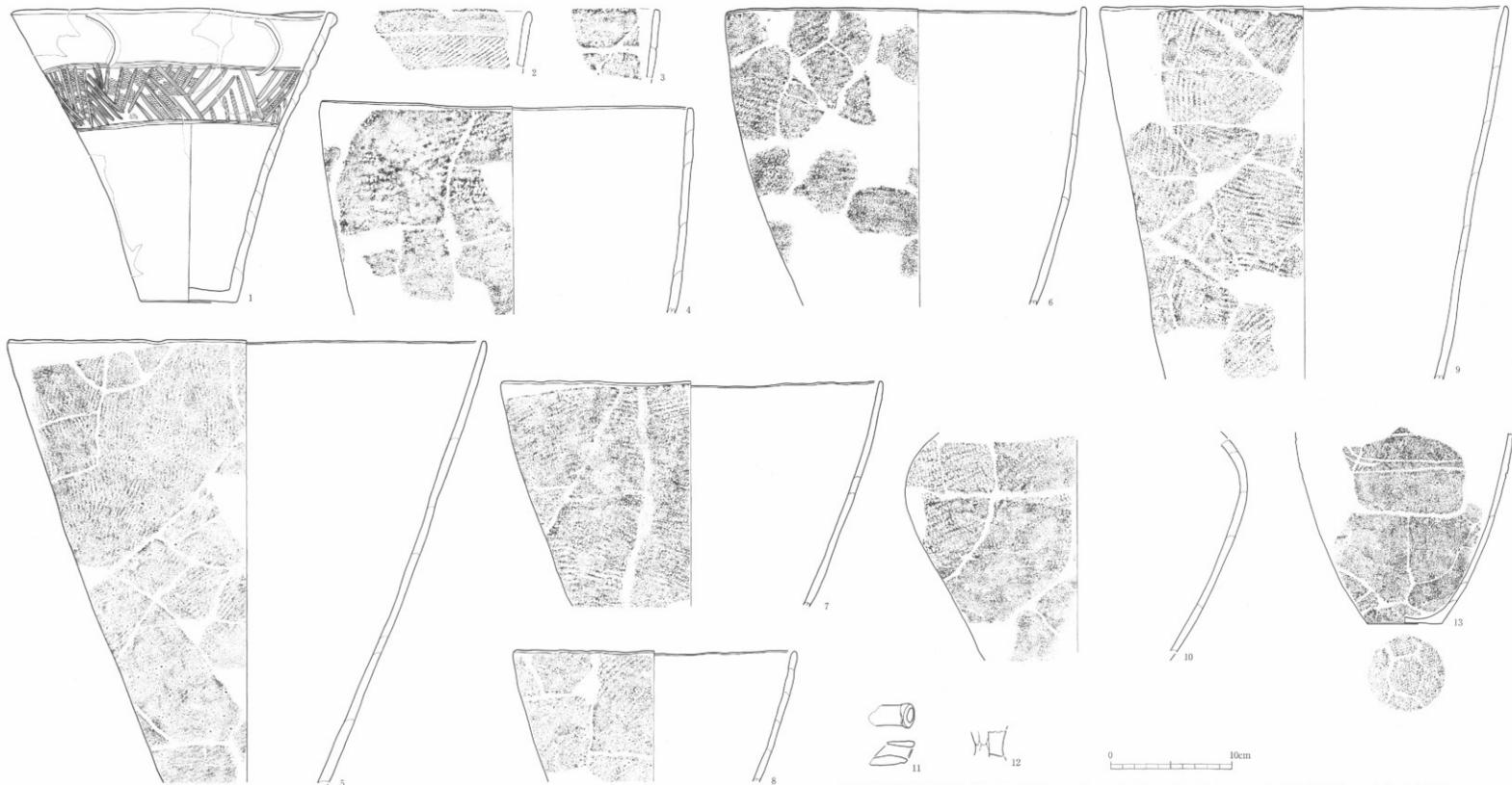
遺物包含層

4区から5区にかけてのIVb層には特に他の地区、層よりも多量に遺物が混入していたことから遺物包含層として扱った。4区及び5区のA・B-9・10・11・12の各10mグリットを各々更に北西から南東に向かって、1~25までの2mグリットに細分して精査を行い、遺物を取り上げた。4区の西寄りに位置するSR-1河川跡によって西側が削平され、東側は6区の擾乱によって範囲が確定できず、南北は調査区外に広がっており、遺物包含層としての範囲は不明である。縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器、石製品が出土している。出土遺物の時期は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものであるが、各時期のものが混在しており、出土状況から時期的な変遷を追えるようなものではなかった。



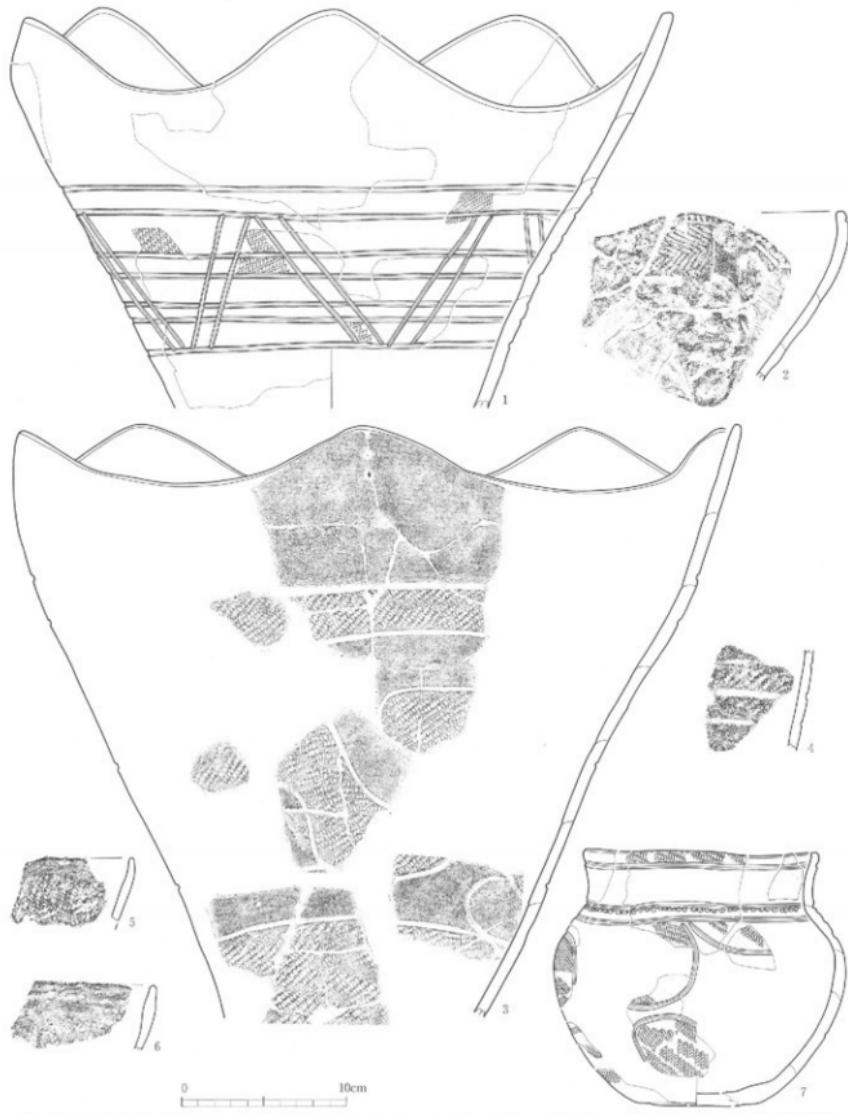
第44図 包含層出土遺物(1)

No.	型式番号	種別	西村	地 区	遺 跡	科 目	内 容	部 位	底 澤	備 考	写真枚数
1-2	6A-1-5	陶文土器	圓錐	5区	B14	1.5号鉢	「印模文」、「深模文」、「斜模文」	上部分	—	—	54-37
3	4A-1-3	陶文土器	圓錐	4区	B14	1.5号鉢	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-38
4	4A-1-5	陶文土器	圓錐	4区	B14	1.5号鉢	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-39
5	4A-1-5	陶文土器	圓錐	4区	B14	1.5号鉢	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-40
6	4A-1-14	陶文土器	圓錐	4区	B10	B14	「印模文」、「S字形模文」、「平行模文」	上部分	—	—	54-12
7	5A-1-5	陶文土器	小壺錐	5区	B9	5号壺	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-13
8	5A-1-2	陶文土器	圓錐	5区	A11-25	5号壺	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-36
9	5A-1-2	陶文土器	圓錐	5区	A11-25	5号壺	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-37
10	6A-1-7	陶文土器	圓錐	6区	A14-21	7号壺	「印模文」、「斜模文」	上部分	—	—	54-38
11	6A-1-13	陶文土器	圓錐	6区	B10	5号壺	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-39
12	6A-1-3	陶文土器	小壺錐	6区	B13-20	3号壺	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-40
13	6A-17	陶文土器	小壺	6区	B10-20	B10	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-38
14	6A-18	陶文土器	浅钵	6区	B10-17	B10	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-39
15	5A-5	陶文土器	深钵	5区	B11-17	B11	「印模文」、「深模文」	上部分	—	—	54-35



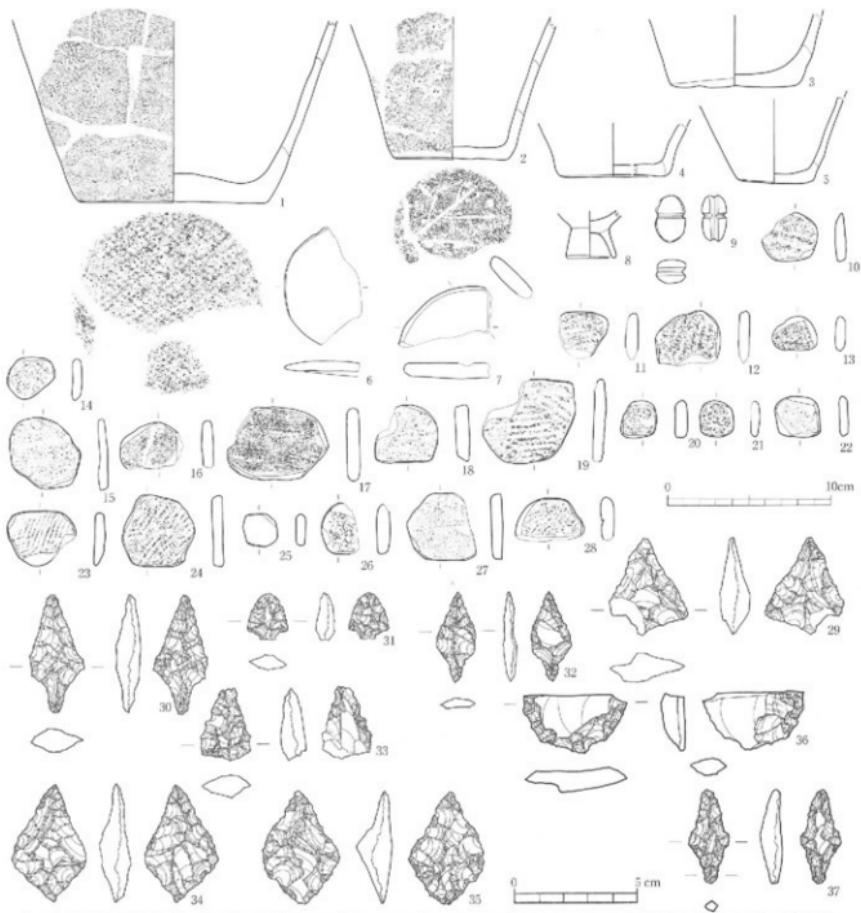
第45図 包含層出土遺物（2）

No.	出発地	地	層	標	地	層	標	内	地	層	標	参考文献
1	豊岡市立	物	陶	器	4	B10	B10	18	北朝文・北朝文・結合文	ミガキ		55-11
2	[SA-2]	萬	文	方	器	5	C10	A12	万	縦	ミガキ	54-34
3	[SA-3]	萬	文	方	器	6	C10	A12	万	縦	ミガキ	—
4	[SA-11]	萬	文	方	器	7	B10	9	万	縦	ミガキ	54-12
5	[SA-8]	萬	文	方	器	8	C10	A11	万	縦	ミガキ	54-20
6	[SA-1]	萬	文	方	器	9	C10	A11	万	縦	ミガキ	—
7	[SA-62]	萬	文	方	器	10	B10	14	万	縦	ミガキ	54-32
8	[SA-2]	萬	文	方	器	11	B10	10	万	縦	ミガキ	—
9	[SA-10]	萬	文	方	器	12	B10	10	万	縦	ミガキ	54-31
10	[SA-9]	萬	文	方	器	13	B10	9	万	縦	ミガキ・カタ・ケズリ	54-6
11	[SA-1]	萬	文	方	器	14	B10	9	万	縦	ミガキ	54-10
12	[P-13]	日	陶	器	15	C10	C10	18	北朝文・結合文	ミガキ		55-22
13	[P-34]	日	陶	器	16	C10	C10	18	北朝文・結合文	ミガキ		—
No.	出発地	地	層	標	地	層	標	内	地	層	標	参考文献
11	[P-13]	日	陶	器	15	C10	C10	18	北朝文・結合文	ミガキ		55-22
12	[P-34]	日	陶	器	16	C10	C10	18	北朝文・結合文	ミガキ		—



No.	层位号	地 区	层 位	标 识	内	外	系 统	性 质	写真图版
1	6A-10	西文土器	6区	B10-1 N10-1 LB带 LH陶文、沈腹文、立耳等	三瓣形	—	—	—	54-30
2	6A-12	西文土器	6区	B10-2 N10-2 LB LH陶文、沈腹文、直耳文	三瓣形	—	—	—	54-61
3	6A-8	西文土器	6区	B11-2 N11-2 LB带 LH陶文、沈腹文	三瓣形	—	—	—	54-37
4	6A-9	西文土器	6区	B11-3 N11-3 LB带 LH陶文	三瓣形	—	—	—	54-38
5	6A-4	西文土器	5区	B12-2 N12-2 LB带 LH陶文	三瓣形	—	—	—	54-39
6	6A-4	西文土器	6区	B14-10 N14-10 LB带 LH陶文、沈腹文	三瓣形	—	—	—	54-41
7	6A-7	西文土器	6区	B10-10 N10-10 LB带 LH陶文、沈腹文	三瓣形 直耳 立耳等	—	—	—	54-60

第46图 包含层出土遗物 (3)



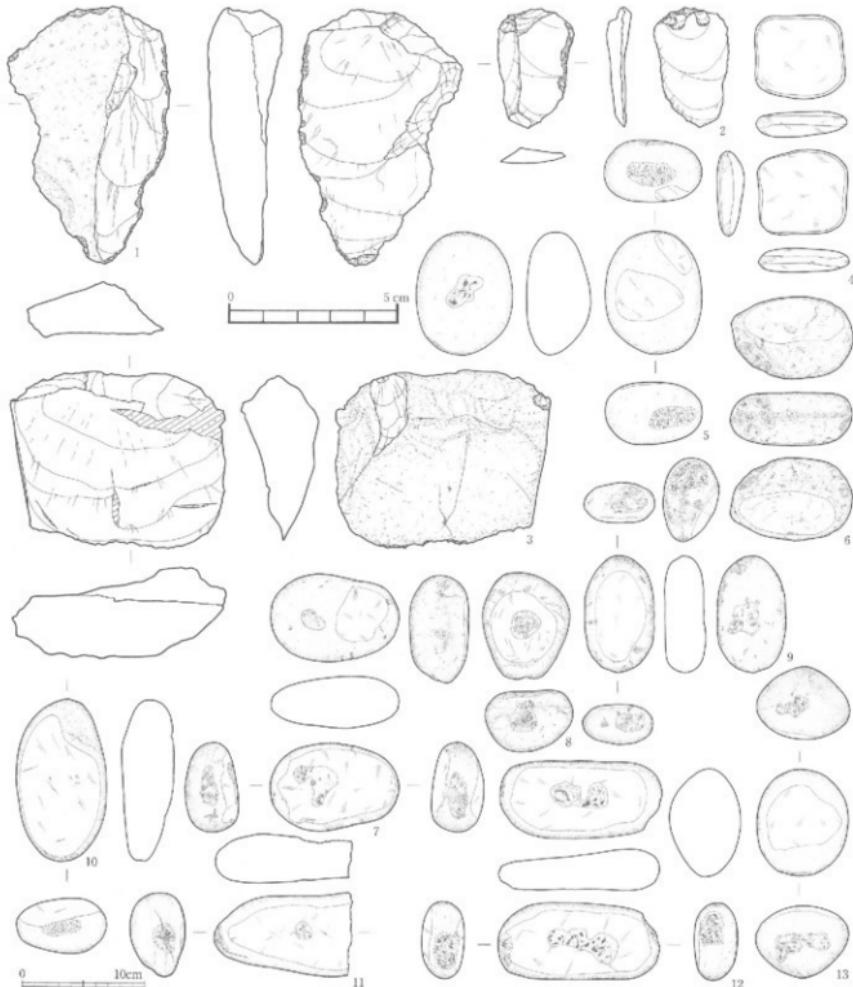
No.	登錄番号	地	地	形	理	量	区	量	外	内	内	外	部	種	考	写真圖版
1	SA-1	高知	高知	石器	石器	72.0	B11-9	9.0	R1.4-1	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
2	4A-22	高知	高知	石器	石器	4.0	AB10-2	0.0	R1.4-2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
3	4A-19	高知	高知	石器	石器	4.0	B10-16	0.0	R1.4-3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
4	4A-20	高知	高知	石器	石器	4.0	B10-17	0.0	R1.4-4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
5	4A-24	高知	高知	石器	石器	4.0	AB10-2	0.0	R1.4-5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
6	SP-22	高知	高知	石器	石器	14.7	AB10-2	0.0	R1.4-6	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
7	4P-1	高知	高知	石器	石器	47.0	47.0	6.0	29.5-55-20	29.5	29.5	29.5	29.5	29.5	29.5	29.5
8	4P-8	高知	高知	石器	石器	37.0	37.0	0.0	20.7-55-21	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7
9	SP-25	高知	高知	石器	石器	29.0	19.0	0.0	8.0-55-25	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
10	SP-3	高知	高知	石器	石器	32.0	32.0	0.0	7.0-55-26	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
11	SP-4	高知	高知	石器	石器	29.0	20.0	0.0	8.0-55-27	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
12	SP-5	高知	高知	石器	石器	31.0	31.0	0.0	7.0-55-28	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
13	SP-6	高知	高知	石器	石器	21.0	28.0	6.0	40.5-55-43	40.5	40.5	40.5	40.5	40.5	40.5	40.5
14	SP-7	高知	高知	石器	石器	26.0	29.0	6.0	5.2-55-57	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2
15	SP-7	高知	高知	石器	石器	44.0	33.0	0.0	12.0-55-44	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
16	SP-8	高知	高知	石器	石器	29.0	39.0	8.0	6.5-55-45	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
17	4P-9	高知	高知	石器	石器	15.0	61.0	8.0	27.0-50-34	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0	27.0
18	SP-10	高知	高知	石器	石器	35.0	39.0	9.0	13.0-55-46	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
19	SP-11	高知	高知	石器	石器	30.0	50.0	9.0	22.3-55-47	22.3	22.3	22.3	22.3	22.3	22.3	22.3
20	SP-9	高知	高知	石器	石器	21.0	22.0	6.0	5.1-55-46	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
21	SP-11	高知	高知	石器	石器	23.0	21.0	6.0	5.0-55-48	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
22	SP-13	高知	高知	石器	石器	25.0	28.0	6.0	4.7-55-50	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
No. 登録番号 地 地 形 理 量 区 量 外 内 内 外 部 種 考 写真圖版																13.6g
No. 登録番号 地 地 形 理 量 区 量 外 内 内 外 部 種 考 写真圖版																5 cm
No. 登録番号 地 地 形 理 量 区 量 外 内 内 外 部 種 考 写真圖版																0.5 cm

第47図 包含層出土遺物(4)



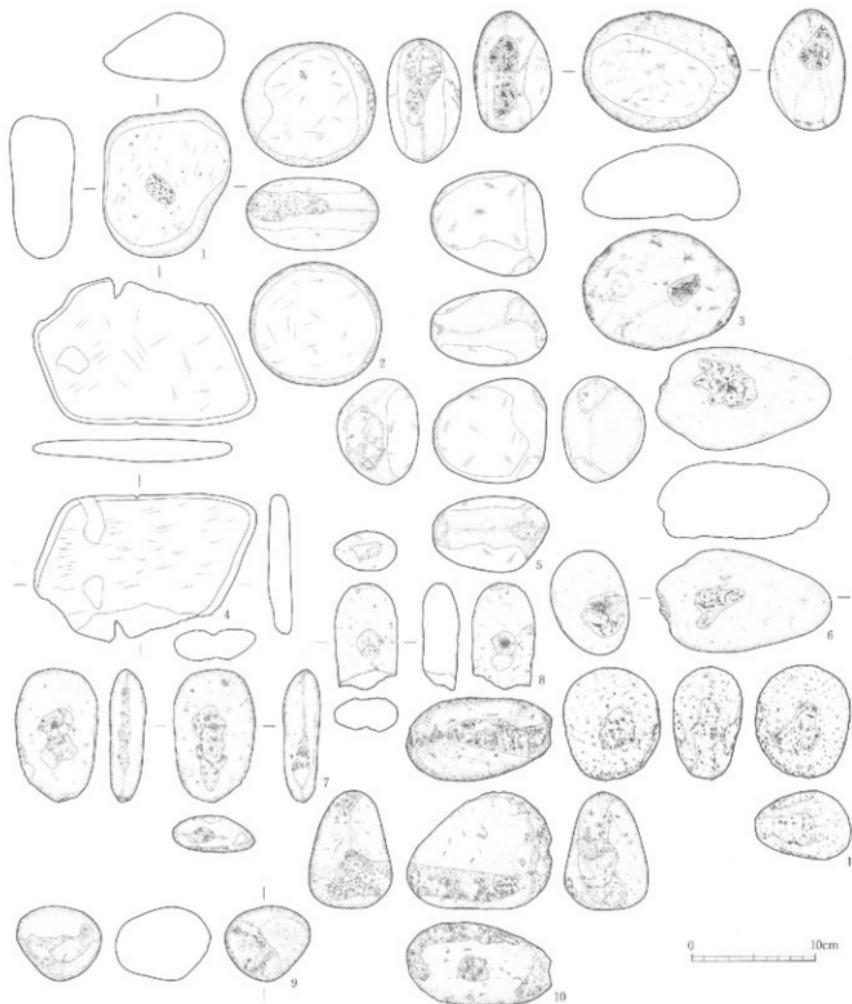
No.	發掘番号	地 区	工 横	縦	厚	長 S (mm)	幅 (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	備 考	写真図版
1	267	5区	B11-13	石器	石器	35.0	9.0	4.0	420	(1.2) 先端部 1.4 テーブル面	55-15
2	814	4区	B11-13	石器	石器	37.0	11.0	4.0	470	1.4 テーブル面	55-16
3	256	4区	B11-9	石器	石器	26.0	17.0	3.5	240	1.4 テーブル面	55-15
4	177	4区	B10-19	石器	石器	31.5	23.5	10.0	450	1.5 先端部削減	55-168
5	217	4区	B10-2	石器	石器	19.0	22.5	4.2	160	1.6 斜面削除	55-16
6	219	4区	B10-2	石器	石器	28.0	10.0	9.1	220	先端部・既打(2.1)	55-117
7	818	5区	B11-14	石器	ビス・エスキース	19.0	28.0	6.0	400	削れ	55-22
8	361	4区	B10-14	石器	ビス・エスキース	32.0	48.0	10.1	172	削れ	55-24
9	255	4区	B10-15	石器	ビス・エスキース	19.5	22.5	4.7	21	削れ	55-22
10	221	4区	B10-2	石器	石器	22.0	17.5	7.0	190	1.5 削れ	55-27
11	253	4区	B10-14	石器	スクレイバー	20.0	16.0	5.0	150	微細削除面	55-24
12	250	4区	A5-7	石器	スクレイバー	42.0	53.0	7.0	174	1.5 削れ	55-128
13	771	5区	A11-20	石器	スクレイバー	42.0	40.0	9.2	146		55-1
14	202	4区	B10-14	石器	一次加工のある断片	30.5	38.0	7.0	27	既削削面	55-1002
15	332	4区	B10-25	石器	断片	50.0	23.5	6.5	63	既削削面	55-2
16	292	4区	B10-9	石器	断片	47.5	53.0	9.0	264	既削削面	55-3

第48図 包含層出土遺物 (5)



No.	发现地点号	层	区	层位	地	共(S)cm	高(cm)	厚(S)cm	重(S)g	层	号	写真枚数
1	158	4区	B10-15.5cm	砾石		26.0	0.5					50-1
2	250	4区	A5-2.5cm	砾石		36.5	2.0	0.5				50-2
3	272	5区	A12-21.0cm	砾石		54.0	0.5	21.5	305.5	砾石		50-3
4	269	4区	B5-16.5cm	砾石带		74.0	6.0	35.0	1502.0	砾		50-4
5	862	5区	A12.5cm	砾石带		101.0	7.0	51.5	3065.5	砾	50-5	
6	287	4区	B9-1.5cm	砾石带		105.0	6.0	43.5	4367.1	砾+砂		
7	272	4区	B10-12.5cm	砾石带		101.5	7.2	44.6	4864.1	砾+砂		50-25
8	272	4区	B10-12.5cm	砾石带		102.5	7.0	45.2	4250.0	砾+砂+泥+砂		
9	840	2区	A11-17.5cm	砾石带		80.0	3.0	32.0	2000.0	砾		
10	854	3区	B11-19.5cm	砾石带		133.0	7.4	13.6	3356.85	砾		
11	268	4区	B10-14.5cm	砾石带	(112.0)	70.0	30.0	4137.95	砾+砂			
12	288	4区	B9-1.5cm	砾石带		131.0	6.0	34.0	4562.25	砾+砂+泥+砂		
13	852	5区	A12-22.5cm	砾石带		88.0	7.0	39.0	3194.25	砾		

第49图 包含层出土遗物(6)



No.	登錄番号	地 区	層 位	種	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	重 量 (g)	考	写真図版
1	280	4区	B10-1 N 5号	陶石器	121.0	104.5	57.5	10320	磨・凹	56-14
2	281	4区	A.8-20 N 5号	陶石器	107.0	102.0	56.0	9800	磨・凹	
3	291	4区	B.8-19 N 5号	陶石器	127.0	99.0	61.0	15500	磨・凹	
4	300	4区	B.9-16 N 5号	瓦	100.0	121.5	76.0			
5	305	4区	B.9-18 N 5号	陶石器	95.0	87.0	62.0	8750	磨・凹	
6	265	4区	B10-20 N 5号	陶石器	143.0	89.0	61.0	9060	磨・凹	
7	281	4区	A.9-16 N 5号	陶石器	108.0	67.0	27.5	2445	磨・凹	56-15
8	334	4区	B10-12 N 5号	陶石器	162.0	51.0	30.0	1515	磨・凹	56-16
9	282	4区	A.9-16 N 5号	陶石器	61.0	68.5	78.0	3897	磨	
10	271	4区	B10-12 N 5号	陶石器	96.0	118.5	67.5	8550	磨・凹	
11	274	4区	B10-6 N 5号	陶石器	92.0	78.0	56.0	6311	磨	56-24

第50図 包含層出土遺物 (7)



No.	発見番号	地 区	層 位	種 類	形 状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	備 考	写真図版
1	260	4 区	A10-20	石質土器	塊	230.0	160.0	38.0	5.850	鉄 - 鋼	
2	262	4 区	A9-10	石質	塊	262.5	183.0	83.0	5.300	鉄 - 鋼 - 錆付	
3	267	4 区	A9-2	石質	塊	191.0	126.5	96.0	3.000	鐵 - 鋼	
4	266	4 区	B10-16	石質	塊	(122.0)	146.0	75.0	1.174	鉄	56 ~ 77
5	304	5 区	B10-4	鉱化木	塊	99.0	36.0	22.0	84.0	鉄	56 ~ 38

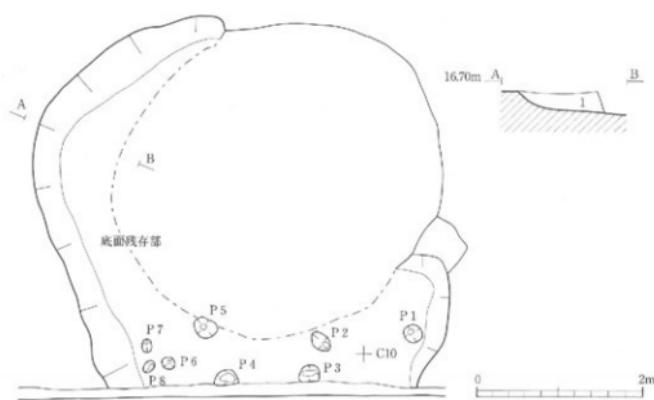
第51図 包含層出土遺物 (8)

V層上面検出遺構

性格不明遺構

SX-3 性格不明遺構 (第52図)

4区の南端B-9・10グリットに位置し、V層上面で確認された。上層のSI-5 竪穴住居跡によって遺構の北東部の大部分が削平され、更に南側の調査区外に延びており、遺構の全体は確認できなかった。平面形は長軸4.75m以上、短軸2.8m~4.3mの不整な隅丸長方形を基調としたものであると考えられるが、遺構の大部 分が検出されず、不明である。西壁を基準とした方向はN-20°-Wである。堆积土は遺構の大部分が残つておらず確認されたのは1層のみで、炭化物が混入し

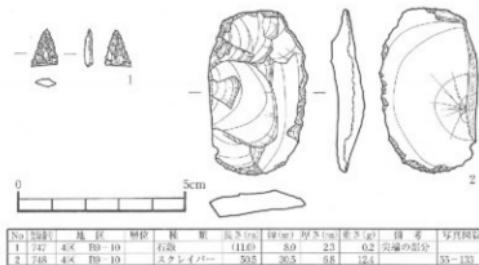


No.	土 色	性 質	場 所
1	10Y3A/4	褐色	底土シルト 炭化物少量含む。
P1	10Y3E-6	明黄色	
P2	10Y3A/4	褐色	底土シルト
P3	10YR3/2	明黄色	

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
底土	14	33	18	14	22	18	28	20

第52図 SX-3 性格不明遺構

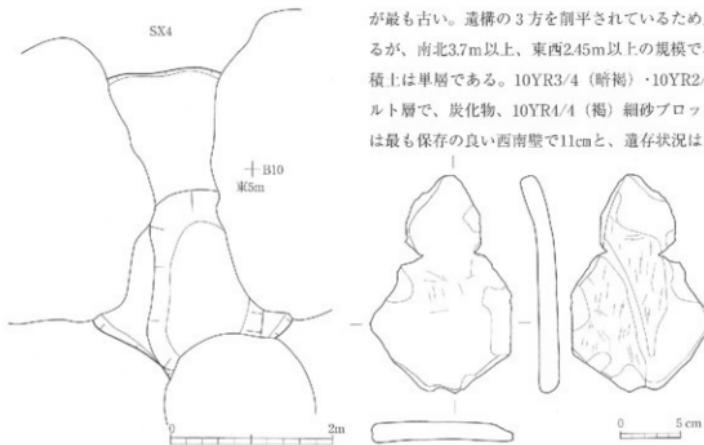
ている。壁面は最も保存の良い西壁南部分で33cmである。大部分の壁は底面から緩やかに立ち上がるが、東壁は急角度で立ち上がる。掘り方底面が直接底面となっている。凸凹ではなく、ほぼ平坦である。底面レベルは北側が高く南側へ向かって低くなる。底面でピット8個が検出された。配置、規模に規則性がなく、柱痕跡もみられなかった。その他に周溝や、炉などの施設は検出されなかった。繩文土器、石器が出土し、剥片石器2点を図示した。



第53図 SX 3 性格不明遺構出土遺物

SX-4 性格不明遺構（第54図）

4区の中央北東寄りA・B-10グリッドに位置し、V層上面で確認された。遺構の東側を上層の3号倒木痕によって削平され、更に南側がSK-31土坑、西側が7号倒木痕と重複し、それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。遺構の3方を削平されているため正確な平面形は不明であるが、南北3.7m以上、東西2.45m以上の規模で、方向は不明である。堆積土は単層である。10YR3/4（暗褐）・10YR2/3（黒褐）の混在するシルト層で、炭化物、10YR4/4（褐）細砂ブロックが混入している。壁面は最も保存の良い西南壁で11cmと、遺存状況は良くない。大部分の壁は



第54図 SX 4 性格不明遺構・出土遺物

底面から緩やかに立ち上がる。掘り方底面が遺構底面となっている。細かい凸凹はないが、底面の南側に段があり、南側が7cm低くなっている。繩文土器、石器、石製品が出土し、石製品1点を図示した。

土 坑

SK-22土坑（第55図）

6区B-13グリッド南側の確認トレンチの西寄りに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.25m、短軸0.88mの不整な格円形で、長軸方向はE-40°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北東壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上げる。底面には細かい凸凹はないが、三段になっており、5cm~7cmのレベル差を持ちながら南から北へと下がっている。遺物は出土していない。

SK-23土坑（第55図）

6区B-13グリッド南側の確認トレンチの西寄りに位置し、V層上面で確認された。南側の確認トレンチの外側

に延びており、全体は確認できなかった。遺構は二段になっており、上部は崩落した部分で、下部が本来の遺構の残存部分であると考えられる。上部の平面形は長軸2.15m、短軸0.95m以上の楕円形を基調としたものであると考えられ、本来の遺構の残存部と考えられる東側の下部は長軸1.1m、短軸0.95m以上の楕円形で、長軸方向はE-8°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北東壁で40cmの高さで残存している。底面からオーバーハングしながら立ち上がっている。底面はほぼ平坦であるが、細かい凸凹がある。遺物は出土していない。

SK-24土坑（第55図）

5区の東端A-12グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.85mの不整な楕円形で、長軸方向がE-0°-N-Sである。西側が長軸0.85m、短軸0.65mの不整な楕円形で一段深くなっている。西側の長軸方向はN-13°-Wである。堆積土は6層に分けられ、中位に焼土層、炭化物を多量に含む層がある。壁面は最も保存の良い西側の北壁で48cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、オーバーハングしながら立ち上がる部分がある。底面は二段になっており、東側が浅く、西側が深くなっている。東側は西側に傾斜しており、西側の底面と35cmの比高差がある。西側の底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。縄文土器、石器が出土し、縄文土器1点、礫石器1点を図示した。

SK-25土坑（第55図）

5区の西端B-11グリットに位置し、V層上面で確認された。遺構は西側の調査区外に延びており、できるだけ調査区の拡張を試みたが、遺構全体を検出することは出来なかった。ピットと重複しており、本遺構がピットを切っていることから、本遺構が新しい。全体の平面形は不明であるが、長軸2.4m以上、短軸1.4m以上の方形を基調とするもので、東側に張出部があるものと思われる。方向は不明である。堆積土は2層に大別される。第1層に焼土、炭化物を多量に含む層がある。壁面は最も保存の良い北東壁で28cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がり、二段になっている部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。検出部分の北側に直徑25cm、深さ15cmのピットが検出された。縄文土器、土製品、石器が多量に出土し、縄文土器8点、土製品2点、剥片石器24点、礫石器3点を図示した。また、堆積土中に細かい遺物が見られたため、堆積土の2層をサンプリングして水洗したところ多量のチップが検出された。チップの量は8,300個以上でおよそ500gにのぼる。

SK-26土坑（第55図）

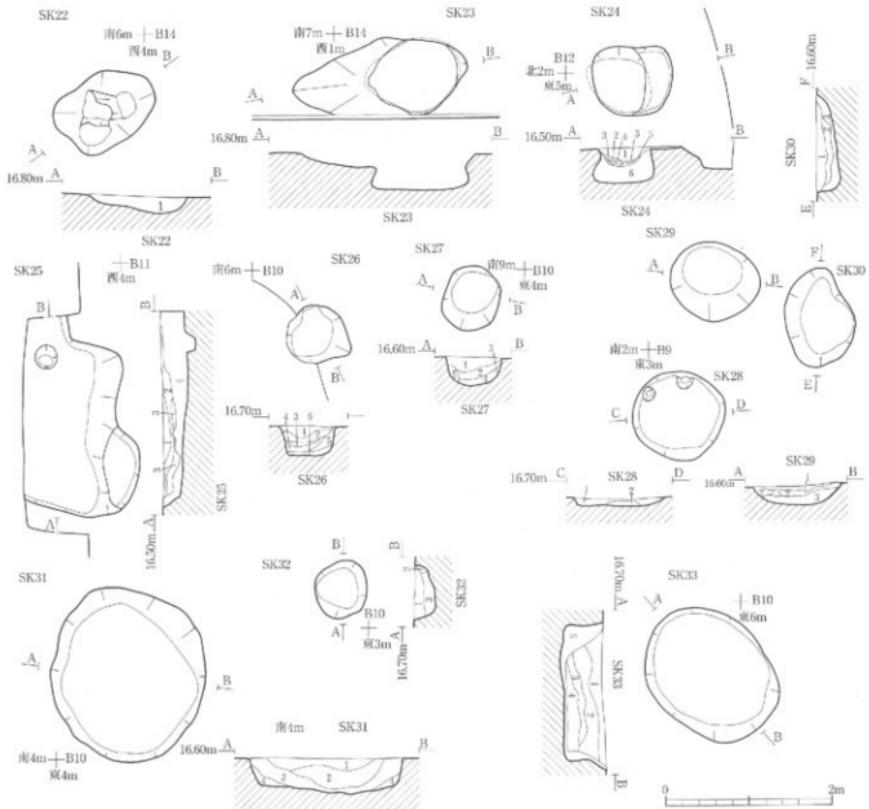
4区の中央南東寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。V層上面では他の遺構との重複関係はないが、上層のSI-5堅穴住居跡によって遺構の西半部が削平されている。全体の平面形は不明であるが、直径0.7m前後の不整な円形を基調としたものであると思われる。堆積土は6層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で37cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-27土坑（第55図）

4区の南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、短軸0.67mの不整な円形である。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で36cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-28土坑（第55図）

4区の中央、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は直径約1.1mの不整な円形である。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で11cmの高さで残存状況は良くない。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦であるが、底面北側に直徑15cm~25cm、深さ5cm~8



番号	Nn	主	副	主 生	副 生
SK25	1	10YR2/2	無	10YR2/2(無理)の軸下プロックを多量に含む。	
SK25	2	10YR2/2	無	10YR2/2(無理)の軸下プロックを多量に含む。	
SK24	1	10YR2/2	無	軸下プロック・木炭灰を少し含む。	
SK24	2	10YR2/2	無	軸下プロック・木炭灰を多量に含む。	
SK24	3	5YR4/4	無	5YR4/4(無理)の軸下プロックを多量に含む。	
SK24	4	10YR2/2	無	軸下プロック・木炭灰を少し含む。	
SK24	5	5YR2/2	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK24	6	10YR2/2	無	軸下プロック・木炭灰を少量化。	
SK25	1	10YR4/3	無	木炭灰を多量含む。	
SK25	2	10YR4/3	無	木炭灰を多量・燃え柱を需要含む。	
SK25	3	10YR3/2	無	木炭灰を多量・燃え柱を少量化。	
SK25	4	10YR3/2	無	木炭灰を少量化。	
SK26	1	10YR2/3	無	木炭灰を少量化。	
SK26	2	10YR2/4	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK26	3	10YR2/4	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK26	4	10YR2/4	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK26	5	10YR2/4	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK26	6	10YR2/4	無	軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK27	1	10YR4/4	無	10YR4/4(無理)の軸下プロックを微量含む。	
SK27	2	10YR4/4	無	10YR4/4(無理)の軸下プロックを微量含む。	
SK27	3	10YR4/4	無	10YR4/4(無理)の軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK27	4	10YR4/4	無	10YR4/4(無理)の軸下プロック・木炭灰を微量含む。	
SK27	5	10YR4/4	無	10YR4/4(無理)の軸下プロック・木炭灰を微量含む。	

品名	No.	生	熟	土	控	等	考
SK-28	1	7SYK-3-4	新馬	シルト	成年馬、10YR4-4(闊)	の歩幅を含む。	
		7YR4-4	馬	シルト	成年馬を含む。		
SK-29	1	7SYK-4	新馬	シルト	成年馬、瘦・性付を含む。		
		7SYK-3-4	新馬	シルト	成年馬、瘦・性付を含む。		
	2	7SYK-3-4	新馬	シルト	10YR4-4(闊) 少弱シルトプロット、瘦・板状板を含む。		
SK-30	1	7EDY-4	新馬	シルト	成年馬を含む。		
	2	10YR4-1	新馬	シルト	成年馬を含む。		
	3	2SYW-4	3才リバーフレッシュ	シルト	成年馬を含む、白色幼駒を含む。		
	4	2SYW-4	オーバーランド	シルト	成年馬を含む。		
SK-31	1	10YR4-4	馬	シルト	馬モドキと曰く10YR4-4(闊)のシルトプロットを含む。		
	2	7SYR-4	駆け馬	シルト	成YR4-4(闊)のシルトモドックを含む。		
	3	10YR4-4	馬	シルト	10YR4-4(闊)の馬モドキを含む。		
	4	10YR4-4	馬	シルト	シルトモドックを含む。		
SK-32	1	7SYR-4	駆け馬	シルト	10YR4-4(闊)のシルトプロットと成年馬を含む。		
	2	8SYR4-4	駆け馬	シルト	成年馬を含む。		
	3	6SYR3-2	駆け馬	シルト	成年馬を含む。		
SK-33	1	6YR4-3	駆け馬	シルト	坂道・坂上・秋・春シランを含む。		
	2	6YR4-5	駆け馬	シルト	坂道を含む。		
	3	7SYR4-4	駆	シルト	坂道を含む、白筋跡を含む。		
	4	7SYR4-6	駆	シルト	坂道を含む(上り坂)、坂道を含む。		

第55図 SK22土坑～SK33土坑

cmの2個のピットがある。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、剥片石器1点を図示した。

SK-29土坑（第55図）

4区の中央やや西寄り、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.1m、短軸0.97mの不整な楕円形で、長軸方向はW-30°-Nである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で25cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。

SK-30土坑（第55図）

4区の中央やや西寄り、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.23m、短軸0.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-8°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。

SK-31土坑（第55図）

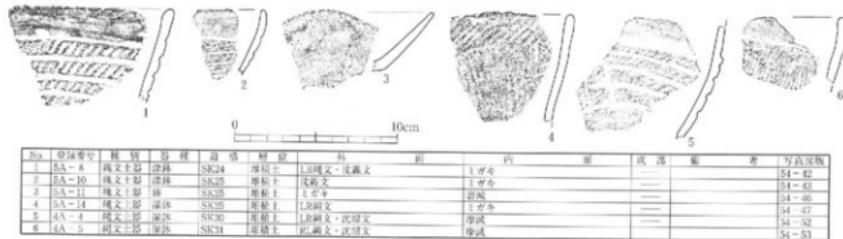
4区の中央東寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。SX-4性格不明構造と重複関係にあり、本遺構が切っていることから本遺構が新しい。平面形は長軸2.1m、短軸1.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-12°-Wである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で35cmの高さで残存している。大部分底面から急角度で立ち上がり、オーバーハングした部分も見られるが、北東部分は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、縄文土器1点、礫石器1点を図示した。

SK-32土坑（第55図）

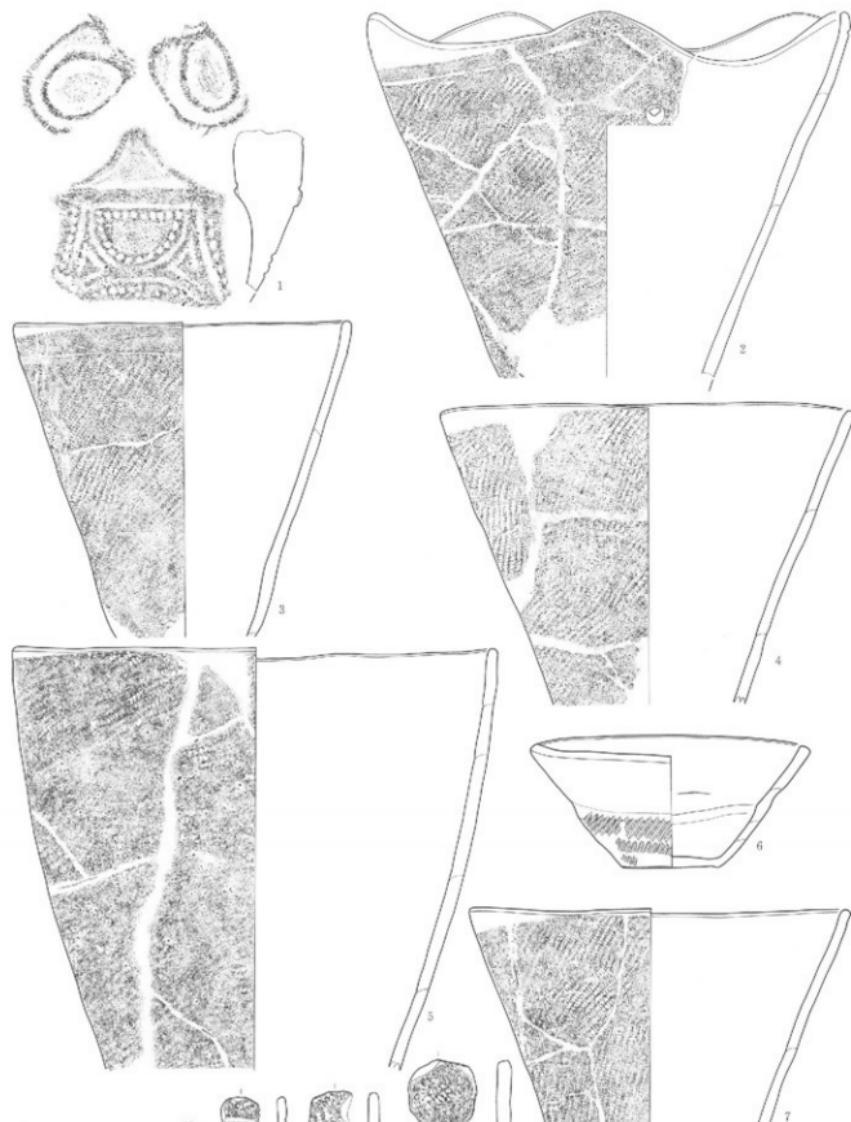
4区の南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.73m、短軸0.65mの不整な楕円形で、長軸方向はN-15°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で25cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は小さい凸凹がある。底面レベルは中央～南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-33土坑（第55図）

4区の中央やや南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.77m、短軸1.4mの不整な楕円形で、長軸方向はN-21°-Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で50cmの高さで残存している。大部分底面から急角度で立ち上がるが、壁面中位までオーバーハングしている部分もある。底面には緩やかな起伏が見られる。底面レベルは中央付近が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。

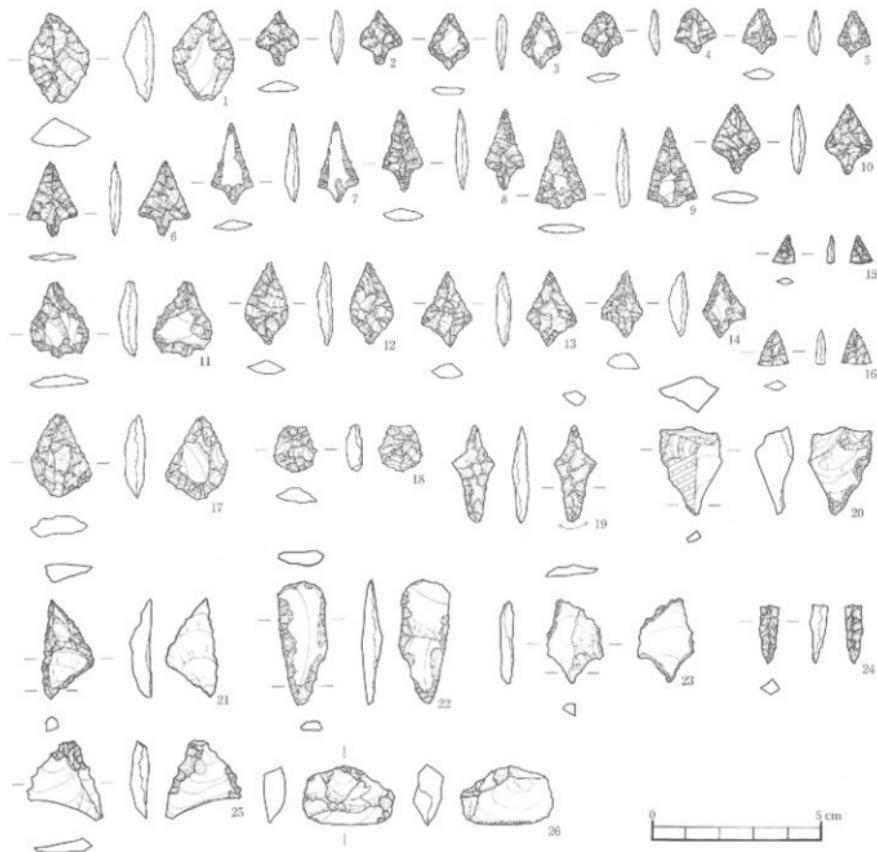


第56図 土坑出土遺物(1)



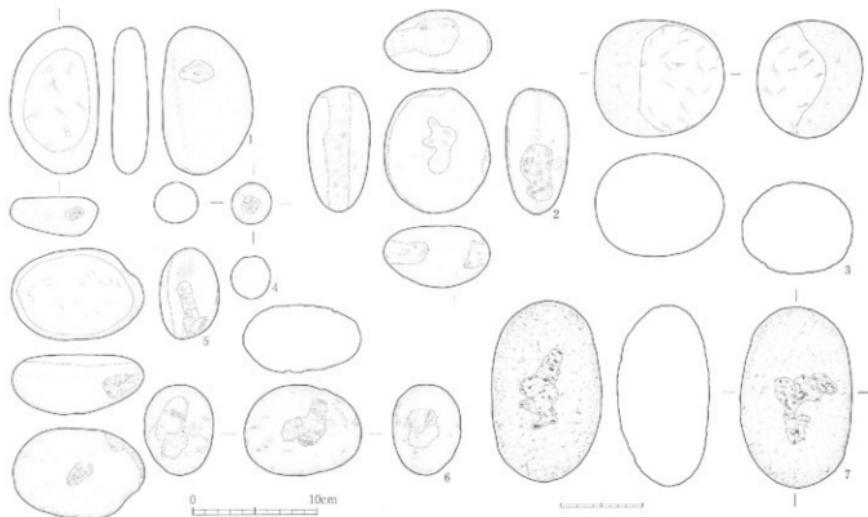
No.	器種区分	種類	器	形	縫隙	外 形	内 容	高 さ	幅 さ	方 向	写真回数	
											54-44	54-45
1 SA-9	織文土器	深鉢	SK25	縫隙文・密縫文・網縫文	浅縫	口縫文・密縫	三方平	—	—	突起Sコ・縫隙孔	54-46	54-47
2 SA-4	織文土器	深鉢	SK25	縫隙文	浅縫	口縫文・密縫	三方平	—	—	—	54-48	54-49
3 SA-7	織文土器	深鉢	SK26	縫隙文	浅縫	口縫文・密縫	三方平	—	—	—	54-50	54-51
5 SA-58	織文土器	深鉢	SK33	縫隙文	浅縫	口縫文・密縫	三方平	—	—	—	54-55	54-56
6 SA-60	織文土器	浅鉢	SK31	口縫	口縫文・三方平	三方平	—	—	—	粘土堆积	54-57	54-58
7 SA-2	織文土器	深鉢	SK25	縫隙文	浅縫	口縫文	三方平	—	—	—	54-59	54-60
No.	器種区分	種類	器	形	縫隙	外 形	内 容	高 さ	幅 さ	方 向	写真回数	
8	縫隙文	深鉢	SK25	口縫	厚縫	口縫文	—	—	—	—	55-55	55-56
9 4P-10	縫隙文	深鉢	SK33	(300)	25.0	70	65	—	—	—	55-35	55-36
10 4P-11	縫隙文	深鉢	SK33	34.0	42.0	80	70.0	—	—	—	55-37	55-38

第57図 土坑出土遺物 (2)



No.	层位号	地 区	通 历	性 质	规 格	量	块 重 (kg)	厚 (cm)	宽 (cm)	高 (cm)	说 明	考 号	考 号
1	13	2区	SK5	砾石			27.0	18.5	8.5	2.0		55-97	
2	8/9	5区B11	SK25	砾石			16.5	13.0	3.2	0.0		55-99	
3	8/9	5区B11	SK25	砾石			17.0	12.0	2.3	0.5		55-74	
4	8/81	5区B11	SK25	砾石			13.0	13.0	2.5	0.4		55-83	
5	8/80	5区B11	SK25	砾石			13.5	9.5	3.2	0.3		55-82	
6	8/79	5区	SK25	砾石			21.0	14.0	3.2	0.6		55-62	
7	8/78	5区	SK25	砾石			21.0	12.0	3.2	0.6	打制器物	55-63	
8	8/77	5区	SK25	砾石			11.5	12.0	3.5	0.1		55-65	
9	8/85	5区B11	SK25	砾石			21.0	15.0	3.1	0.0	打制器物	55-69	
10	8/83	5区B11	SK25	砾石			21.0	14.0	3.6	0.9		55-88	
11	8/86	5区B11	SK25	砾石			23.0	17.5	4.9	1.4		55-73	
12	8/75	5区	SK25	砾石			24.5	15.0	4.1	1.0		55-89	
13	8/76	5区B11	SK25	砾石			23.0	15.0	4.5	1.0		55-80	
14	8/24	5区	SK25	砾石			20.0	12.5	4.0	0.9		55-81	
15	8/84	5区B11	SK25	砾石			11.5	17.0	2.2	0.1	九瓣器		
16	8/88	5区B11	SK25	砾石			11.0	12.0	2.7	0.2	九瓣器		
17	8/82	5区B11	SK25	砾石			20.0	18.5	5.4	2.5		55-85	
18	8/84	5区B11	SK25	砾石			14.0	13.0	4.4	0.8	先秦形制	55-87	
19	8/71	5区	SK25	砾石			30.0	13.0	4.5	1.6		55-164	
20	8/97	5区B11	SK25	砾石			26.0	19.0	10.2	3.2		55-112	
21	8/75	5区	SK25	砾石			30.0	16.0	6.5	2.1		55-105	
22	8/93	5区B11	SK25	砾石			37.5	15.0	5.3	2.8	先秦形制	55-100	
23	8/91	5区	SK25	砾石			17.0	17.0	3.7	1.4		55-114	
24	8/80	5区B11	SK25	砾石			17.0	16.0	4.0	0.8	先秦形制	55-118	
25	8/83	5区B11	SK25	砾石			24.0	23.0	5.3	1.0	先秦形制	55-7	
26	8/74	4区	SK28	砾石			18.0	28.5	7.0	3.0	先秦形制	55-9	

第58图 土坑出土遗物 (3)



第59図 土坑出土遺物 (4)

ピット群

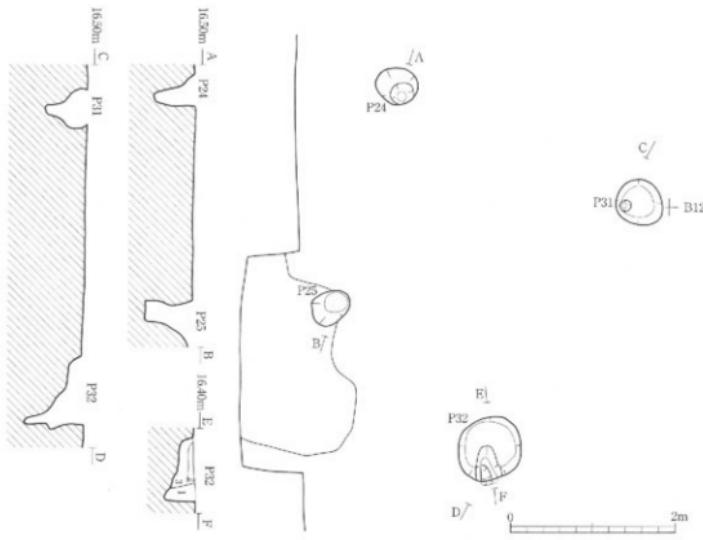
4区及び5区のV層上面でピットが確認された。4区では27個、5区では10個のピットが検出された。ピットの中には柱痕跡が確認できるもの、埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性の見られるものもあるが、建物として組み合う可能性の考えられるものは、5区の1棟のみであり、他には掘立柱建物として組み合う可能性のあるものは確認することは出来なかった。ピットからの出土遺物は縄文土器、石器があり、炭化物が混入しているものも多い。

SB-5 建物跡（第60図）

5区の北東寄り、A・B-11グリッドに位置し、V層上面で確認された。SK-25土坑とP-25が重複関係にあり、SK-25土坑に切られていることから本遺構が古い。東西1間、南北1間の建物跡である。南側柱列は2.7m、東側柱列は3.6m、北側柱列は3.0m、西側柱列は2.65mとやや歪んでいる。方向は西側柱列でN-18°-Eである。P24、P25、P31から縄文土器、石器が出土し、縄文土器2点、剥片石器1点、礫石器1点を図示した。

4区V層上部ピット		5区V層上部ピット				
No.	地盤学	色	性	地盤	性	地盤
P-24	103VRS-2	黒褐色	粘土質	103VR-6-30	黄褐色シルトブロックを含む。	
P-25	103VRS-2	黒褐色	粘土質	103VR-6-36	黄褐色シルトブロック、赤褐色を少量含む。	
P-31	103VRS-2	黒褐色	粘土質	103VR-6-39	黄褐色シルトブロックを含む。木炭量を少量含む。	
P-24-31	103VRS-2	黒褐色	粘土質	103VR-6-30	小段落多孔性、块状構造を認める。	
P-24-31	103VRS-2	黒褐色	粘土質	103VR-6-30	木炭量を少量含む。	

4区V層上部 ピット (cm)																	
No.	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75
魔土	F1	F2	F1	F2	F1	F3											
泥炭	40	38	36	29	45	38	17	50	24	13	34	48	35	39	25	14	36
No.	P76	P77	P78	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87					
魔土	F1	F2	F1	F3	F2	F1	F3										
泥炭	17	17	17	17	29	29	33	33	23	23	23	23	17				
5区V層上部 ピット (cm)																	
No.	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31							
泥炭	26	40	38	26	26	30	21	28	23								

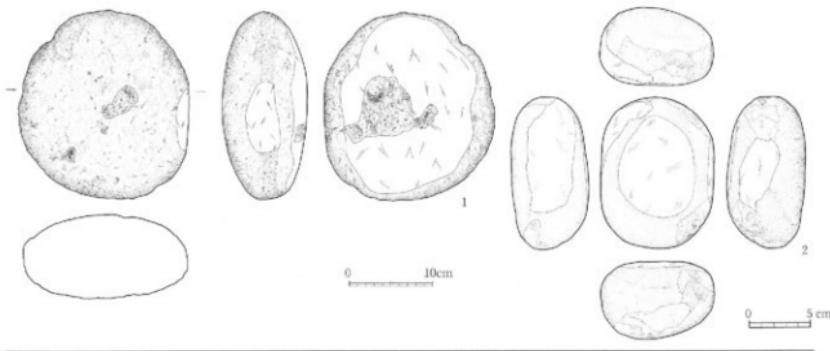


第60図 SB 5 建物跡



No.	著者姓氏	題名	副題	卷	出版社	地點	年	版	刷	冊	手	写	印	數
1	SA - 15	續文選	新編	5	匡文社	台北	1968	第1版	1	1	54	寫	印	160
2	SA - 7	續文選	新編	4	匡文社	台北	1968	PBS	1	1	54	—	—	57
3	SA - 6	續文選	新編	3	匡文社	台北	1968	PBS	1	1	54	—	—	58
4	SA - 5	續文選	新編	2	匡文社	台北	1968	PBS	1	1	54	—	—	59
5	SA - 4	續文選	新編	1	匡文社	台北	1968	PBS	1	1	54	—	—	60

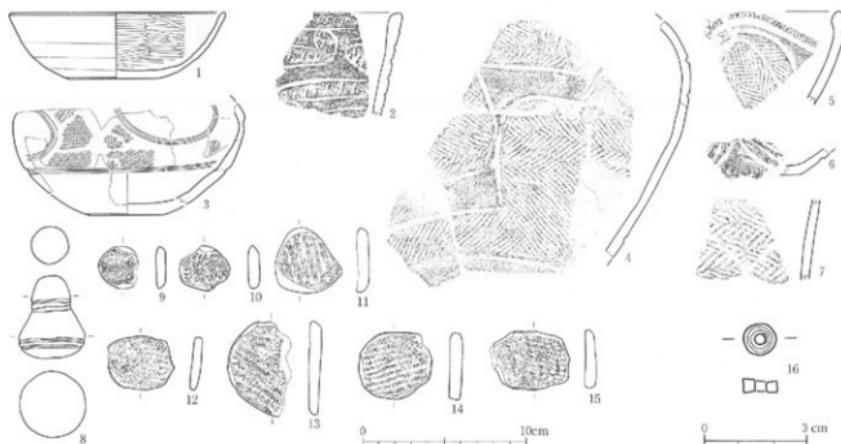
第61図 ピット出土遺物（1）



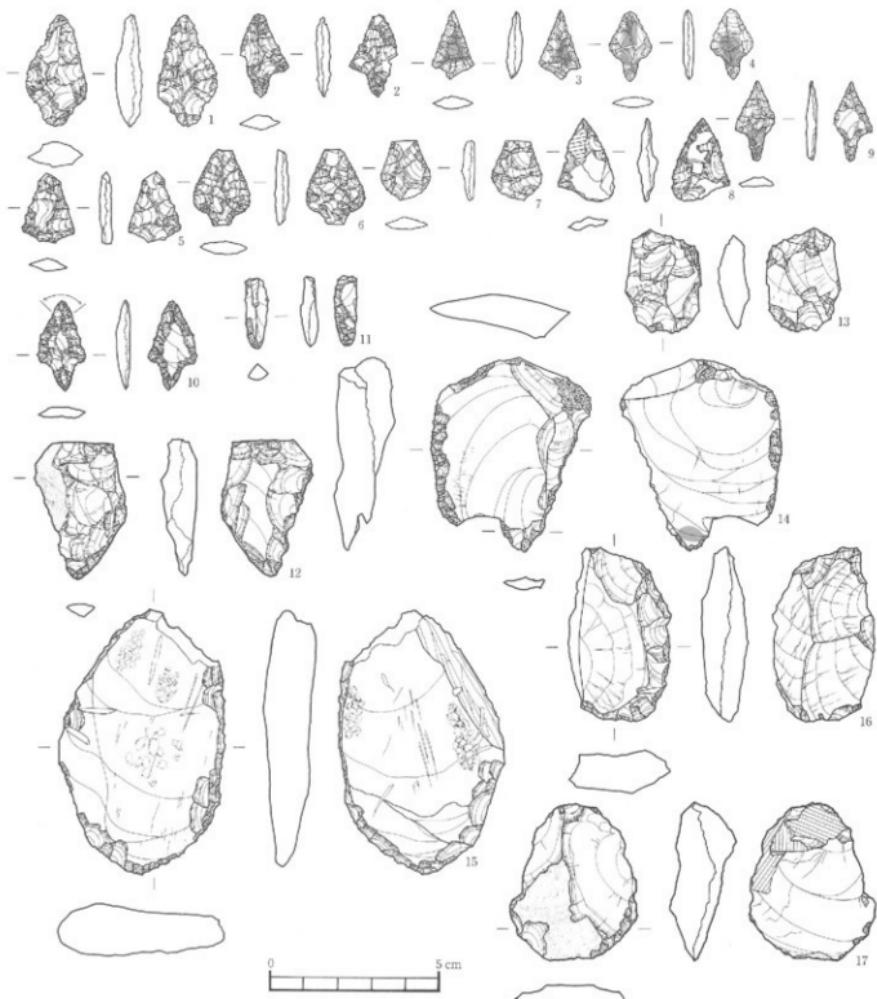
第62図 ピット出土遺物 (2)

遺構外出土遺物

各区のI層～III層の遺構に属さない基本層中出土遺物のうちの主なものを図示する。各層検出の倒木痕から出土した遺物についてもここに掲載する。



第63図 遺構外出土遺物 (1)



No.	登録番号	種	区	層	位	幅	長さ(cm)	幅(㎝)	厚さ(cm)	高さ(cm)	備	考	参考図版
1	62	4	区	B10-23	石	31.0	18.6	7.2	3.4				55-54
2	64	4	区	B9-14	石	25.0	14.5	4.7	10.9	側丸2ヶ所、ツール付着			55-68
3	65	4	区	B9-13	石	21.0	12.5	4.3	0.8	ツール付着			55-78
4	66	4	区	A9-17	石	31.0	12.5	3.2	0.7	ツール付着			55-73
5	63	4	区	B10-22	石	22.0	16.0	3.5	1.1	側丸2ヶ所			55-69
6	61	4	区	B10-8	石	23.0	17.5	3.7	1.1	側丸2ヶ所			55-90
7	84	4	区	B10-17	石	18.6	13.0	3.0	0.9	側丸2ヶ所			55-91
8	405	4	区		石	25.0	17.9	5.5	1.4	側丸はなし			55-56
9	404	4	区		石	21.0	11.5	2.7	0.5				55-65
10	1200	4	区	B11	石	27.0	14.5	3.5	1.1	側丸			55-79
11	118	4	区	B9-14	石	21.0	7.0	5.1	0.7	側丸			55-116
12	205	4	区	東壁	石	41.5	27.7	19.5	9.6	側面剥離あり			55-107
13	133	4	区	B9-8	石	31.5	22.5	10.7	7.6				55-123
14	100	4	区	B10-10	石	58.0	48.0	16.9	33.0	ツール付着、石縫としても使用			55-113
15	66-1	4	区		石	30.0	19.0	10.0	2.2				56-13
16	347	4	区	B13	石	23.0	14.0	18.0	2.6				55-131
17	327	4	区	北壁	石	47.0	38.0	16.0	20.6				55-128

第64図 遠橋外出土遺物 (2)



第65図 遺構外出土遺物（3）



第66図 遺構外出土遺物(4)

[3]まとめ

1. IIIa層上面（3区ではSR-1河川跡上面）で検出された竪穴住居跡3軒は、何れも住居跡東壁にカマドが付設されている。出土遺物から平安時代のものであると考えられる。SI-2竪穴住居跡は床面中央に炉が検出され、多量の鉄滓や溶解した炉壁の破片、羽口片等が出土している。このSI-2竪穴住居跡から西北西へおよそ50m離れた位置で、昭和60年度に送電線の鉄塔建設に関連した発掘調査が行われ、鍛冶作業場と考えられる竪穴状の遺構が検出されており、本遺構も同様の遺構であると考えられる。また、同じIIIa層上面（4区西半以西ではSR-1河川跡上面）で検出された竪穴住居跡以外の遺構については、同様の年代が考えられるものが多いが、出土遺物や遺構の重複関係から平安時代以降の遺構の存在も考えられ、それらには遺跡の東北東約400mに所在する富沢館跡と関連する遺構が存在する可能性があると考えられる。

2. IIIb層上面で検出された竪穴住居跡は、北壁にカマドが付設されており、IIIa層上面で検出された竪穴住居跡3軒とは異なっている。出土遺物から奈良時代後半頃のものと考えられる。

3. IVa層上面で検出された3基の配石遺構について、1号配石は楕円形のものの一部が弧状に残存したものか、あるいは本来弧状であったものかは不明であるが、北東部分に方形に張り出す部分があり、川原石を立て並べている。北東に張り出す部分の下部に土坑が検出されたが、土坑内部に遺物は見られなかった。2号配石は楕円形に巡る石組みで、下部に土坑が検出されたが内部に遺物は見られなかった。3号配石は弧状に検出されたが全体は不明である。1号、3号配石は形態から同様の性格のものであると考えられるが性格は不明である。2号配石は下の内浦遺跡などで検出された配石遺構と同様のものであると思われる。時期が判別する遺物が出土していないため明確な時期は不明であるが、縄文時代以外と考えられる遺物は出土していないことから、後期後業以降の縄文時代のものであると考えられる。

4. IVb層上面で検出された竪穴住居跡2軒は、何れも中央に炉が設置され、壁際に柱穴が巡り、壁際の一部に柱

穴が途切れる部分がある等、類似した構造である。SI-6 壁穴住居跡の出土遺物は縄文時代後期中葉から後葉頃のものである。下層の遺物包含層を掘り込んで壁穴住居を構築しており、遺物包含層中の遺物が土砂とともに壁穴住居跡内部に堆積したことが考えられることから、SI-6 壁穴住居跡本来の時期を示す遺物は後期後葉のものと思われ、SI-5 壁穴住居跡も同様の時期のものと思われる。また、4区、5区のIVb層は遺物包含層を形成しているが、範囲は明らかではない。遺物を取り上げる際に上層のIVa層出土遺物と分離できなかった部分や、他の層の遺物が混入した部分があり、出土遺物は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけての時期のものが混在した状況を示している。上面が後期後葉の壁穴住居跡の掘り込み面であることから縄文時代後期中葉から後葉にかけての時期に形成されたものであると考えられる。

5. V層上面で検出された遺構のうち、土坑には樺がオーバーハングした所謂フ拉斯コ型のものがあり、それらは食料等の貯蔵用のものであると考えられる。その他に、どのような性格のものであるか不明であるが、堆積土中に焼土、炭化物が多く含まれ、多量のチップが出土した土坑がある。その他の遺構には性格不明遺構、掘立柱建物がある。遺構の時期は上層の遺物包含層の時期や、出土遺物から縄文時代後期中葉頃と考えられる。

VI. 鍛冶屋敷前遺跡

〔1〕基本層序（第69図）

調査区が細長い範囲にわたるため土性、土色などに若干の違いは見られるが、I～VI層まで大別6枚、細別16枚の層が確認された。

I層は、2層に細分される。全体に酸化鉄を含み、集積する部分がある。現代の水田作上である。

II層は、暗褐色系の土壤で、I層の耕作による削平のためか調査区の一部にしか確認されず、島状に分布している部分が多い。

III層は、灰黄褐色～褐色の土壤で調査区のほぼ全域に分布している。調査区の西側に向かって徐々に層厚が増しており、褐色が付いている。全体に、酸化鉄、マンガン鉱を含んでいる。本層の上面が古代以降の遺構の検出面になっている。層中には古代から縄文時代にかけての遺物が含まれている。

IV層は、5層に細分される。黒褐色～ぶい黄褐色、粘土質シルト～砂質シルト土壤である。調査区のほぼ全域に分布していたものと思われるが、III層上面及び本層上面で検出された河川跡によって削平されており、1区の西南部、南東端、2区南東部、3区全域、4区南西部、5区東半部に分布している。西側に向かって徐々に層厚が増し、砂質が強くなる。5区東半部では本層の上部が縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層を形成している。その他の部分では縄文時代後期から晩期にかけての遺物が少量含まれているのみである。4区より西側では本層下部の上面が縄文時代の遺構検出面になっている。

V層は、2層に細分される。褐色～黄褐色で砂質土壤である。IV層と同じ分布状況である。5区東半部では本層上面が縄文時代の遺構検出面になっている。以下の層では遺物は出土していない。

VI層は、5層に細分される。上位2層は褐色～暗褐色で砂質土壤であるが、粘性が強くなっている部分もみられる。下位の2層は黒褐色～暗褐色で細砂である。下部に礫が含まれる部分がある。最下層は、砂礫層～礫層で、調査区中央部の2区～3区の標高14.5m前後の部分で検出された。他の調査区より礫層のレベルが高くなっているために検出されたものと考えられる。検出された部分では北側へ傾斜している。

[2] 検出遺構と出土遺物

今回の調査では、古代以降の遺構がⅢ層上面で竪穴住居跡2軒、土坑34基、溝跡5条の他河川跡、ピットが検出された。純文時代の遺構として、Ⅳb層の一部が遺物包含層であり、Ⅳb層の下面（Ⅳc層あるいはV層の上面）で、炉跡4基、土坑9基、ピットが検出された。遺物は整理用平箱（テンバコ32）にして30箱程度の出土量である。純文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、金属製品等がある。

(1) 古代以降の遺構と出土遺物

竪穴住居跡

SI-1 竪穴住居跡（第67図）

〔遺構の確認〕4区の南端東寄り、B-17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の整取りのために削平され、検出されなかった。いくつかのピットと重複関係にあり、いずれのピットにも切られしており、本住居跡が古い。

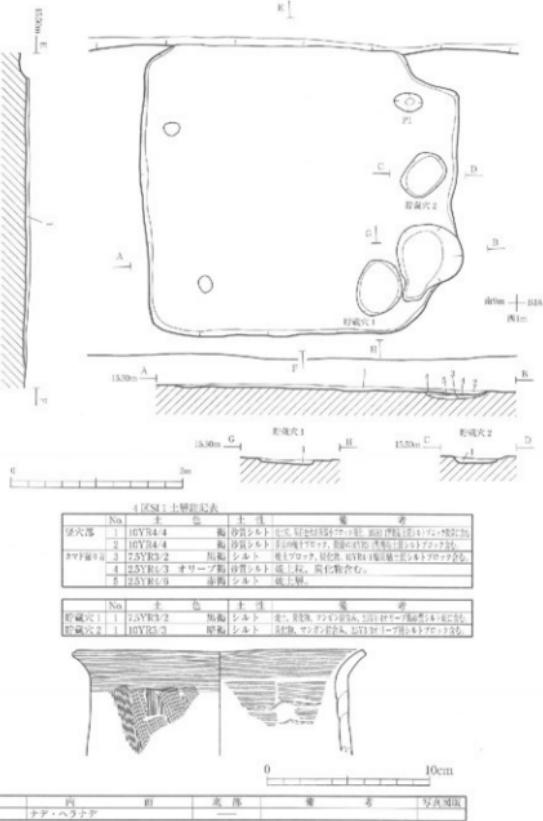
〔平面形・規模〕平面形は南北3.4m以上、東西3.7mの隅丸方形を基調としたものであると考えられるが、東側が2.3mにわたって張り出している。南壁を基準とした方向はE-0° - N-Sである。

〔堆積土〕2層に分けられる。灰白色火山灰と多量の焼土粒、焼土ブロックを多量に混入している。

〔壁面〕最も保存の良い南壁西端付近で6cmと残存状況は良くない。床面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。

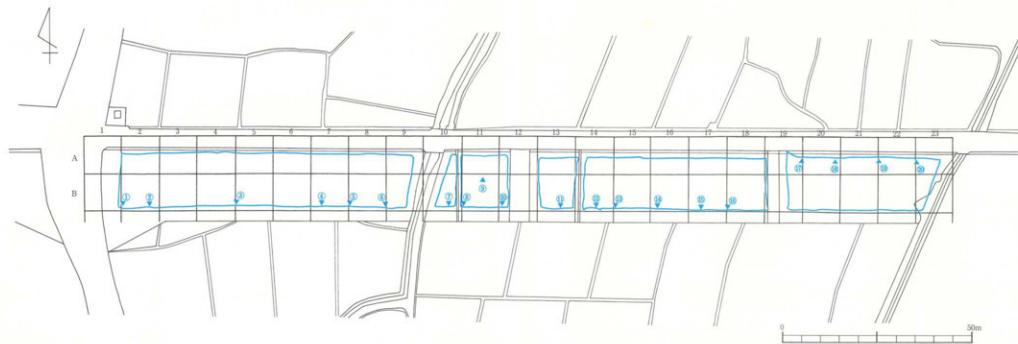
〔床面〕掘り方底面を直接床面としている。小さい凸凹はなく、ほぼ平坦である。床面のレベルは、北側が若干高く、南壁断面に向かって徐々に低くなる。

〔柱穴〕床面で検出されたピットは1個のみであり、柱穴と考えられるピットは検出されなかった。

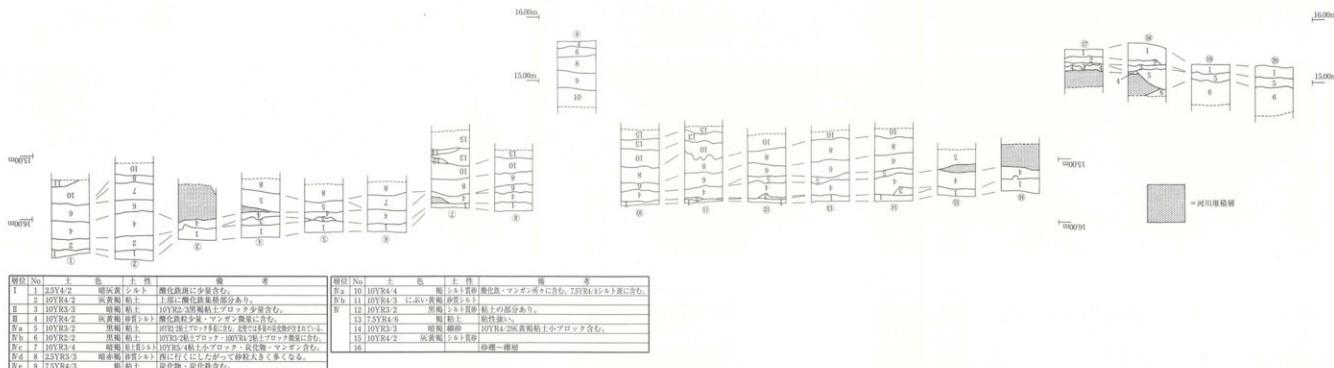


第67図 SI-1 竪穴住居跡・出土遺物

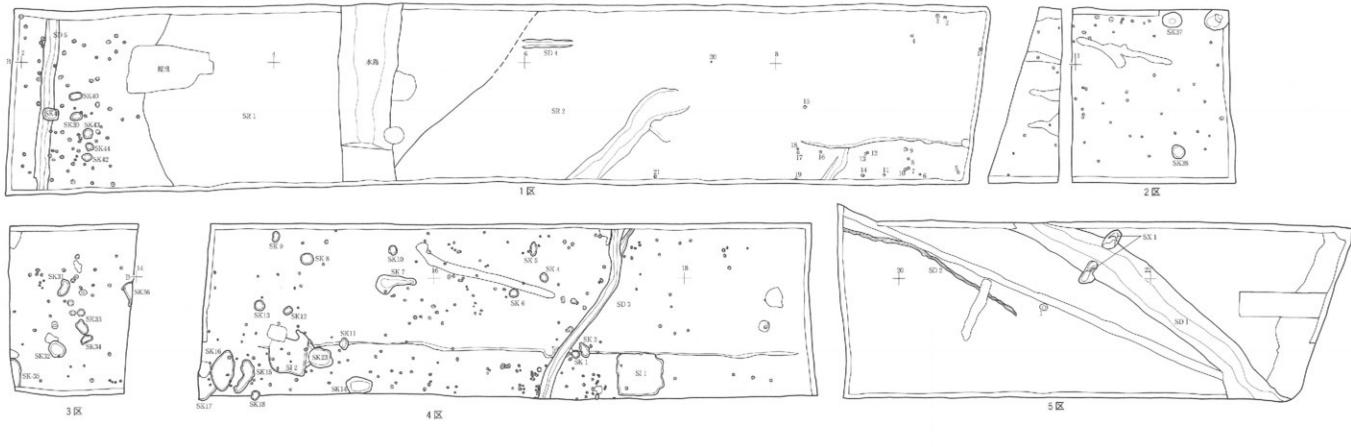
〔カマド〕住居跡東壁南寄りに付設され、燃焼部のみが検出された。燃焼部は幅70cm、奥行き75cmで、奥壁はやや住居東壁から張り出す形になっている。側壁は削平されて残存しないが、中央部及び、奥壁が火熱を受けて赤変し



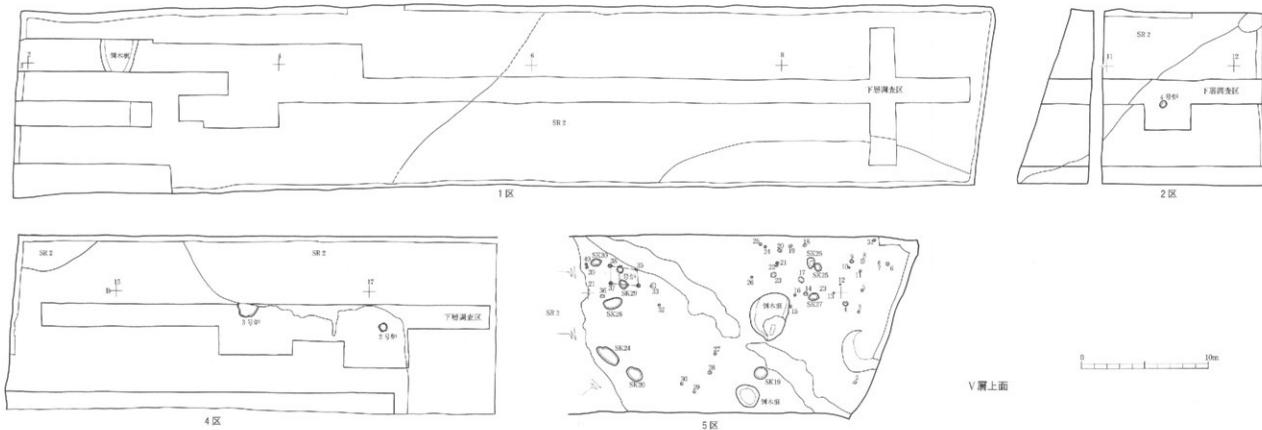
第68図 錫冶屋敷前遺跡調査区配置図



第69図 錫冶屋敷前遺跡基本層模式図



四層上面



第70図 錫冶屋敷前遺構配置図

ている。カマドの掘り方は貯蔵穴2と接している。幅85cm、奥行き77cmの不整な楕円形で深さは最も深い部分で10cmである。

〔周溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡南東隅近くのカマド西脇に、貯蔵穴2は東壁際中央のカマド北脇にカマドを挟むように位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸65cm、短軸53cmの不整な楕円形である。床面からの深さは5cmと浅い。貯蔵穴2の平面形は長軸65cm、短軸53cmの丸四角形に近い楕円形で、床面からの深さは6cmと貯蔵穴1同様浅い。

〔出土遺物〕堆積土出土の遺物はほぼ床面出土のものと考えられ、その他に貯蔵穴から出土している。土師器、須恵器が出土した。そのうち土師器壺1点を図示した。

SI-2 穫穴住居跡（第71図）

〔遺構の確認〕4区の南西寄り、B-14・15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作上の犁取りのために削平された部分と掘削坑によって削平された部分があり、検出されなかった部分もある。SK-21・22土坑と重複関係にあり、いずれの土坑をも切っており、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は南北3.0m以上、東西3.5

mの方形を基調としたものであると考えられるが、南西及び北西コーナーは丸くなっている。東壁を基準とした方向はN-10°-Eである。

〔堆積土〕5層に分けられる。焼上粒、炭化物が多い量に混在している。

〔壁面〕最も保存の良い東壁中央付近で15cmの高さで残存している。床面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。

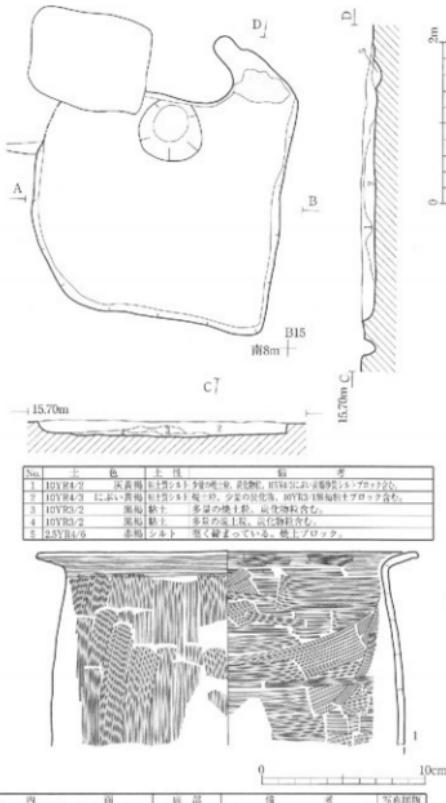
〔床面〕掘り方底面を直接床面としているが、SK-21・22土坑の堆積土を床面としている部分がある。凸凹はなく、ほぼ平坦である。床面のレベルは、南壁際が若干高く、北側へ徐々に低くなる。

〔柱穴〕床面でピットは検出されなかった。

〔カマド〕住居跡北壁東端で焼土と焼け面が検出された。この部分がカマドであると考えられる。側壁及び奥壁は削平されており残存しない。焼土の範囲は幅65cm、奥行き40cmで、中央がやや凹んでいる。奥壁はやや住居北壁から張り出す形になっており、更に北東に50cm程土色の違う部分が伸びているが、住居跡の一部がカマドの一部であるのか不明である。

〔周溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕1個検出された。住居跡北壁際の中央、カマドの西側に位置している。平面形は直径約80cmの円形である。床面からの深さは27cmである。



第71図 SI-2 穫穴住居跡・出土遺物

【出土遺物】堆積土中から土師器、須恵器が出土した。そのうち土師器窓1点を図示した。

土坑

SK-1 土坑（第72図）

4区中央やや南東寄りB-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。SD-3溝跡と重複しており、本遺構が切られていることから、本遺構が占い。平面形は長軸0.95m以上、短軸0.65mの楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はW-42°-Nである。堆積土は単層で、焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い東壁で16cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、底面レベルは南壁際が高く、北半部が低くなっている。また、西側が5cm程度の段になっており、北壁際に直径18cm、深さ13cmのピットが検出された。土師器が出土した。

SK-2 土坑（第72図）

4区中央やや南東寄りB-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。平面形は長軸1.3m、短軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。堆積土は2層に分けられ、少量の焼土、炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い東壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、約10cmの段になっており、南側が高く、北側が低くなっている。南側に直径約15cm、深さ11cm、北側に直径25cm、深さ15cmのピットが検出された。土師器、須恵器が出土した。

SK-3 土坑（第72図）

4区中央南端B-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は直径約0.7mの不整な円形である。堆積土は単層で、多量の焼土、炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い西壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。西側が直径約30cm、深さ5cmのピット状になっている。土師器、縄文土器、焼壁の破片が出土した。

SK-4 土坑（第72図）

4区のほぼ中央A-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.7m、短軸0.65mの不整な円形である。長軸方向はN-0°-W-Eである。堆積土は単層で、微量の炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い西壁で11cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹はないが、底面レベルは北側が低く、南側が高くなっている。土師器が出土した。

SK-5 土坑（第72図）

4区の中央北寄りA-B-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.17m、短軸0.5mの不整な楕円形で、長軸方向はN-0°-W-Eである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南壁で14cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹はないが、底面レベルは中央が最も低く、壁際が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-6 土坑（第72図）

4区のほぼ中央B-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.75mの楕円形で、長軸方向はN-11°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で31cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はなく、招鉢状を呈している。土師器が出土した。

SK-7 土坑（第72図）

4区の中央西寄りA・B-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸3.1m、短軸は西側の幅の広い部分で1.4m、狭い部分で0.45mの溝丸の撮影で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で24cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは東側が高く、西側が低くなっている。南壁西側に直径15cm、深さ24cmのピットが検出された。土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SK-8 土坑（第72図）

4区のやや北西寄りA-14・15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.05m、短軸0.95mの不整な円形で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。南北壁際に長軸30cm、短軸25cm、底面からの深さ13cmのピットが検出された。遺物は出土していない。

SK-9 土坑（第72図）

4区の西寄り北端A-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.55mの不整な梢円形で、長軸方向はN-9°-Eである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で26cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。底面レベルは北半部が低く、南半部が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-10 土坑（第72図）

4区の中央北西寄りA-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.7m、短軸0.55mの不整な梢円形で、長軸方向はN-23°-Wである。堆積土は単層で、少量の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で10cmの高さと残存状況は良くない。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。土師器が出土した。

SK-11 土坑（第72図）

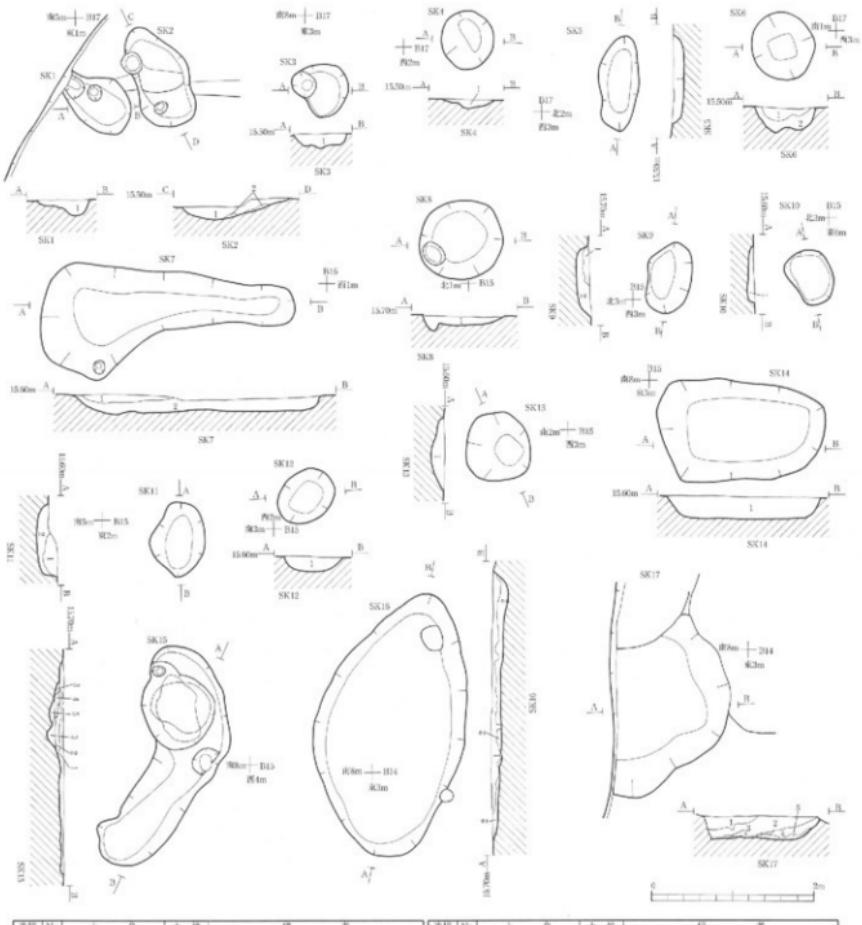
4区の中央南西寄りB-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。平面形は長軸0.95m、短軸0.65mの不整な梢円形で、長軸方向はN-5°-Eである。堆積土は2層に分けられ、少量の焼土粒、多量の炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で22cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。土師器が出土した。

SK-12 土坑（第72図）

4区の中央西寄りB-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な梢円形で、長軸方向はN-45°-Eである。堆積土は単層で、多量の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹ではなく、平坦である。土師器が出土した。

SK-13 土坑（第72図）

4区の西寄りB-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.8mの不整な円形で、長軸方向はN-10°-Eである。堆積土は単層である。壁面は15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹は



第72図 SK1～17土坑

ない。底面レベルは中央が最も低く壁際が高くなっている。土師器が出土した。

SK-14土坑（第72図）

4区の南端西寄りB-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸2.05m、短軸1.25mの不整な楕円形で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は单層である。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは中央が最も低く壁際が高くなっている。土師器が出土し、壺1点を図示した。

SK-15土坑（第72図）

4区の南端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸2.85m、短軸1.0mの逆「く」の字に湾曲した不整な楕円形で、長軸方向はN-18°-Eである。堆積土は5層に分けられ、多量の焼土、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い西壁中央部で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており一定しない。底面の北西部に長軸1.1m、短軸0.8m、深さ20cmの不整な楕円形の落ち込みがあり、その底面に長さ70cm、幅65cmの範囲で多量の焼土が検出された。また、東壁際に直径約30cm、深さ20cm、北壁際に直径約15cm、深さ25cmのピットが検出された。土師器が出土し、壺2点、甕4点を図示した。

SK-16土坑（第72図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SK-17土坑、3個のピットと重複関係にある。ピットに切られ、SK-17土坑を切っていることからピットより古く、SK-17土坑より新しい。平面形は長軸3.15m、短軸1.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-13°-Eである。堆積土は2層に分けられ、多量の焼土粒、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で16cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さな凸凹があり一定しない。土師器が出土し、壺1点、甕1点を図示した。

SK-17土坑（第72図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構北側を後世の擾乱によって削平され、西側の調査区外に拡がっているため遺構の全体は不明である。SK-16土坑、1個のピットと重複関係にある。それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。平面形は南北2.3m以上、東西1.5m以上の不整な円形あるいは楕円形を基調にしたものであると考えられる。堆積土は5層に分けられ、多量の焼土、炭化物を混入している。中には炭化物層もみられる。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央の北寄りが最も低く、壁際が高い。土師器、須恵器、赤焼土器、縄文土器が出土し、土師器壺1点、甕2点を図示した。

SK-18土坑（第73図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で6cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央が最も低く、壁際が高い。遺物は出土していない。

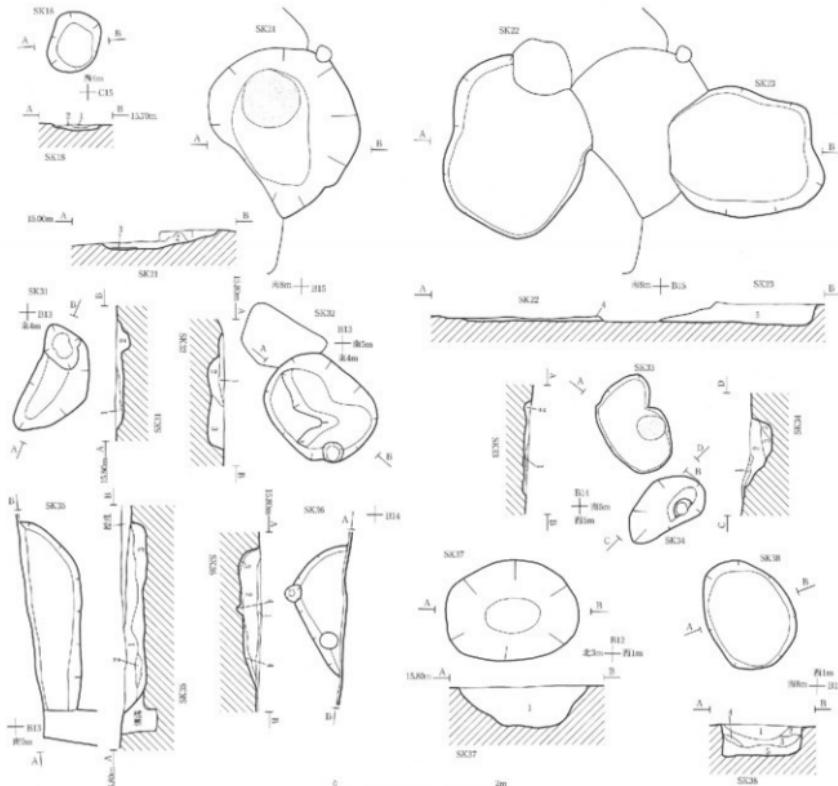
SK-21土坑（第73図）

4区の南寄りB-14・15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SI-2堅穴住居跡、SK-22土坑、23土坑と重複関係にある。SI-2堅穴住居跡に切られ、2基の土坑を切っていることから、SI-2堅穴住居跡より古く、2基の土坑より新しい。平面形は長軸2.05m以上、短軸1.85m以上の不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で23cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北側が最も低く、南側が高い。底面北側に直径約70cmの範囲で多量の焼土が検出された。土師器、縄文土器が出土し、土師器高台付壺1

点、亮1点を図示した。

SK-22土坑（第73図）

4区の南西寄りB-14グリットに位置している。SI-2 積穴住居跡の床面、Ⅲ層の中位で確認された。SI-2 積穴住居跡、SK-21土坑と重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。平面形は長軸



通番	No.	上	色	上	性	質	考
SK-18	1	SY-KR/2	黒鉛	鉛	硬	後端	
	2	HO-VK-3	にこり黒鉛	鉛	柔軟	少度の炭化物含む。	
SK-21	1	HO-VK-2	灰鉛	鉛	柔軟	少度の炭化物含む。	107.0744g/個+ナット1個含む。
	2	HO-VK-3	黒鉛	鉛	硬	後端	107.0744g/個+ナット1個含む。
SK-22	1	HO-VK-1	黒鉛	鉛	硬	後端	少度の炭化物含む。
SK-23	1	HO-VK-2	黒鉛	鉛	硬	後端	少度の炭化物含む。
SK-31	1	HO-VK-3	黒鉛	鉛	柔軟	少度の炭化物含む。	多量の熱スリット、少度の炭化物含む。
	2	HO-VK-4	黒鉛	鉛	柔軟	少度の炭化物含む。	多量の熱スリット、少度の炭化物含む。
SK-32	1	HO-VK-2	灰鉛	鉛	柔軟	後端	少度の炭化物含む。
	2	HO-VK-3	黒鉛	鉛	硬	後端	多量の熱スリット、少度の炭化物含む。
SK-33	1	25Y-VK-4	にこり黒鉛	鉛	柔軟	後端	少度の炭化物含む。
	2	HO-VK-4	黒鉛	鉛	柔軟	後端	少度の炭化物含む。

選別 No.	品名	生年	生月	商品名
SK34	1.HYBRID-3 2.HYBRID-3 3.HYBRID-3 4.HYBRID-2	昭和61年 昭和61年 昭和61年 昭和61年	秋 秋 夏 夏	多量の糖+ブロッカ、食料用物貯分。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。
SK35	1.HYBRID-2 2.HYBRID-2 3.HYBRID-2 4.HYBRID-2	昭和61年 昭和61年 昭和61年 昭和61年	秋 秋 夏 夏	多量の食料用物貯分、少量の糖+ブロッカ貯分。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。
SK36	1.基本木立版 2.HYBRID-2 3.2.5HYBRID-3 4.HYBRID-2	昭和61年 昭和61年 昭和61年 昭和61年	秋 秋 秋 夏	少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。
SK37	1.HYBRID-3 2.HYBRID-3 3.HYBRID-3 4.HYBRID-3	昭和61年 昭和61年 昭和61年 昭和61年	秋 秋 夏 夏	少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の糖+液肥、底液成りに付属物貯分。
SK38	1.HYBRID-2 2.HYBRID-2 3.2.5HYBRID-3 4.HYBRID-2	昭和61年 昭和61年 昭和61年 昭和61年	秋 秋 秋 夏	多量の食料用物、少量の底液+液肥、底液成分。 少量の食料用物、底液成分。 少量の底液+液肥、底液成りに付属物+ブロッカ等。 少量の底液+液肥、底液成りに付属物貯分。
	5.HYBRID-3	昭和61年	夏	少量の糖+液肥、底液成分。

第73図 SK18・21~23・31~38土坑

2.3m以上、短軸1.65m以上の不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-8°-Eである。堆積土は1層のみ残存していた。壁面は最も保存の良い北壁で5cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。土師器、縄文土器が出土し、土師器壺1点、縄文土器1点を図示した。

SK-23土坑（第73図）

4区の南西寄りB-15グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SK-21土坑と重複関係にあり、SK-21土坑に切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.75m以上、短軸1.6mの不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は単層で、多量の焼土ブロック、少量の炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い東壁で24cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。土師器、須恵器、縄文土器が出土し、土師器壺1点、縄文土器1点を図示した。

SK-31土坑（第73図）

3区の中央B-13グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.35m、短軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-31°-Eである。堆積土は2層に分けられ、多量の焼土粒、炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い西壁で11cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、北端が深さ15cmのピット状になっている。土師器、縄文土器が出土し、土師器壺1点を図示した。

SK-32土坑（第73図）

3区の中央南寄りB-13グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は擾乱によって削平されている部分がある。ピットと重複関係にあり、ピットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.4m、短軸1.1mの隅丸長方形で、長軸方向はN-43°-Wである。堆積土は3層に分けられ、焼土粒、炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い南壁の東寄りで20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、西側が東側より10cm~15cm高くなっている。土師器が出土し、壺1点、甕1点、瓶1点を図示した。

SK-33土坑（第73図）

3区の中央B-13グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.2m、短軸0.8mの不整な楕円形で、長軸方向はN-33°-Wである。堆積土は2層に分けられる。1層は焼土層である。壁面は最も保存の良い北壁の西寄りで10cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹はないが、底面レベルは中央が高く、壁際が低くなっている。また、底面中央の東壁際には長軸35cm、短軸30cmの楕円形の範囲に焼土が多量に検出され、下面が加熱を受けて赤変している。土師器が出土し、甕2点を図示した。

SK-34土坑（第73図）

3区の中央やや南東寄りB-13グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.1m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はE-35°-Nである。堆積土は4層に分けられ、焼土粒、炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い東壁で34cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は遺構東側に寄っている。底面の南壁際に直径約25cm、深さ10cmのピットが検出された。土師器、縄文土器、土製品が出土し、土師器壺1点、土製品1点を図示した。

SK-35土坑（第73図）

3区の南西端B-13グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の南側は調査区の側溝によって削平され、更に西側の調査区外に拡がっており、全体は不明である。平面形は長軸2.3m以上、短軸0.7m以上の楕円形を基調としたものであると考えられる。堆積土は3層に分けられ、多量の焼土ブロック、炭化物を混入する。壁

面は最も保存の良い北壁で19cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、調査区西壁の土層観察では南壁は緩やかな角度で立ち上がる。底面には小さい凸凹があり一定しない。土師器、須恵器、繩文土器が出土し、土師器壺2点、甕1点、鉢1点を図示した。

SK-36土坑（第73図）

3区の中央東端B-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられ、更に東側の調査区外に拡がっており、全体は不明である。2個のビットと重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.7m以上、短軸0.6m以上の楕円形を基調としたものであると考えられる。堆積土は4層に分けられる。1層は基本層Ⅰ層である。小量の焼上ブロック、炭化物粒が混入する。壁面は最も保存の良い北壁で23cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さい凸凹があり一定しない。土師器、繩文土器が出土している。

SK-37土坑（第73図）

2区の北東寄りA-11グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.65m、短軸1.2mの楕円形で、長軸方向はE-5°-Nである。堆積土は単層である。地山ブロックの混合土であり、人為的に埋められたものであると考えられる。壁面は最も保存の良い南壁で66cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高い。土師器が出土した。

SK-38土坑（第73図）

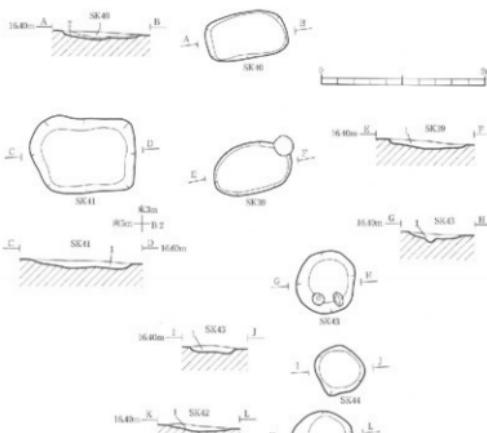
2区の南東寄りB-11グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.4m、短軸1.0mの楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。堆積土は5層に分けられ、焼土粒、炭化物粒、灰を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で40cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面は小さい凸凹があり一定しない。土師器、須恵器、かわらけが出土し、土師器高台付壺1点、かわらけ3点を図示した。

SK-39土坑（第74図）

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。ビットと重複関係にあり、ビットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.0m、短軸0.6mの楕円形で、長軸方向はE-12°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北西壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。石器が出土した。

SK-40土坑（第74図）

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.55mの隅丸長方形で、長軸方向はE-15°-Nである。堆積土は2層に分けられる。壁



遺構No.	性	土性	名
SK39	1	16Y33/1 2SY4/2	耕翻シルト 耕翻シルト
SK40	1	16Y33/2 2SY4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
	2	16Y33/1 2SY4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
SK41	1	16Y33/3 16Y4/4	粘岩シルト 粘岩シルト
	2	16Y34/2 16Y4/2	粘灰土 粘灰土
SK42	1	16Y34/3 16Y4/4	粘岩シルト 粘岩シルト
	2	16Y34/2 16Y4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
SK43	1	16Y34/2 16Y4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
	2	16Y34/2 16Y4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
SK44	1	16Y34/2 16Y4/2	粘岩シルト 粘岩シルト
	2	16Y34/2 16Y4/2	粘岩シルト 粘岩シルト

第74図 SK39~44土坑

面は最も保存の良い南壁で7cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面はほぼ平坦である。土師器が出土した。

SK-41土坑（第74図）

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの隅丸長方形であるが、西側は丸くなっている。長軸方向はE-2°-Sである。堆積土は単層で、若干の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北東部が低く、南西部が高くなっている。土師器、かわらけ、縄文土器が出土した。

SK-42土坑（第74図）

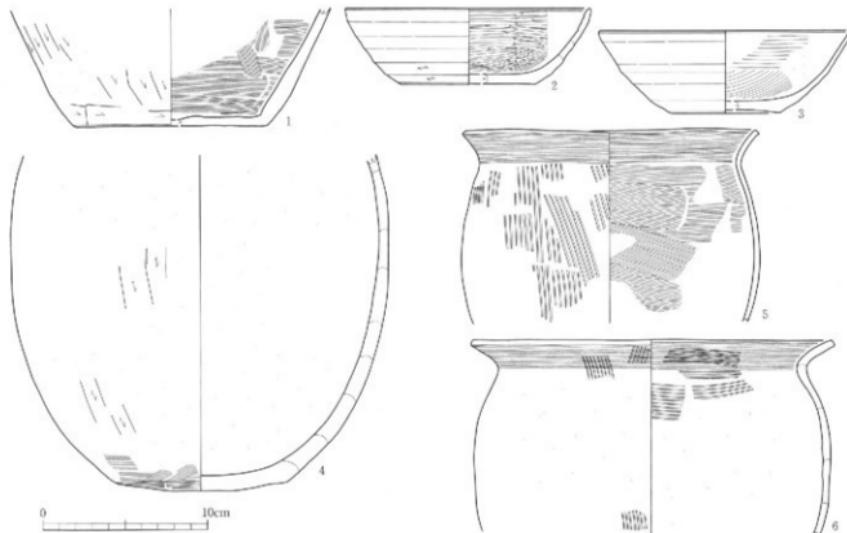
1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な梢円形で、長軸方向はE-9°-Nである。堆積土は単層である。特に堆積土上部に多量の焼土粒、炭化物粒、焼塙の一部と思われる焼土塊を混入する。壁面は最も保存の良い北西壁で9cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には小さい凸凹がある。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。土師器が出土した。

SK-43土坑（第74図）

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、短軸0.7mの不整な梢円形で、長軸方向はN-9°-Eである。堆積土は単層である。特に堆積土上部に多量の焼土粒、炭化物粒、焼塙の一部と思われる焼土塊を混入する。壁面は最も保存の良い南壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北側が低く、南側が高くなっている。南側の壁際に直径15cm、深さ5cm、長軸20cm、短軸10cm、深さ9cmの2個のピットが検出された。土師器、縄文土器が出土した。

SK-44土坑（第74図）

1区の西端南寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.6m、短軸0.55mの不

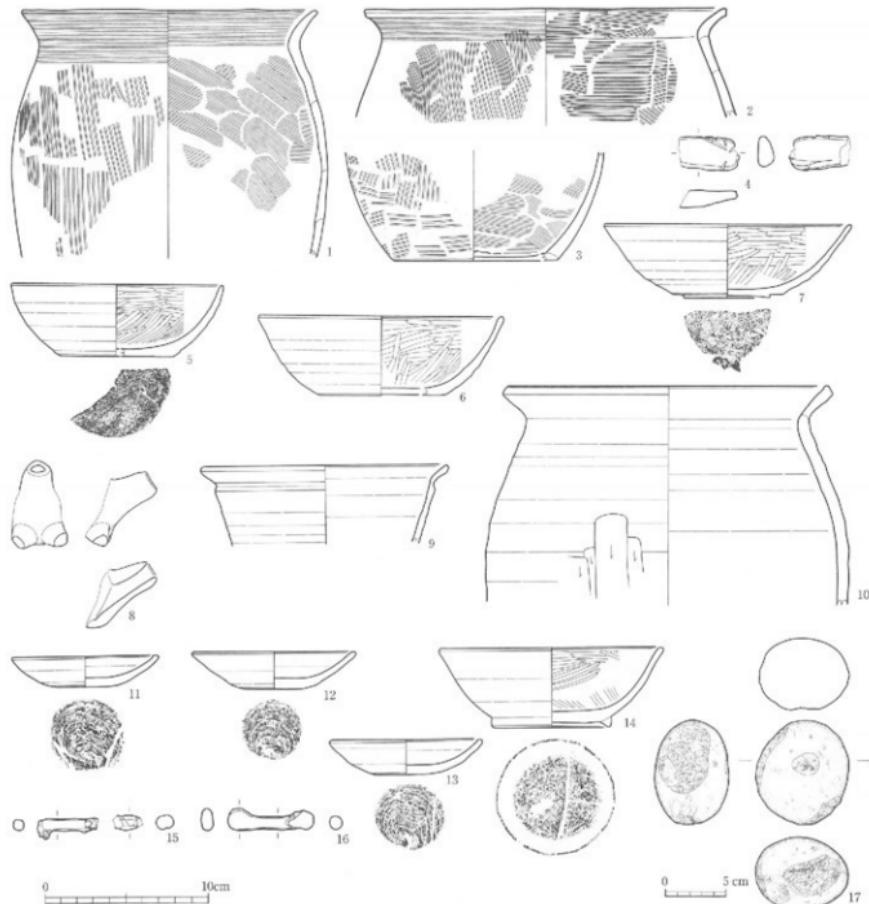


No.	号	鉢番号	種	厚	埋	地	区	遺	構	段	外	面	内	面	施	記	目	考	写真
1	SK-15	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		
2	41-3	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		
3	41-4	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		
4	4C-4	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		
5	4C-6	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		
6	4C-7	1	縦	1.3	1	砂	1区	SD-5	埋積土	1	ケズリ	ケズリ	ドウジ	ドウジ	ハラカ	ナダ	ナダ		

75図 土坑出土遺物(1)

No.	發見場所	種	別	分	種類	地	面	内	外	底	浮	相	考	写真図版
1	AC-8	千葉春		5区	塊	SK15	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					
2	GD-5	千葉春	葉	4区	塊	SK15	海綿土	ロクヨ	ロクヨ					
3	IC-10	上野器	葉	4区	塊	SK16	海綿土	ナダ	ナダ					絆合面多い
4	GD-4	上野器	葉	4区	塊	SK16	海綿土	ロクヨ・ケヌリ	ロクヨ・ケヌリ					縫合面
5	IC-8	上野器	葉	4区	塊	SK17	海綿土	ロクヨ・ケヌリ	ロクヨ・ケヌリ					カキ・褐色處理
6	AC-3	千葉春		4区	塊	SK17	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					明治風
7	GD-14	千葉春		4区	塊	SK17	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					103-11
8	GD-15	千葉春	葉	4区	塊	SK17	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					103-12
9	GD-11	千葉春	葉	4区	塊	SK17	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					103-13
10	GD-12	千葉春	葉	4区	塊	SK17	海綿土	ナダ・ハケヌ	ナダ・ハケヌ					103-14
11	IC-12	上野器	葉	4区	塊	SK22	海綿土	ナダ	ナダ					
12	GD-13	上野器	葉	3区	塊	SK22	海綿土	ロクヨ	ロクヨ					
13	AC-12	上野器	葉	4区	塊	SK22	海綿土	ナダ	ナダ					ナギ・褐色處理
14	GD-2	上野器	葉	2区	塊	SK22	海綿土	ナダ・ケヌリ	ナダ・ケヌリ					ナギ・納減
15	GD-15	千葉春	葉	3区	塊	SK23	海綿土・泥炭土	ナダ・ケヌリ・泥炭	ナダ・ケヌリ・泥炭					103-15
16	GD-19	千葉春	葉	3区	塊	SK23	海綿土・泥炭土	ナダ・ケヌリ・泥炭	ナダ・ケヌリ・泥炭					103-16
No.	發見場所	種	別	分	種類	地	面	内	外	底	浮	相	考	写真図版
8	GD-1	千葉春	葉	4区	塊	SK17	海綿土・石块	ナダ	ナダ					103-17

第76図 土坑出土遺物 (2)



No.	發掘場号	地	層	種	名	區	高	幅	厚	重	目	内	部	類	考	写真図版
1	3C-2	土塁壁	中	瓦	SK29	瓦片上	ナガ・ハタケ	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
2	3C-2	土塁壁	中	瓦	SK30	瓦片上	ナガ・ハタケ	—	—	—	ハタケ	—	—	—	—	—
3	3D-2	土塁壁	中	瓦	SK30	瓦片上	ハタケ	—	—	—	ナゲ	—	—	—	—	—
4	3D-9	土塁壁	中	瓦	SK34	瓦片上	ロクア	—	—	—	ナガ・黑色鉄錆	—	—	—	—	—
5	3D-5	土塁壁	中	瓦	SK35	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ・黑色鉄錆	—	—	—	—	—
6	3D-5	土塁壁	中	瓦	SK35	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ・黑色鉄錆	—	—	—	—	—
7	3D-4	土塁壁	中	瓦	SK35	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ・黑色鉄錆	—	—	—	—	—
8	3A-2	西支多	近口	瓦	SK36	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
9	3D-6	土塁壁	中	瓦	SK36	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
10	3D-7	土塁壁	中	瓦	SK36	瓦片上	ワタロ	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
11	2D-2	土塁壁	中	瓦	SK38	瓦片上	ロクア	—	—	—	ロクア	—	—	—	—	—
12	2D-3	土塁壁	中	瓦	SK38	瓦片上	ロクア	—	—	—	ロクア	—	—	—	—	—
13	2D-3	土塁壁	中	瓦	SK38	瓦片上	ロクア	—	—	—	ロクア	—	—	—	—	—
14	2D-3	土塁壁	中	瓦	SK39	瓦片上	ロクア	—	—	—	ロクア・黑色鉄錆	—	—	—	—	—
15	3B-1	小明	2区	瓦	SK34	—	—	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
16	1N-5-1	瓦	4区	瓦	SK39	—	—	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
17	1N-5-2	瓦	4区	瓦	SK39	—	—	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—
No.	發掘場号	地	層	種	名	區	高	幅	厚	重	目	内	部	類	考	写真図版
4	3P-1	小明	2区	瓦	SK34	—	38.0	21.0	11.0	7.9	—	—	—	—	—	—
15	1N-5-1	瓦	4区	瓦	SK39	—	—	11.0	8.0	8.4	—	—	—	—	—	—
16	1N-5-2	瓦	4区	瓦	SK39	—	—	35.0	13.0	11.0	—	—	—	—	—	—
No.	發掘場号	地	層	種	名	區	高	幅	厚	重	目	内	部	類	考	写真図版
17	1N-5-3	瓦	2区	瓦	SK4	—	—	—	—	—	ナガ	—	—	—	—	—

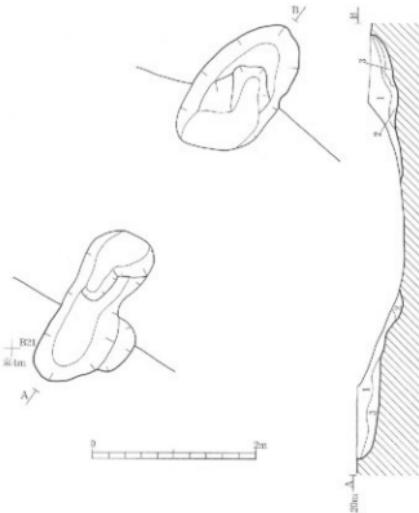
第77図 土塹出土遺物 (3)

整な円形で、長軸方向はE-6°-Sである。堆積土は単層である。特に堆積土上部に多量の焼土を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で6cmと残存状況は良くない。底面から急角度で立ち上がっているが、緩やかな角度で立ち上がる部分もある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。縄文土器が出土した。

性格不明遺構

SX-1 性格不明遺構（第78図）

5区の中央北寄りB-22グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認されたが、SD-1溝跡の北東側はⅢ層まで削平されており、確認されたのはⅣa層上面であった。SD-1溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形はSD-1溝跡に分断されているため、全体は不明であるが、長軸5.3m、短軸1.05m以上の長楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-36°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西部の南壁で25cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は二段になっており、北東、南西の両端が高く、中央部が低くなっている。比高差は7-10cmである。遺物は出土しなかった。

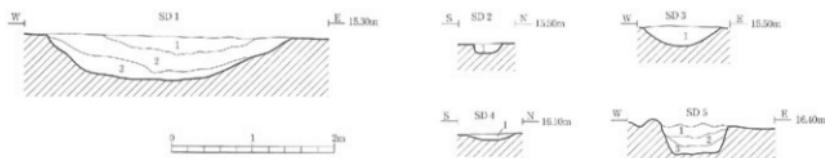


第78図 SX 1

溝跡

SD-1 溝跡（第70、79図）

5区の東側A・B-20-23グリッドに位置している。Ⅲ層上面で確認された。北と南は調査区外に延びている。現代の水路と重複する部分がある。Bライン附近で若干湾曲しているが、ほぼ直線的に延びている。Bライン以北では方向はW-30°-Nで、以南ではW-42°-Nである。確認された長さは約24m、上端幅は2.5-3.5mでBライン北側にやや広くなる部分がみられる。下端幅は0.5-1.5mで、上端幅が広い部分では下端幅も広くなっている。堆積土は3層に分けられる。特に3層には斑紋状に多量の酸化鉄が含まれ、底面に酸化鉄が厚さ数cmに集積している部分もみられた。壁面は30-60cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器、瓦、繩文土器、土製品、石器、石製品が出土し、土師器高台付环1点、壺2点、鉢1点、須恵器壺2点、丸瓦1点、繩文土器7点、剝片石器7点、礫石器4点、



基 純	剖面	土 色	土 性	施 研	考
SD 1	1 10YR 2-2 2 10YR 4-2 3 10YR 3-2	赤褐色 褐色 褐色	砂質粘土 粘土 粘土	1 10YR 4-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	河原砂質粘土、河原粘土、河原粘土に似る。表面の10cmほど剥離して土器が出土。
SD 2	1 10YR 2-2 2 10YR 4-2	黒褐色 褐色	粘土 粘土	1 10YR 2-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	河原粘土、河原砂質粘土、河原粘土に似る。表面の10cmほど剥離して土器が出土。
SD 3	1 10YR 2-2	黒褐色	粘土	1 10YR 4-2	河原粘土に似る。
SD 4	1 10YR 4-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	赤オーライ 褐色 褐色	砂質粘土 粘土 粘土	1 10YR 4-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	河原砂質粘土、河原粘土、河原粘土に似る。表面の10cmほど剥離して土器が出土。
SD 5	1 10YR 4-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	赤オーライ 褐色 褐色	砂質粘土 粘土 粘土	1 10YR 4-2 2 10YR 3-2 3 10YR 3-2	河原砂質粘土、河原粘土、河原粘土に似る。表面の10cmほど剥離して土器が出土。

第79図 SD 1～5 溝跡土層断面図

石製品1点を図示した。

SD-2溝跡（第70、79図）

5区の西側A・B-19・20グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。西側は調査区外に延びている。現代の水路と重複する部分がある。20ライン付近で湾曲しているが、他の部分はほぼ直線的に延びている。20ライン以西では方向はW-14°-Nで、以東ではW-34°-Nである。確認された長さは約16m、上端幅は20~40cm、下端幅は15~25cmである。堆積土は単層である。壁面は5~12cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面のレベルは波打っている。土師器が出土した。

SD-3溝跡（第70、79図）

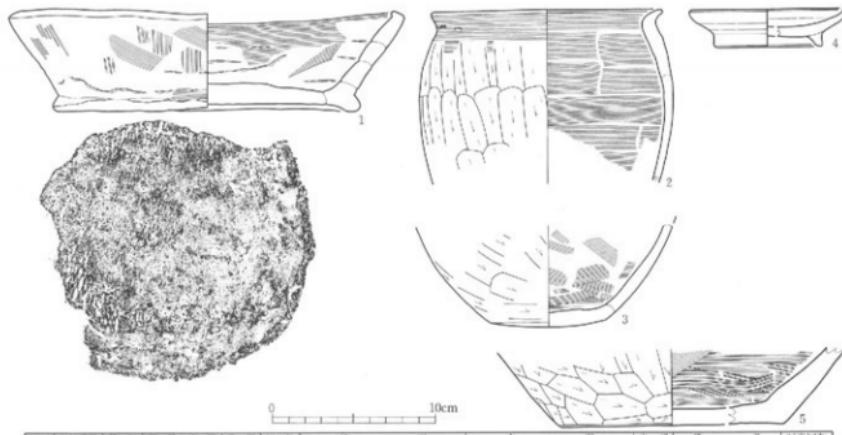
4区の中央東寄りA・B-19・20グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。南と北は調査区外に延びている。遺構の北側は、水田耕作土の犁取りによって上部を削平されている。緩やかな「S」字状に湾曲している。北側の方向はN-0°-E・Wで、中央部ではN-38°-E、南側ではN-18°-Eである。調査区北端近くで枝分かれしており、その方向はN-38°-Eと中央部分の方向と同じである。確認された長さは約16m、上端幅は70~100cm、下端幅は20~40cmである。枝分かれした部分は長さ約2m、上端幅は35~65cm、下端幅は10~30cmと北側ほど狭くなっている。堆積土は単層である。壁面は10~25cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器が出土した。

SD-4溝跡（第70図）

1区の中央北寄りA-5・6グリットに位置している。SR-1上面で確認された。直線的に延びており、方向はE-1°-Sである。確認された長さは約4m、上端幅は50~70cm、下端幅は25~35cmである。堆積土は単層である。壁面は5~10cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは東側が高く、西側へ緩やかに傾斜している。土師器、绳文土器が出土した。

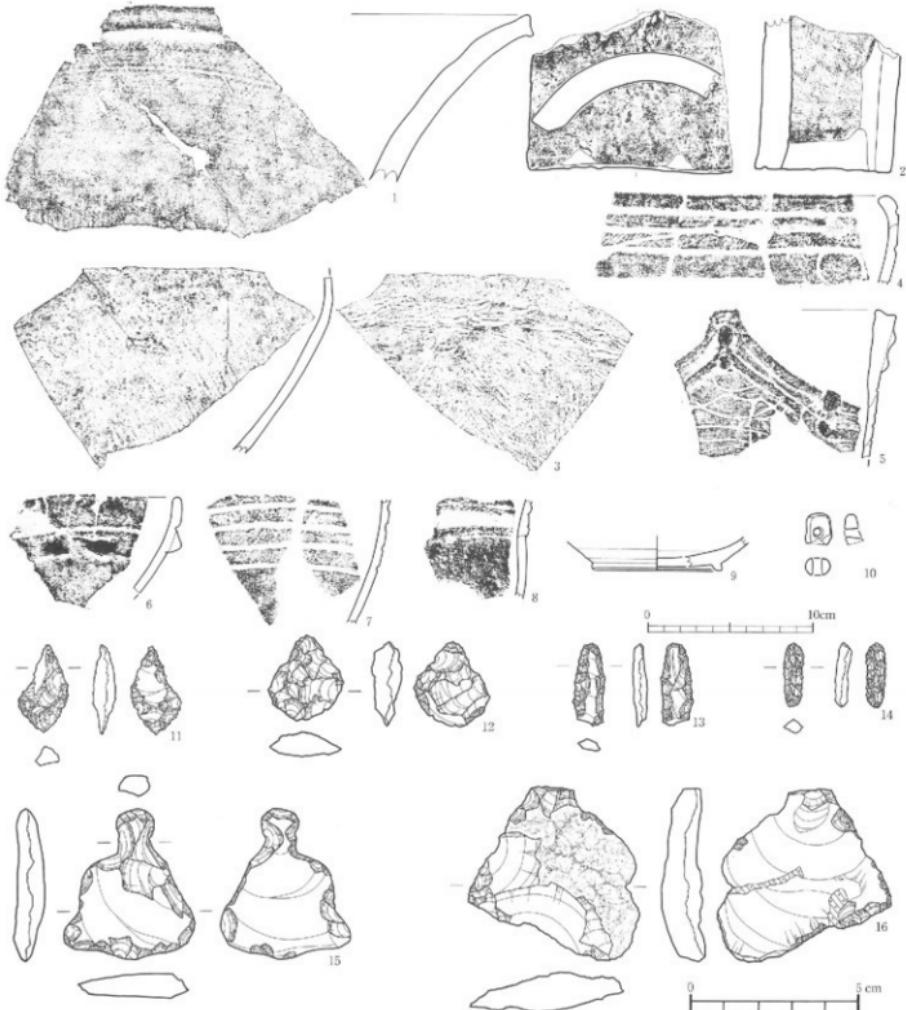
SD-5溝跡（第70、79図）

1区の西端寄りA・B-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の南端は擾乱によって上部が削平されている。南と北は調査区外に延びている。SK-41土坑、ピット6個と重複関係にあり、それぞれに切られれていることから、本遺構が最も古い。直線的に延びており、方向はN-5°-Eである。確認された長さは約14.8m、上端幅は0.8~1.2m、下端幅は30~60cmである。堆積土は3層に分けられる。壁面は35~69cmの高さで残存し



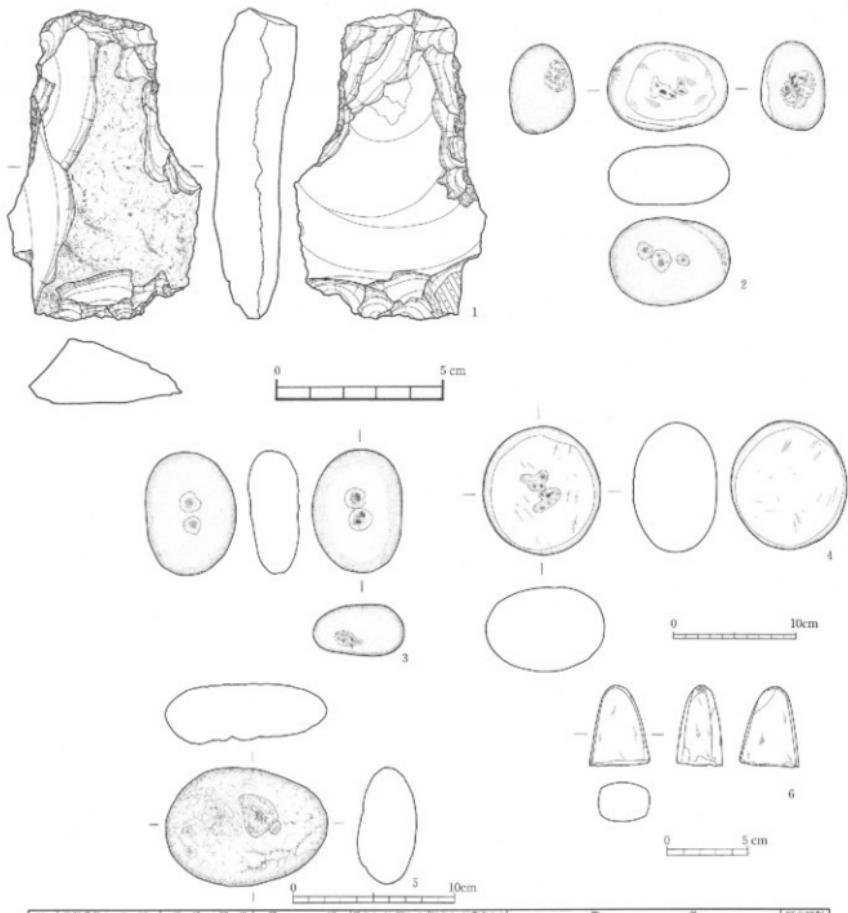
第80図 SD-1溝跡出土遺物 (1)

No.	地形番号	種類	形	堆積地	地区	看板	層位	外観	内観	地質	施設	施設名	方呂回数
1	SC-5	土師器	鉢	5区	SD1			ナデ・ハケメ	ナデ	砂質砂岩			103-13
2	SC-4	土師器	鉢	5区	SD1			ナデ・サズリ	ナデ				103-14
3	SC-5	土師器	鉢	5区	SD1			サズリ	ナデ				
4	SD-2	土師器	高円錐	5区	SD1			セラミ	セラミ	砂質砂岩	ロコ		
5	SC-1	須恵器	鉢	5区	SD1			セラミ・ナデ	セラミ	砂質砂岩	ロコ		103-46



No.	登録番号	種	級	固有名	通称	形	色	度	形態	考	写真/図版
1	未登録	アカツキヒメ	5級	SD1	ロクロア・ナデ	ロクロア・ナデ	■	■	■	■	■
2	AF-2	アカツキヒメ	5級	SD1	ロクロア・ナデ	■	■	■	■	■	■
3	AF-11	アカツキヒメ	5級	SD1	ロクロア・ナデ	■	■	■	■	■	■
4	SA-11	スズラン類似	5級	SD1	アヒルヒメ・沈没草	前滅	■	■	■	104-8	■
5	SA-14	スズラン類似	5級	SD1	アヒルヒメ・沈没草	前滅	■	■	■	104-9	■
6	SA-15	スズラン類似	5級	SD1	アヒルヒメ・沈没草	前滅	■	■	■	104-10	■
7	SA-16	スズラン類似	5級	SD1	アヒルヒメ・沈没草	前滅	■	■	■	104-11	■
8	SA-17	スズラン類似	5級	SD1	アヒルヒメ・沈没草	前滅	■	■	■	104-12	■
9	AF-12	アカツキヒメ	5級	SD1	ロクロア・ナデ	ロクロア・ナデ	■	■	■	■	■
No.	登録番号	種	級	固有名	通称	形	色	度	形態	考	写真/図版
2	SF-1	アカツキヒメ	5級	SD1	ロクロア・ナデ	ロクロア・ナデ	■	■	■	■	■
No.	登録番号	種	級	固有名	通称	形	色	度	形態	考	写真/図版
10	IP-3	アカツキヒメ	1級	SD05	20.0 幅2.0 厚2.0	日本アヒルヒメ	■	■	■	■	■
No.	登録番号	種	級	固有名	通称	形	色	度	形態	考	写真/図版
11	619	5級	SD1	石蒜	アヒルヒメ	14.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-1	■
12	620	5級	SD1	石蒜	アヒルヒメ(スクレイバー)	16.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-2	■
13	622	5級	SD1	石蒜	アヒルヒメ	16.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-3	■
14	620	5級	SD1	石蒜	アヒルヒメ	16.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-4	■
15	617	5級	SD1	石蒜	アヒルヒメ	16.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-5	■
16	634	5級	SD1	スカレバハイ	アヒルヒメ	16.0 (アヒルヒメ)	■	■	■	105-6	■

第81図 SD 1 溝跡出土遺物 (2)



第82図 SD 1溝跡出土遺物(3)

ている。底面から急角度で立ち上がる。底面は平凹である。底面のレベルは北側が高く、南側へ緩やかに傾斜している。土師器、須恵器、縄文土器、土製品が出土し、須恵器高台付壺1点、土製品1点を図示した。

ピット群

1区から5区にかけてのⅢ層上面でピットが確認された。1区では88個、2区では52個、3区では33個、4区で237個、5区では1個である。後世の圃場整備や水田耕作、水田耕作土の犁取り等によると考えられる削平によってピットの残存状況は良くない。1区の西端部、2区から4区の東寄りにかけての部分に比較的数多くのピットが検出されている。ピットには柱痕跡が確認できるものはない。ピットの中には埋土、規模、深さ等に共通性のある

1区Ⅲ層ピット上層部記

	土	色	上性	備	考
A	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト		
B	10YR3/1	褐褐色	砂質シルト	炭化物含む。	
C	10YR3/3	褐褐色	シルト		
D	10YR4/3	に赤い黒褐色	粘土質シルト		
E	25Y4/1	灰褐色	シルト		

1区ピット(cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26
埋土	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	D	
深さ	5	14	14	20	16	26	18	18	12	18	19	13	8	38	19	20	14	9	15	13	17	18	18	35	9	10
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52
埋土	D	C	D	D	D	D	D	D	B	B	B	C	D	C	C	C	D	D	D	D	C	C	C	C	C	
深さ	21	24	25	13	19	16	9	10	11	35	25	13	15	29	11	11	30	17	16	34	17	24	38	14	40	
No.	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75	P76	P77	P78
埋土	D	C	B	C	B	B	B	E	D	E	D	D	D	C	C	B	B	B	B	C	C	B	B	B	B	
深さ	29	46	34	29	19	47	20	24	40	18	30	32	34	13	24	45	48	27	26	10	37	35	27	39	35	27
No.	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87	P88																
埋土	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
深さ	40	27	29	29	23	34	26	38	43	14																

2区Ⅲ層ピット上層部記

	土	色	土性	備	考
A	10YR3/3	暗褐色	粘土	木炭粒少量含む。	
B	10YR3/2	褐褐色	粘土質シルト	木炭粒少量含む。	
C	10YR3/2	褐褐色	粘土		
D	10YR4/2	灰褐色	粘土	砂質シルトブロック少量含む。	
D	10YR3/3	灰褐色	粘土	砂質シルトブロック少量含む。	
D	10YR4/2	灰褐色	粘土	砂質シルトブロック少量含む。	

2区ピット(cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26
埋土	A	B	C	C	B	C	C	C	D	D	B	A	B	B	A	B	A	B	A	A	B	B	B	B		
深さ	10	18	22	21	21	34	27	23	10	21	19	15	11	25	16	29	21	25	31	15	13	22	8	21	3	25
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52
埋土	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	C	C	C	C		
深さ	23	32	26	32	28	14	12	4	15	21	23	32	21	12	17	13	10	22	21	25	26	15	30	13	12	11

3区Ⅲ層下部ピット上層部記

	土	色	上性	備	考
A	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト		
	10YR4/2	灰褐色	シルト	砂質シルトブロック少量含む。	
B	10YR4/2	灰褐色	粘土	木炭粒・焼土粒少量含む。	
C	10YR3/1	褐褐色	シルト		
D	10YR4/2	灰褐色	シルト	シルトブロック少量・木炭粒少量含む。	

3区ピット(cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	
埋土	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	A		
深さ	23	40	25	41	45	19	8	12	9	12	50	18	26	18	13	29	29	11	31	27	12	14	11	41	42		
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33																				
埋土	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
深さ	19	22	20	22	28	37	10																				

4区Ⅲ層ピット上層部記

	土	色	土性	備	考
A	10YR3/2	褐褐色	粘土	砂質シルトブロック少量含む。	
B	10YR4/2	灰褐色	粘土	木炭粒・焼土粒少量含む。	
C	10YR3/1	褐褐色	粘土	木炭粒微量含む。	

4区ピット(cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26		
埋土	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A			
深さ	9	15	17	25	19	28	12	11	22	21	23	14	12	20	19	28	22	11	26	15	10	28	9	14	13	9		
No.	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51		
埋土	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C			
深さ	19	17	23	28	19	19	12	11	18	25	21	26	6	7	8	3	4	15	8	17	14	9	11	14	17	19		
No.	P52	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75	P76	P77		
埋土	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	C			
深さ	20	34	9	11	22	26	14	15	14	14	11	11	26	27	3	15	9	17	14	9	9	20	19	15	10	7	20	
No.	P78	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87	P88	P89	P90	P91	P92	P93	P94	P95	P96	P97	P98	P99	P100	P101	P102	P103	P104	
埋土	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C		
深さ	8	21	29	24	21	23	17	16	21	28	24	25	26	27	28	15	16	24	24	14	16	23	20	14	19	19	19	
No.	P105	P106	P107	P108	P109	P110	P111	P112	P113	P114	P115	P116	P117	P118	P119	P120	P121	P122	P123	P124	P125	P126	P127	P128	P129	P130	P131	
埋土	C	C	C	B	H	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C		
深さ	13	8	11	19	29	21	19	29	31	16	23	30	26	15	14	2	23	21	17	16	25	21	16	16	42	32	9	36
No.	P132	P133	P134	P135	P136	P137	P138	P139	P140	P141	P142	P143	P144	P145	P146	P147	P148	P149	P150	P151	P152	P153	P154	P155	P156	P157	P158	
埋土	C	C	C	B	H	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C		
深さ	12	29	16	29	30	17	2	13	16	35	62	17	24	9	33	16	1	26	8	7	13	19	8	14	25			

ものが見られるが、掘立柱建物跡として組み合う可能性を指摘できるものは1区の西端部で3棟、2区、3区に2棟ずつ、4区に7棟の合計14棟、その他の柱列が3列であるが、更に多数の掘立柱建物跡や柱列が存在していたものと考えられる。ピットからの出土遺物は土師器、須恵器、繩文土器、石器、鉄滓等があり、埋土には焼土や炭化物が混入しているものも多い。このうち土師器壺1点、砾石器1点、石製品1点を図示した。

SB-1 挖立柱建物跡（第83図）

1区西端部A・B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本造構が切っていることから本造構が新しい。また、位置的にSB-2、3掘立柱建物跡、SK-39、40、42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。東南隅の柱穴は確認できなかったが南北4間、東西1間の南北棟と考えられ、西側に南北1間、東西1間の張り出しが付く。南側柱列は2.8m、東側柱列は8.0m、西側柱列は8.4mで、張り出し部分は東西1.8m、南北1.95mである。北側柱列は2.6mである。方向は西側柱列でN-1°-Eである。P34、50、52、56、73から土師器が出土した。

SB-2 挖立柱建物跡（第83図）

1区西端部B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本造構が切っていることから本造構が新しい。また、位置的にSB-1、3掘立柱建物跡、SK-39、40、42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西3間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.3m以上、東側柱列は2.0m、北側柱列は5.8m以上である。方向は西側柱列でW-15°-Nである。P64、37から土師器が出土した。

SB-3 挖立柱建物跡（第83図）

1区南西端部B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSB-1、2掘立柱建物跡、SK-42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。北西隅の柱穴は確認できなかったが南北1間以上、東西1間の南北棟と考えられる。東側柱列は4.3m以上、北側柱列は3.4m、西側柱列は4.0m以上である。方向は西側柱列でN-5°-Wである。遺物は出土していない。

SB-4 挖立柱建物跡（第83図）

2区北側A-10・11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。埋設管で調査出来なかった部分をまないでいるために確認できない柱穴もあると考えられる。東南隅の柱穴は確認できなかったが東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は4.8m、東側柱列は1.6m、北側柱列は4.75m、西側柱列では1.6mである。方向は西側柱列でE-1°-Sである。遺物は出土していない。

SB-5 挖立柱建物跡（第83図）

2区中央南寄りB-11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東西1間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は3.25mであるが、更にP4から東側の調査区外へ延び、本掘立柱建物跡に取りつく場あるいは樋のようなものがあることも考えられ、その場合は南側柱列は14.6m以上となる。東側柱列は1.5m、北側柱列は2.05m、西側柱列は1.75mである。方向は南側柱列でE-37°-Nである。遺物は出土していない。

SB-6 挖立柱建物跡（第83図）

3区中央北東寄りA・B-13グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。造構上部は水田耕作土の犁取りによって削平されているものと考えられる。SK-36土坑と重複関係にあり、本造構が切っていることから、本造構が新しい。また、位置的にSK-31土坑との重複関係も考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西1間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は4.25m、東側柱列は2.75m、北側柱列は4.3m、西側柱列は2.75mである。方向は南側柱列でE-14°-Nである。P14から土師器が出土した。

SB-7 挖立柱建物跡（第83図）

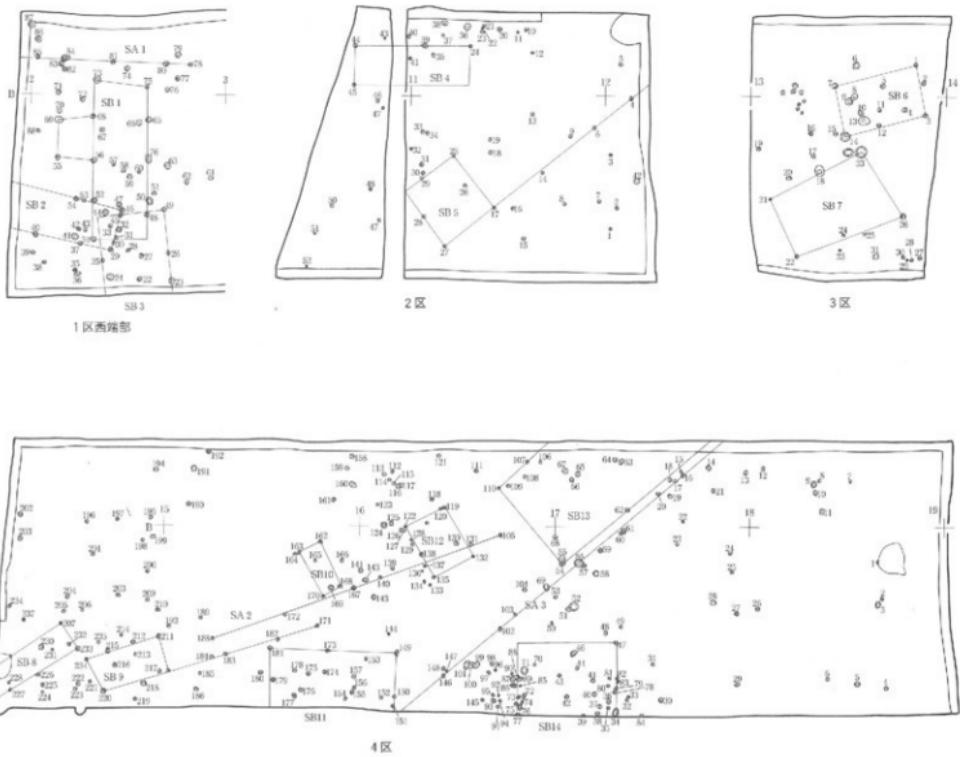
3区中央南寄りB-13グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSK-32、33、34土坑との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.9m、東側柱列は4.0m、北側柱列は5.3m、西側柱列は3.25mである。方向は南側柱列でE-20°-Nである。P26から土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SB-8 据立柱建物跡（第83図）

4区南西端B-14グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。搅乱によって、一部削平され、西側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。SK-16、17土坑と重複関係にあり、それぞれを切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSK-15土坑との重複関係も考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西3間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.1m以上、東側柱列は1.55m、北側柱列は4.1m以上である。方向は南側柱列でE-31°-Nである。P207から土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SB-9 据立柱建物跡（第83図）

4区南西寄りB-14・15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-2竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。東西3間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は3.5mで、更に東のP-171まで延び、本建物跡に取りつく場あるいは柵のようなものであることも考えられ、その場合は南側柱列は11.6mとなる。東側柱列は1.8m、北側柱列は3.9m、西側柱列は1.8mである。方向は南側柱列でE-16°-Nである。P187、234から土師器、縄文土器が出土した。



第83図 Ⅲ層上面据立柱建物跡

SB-10掘立柱建物跡（第83図）

4区中央西寄りB-15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東西1間、南北1間の南北棟と考えられる。南側柱列は1.1m、東側柱列は2.5m、北側柱列は1.3m、西側柱列は2.55mである。方向は東側柱列でN-28°-Wである。P168から土師器が出土した。

SB-11掘立柱建物跡（第83図）

4区中央西寄りB-15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。東西2間、南北2間以上の南北棟と考えられる。東側柱列は2.9m以上、北側柱列は6.45m、西側柱列は2.9m以上である。方向は東側柱列でN-2°-Eである。P150から土師器が出土した。

SB-12掘立柱建物跡（第83図）

4区中央A・B-16グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSA-2柱列との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西1間、南北2間の南北棟と考えられる。南側柱列では2.3m、東側柱列は2.9m、北側柱列は2.25m、西側柱列は2.9mである。方向は東側柱列でN-29°-Wである。P135から土師器が出土した。

SB-13掘立柱建物跡（第83図）

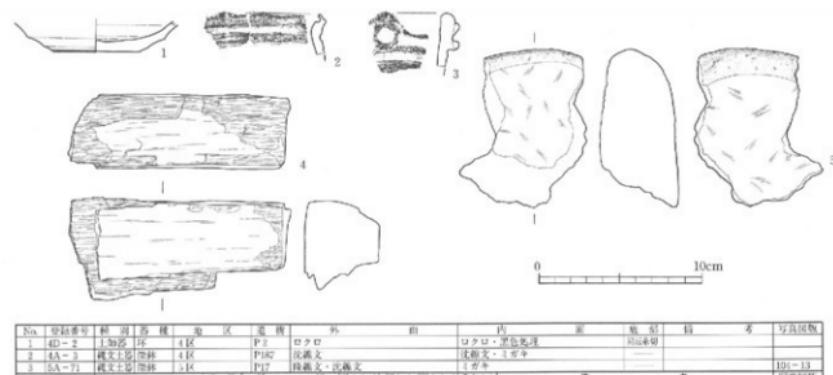
4区中央やや北東寄りA・B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。位置的にSD-3溝跡との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は9.5m以上、北側柱列は3.5m以上、西側柱列は5.0mである。方向は南側柱列でE-39°-Nである。P62から土師器が出土した。

SB-14掘立柱建物跡（第83図）

4区中央東寄り南端B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。位置的にSD-3溝跡と重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北2間以上の南北棟と考えられる。東側柱列は3.7m以上、北側柱列は5.1m、西側柱列は3.7m以上である。方向は東側柱列でN-1°-Eである。P88から土師器が出土した。

SA-1柱列（第83図）

1区西端A-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。西側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明で



第84図 ピット出土遺物

ある。SD-5溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。また、重複するピットがあり、他の施設と重複している可能性がある。東西5間以上と考えられる。確認された長さは8.8mである。方向はE-2° -Sである。P80、81、84から土師器が出土した。

SA-2柱列（第83図）

4区中央B-15・16グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の整取りによって削平されているものと考えられる。位置的にSB-12掘立柱建物跡と重複関係にあることが考えられるが、直接の新旧関係は不明である。東西5間である。確認された長さは15.7mである。方向はE-20° -Sである。P130から須恵器が出土した。

SA-3柱列（第83図）

4区中央A・B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北側及び南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。また、遺構北側の上部は水田耕作土の整取りによって削平されているものと考えられる。位置的にSD-3溝跡と重複関係にあることが考えられるが、直接の新旧関係は不明である。東西8間以上である。確認された長さは21.5mである。方向はE-40° -Sである。P56から土師器が出土した。

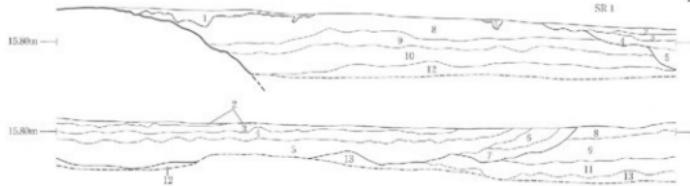
河川跡



No	發現部位	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	写真図
1	IC-4	土師器	水	1区	AB3	ミガキ									
2	IC-5	土師器	泥	1区	B3	ナド・ミガキ									103-6
3	IC-5	土師器	泥	1区	AB3	堅膜									
4	IC-5	土師器	泥	1区	AB3	ナド									
5	IC-6	土師器	泥	1区	B3	ナド	ケズリ								
6	IC-6	土師器	泥	1区	B3	ナド	ハケヌ								
7	ID-11	土師器	泥	1区	1, 2脚	コクリ									
8	ID-16	土師器	泥	1区	1, 2脚	コクリ									
9	ID-17	土師器	泥	1区	1, 2脚	コクリ									
10	ID-18	土師器	泥	1区	B3	ワフロ・ハラケズリ									103-18
11	ID-19	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ・ナヂ									103-19
12	ID-20	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ									103-20
13	ID-21	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ	ハラケズリ								103-21
14	ID-26	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ	ハラケズリ								103-22
14	ID-26	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ	ハラケズリ								
14	ID-26	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ	ハラケズリ								
14	ID-26	土師器	泥	1区	AB3	ワフロ	ハラケズリ								

第85図 SR1河川跡出土遺物（1）

1区西側



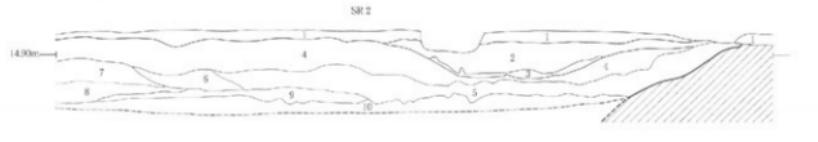
層	序号	土色	土性	目名
1	1	褐色	無本層	無本層Ⅱ带
2	2	3SY4-2 オリーブ緑	シルト	粘性土やあり、液化鉄を含む。
3	3	10YR4-1	褐色シルト	液化鉄を含む。
4	4	2SY5-2	褐色灰土	砂質土やあり、液化鉄、マンガン結晶付に含む。
5	5	2SY4-3	オリーブ緑	粘性土やあり、下部に白火山灰層付に含む。
6	6	2SY4-3 オリーブ緑	シルト	粘性土やあり、下部に白火山灰層付に含む。
7	7	SY4-1	褐色	粘性土やあり、上部に白火山灰層付に含む。
8	8	2SY4-1	褐色シルト	粘性土やあり、液化鉄、マンガン結晶付に含む。
9	9	2SY4-2	褐色灰多質土	粘性土やあり、液化鉄、マンガン結晶付に含む。
10	10	2SY4-2	褐色灰多質土	粘性土やあり、液化鉄、マンガン結晶付に含む、液化鉄含む。
11	11	SY4-4	褐色リープ	砂質土と層付に分る。マニシ、液化鉄を含む。
12	12	2SY4-2	褐色灰 シルト	褐色灰よりやや弱い、液化鉄、マンガン結晶付に含む。地土ブロック含む部分あり。
13	13	SY4-2	褐色	

1区中央



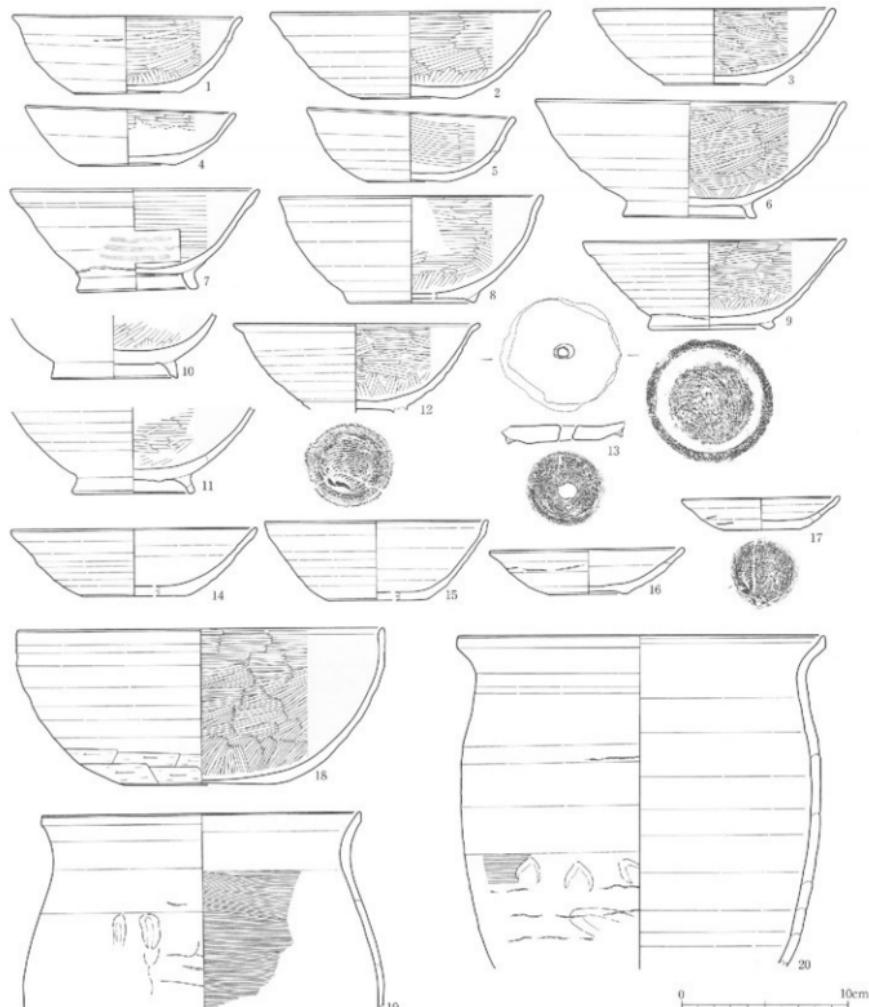
層	序号	土色	土性	目名
SR 1	1	2SY4-2	褐色灰	褐色灰由山灰、10YR2.2(風化) 粘土質シルト層に含む、液化鉄を含む。
	2	10YR4-2	褐色灰	褐色灰シルト層に含む。SY4-1(風化) 褐土層に含む。
	3	2SY4-2	褐色	褐色シルト層に含む。マニシ、下部に白火山灰層付ブロック含む。
4		(砂利層)	(砂利層)	10YR4-1(風化) SY4-2(風化) 10YR3-3(風化)。
5	2SY4-2	褐色灰	褐色シルト	粘性土やあり、液化鉄、マンガン、液化鉄層部分あり。
6	2SY4-2 オリーブ緑	褐色	細砂	液化鉄層部分あり、マニシ、液化鉄層付ブロック含む。
7	SY4-3	褐色リープ	砂糖	液化鉄層部分あり。
8	2SY4-2	褐色灰	シルト	粘性土やあり、白色粗砂ブロック、液化鉄、マンガンを含む。
9	2SY4-4	褐色	砂利層	液化鉄層
	2SY4-1	褐色		

3区西側



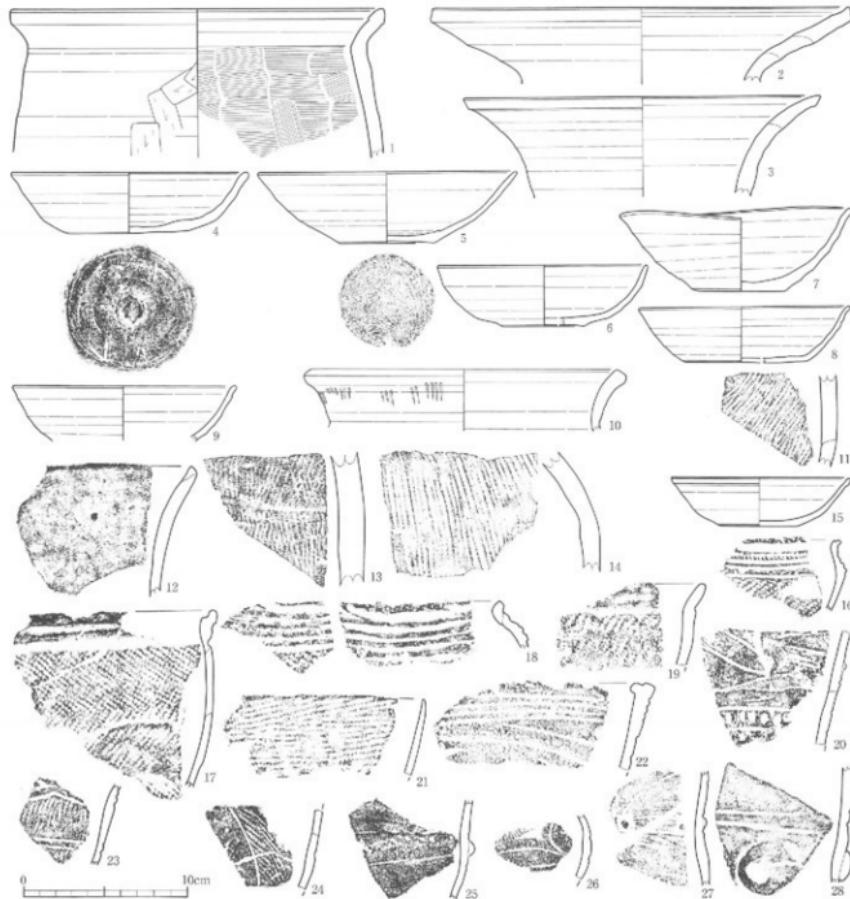
層	序号	土色	土性	目名
1	1	褐色	無本層	無本層Ⅱ带
2	2	10YR4-2	褐色灰	褐色灰シルト層に含む、第2層に白火山灰層間に含む。マニシを含む。
3	3	10YR2-2	褐色灰	褐色灰由山灰、一次堆積のものと思われる。
4	4	10YR4-2 (に少く黄土)	褐色	粘性土やあり、2SY4-2(風化) オリーブ緑、10YR4-1(風化) 砂糖部分あり、マニシ、液化鉄層を含む。
5	5	10YR4-4	褐色	粘性土やあり、10YR4-4(風化) 砂糖、10YR4-1(風化) 砂糖部分入り、マニシ、液化鉄層を含む。
6	6	2SY4-4	褐色	粘性土やあり、2SY4-4(風化) 砂糖、10YR4-1(風化) 砂糖部分入り、マニシ、液化物、液化鉄を含む。
7	7	2SY4-3 建築リープ	砂糖	堆積層である。下部に褐色粗砂層含む。
7	7SY4-2	褐色灰	粗砂	堆積層である。粗砂層。
8	8	SY4-2 洪モリーブ	粗砂	堆積層である。砂利層(厚さ1~数cm)。
9	9	2SY4-2 洪モリーブ	粗砂シルト	堆積層である。粗砂層。
10	10	SY4-2 洪モリーブ	粗砂シルト	堆積層である。液化鉄、液化層を含む。

第86図 SR 1・2 河川路土層断面図



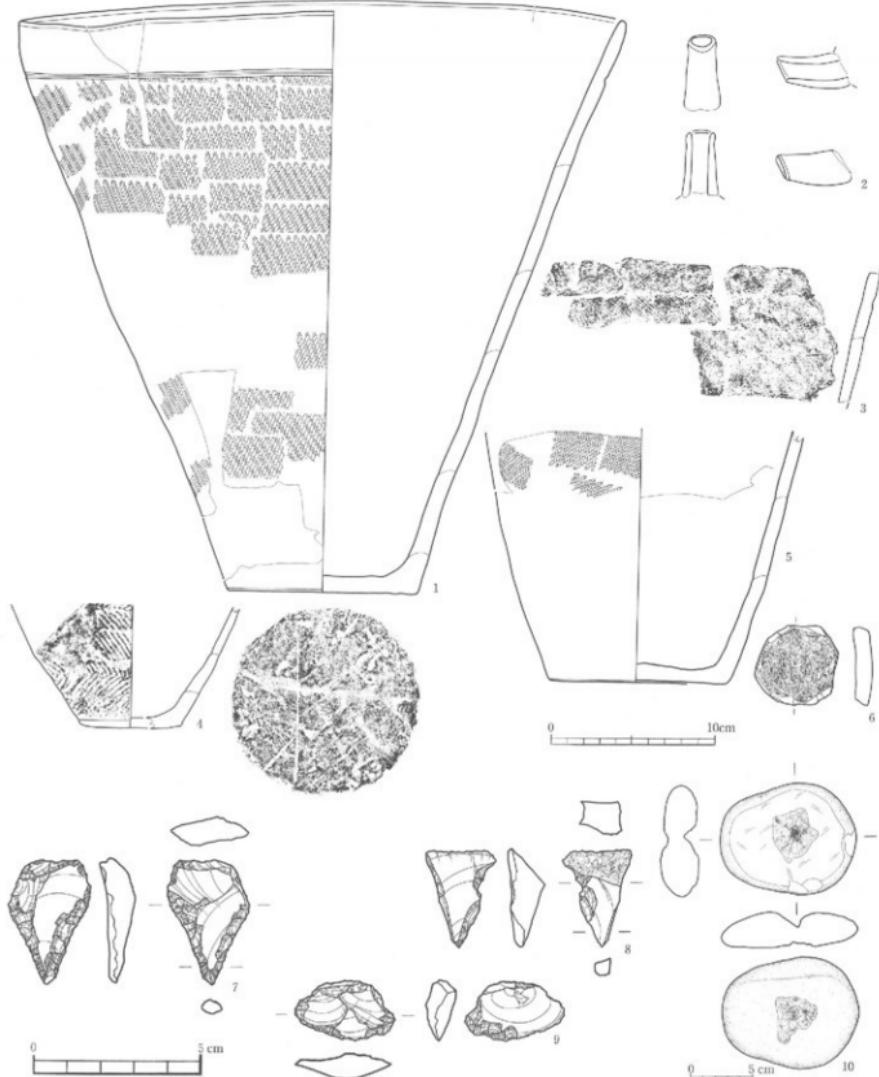
No	空器番号	種	別	形	標	地	区	面	外	内	頭	底	部	備	考	参考圖版
1	ID-24	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
2	ID-25	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
3	ID-26	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
4	ID-27	土器	盆	1区	AB3	ロクロ・角底				ミガキ・黑色處理			新石器			
5	ID-28	土器	盆	1区	AB3	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
6	ID-29	土器	盆	1区	AB4	ロクロ・角底				ミガキ・黑色處理			新石器			
7	ID-30	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
8	ID-31	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
9	ID-32	土器	盆	1区	AB3	ロクロ・ナサ				ミガキ・黑色處理			新石器			
10	ID-33	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
11	ID-34	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
12	ID-35	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
13	ID-36	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
14	ID-37	土器	盆	1区	AB3	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
15	ID-38	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
16	ID-39	土器	盆	1区	AB3	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
17	ID-40	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
18	ID-41	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
19	ID-42	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			
20	ID-43	土器	盆	1区	AB4	ロクロ				ミガキ・黑色處理			新石器			

第87図 SR 1 河川跡出土遺物 (2)



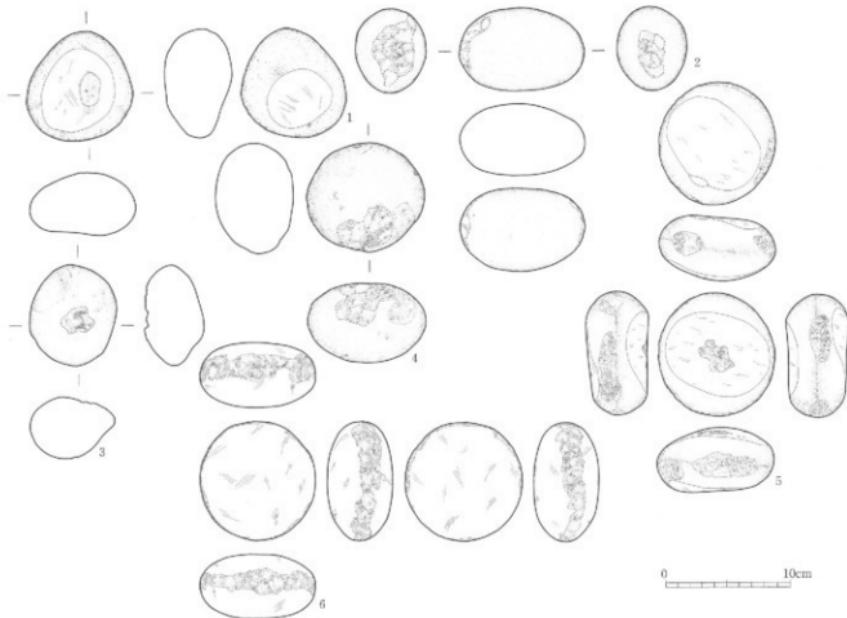
No.	出土地番号	地	層	種	地	區	層	位	外	内	内	底	沿	脚	号	写真板
1	ID-47	土器	樂	1区	B.3	ロコ										
2	ID-28	土器	樂	1区	AH.4	ロコ										
3	ID-45	土器	樂	1区	B.3	ロコ										
4	ID-46	土器	樂	1区	B.3	ロコ										
5	(B-7)	鳥巣	樂	1区	B.9	ロコ										103-36
6	(B-1)	鳥巣	樂	1区	B.3	ロコ										
7	(B-7)	鳥巣	樂	1区	B.4	ロコ										103-37
8	(B-9)	鳥巣	樂	1区	B.4	ロコ										103-38
9	(B-9)	鳥巣	樂	1区	B.3	ロコ										
10	(B-10)	鳥巣	樂	1区	B.3	ロコ										
11	(B-1)	土器	土器	1区		ロコ										
12	(B-1)	土器	樂	1区	AH.4	ロコ										
13	(B-1)	土器	樂	1区	B.4	タガ										104-1
14	(B-1)	土器	樂	1区	B.3	タガ										104-2
15	(B-3)	土器	樂	1区	B.4	ハラメ										104-3
16	(A-2)	樂	樂	1区	B.4	LR調文・沈調文・彌口文										104-4
17	(A-1)	樂	樂	1区		1面	RT.調文・沈調文									104-15
18	(A-1)	樂	樂	1区	AH.3	RT.調文・沈調文										104-16
19	(A-1)	樂	樂	1区	AH.3	1面	RT.調文・沈調文									
20	(A-1)	樂	樂	1区	B.5	1面	沈調文・刺痕文・彌口									104-17
21	(A-14)	樂	樂	1区		LR調文										104-18
22	(A-16)	樂	樂	1区	B.4	沈調文・1行彌刺口文										104-19
23	(A-15)	樂	樂	1区	B.4	LR調文・沈調文										104-20
24	(A-14)	樂	樂	1区	B.4	RT.調文・沈調文										
25	(A-12)	樂	樂	1区	70.5	沈調文・刺痕文・彌口										104-21
26	(A-25)	樂	樂	5区		3面	LR調文・沈調文									
27	(A-1)	樂	樂	5区		沈調文・彌口										104-22
28	(A-22)	樂	樂	5区	5.15	沈調文・彌口文										104-23

第88図 SR1河川跡出土遺物(3)



No.	發掘番号	種	洞	器	形	地	区	組	位	號	期	測	理	積	水	重	考	写真圖版
1	IA-3	陶文多	面	杯	1F	A3	III	規	規	子	子	-	-	-	-	-	104-24	
2	IA-2	陶文多	面	口	1F	A3	III	規	規	子	子	-	-	-	-	-	104-36	
3	IA-3	陶文多	面	口	1F	B3	II	規	規	子	子	-	-	-	-	-	105-37	
4	IA-4	陶文多	面	口	1F	AB4	II	規	規	子	子	-	-	-	-	-	105-38	
5	IA-5	陶文多	面	口	1F	-	II	規	規	子	子	-	-	-	-	-	105-39	
No.	發掘番号	種	洞	器	形	地	区	組	位	號	期	測	理	積	水	重	考	写真圖版
6	IP-2	土器	SR-1	499	310	10.0	28.7					-	-	-	-	-	105-40	
No.	發掘番号	種	洞	器	形	地	区	組	位	號	期	測	理	積	水	重	考	写真圖版
7	43	1K	SB-1	石器	石器	38.0	21.0	7.7	6.7			-	-	-	-	-	105-41	
8	44	1K	SB-1	石器	石器	29.0	20.0	9.8	4.2			-	-	-	-	-	105-42	
9	45	1K	SB-1	石器	石器	18.5	30.0	8.3	4.3			-	-	-	-	-	105-43	
10	29	1K	SB-1	石器	石器	112.0	92.0	31.6	22.6	明-四		-	-	-	-	-	105-21	

第89図 SR 1 河川跡出土遺物 (4)



第90図 SR 1 河川跡出土遺物 (5)

SR-1 河川跡 (第70、86図)

〔遺構の確認〕1区の中央部の西寄りA・B-3～5グリッドに位置している。河川跡西岸はA・B-3グリッドのⅢ層上面で確認されたが、東岸は更に古いSR-2河川跡と重複している。検出面では堆積土の境が区別しにくく状況であることと、掘り込み面であるⅢ層が削平されており、調査区南側のA-5グリッドでは明確ではないがSR-2河川跡との境が認められた。北側のB-5グリッドではSR-1河川跡東岸としてのプランは確認できなかつた。

〔堆積土〕底面まで掘り下げていないため不明な部分が多いが粗砂及び砂利層の互層で、酸化鉄の集積部分が多くみられ、灰白色火山灰を含む層もみられる。

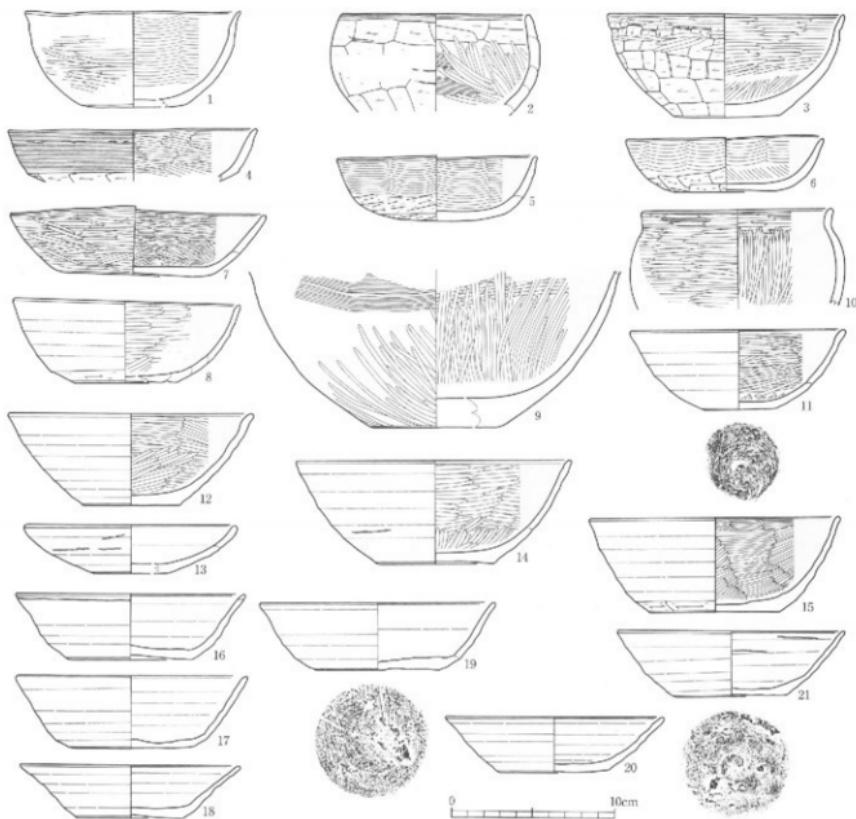
〔壁面・底面〕壁面は底面が検出されていないため、底面からの立ち上がりは不明であるが、検出面近くでは緩やかな角度である。

〔出土遺物〕堆積土中から土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、石製品等が出土している。特に堆積土上部から完形品や大型の破片が多量に出土しているが、その出土状況は全て混在した状況であり、層位的なまとまりや規則性はみられなかった。このうち土師器壺15点、高台付壺8点、甕6点、壺1点、鉢1点、蓋2点、須恵器壺6点、甕5点、かわらけ3点、縄文土器20点、土製品1点、剥片石器3点、礫石器7点を図示した。

No.	世紀番号	地 区	層 位	形 態	數	大きさ(cm)	厚さ(cm)	厚さ(g)	電 子	考 察	写真番號
1	1区	B3	中央トレンチ	礫石器	90	86.0	55.5	350.0	銅・陶		
2	72	1区	B3	礫石器	101.0	92.0	58.0	350.0	銅・火		
3	78	1区	B3	SR1(中央通路)	83.0	71.0	48.5	350.0	陶		
4	81	1区	B3	SR1(中央トレンチ)	98.0	90.0	67.0	756.2	陶		
5	81	1区	B3	SR1	94.0	101.0	50.0	730.0	銅・陶・銅	106-22	
6	74	1区	B3	SR1	98.0	95.0	53.0	717.3	銅・陶	106-23	

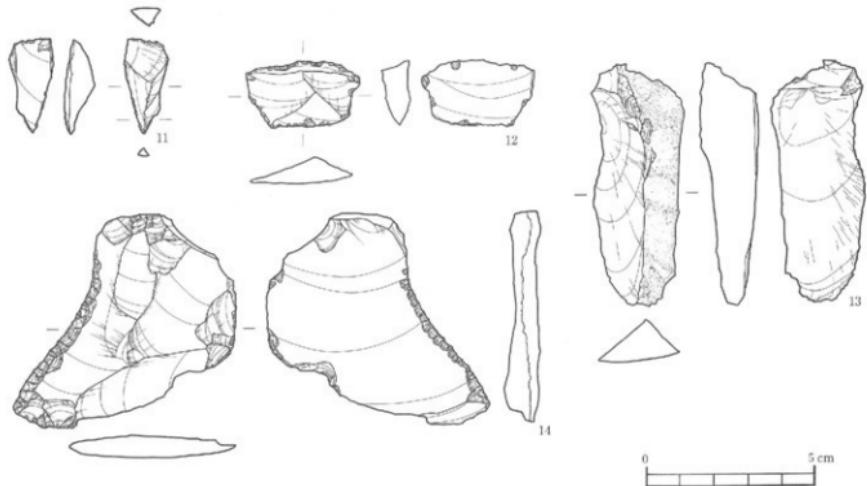
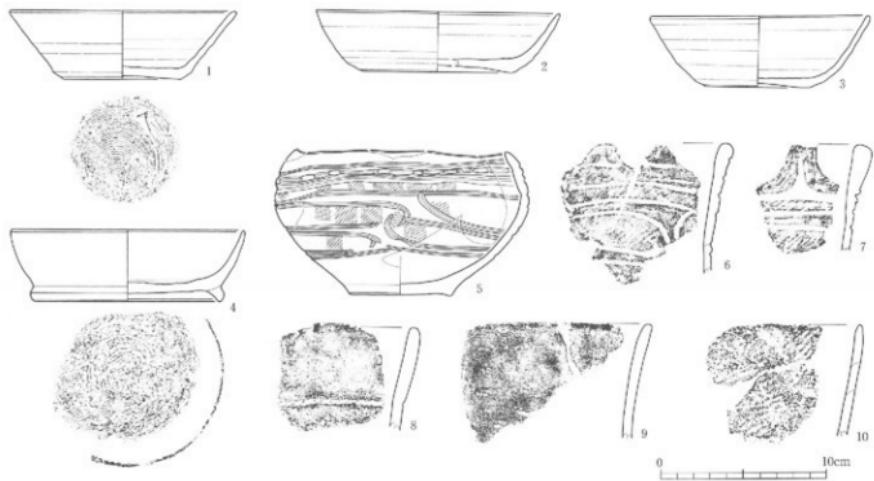
SR-2 河川跡（第70、86図）

【遺構の確認】1区の中央部A・B-5グリットから2区の西側A・B-10・11グリット、更に3区北東隅から4区の北西隅、北東部A-15グリットからA・B-17グリット、5区A・B-20グリットに位置し蛇行している。河川跡東岸はA・B-20グリットのIVa層上面で確認されたが、西側では1区のA・B-5グリットで、SR-1河川跡と重



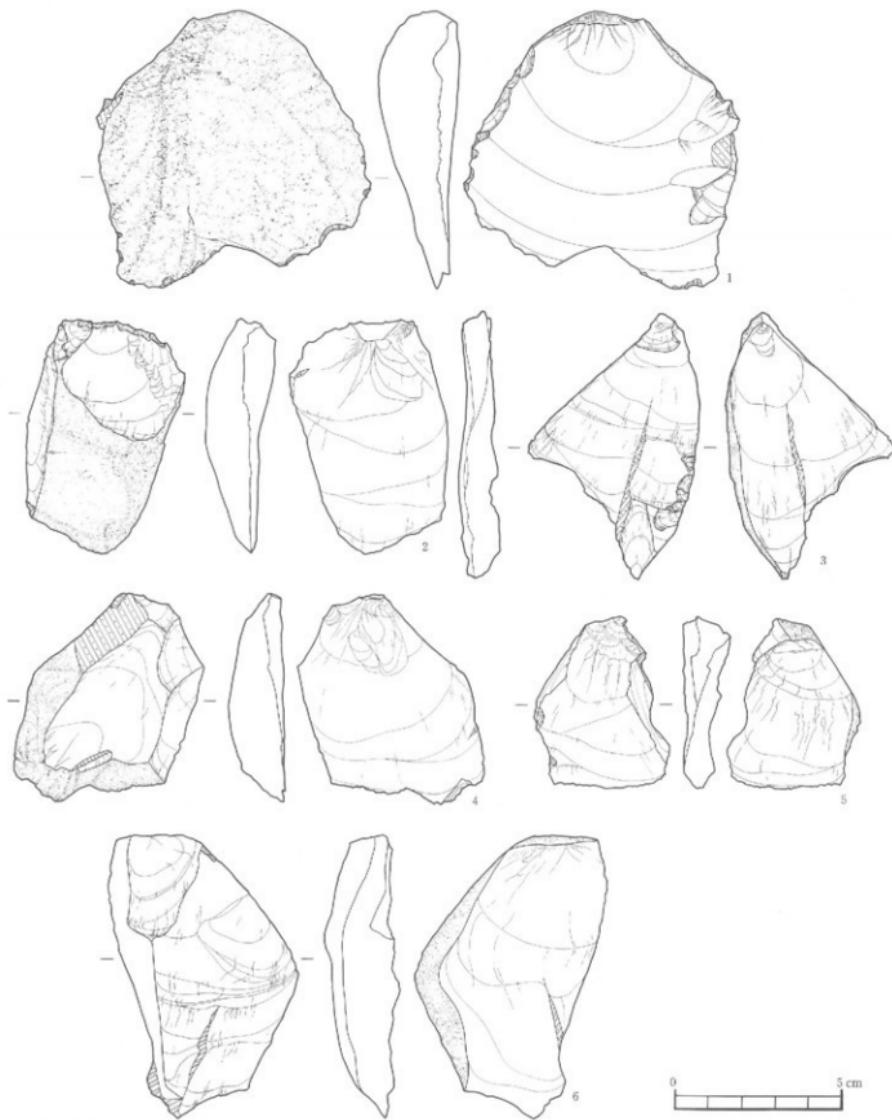
No.	登録番号	種	羽	器	種	區	地	位	例	内	圖	底	帶	類	考	写真板
1	SC-11	土師器	灰	碗	5K	B20	ミガキ、削成			ミガキ、削成、黑色乳頭		—	—	—	—	103-1
2	SC-13	土師器	灰	碗	5K	B20	カスリ、サザ、削成			ナダ、カスリ、ミガキ		—	—	—	—	103-2
3	SC-14	土師器	灰	碗	5K	B20	カスリ、サザ、削成			ナダ、カスリ		—	—	—	—	103-3
4	SC-15	土師器	灰	碗	5K	B20	カスリ、サザ			ナダ、黑色乳頭		—	—	—	—	103-4
5	SC-16	土師器	灰	碗	5K	B20	カスリ			ナダ、黑色乳頭		—	—	—	—	103-5
6	SC-18	土師器	灰	碗	5K	B20	ミガキ、カスリ			ナダ、黑色乳頭、削成		ナダ	削成	—	—	103-6
7	SC-19	土師器	灰	碗	5K	B20	ミガキ			ナダ		—	—	—	—	103-7
8	ID-7	土師器	灰	碗	1区	B15	ロクロ	ケズリ		ミガキ、黑色乳頭		ミガキ	黑色乳頭	—	—	103-22
9	SC-22	土師器	灰	碗	5K	B20	オザ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-23
10	SC-23	土師器	灰	碗	5K	B20	オザ	ミガキ		ミガキ、白色乳頭		ミガキ	白色乳頭	白色乳頭物質含有	—	103-24
11	ID-5	土師器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-25
12	ID-6	土師器	灰	碗	1区	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ、黑色乳頭		ミガキ	黑色乳頭	黑色乳頭	—	103-26
13	ID-8	土師器	灰	碗	1区	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-28
14	SD-4	土師器	灰	碗	1区	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-29
15	SD-4	土師器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-30
16	SD-2	土師器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-31
17	SE-3	陶器器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-32
18	SE-7	陶器器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-33
19	SE-9	陶器器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-34
20	SE-10	陶器器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-35
21	SE-8	陶器器	灰	碗	5K	B15	ロクロ	ミガキ		ミガキ		—	—	—	—	103-36

第91図 SR 2 河川跡出土遺物 (1)



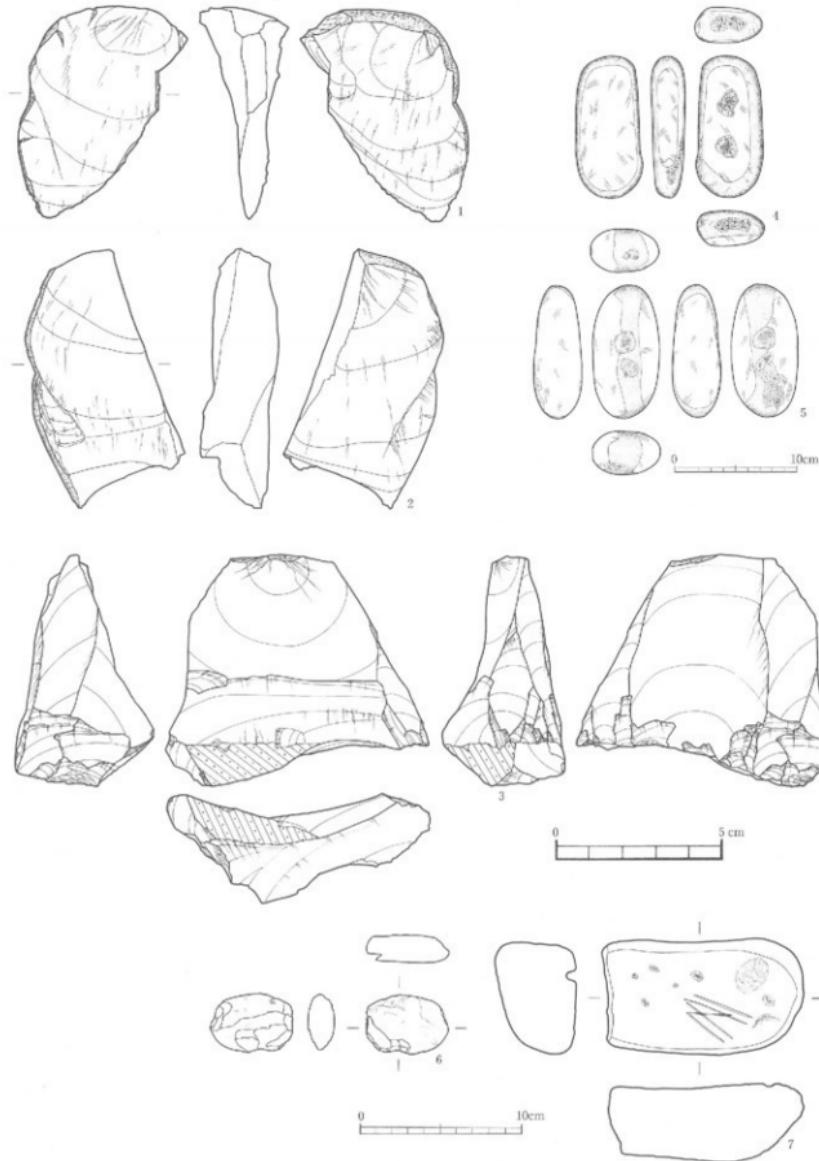
No.	發掘場号	種	目	分	種	地	区	層位	外	内	面	底	邊	考	参考図版
1.	SE-11	陶器	碗	5	4	A20	コラリ	17.7	-	-	-	-	-	104-10	
2.	SE-12	陶器	碗	5	4	B20	コラリ	17.7	-	-	-	-	104-10		
3.	SE-9	陶器	碗	5	4	B20	コラリ	17.7	-	-	-	-	103-44		
4.	SE-3	陶器	碗	5	4	B20	コラリ	17.7	-	-	-	-	103-44		
5.	SA-2	陶文	器	5	5	A20	LR陶文・透型熱帯・沈織文	ナガ・ミボキ	-	-	-	-	-	104-25	
6.	SA-23	陶文	器	5	5	A20	LR陶文・沈織文	ミボキ	-	-	-	-	-	104-26	
7.	SA-43	陶文	器	5	5	B20	LR陶文・沈織文	ミボキ	-	-	-	-	-	104-27	
8.	JA-10	陶文	器	1	5	B9	RI(刷文・1.刷毛井眼)	ミボキ	-	-	-	-	-	104-26	
9.	JA-9	陶文	器	1	5	B8	ミボキ	ミボキ	-	-	-	-	-	104-26	
10.	JA-8	陶文	器	1	5	B8	(陶文・5刷)	ミボキ	-	-	-	-	-	104-26	
No. 11-14 考古学的分類															参考図版
11.	726	5	5	5	5	石器?	石器?	29.0	13.5	8.3	2.2	-	-	-	105-59
12.	733	5	5	5	5	A30	メニス・エスクローズ	10.5	34.0	8.2	5.3	-	-	-	105-70
13.	53	1	5	5	5	B9	石器	74.0	28.0	27.5	28.2	-	-	-	105-83
14.	45	1	5	5	5	B9	スクレイパー	60.0	55.0	9.4	33.2	-	-	-	105-73

第92図 SR 2 河川跡出土遺物 (2)



No.	發現場所	地 区	B 9	形 狀	類 別	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	重 量 (g)	備 考	年 代
1	46	1区	B9	刮片		78.0	80.8	22.5	128.1	集落剖面	105~84
2	53	1区	B9	刮片		71.3	48.6	17.2	58.0		105~85
3	53	1区	B9	刮片		81.0	52.6	11.5	28.2		105~90
4	53	1区	B9	刮片		63.0	57.6	14.1	56.0		105~87
5	53	1区	B9	刮片		52.0	49.6	12.9	17.2		105~88
6	52	1区	B9	刮片		86.6	58.6	16.5	91.5		105~89

第93図 SR 2 河川跡出土遺物 (3)



No.	登錄番号	施	区	種	状	量	量(ml)	幅(㎝)	深さ(㎝)	重さ(g)	施	号	分類
1	33	1区	B9	石斧	鋸形	64.0	51.5	26.5	6.5	106.1			
2	35	1区	B9	石斧	削形	779.0	(490)	18.5	7.0	106.2			
3	47	1区	B9	石核		69.0	80.0	24.0	117.2	106.3			
4	736	5区	B21	砾石器		116.5	55.0	26.5	277.4	磨・磨・四			
5	266	4区	B17	砾石器		105.0	33.0	26.0	346.3	磨・磨・四	106.27		
6	365	4区	B18	石器		36.5	34.0	16.5	34.7			106.36	
7	66	1区	B9	砾石器	塊形	124.0	72.0	45.5	325.7	磨・磨・四			

第94図 SR 2 河川跡出土遺物 (4)

複しており、SR-1 河川跡の確認状況と同様に、SR-2 河川跡の明確な西側のプランは確認できなかった。

【堆積土】底面まで掘り下げていないため不明な部分が多いが粗糲、砂利層の互層で、拳大～人頭大、小児の胴体大の礫を含む層もみられる。また、5 区では上部の堆積土を切って幅約3.5m、深さ約50cmに堆積土が溝状に堆積している部分があり、灰白色火山灰が約10cmの厚さに堆積している。河川の最終的な流路の一つであることが考えられる。

【壁面・底面】壁面は底面が検出されていないため、底面からの立ち上がりは不明であるが、検出面近くでは緩やかな角度である。

【出土遺物】堆積土中から土師器、須恵器、繩文土器、土製品、石器、石製品等が出土している。特に堆積土上部から土師器、須恵器の完形品や大型の破片が多量に出土しているが、その出土状況は全て混在した状況であり、層位的なまとまりや、規則性はみられなかった。このうち土師器壺13点、甕1点、鉢1点、須恵器壺9点、高台付壺1点、繩文土器5点、剥片石器13点、礫石器3点、石製品1点を図示した。

(2) 繩文時代の遺構と出土遺物

炉跡

1号炉（第95図）

【遺構の確認】5区の中央北寄りA-21グリットに位置し、V層上面で確認された。礫が円形に巡り、礫の内側に面した部分が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土粒や炭化物が認められたため、石組み炉であると判断された。周間に土坑や掘立柱建物跡が検出されているが、炉に関係するものかどうかは確認できなかった。

【平面形・規模】平面形は長軸65cm、短軸60cmの不整な円形で、長軸方向はN-2° -Eである。

【堆積土】2層に分けられる。1層には焼土粒、炭化物が混入し、下層は焼上層である。

【壁面・底面】壁は礫の最も高い北側で20cmの高さで残存している。炉の上部にはすき間無く礫が並べられ、炉の内側の面が火熱を受けて赤変している。礫の下部の壁面は上部の礫同様に赤変している。底面は火熱を受けて赤変しているが、硬く焼け締まっている状態ではなかった。底面は平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くになっている。

【掘り方】掘り方は長軸75cm、短軸75cmの隅丸の三角形に近い不整な円形である。長軸方向は石組みと同じである。壁は13cmの高さで、底面から緩やかな角度で立ち上がる。

【出土遺物】堆積土中及び掘り方堆土中から石器が出土し、石組みに礫石器が転用されていた。このうち剥片石器1点、礫石器1点を図示した。

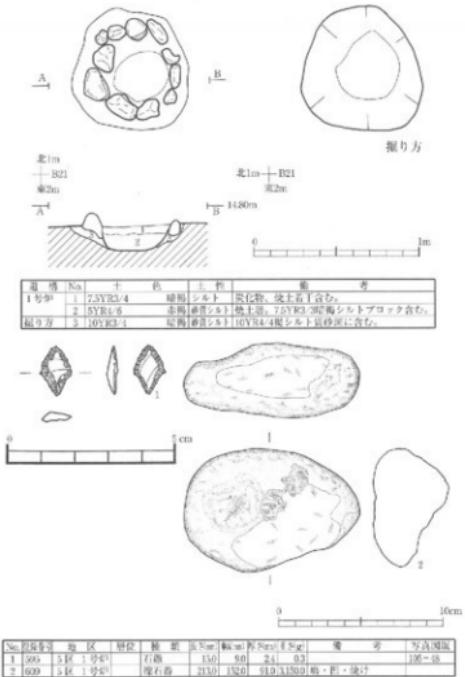
2号炉（第96図）

【遺構の確認】4区の中央南東寄りB-17グリットに位置し、V層上面で確認された。礫が円形に巡り、礫の内側に面した部分が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土粒や炭化物が認められたため、石組み炉であると判断された。炉の周間に東側0.5mから南側0.5mにかけて多数の焼け面と散乱する焼土がみられた。北側0.5mから東側1.2mにはSR-2 河川跡が曲流し、幼児の胴体人の礫が散乱し、土坑が1基確認されたが、ピットや周溝などは確認できなかった。

【平面形・規模】平面形は長軸75cm、短軸70cmの不整な円形である。長軸方向はE-5° -Sである。

【堆積土】2層に分けられる。1層に焼土粒、炭化物、2層には多量の焼土粒及び少量の焼土塊が混入している。

【壁面・底面】壁は礫の最も高い南西部分で17cmの高さで残存している。炉の壁面にはすき間無く礫が立て並べられ、礫の内側の面が火熱を受けて赤変している。底面も火熱を受けて赤変しているが、硬く焼け締まっている



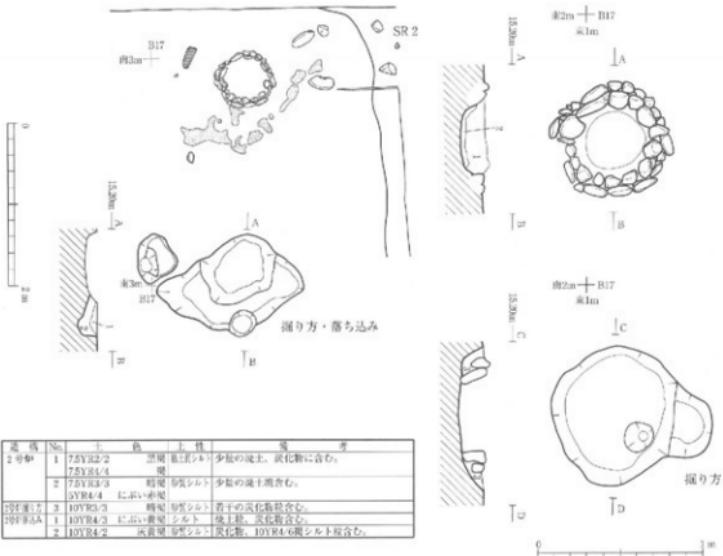
第95図 1号炉・出土遺物

状態ではなかった。底面は凸凹ではなく平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。

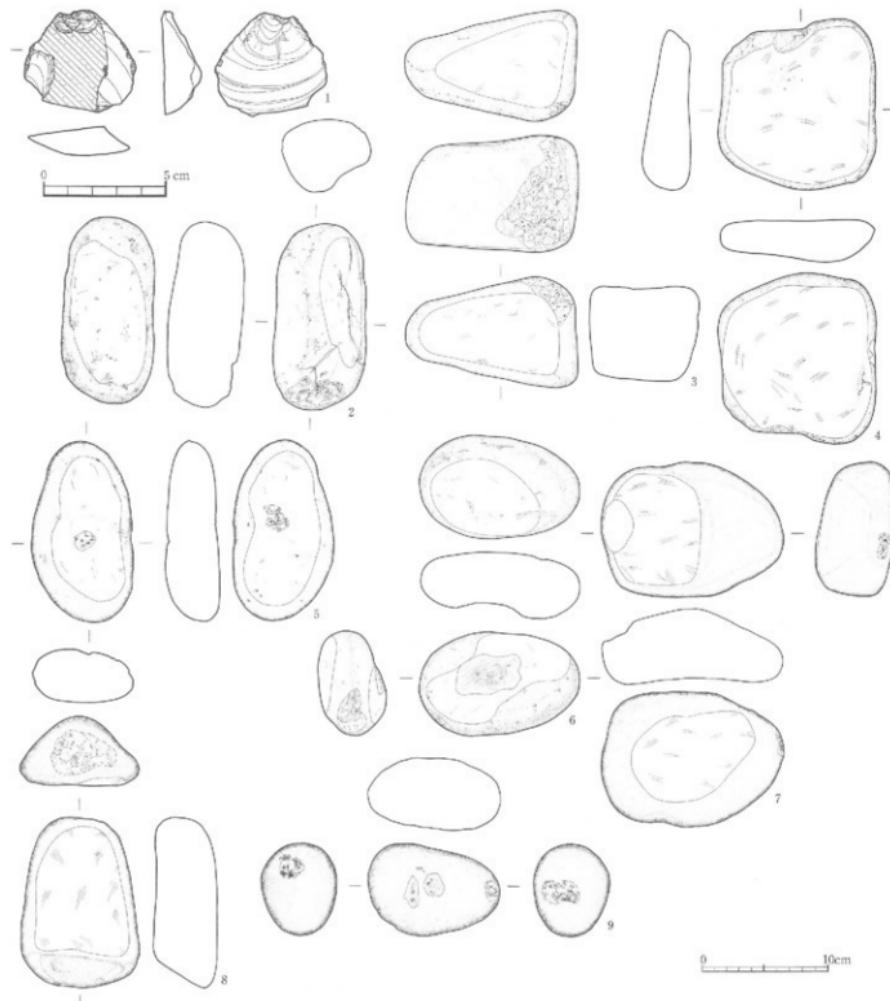
〔掘り方〕 掘り方は長軸85cm、短軸75cmの不整な梢円形である。長軸方向はN-15°-Eである。東側に長さ45cm、幅20cmの張出部分がある。壁は10cm~13cmのさで、底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、直径15cm、深さ4cmの不整な円形のピット状の落ち込みがある。東側の張出部分の壁は5cm~8cmの高さで、緩やかな角度で立ち上がる。

掘り方の外側に長軸1.75m、2号炉の掘り方を含めた短軸1.25mの隅丸の菱形の落ち込みが検出された。堆積土は2層に分けられ、壁は9cm~15cmの高さで残存し、底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さな凸凹がみられる。南側の壁面から底面にかけて、直径35cm、深さ10cmのピットが検出された。

〔土坑〕 炉の掘り方外側の落ち込みの北西



第96図 2号炉



No.	登錄番号	地	区	層	性	形	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(㎏)	参考図版
1	230	4区	2号炉	鉢	鉢片	31.0	34.0	11.0	36.6	106-4	
2	250	4区	2号炉	碗	碗石舟	153.0	76.0	6.0	960.0	106-24	
3	248	4区	2号炉	碗	碗石舟	136.0	93.5	9.0	1766.0	106-1版・横計	
4	249	4区	2号炉	碗	碗石舟	126.5	140.5	30.0	955.7	106-4版・横計	
5	232	4区	2号炉	碗	碗石舟	148.0	83.0	43.5	2560.0	106-1	
6	241	4区	2号炉	碗	碗石舟	148.0	83.0	23.0	2560.0	106-2版・横計	
7	240	4区	2号炉	碗	碗石舟	138.5	111.0	58.0	1200.0	106-3版・横・高さ12.1	
8	255	4区	2号炉	碗	碗石舟	142.0	97.0	54.0	1633.7	106-3版・高さ	
9	246	4区	2号炉	碗	碗石舟	107.5	76.0	58.0	548.8	106-2版	

第97図 2号炉出土遺物

に位置している。長軸60cm、単軸45cmの不整な漏丸長方形で、長軸方向はN-25°-Eである。壁は西壁で13cmの高さで残存しており、底面から緩やかに立ち上がる。底面は二段になっており、西側が低くなっている。

〔出土遺物〕堆積土中及び掘り方理土、周辺の焼土中から縄文土器片、石器が出上し、石組みに砾石器が転用されていた。このうち剝片1点、礫石器8点を図示した。

3号炉（第98図）

〔遺構の確認〕4区の中央北寄りB-15・16グリットに位置している。グリットラインに沿ったトレンチを掘り下げ中、IVc層上面で炭化物がまとまって確認された。内部に焼土と焼け面が認められたため、炉であると判断された。検出部分は炉の南半部であり、北東部はSR-2によって削平されている。トレンチの北側に括がっていたものと考えられるが、SR-2河川跡による削平を受けているものと思われ、遺構の全体は不明である。トレンチの南側を拡張して炉を中心とする遺構の検出に努めたがピットや周溝等の遺構は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は直径約1.5mの不整な円形を基調としたものであると考えられる。

〔堆積土〕2層に分けられる。1層には焼土粒、炭化物が混入し、2層には多量の炭化物が混入している。

〔壁面・底面〕壁は最も保存の良い南側で9cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は火熱を受けて赤変し、硬く焼け締まっている部分も見られた。底面は平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。

〔出土遺物〕堆積土中から縄文土器が出上した。

4号炉（第98図）

〔遺構の確認〕2区の中央B-12グリットに位置している。グリットラインに沿ったトレンチを掘り下げ中、IVd層上面で焼土と焼け面が認められたため、炉であると判断された。検出部分は炉の北半部で、トレンチの南側に括がっているものと考えられたため、トレンチの南側を拡張して炉を中心とする遺構の検出に努めたが、炉以外のピットや周溝等の遺構は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長軸60cm、単軸50cmの不整な楕円形である。長軸方向はN-45°-Eである。

〔堆積土〕4層に分けられる。2層は焼土層で、3層の上面が機能面と思われる。他の層には多量の焼土、炭化物が混入している。

〔壁面・底面〕壁は機能面から2cmの高さで残存している。機能面は平坦で硬く焼け締まっている部分も見られた。

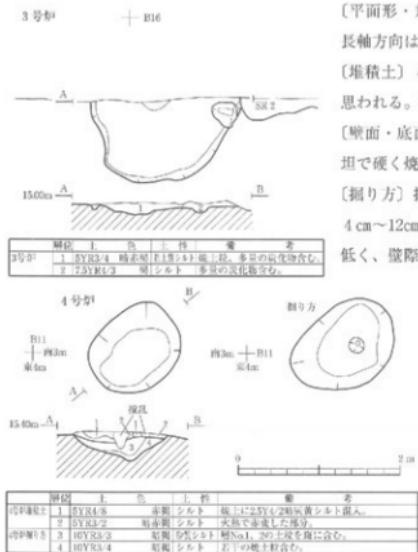
〔掘り方〕掘り方は長軸65cm、単軸50cmの不整な楕円形である。深さは4cm~12cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。中央に直径10cm、深さ8cmのピットが検出された。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

土坑

SK-19土坑（第99図）

5区の南東寄りB-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、単軸0.9mの不整な楕円形で、長軸方向はE-2°-Nである。堆積土は6層に分けら



第98図 3号炉・4号炉

れる。壁面は最も保存の良い南壁で81cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。東壁には上端から60cmの位置に段が付いている。底面は中央が凹む丸底状になっている。遺物は出土していない。

SK-20土坑（第99図）

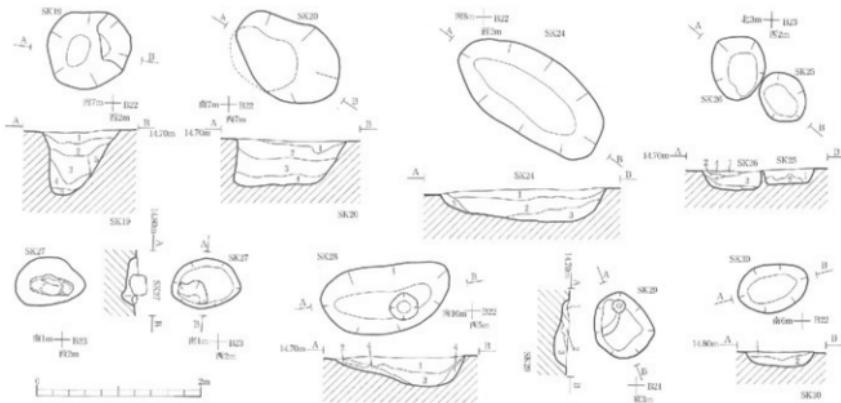
5区の中央南寄りB-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.4m、単軸1.0mの不整な梢円形で、長軸方向はW-36°-Nである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で59cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。西壁はオーバーハングしている。底面は平坦である。底面レベルは西側が低く、東側が高くなっている。縄文土器、砾石器が出土し、砾石器1点を図示した。

SK-24土坑（第99図）

5区の中央南寄りB-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸2.0m、単軸1.0mの不整な梢円形で、長軸方向はW-37°-Nである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で37cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。縄文土器、砾石器が出土し、縄文土器1点を図示した。

SK-25土坑（第99図）

5区の北東寄りA-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.65m、単軸0.55mの梢円形で、長軸方向はN-28°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西壁で19cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高くなっている。遺物は出土していない。



遺物	No.	色	土性	備考
SK-19	1	10YR5/4	褐色・シルト質	炭化物、マンゴン、10YR4/4-5(?)透彫りブロック含む。
	2	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りブロック含む。
	3	10YR5/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りブロック含む。
	4	10YR2/3	褐色	シート透彫 炭化物含む。
	5	10YR4/4	褐色・シルト質	炭化物、2.5Y4/4-5(?)透彫りブロック含む。
SK-20	6	2.5Y4/4	オリーブ・褐色・シルト質	若干の炭化物含む。
	1	10YR3/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	2	10YR4/4	褐色	褐色透彫・炭化物、マンゴン含む。
SK-24	3	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	4	10YR4/4	褐色	褐色透彫・炭化物、10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	5	10YR4/4	褐色	褐色透彫・炭化物、10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
SK-25	1	7.5YR3/3	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	2	10YR4/4	褐色	褐色透彫・炭化物含む。
SK-28	3	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	4	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	5	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	6	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	7	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
SK-29	8	10YR3/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	9	10YR3/4	褐色	褐色透彫・炭化物含む。
SK-30	10	10YR4/4	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。
	11	10YR3/2	褐色・シルト質	10YR4/4-5(?)透彫りシート質に含む。

第99図 SK-19・20・24-30土坑

SK-26土坑（第99図）

5区の北東寄りA-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、単軸0.65mの梢円形で、長軸方向はN-1° - Wである。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で29cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高くなっている。繩文土器、疊石器が出土し、繩文土器1点、疊石器1点を図示した。

SK-27土坑（第99図）

5区の東寄りB-22グリットに位置し、V層上面で確認された。遺構上面に長さ50cm、幅25cm、厚さ20cmと長さ18cm、幅10cm、厚さ6cmの疊2個が並んで検出された。平面形は長軸0.85m、単軸0.6mの不整な梢円形で、長軸方向はE-3° - Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南西壁で17cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面は二段になっており、南西部が約5cm下がっている。疊石器が出土した。

SK-28土坑（第99図）

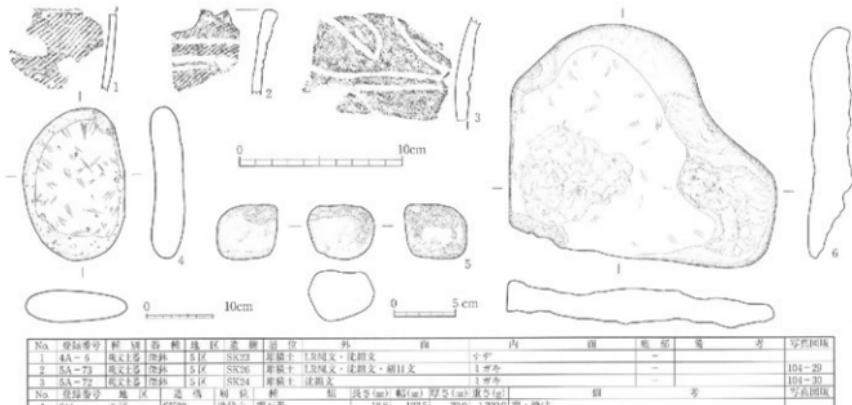
5区の中央B-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.6m、単軸0.8mの不整な梢円形で、長軸方向はE-12° - Nである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い南東壁で35cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面の南東壁際に直径35cm、深さ28cmのピットが検出された。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-29土坑（第99図）

5区の中央北寄りA-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、単軸0.7mの不整な梢円形で、長軸方向はN-12° - Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、北西部が約5cm高い。また、北壁際に直径15cm、深さ11cmのピットが検出された。疊石器が出土し、1点を図示した。

SK-30土坑（第99図）

5区の中央北側A-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.85m、単軸0.6mの梢円形で、長軸方向はE-18° - Nである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い北東壁で27cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは北東部が低く、南西部が高くなっている。遺物は出土していない。



第100図 土坑出土遺物

ビット群

5 区のV層上面で39個のビットが検出された。柱痕跡が確認されるものはない。埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性のみられるものもある。掘立柱建物として組み合う可能性の考えられるものは、A-21グリットの1棟のみであり、他には掘立柱建物として組み合う可能性の考えられるものを確認することはできなかった。ビットの堆積土中には焼土、炭化物が混入しているものもある。出土遺物は縄文土器、石器がある。

SB-15掘立柱建物跡（第70図）

5 区の中央北側A-21グリットに位置し、V層上面で確認された。位置的に1号戸、SK-29土坑との重複関係が考えられ、1号戸に關係する柱穴の可能性も考えられるが、直接の関係は不明である。東西1間、南北1間の建物跡である。南側柱列は2.2m、東側柱列は1.2m、北側柱列は2.1m、西側柱列は1.4mとやや歪んでいる。

方向は南側柱列でE-6° - Sである。遺物は出土していない。

5区V層ビット上部記録

	土色	上性	兼	考
A	10YR3/2	黒褐色	シルト質砂	炭化物少量含む。
B	10YR4/3	にふい	暗褐色	シルト質砂
C	10YR3/3	にふい	黄褐色	シルト質砂
D	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	炭化物少量含む。
E	10YR4/4	褐色	シルト質砂	
F	10YR3/2	黒褐色		

5区V層ビット下部記録

No.	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22
埋土	A	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	D	C	B
深さ	18	20	14	23	31	20	23	20	21	27	27	18	17	13	41	22	37	23	32	11	36
No.	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40			
埋土	B	B	B	C	B	B	B	B	E	B	B	C	B	B	C	B	B	C	B	B	
深さ	9	12	22	26	16	20	19	16	16	26	29	13	44	30	38	13	19	49			

遺物包含層

5 区のA・B-21～23グリットにかけてのIVb層には特に他の地区、層よりも多量に遺物が混入していたことから、遺物包含層として扱った。5区の西寄りに位置するSR-2河川跡によって西側が削平され、南北及び東側は調査区外に拡がっており、遺物包含層としての範囲は不明である。SD-1溝跡によって削平された部分がある。A・B-21～23グリットの各10mグリットを各々更に北西から南東に向かって、1～25までの2mグリットに細分して精査を行い、遺物を取り上げた。縄文土器、土製品、刷片石器、砾石器、石製品が出土している。出土遺物の時期は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものがあるが、各時期のものが混在しており、出土状況から時期的な変遷を追えるものではなかった。

遺構外出土遺物

5 区以外のIV層から出土した遺物および、各区のI～III層の遺構に属さない基本層出土遺物のうち、おもなものを図示する。各層検出の倒木痕から出土した遺物もここに掲載した。



第101図 包含層出土遺物(1)



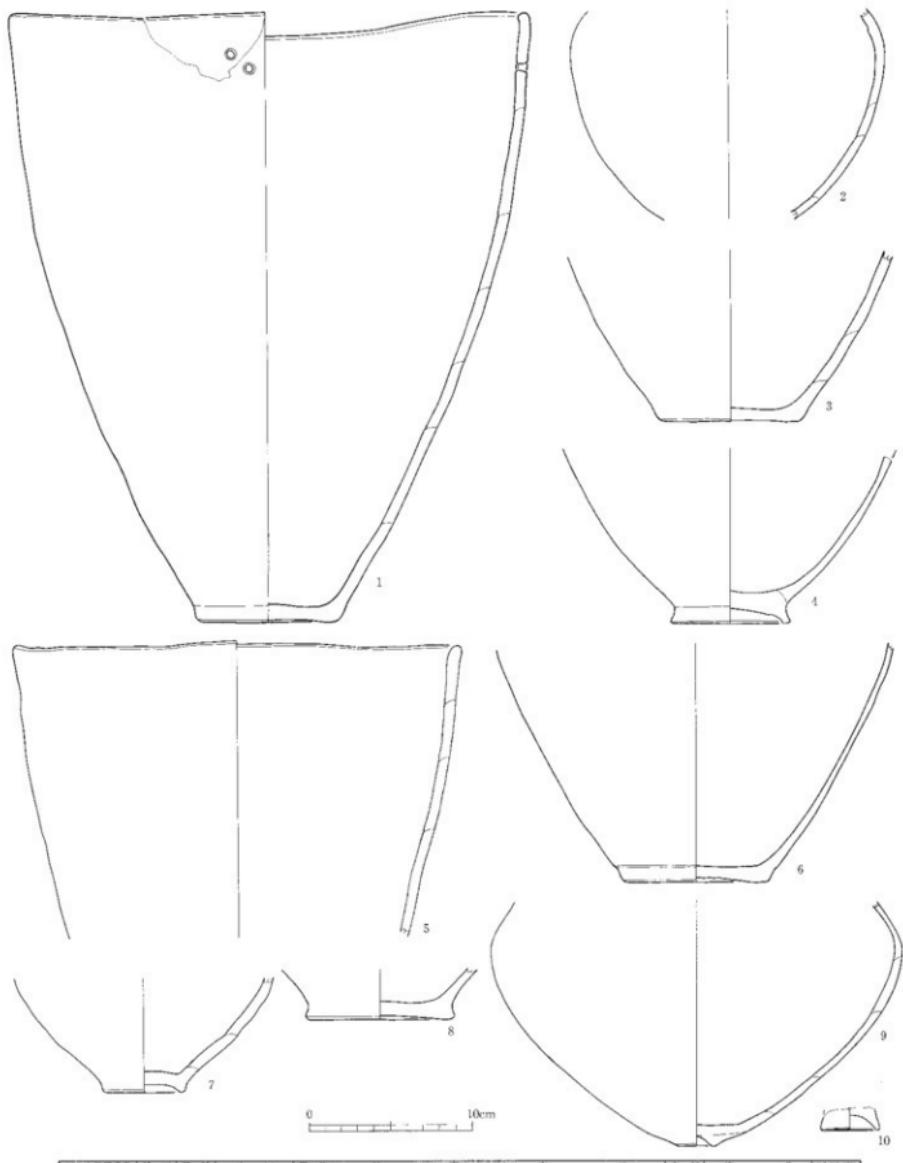
No.	器物名	種	形	施	内	面	底	部	備	考	写真頁
1	SA-1	陶文上部	5区	桶口-1-2.5cm	L形網文、波浪文、斜帶文、刺繡文	ヶ文引、直手型				101-30	
2	SA-22	陶文上部	5区	桶口-2.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文					101-31	
3	SA-33	陶文上部	5区	桶口-2.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文	ヶ文引				104-77	
4	SA-34	陶文上部	5区	桶口-2.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文	ヶ文引				104-78	
5	SA-44	陶文上部	5区	H22-17.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-29	
6	SA-52	陶文上部	5区	A22-19.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				101-40	
7	SA-53	陶文上部	5区	A22-21.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				101-41	
8	SA-60	陶文上部	5区	A22-24.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-42	
9	SA-16	陶文上部	5区	桶口-1-2.5cm	波浪文、刺繡文、斜帶文、波浪文	ヶ文引				104-43	
10	SA-55	陶文上部	5区	T22-20.5cm	波浪文、刺繡文、斜帶文、波浪文	ヶ文引				104-44	
11	SA-59	陶文上部	5区	T22-21.5cm	波浪文、刺繡文、斜帶文、波浪文	ヶ文引				104-45	
12	SA-61	陶文上部	5区	T22-22.5cm	波浪文、刺繡文、斜帶文、波浪文	ヶ文引				104-46	
13	SA-67	陶文上部	5区	S22-16.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-48	
14	SA-68	陶文上部	5区	S22-18.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-47	
15	SA-63	陶文上部	5区	S22-18cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-49	
16	SA-45	陶文上部	5区	A22-17cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				101-50	
17	SA-61	陶文上部	5区	A22-17cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				104-51	
18	SA-17	陶文上部	5区	B22-1-2.5cm	L形網文、波浪文、網繩	ヶ文引				101-52	
19	SA-89	陶文上部	5区	B22-1.5cm	波浪文、網繩	ヶ文引				101-53	
20	SA-90	陶文上部	5区	B22-3cm	波浪文、網繩	ヶ文引				101-54	
21	SA-89	陶文上部	5区	A22-25.5cm	波浪文、網繩	ヶ文引				104-54	
22	SA-35	陶文上部	5区	A22-30.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文	ヶ文引				104-55	
23	SA-54	陶文上部	5区	A22-19.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文、網繩	ヶ文引				104-56	
24	SA-41	陶文上部	5区	A22-22.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文、網繩	ヶ文引				104-57	
25	SA-30	陶文上部	5区	B22-3-8cm	L形網文、波浪文、刺繡文、網繩	ヶ文引				104-58	
26	SA-31	陶文上部	5区	A22-20.5cm	L形網文、波浪文、刺繡文、網繩	ヶ文引				104-59	
27	SA-32	陶文上部	5区	A22-10.5cm	L形網文、波浪文	ヶ文引				-	

第102図 包含層出土遺物（2）



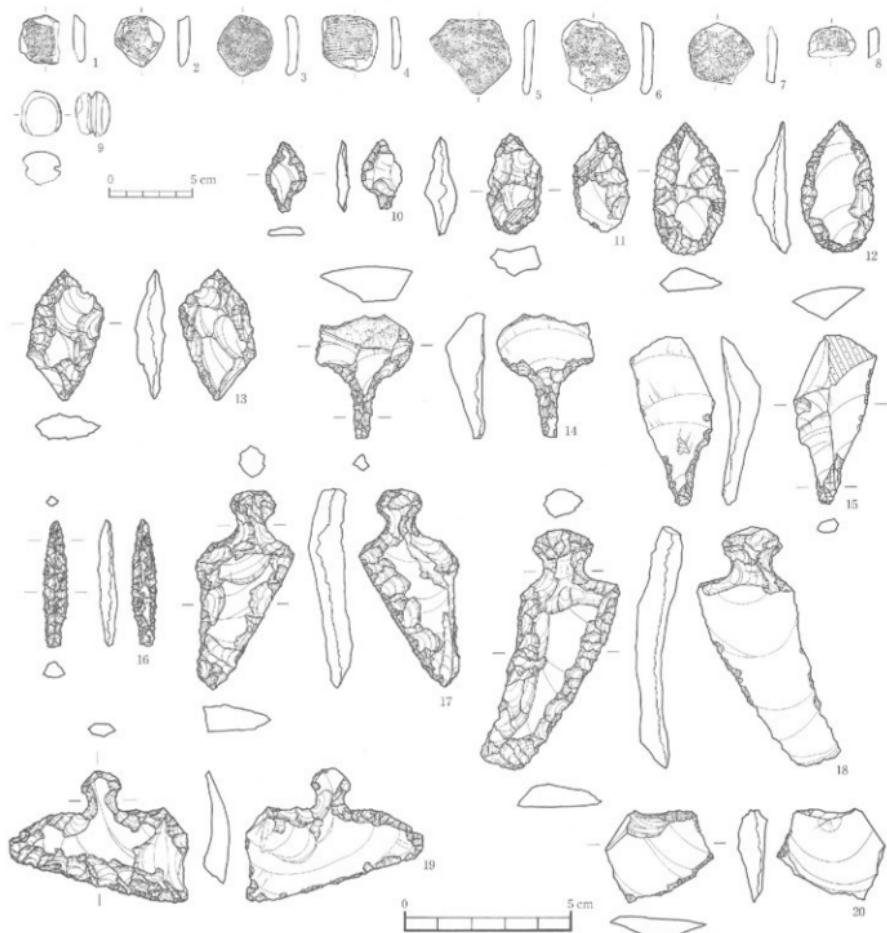
No.	登録番号	種	周	形	様	地	区	解	位	外	内	環	部	相	考	写真図版
1	SA-50	利文土器	深鉢	5	区	A27-19	5	b	鉢	鉢内文、沈縫文	支子年	-	丹地	-	-	104-59
2	SA-53	利文土器	深鉢	5	区	A27-19	5	b	鉢	鉢内文、(不明)	-	深縫文、沈縫文	-	-	104-60	
3	SA-54	利文土器	深鉢	5	区	A27-19	5	b	鉢	鉢内文、沈縫文、斜縫	支子年	-	-	-	-	
4	SA-55	利文土器	深鉢	5	区	A27-19	5	b	鉢	鉢内文、斜縫	支子年	-	-	-	-	
5	SA-57	利文土器	深鉢	5	区	A27-19	5	b	鉢	鉢内文、斜縫文、利文文	支子年	-	-	-	-	
6	SA-64	利文土器	深鉢	5	区	A27-30	万	a	鉢	鉢内文、代利文、利文文	支子年	-	-	-	104-61	
7	SA-65	利文土器	深鉢	5	区	A27-30	万	a	鉢	利文文、斜縫	支子年	-	-	-	104-62	
8	SA-70	利文土器	深鉢	5	区	A27-13	万	a	鉢	利縫文、沈縫文	支子年	-	-	-	104-63	
9	SA-67	利文土器	深鉢	5	区	A27-13	万	a	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	104-64	
10	SA-47	利文土器	深鉢	5	区	A27-18	万	a	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	104-65	
11	SA-36	利文土器	深鉢	5	区	B21-9	7	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	104-66	
12	SA-49	利文土器	深鉢	5	区	B21-17	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	-	104-67	
13	SA-5	利文土器	深鉢	5	区	B21-17	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	-	104-68	
14	SA-5	利文土器	深鉢	5	区	B21-9	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	-	104-69	
15	SA-18	利文土器	深鉢	5	区	B21-16	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	-	104-70	
16	SA-11	利文土器	深鉢	5	区	B21-22	万	鉢	利縫文	支子年	-	-	-	-	104-71	
17	SA-5	利文土器	深鉢	5	区	B21-13	万	鉢	利縫文、支子年、斜縫	支子年	-	-	-	-	-	

第103図 包含層出土遺物 (3)



No.	新羅番号	種別	器種	施 工	場 位	外 壓	内 壓	施 工	考 史	万葉類
1	SA-1	陶文上部	深鉢	2段	A21-16	ミガキ・ナマ	ナヌリ・ガゼ	—	—	104-72
2	SA-8	陶文上部	深鉢	2段	B21-16	ミガキ・ナマ	ナヌリ	—	—	—
3	SA-13	陶文上部	深鉢	3段	A21-22	ミガキ	ミガキ	磨代乳	—	—
4	SA-12	陶文上部	深鉢	3段	A21-23	ミガキ	ナヌリ	—	—	104-73
5	SA-14	陶文上部	深鉢	3段	B22-16	N無	ミガキ・ナマ	ナヌリ・ミガキ・ナマ	—	104-74
6	SA-17	陶文上部	深鉢	3段	A21-16	ミガキ	ミガキ	磨代乳	—	104-74
7	SA-16	陶文上部	深鉢	3段	B21-14	N無	ミガキ	ナヌリ	磨代乳	—
8	SA-18	陶文上部	深鉢	3段	A22-19	ミガキ	ミガキ	—	—	—
9	SA-20	陶文上部	深鉢	3段	B21-19	ミガキ	ミガキ	ナヌリ	—	—
10	SA-21	陶文上部	深鉢	3段	B21-20	ミガキ	ミガキ	磨造	—	104-73

第104図 包含層出土遺物 (4)



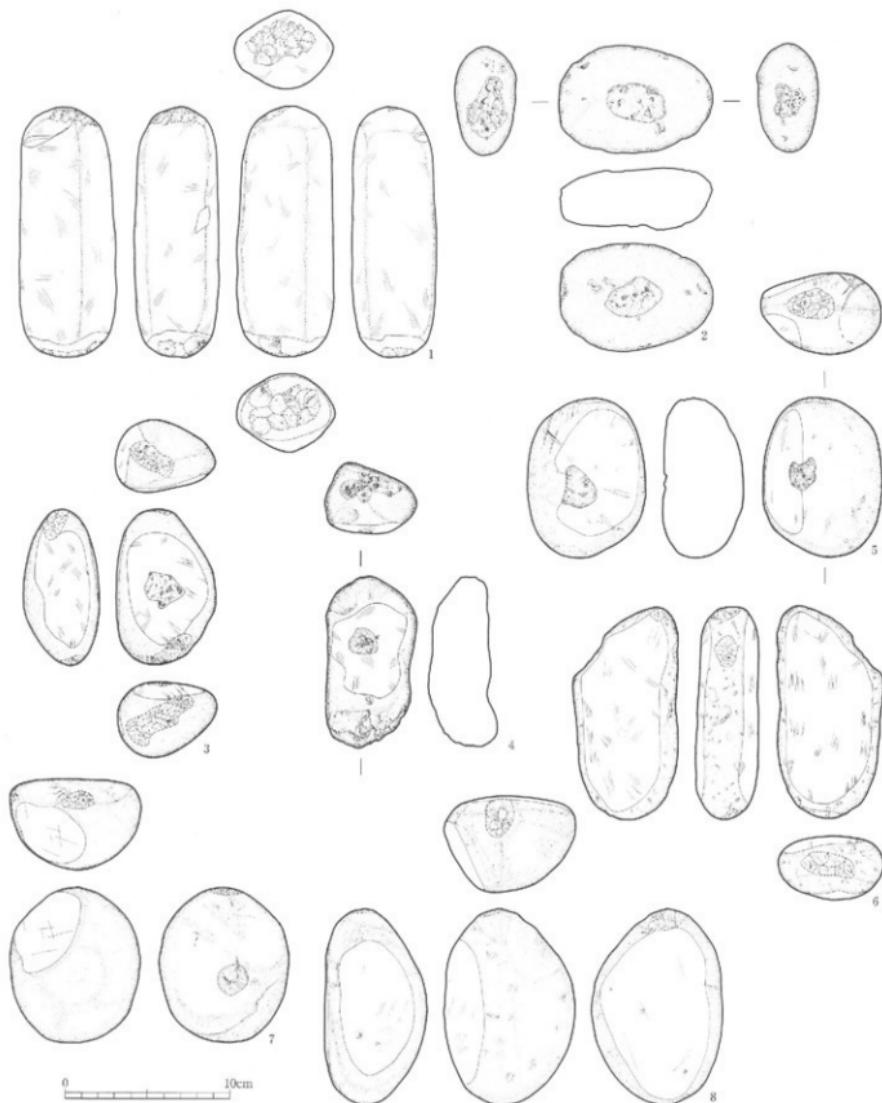
No.	發現場所	種	規	形	長(厘米)	厚(厘米)	重(克)	標(厘米)	重(克)	年(西曆)
1	SP-2	三明石	R:h薄	石核	20.0	25.0	86	6.5	105-37	11-129-52
2	SP-2	三明石	R:h薄	石核	31.0	33.0	66	6.5	105-38	11-129-50
3	SP-8	三明石	R:h薄	石核	37.0	33.0	66	8.0	105-39	11-129-49
4	SP-9	三明石	R:h薄	石核	33.0	50	77	10.5	40	11-129-48
5	SP-10	三明石	R:h薄	石核	45.0	49.0	5.5	13.1	105-41	11-129-47
6	SP-11	三明石	R:h厚	石核	27.0	27.0	36	4.0	60	11-129-46
7	SP-12	三明石	R:h厚	石核	36.0	36.0	60	5.0	105-45	11-129-45
8	SP-3	三明石	R:h厚	石核	19.0	26.0	60	5.0	105-44	11-129-44
9	SP-13	土鉢	R:h厚	石核	28.0	25.0	21.6	13.8	105-34	11-129-43
10	SP-14	三明石	R:h厚	石核	22.0	22.0	28	0.7	-	105-42
11	SP-15	三明石	R:h厚	石核	27.0	27.0	20	-	-	105-41
12	SP-16	三明石	R:h厚	石核	37.0	37.0	27	2.0	-	105-40
13	SP-17	三明石	R:h厚	石核	30.0	22.0	97	2.0	-	105-39
14	SP-18	三明石	R:h厚	石核	39.5	20.0	85	5.7	-	105-38
15	SP-19	三明石	R:h厚	石核	37.5	30.0	116	7.2	-	105-60
16	SP-20	三明石	R:h厚	石核	31.0	22.0	98	7.5	-	105-61
17	SP-21	三明石	R:h厚	石核	38.5	7.5	56	1.0	-	105-62
18	SP-22	三明石	R:h厚	石核	31.0	30.0	156	4.1	-	105-63
19	SP-23	三明石	R:h厚	石核	23.0	30.0	95	30	-	105-66
20	SP-24	三明石	R:h厚	石核	24.0	33.0	9	14.0	-	105-67
21	SP-25	三明石	R:h厚	石核	27.0	32.0	63	4.5	-	105-70

第105圖 包含層出土遺物(5)



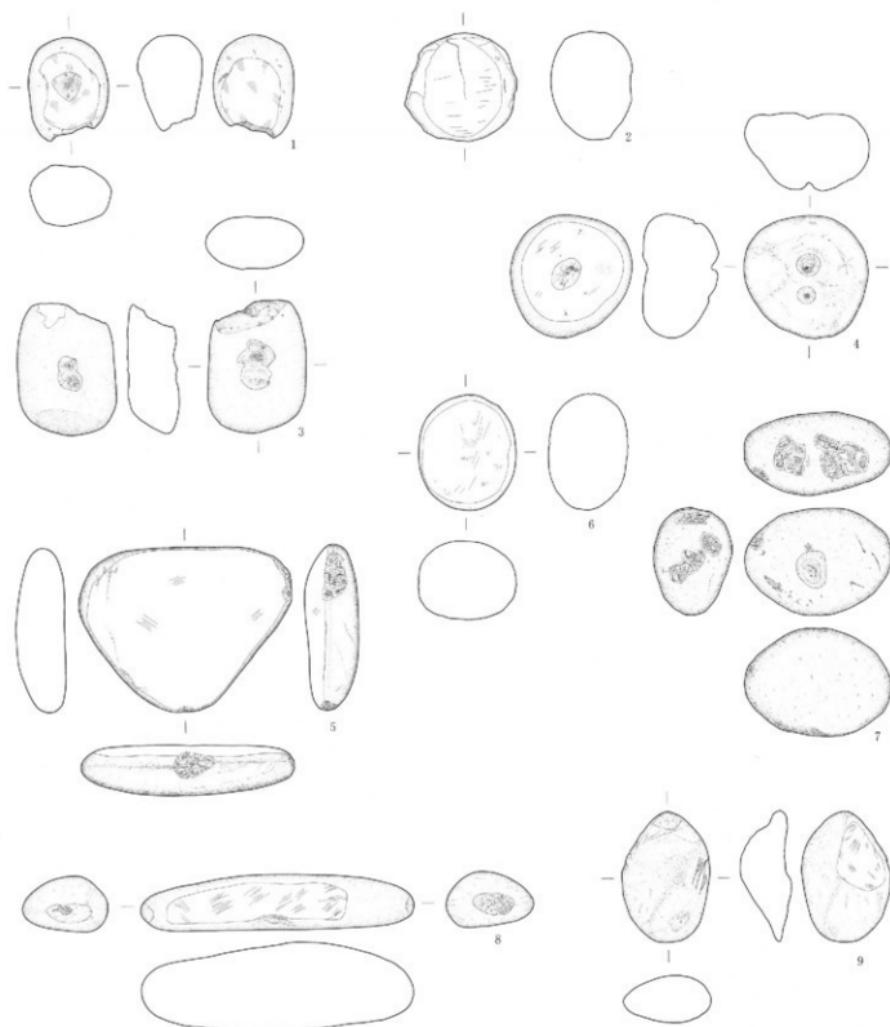
第106図 包含層出土遺物 (6)

No.	發現場所	期	出 現 地 点	種 類	形 態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考	参考文献
1	5区	A21-26	Ⅰb層	スクレーパー	26.0	37.5	13.0	24.6			105-74
2	429	5区	B21-12	Ⅰb層	スクレーパー	26.5	51.5	15.0	26.2		105-70
3	313	5区	B21-3-8	Ⅰb層	スクレーパー	29.5	51.0	14.5	33.5		105-77
4	406	5区	B21-7	Ⅰb層	刮削器	32.0	32.0	17.0	16.0	微細刃部無	106-5
5	405	5区	B21-7	Ⅰb層	刮削器	49.5	36.0	13.5	19.0	微細刃部無	106-6
6	373	5区	A21-22	Ⅰb層	刮削器	43.0	56.0	9.2	19.4	微細刃部無	106-7
7	452	5区	B21-3-8	Ⅰb層	砾石器	106.0	105.0	8.0	896.0		



第107圖 包含層出土遺物 (7)

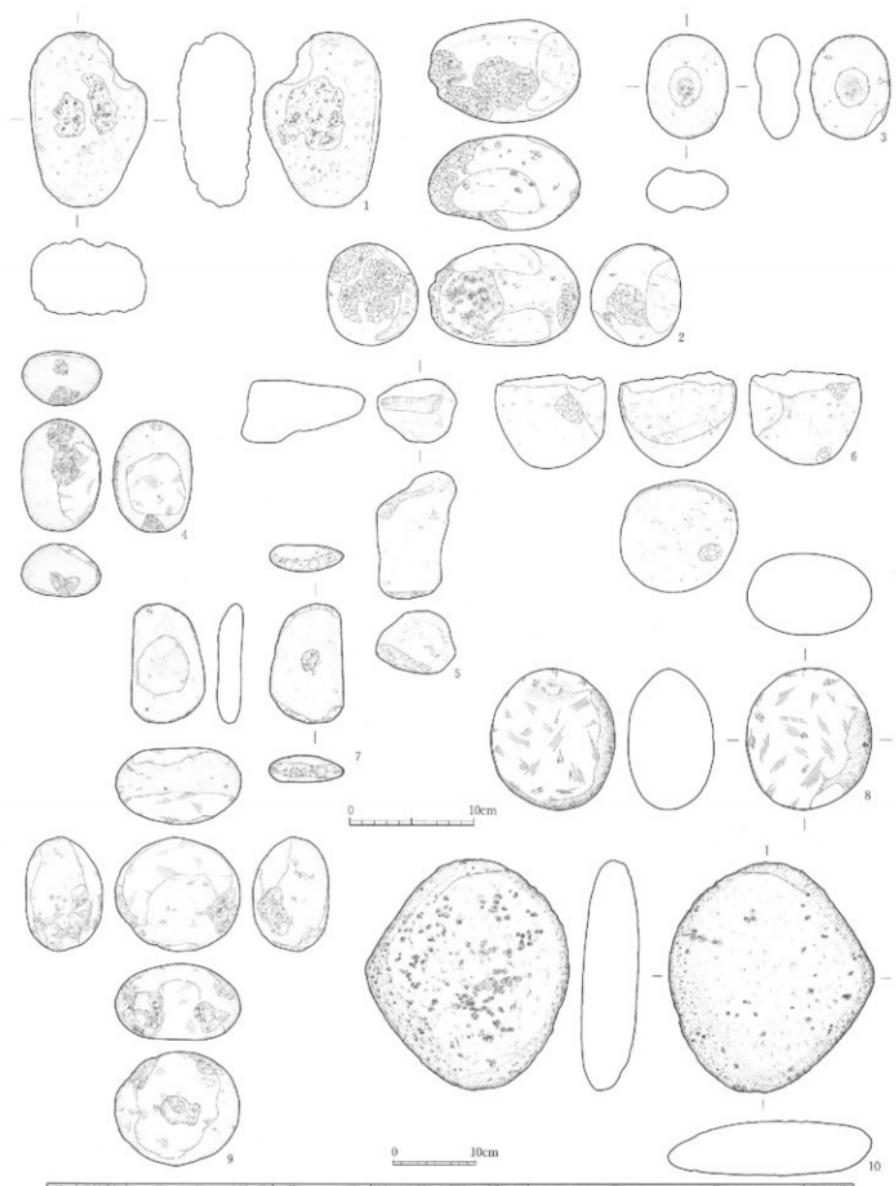
No.	登錄號	地 區	種 類	規 格	形 狀	長(cm)	寬(cm)	厚(cm)	重(g)	目 錄	考 證
1 440	5(4)	B22 - 4	石 器	磨石器	115.1	60.0	4.5		66 - 29		
2 441	5(4)	B21 - 1 - 2	石 器	磨石器	94.0	65.5	34.0	289.6	66 - 29		
3 450	5(4)	B21 - 2 - 2	石 器	磨石器	95.0	65.0	45.0	318.2	66 - 29 · 舊		
4 456	5(4)	B21 - 1 / 2	石 器	磨石器	106.0	57.0	42.0	338.5	66 - 29 · 舊		
5 448	5(4)	B21 - 16 / 2	石 器	磨石器	98.5	73.0	56.8	650.0	66 - 29 · 舊		
6 463	5(4)	A21 - 28 / 2	石 器	磨石器	131.0	64.5	35.0	422.7	66 - 29		
7 468	5(4)	A22 - 21 / 2	石 器	磨石器	98.0	80.0	58.5	900.0	66 - 29 · 舊 · 烧土全面		
8 471	5(4)	A22 - 36 / 2	石 器	磨石器	125.0	85.5	58.0	713.5	66 - 29		



0 10cm

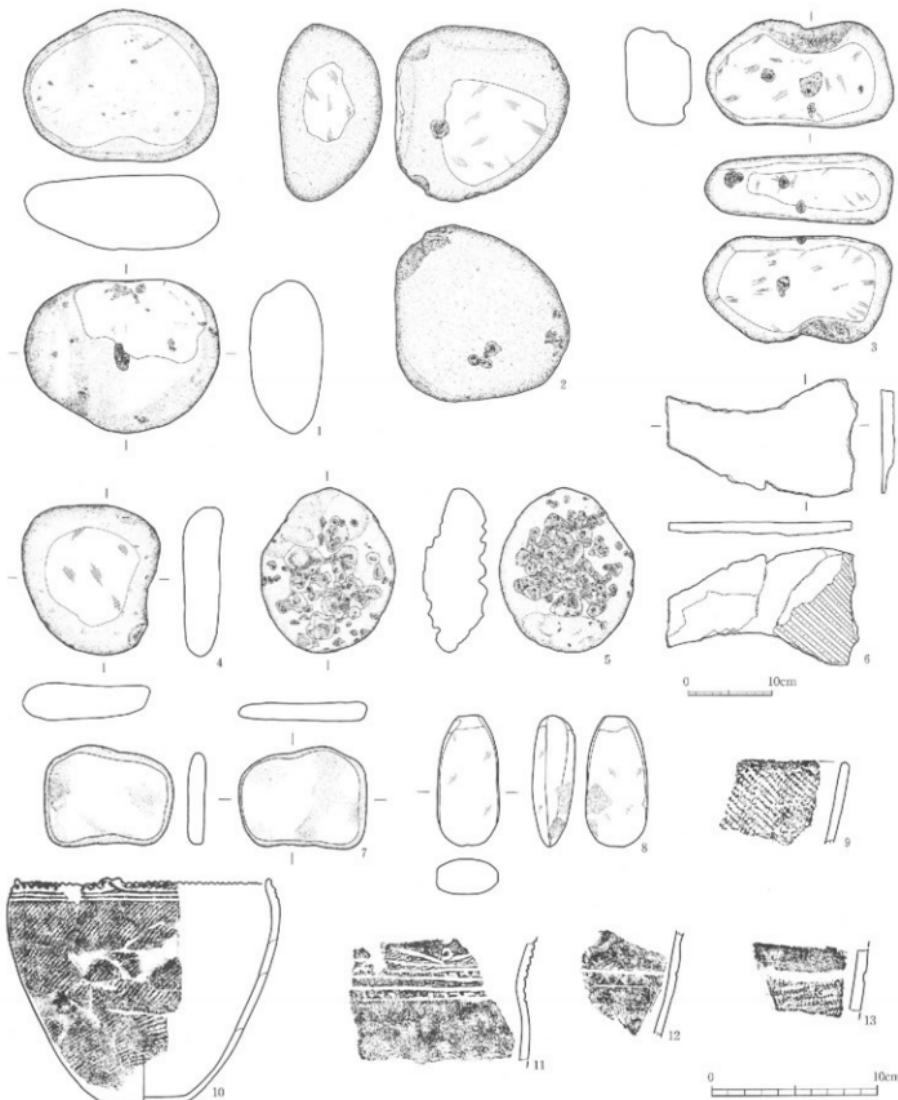
No.	發掘番號	地 區	層 位	編 號	種 類	長(L) (m)	寬(W) (m)	厚(S) (m)	重(S) (g)	備 註	考 證	写真張數
1	476	5.4K	A22-17	R層	磨石器	185.5	66.0	53.0	(349.6)	物·圓		
2	489	5.4K	A21-22	R層	磨石器	86.0	91.0	67.5	740.0	物·橫計		
3	495	5.4K	E21-1	R層	磨石器	111.0	81.0	63.0	826.8	物·橫計		
4	500	5.4K	A22-23	R層	磨石器	119.0	100.0	66.0	1030.0	物·圓		
5	507	5.4K	E22-23	R層	磨石器	172.0	135.0	41.0	1330.0	物·圓		
6	510	5.4K	A21-16	R層	磨石器	95.0	70.0	64.0	624.1	物·橫計		
7	526	5.4K	E22-15	R層	磨石器	119.0	88.5	64.0	762.8	物·圓		
8	529	5.4K	E21-19	R層	磨石器	222.0	45.5	74.0	1035.0	物·圓		
9	540	5.4K	E21-13	R層	磨石器	167.5	72.5	39.0	129.2	物·橫計		

第108圖 包含層出土遺物 (8)



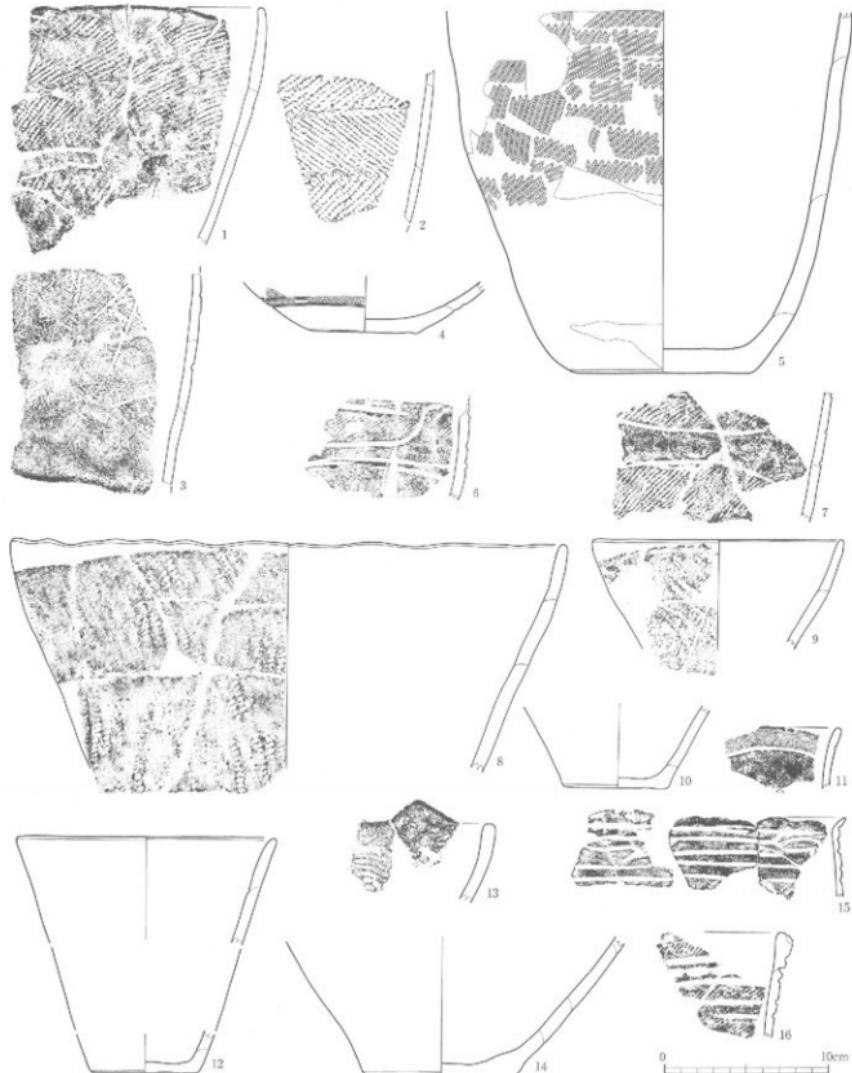
No.	器物形態	地	方	層	類	圖	長(L)cm	幅(W)cm	厚(T)cm	重(G)g	寫真照相
1 324	5K	B21 - 2	2	b6a	砾石器	143.5	95.0	6.0	879.1	兩	
2 335	5K	B21 - 8	2	b6a	砾石器	123.0	84.0	7.4	1104.5	君一鐵・兩	
3 543	5K	B21 - 13	2	b6a	砾石器	186.0	63.5	3.2	234.8	兩	
4 507	5K	B21 - 11	2	b6a	砾石器	92.0	65.0	4.0	378.5	君一鐵・四	
5 342	5K	B21 - 13	2	b6a	砾石器	140.0	63.5	3.2	399.6	兩	
6 362	5K	B21 - 13	2	b6a	砾石器	177.0	54.0	3.2	93.0	君一鐵・鐵	
7 324	5K	B21 - 22	2	b6a	砾石器	160.0	60.0	3.0	181.0	君一鐵	
8 594	5K	B21 - 3	8	b7a	砾石器	116.0	102.5	7.0	1479.5	君二鐵	
9 379	5K	B22 - 5	2	b6a	砾石器	102.0	93.0	6.0	945.1	君一鐵・兩	
10 511	5K	B21 - 22	2	b6a	石器	287.0	250.0	6.0	5300.0		

第109図 包含層出土遺物 (9)



No.	發現地點	期	區	層	灰	加	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真番號
1 473	5区	E21-4	新石器	石斧			238.0	189.5	90.5	5,650.0	鉋・圓	
2 494	5区	E22-17	新石器	磨石器			212.0	217.0	121.0	8,000.0	鉋・圓	
3 539	5区	E21-13	新石器	磨石器			230.0	133.0	86.0	4,100.0	鉋・圓・圓	
4 582	5区	E21-21	新石器	磨石器			186.0	167.0	68.0	2,223.0	鉋	
5 543	5区	E21-13	新石器	磨石器			160.0	145.0	72.0	1,080.0	鉋	
6 543	5区	E22-3	新石器	石具			(231.0)	(144.0)	(19.0)	(673.0)	鉋・圓	
7 544	5区	E21-13	新石器	石具			62.5	78.5	12.5	75.3		106-37
8 437	5区	(E21-17-18)	新石器	磨石器			80.5	38.0	21.0	120.1		106-34
9 1A-27	漢文化	深井	1区	B2-24	瓦器	瓦器文					ナガ・ミナリ	
10 1A-	漢文化	深井	1区		瓦器	瓦器文・瓦器文・鉢底削り目					瓦器	101-76
11 1A-26	漢文化	深井	1区	A2-25	瓦器	瓦器文・瓦器文					瓦器	101-77
12 1A-26	漢文化	深井	1区	A2-21	瓦器	瓦器文					瓦器	-
13 1A-25	漢文化	深井	1区	B2-30	瓦器	瓦器文・瓦器文					瓦器	-

第110図 包含層(10)他地区IV層出土遺物(1)



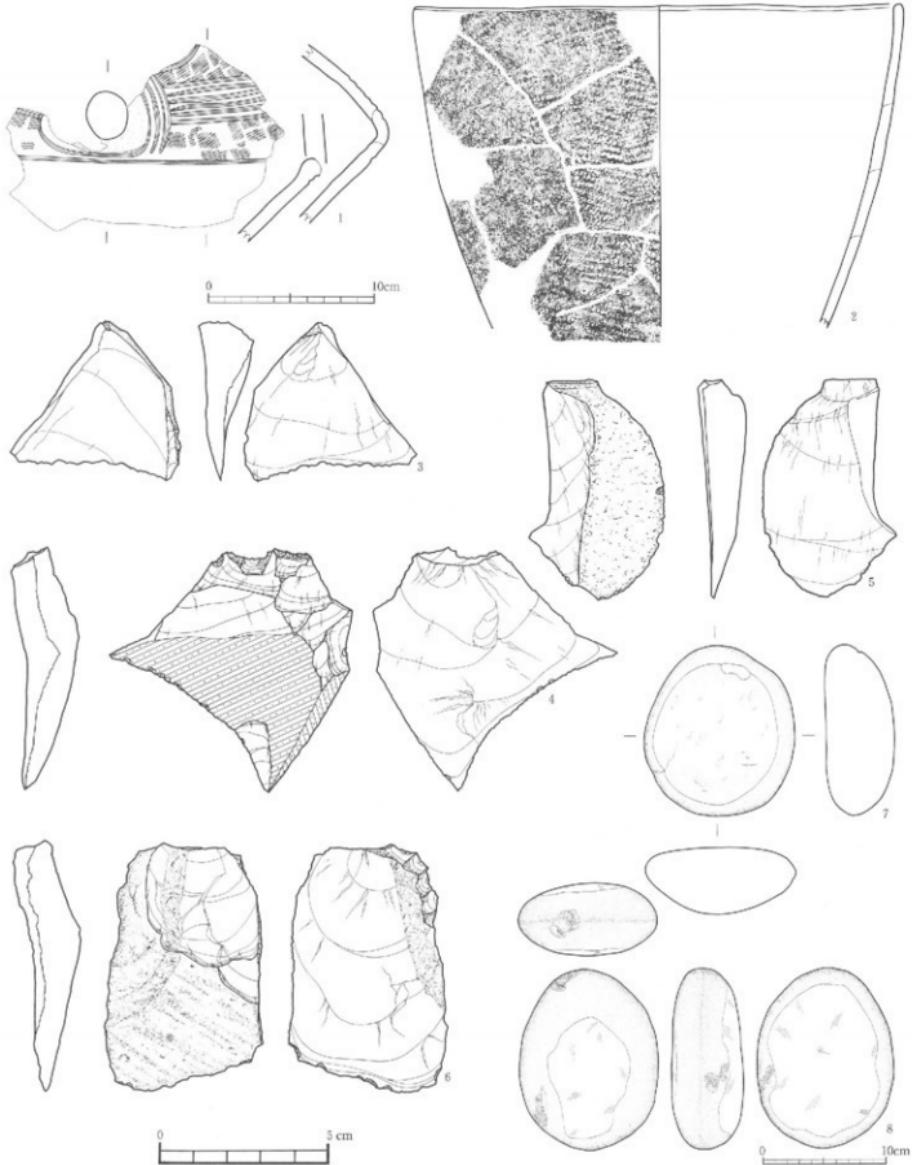
No.	發現番号	種類	發 現 地 區	層 位	外 形	内 部 形 狀	出 土 場 所	考 證	参考
1	IA-29	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	上凹文·沈織文	文考	-	
2	IA-28	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	文考	-	104-78
3	IA-27	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	文考	-	
4	IA-8	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
5	IA-8	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
6	IA-2	陶文片	澱縣	1区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	104-79
7	2A-7	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	104-80
8	2A-6	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	104-81
9	2A-5	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
10	2A-4	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	104-82
11	3A-7	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
12	3A-6	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
13	3A-5	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
14	3A-6	陶文片	澱縣	2区	直壁下 口沿	二凹·沈織文	テテ	-	
15	4A-14	陶文片	澱縣	4区	直壁下 口沿	二凹·沈織文·利引文·利利形刻划文	利城	-	104-93
16	4A-1	陶文片	澱縣	4区	直壁下 口沿	二凹·沈織文·利引文·利利形刻划文	利城	-	

第111図 他地区IV層出土遺物 (2)



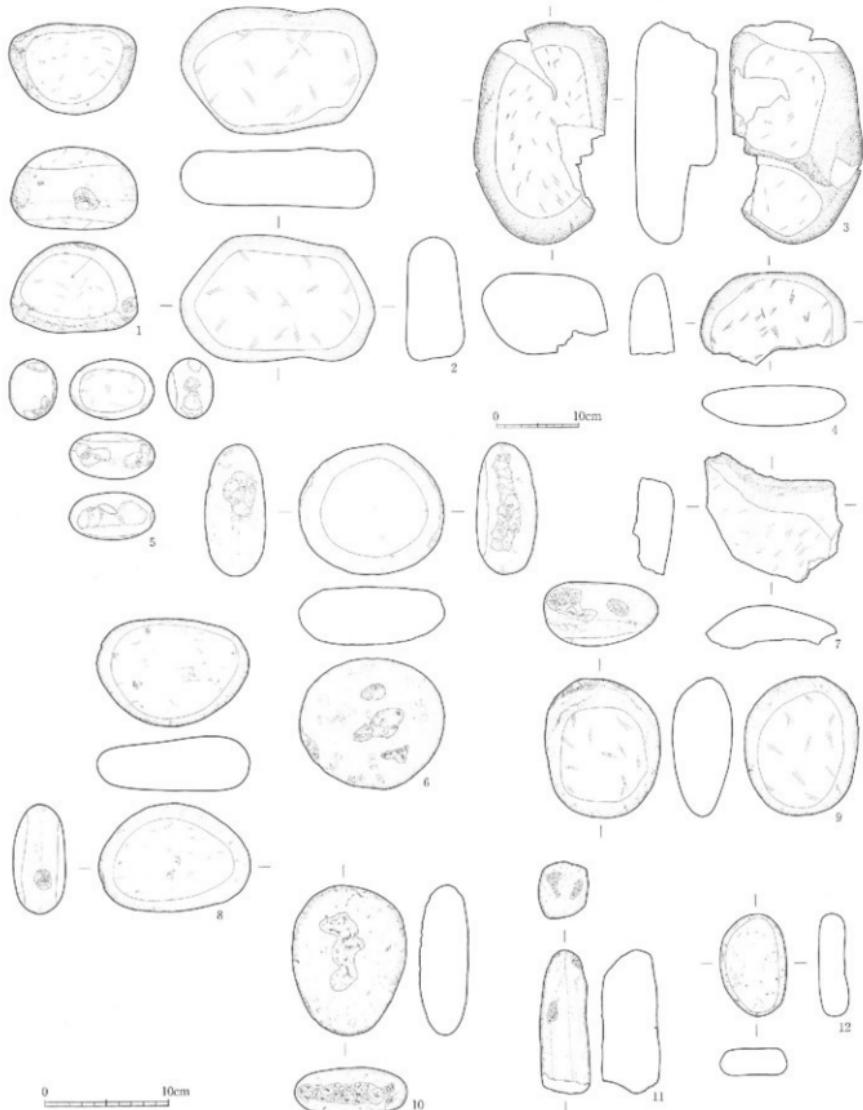
No.	登録番号	種	目	科	地	区	種	位	外	内	固	形	備	考	写真/図版
1	4-A-1	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-81
2	4-A-2	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-82
3	4-A-17	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-84
4	4-A-16	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-85
5	4-A-18	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-86
6	4-A-8	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-87
7	4-A-9	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-88
8	4-A-10	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-89
9	4-A-11	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-90
10	4-A-12	蘭科	ラン科	ラン科	日本	本州	ラン科	ラン科	葉表面	葉裏面	葉肉	葉脈	-	-	104-91
No.	登録番号	種	目	科	地	区	種	位	長(身)	幅(身)	厚(身)	身重(身)	備	考	写真/図版
11	45	三色草	ムカシスリ	ムカシスリ科	日本	本州	ムカシスリ	ムカシスリ	31.0	22.0	5.0	5.5g	タール付根	-	105-1

第112図 他地区Ⅳ層出土遺物 (3)



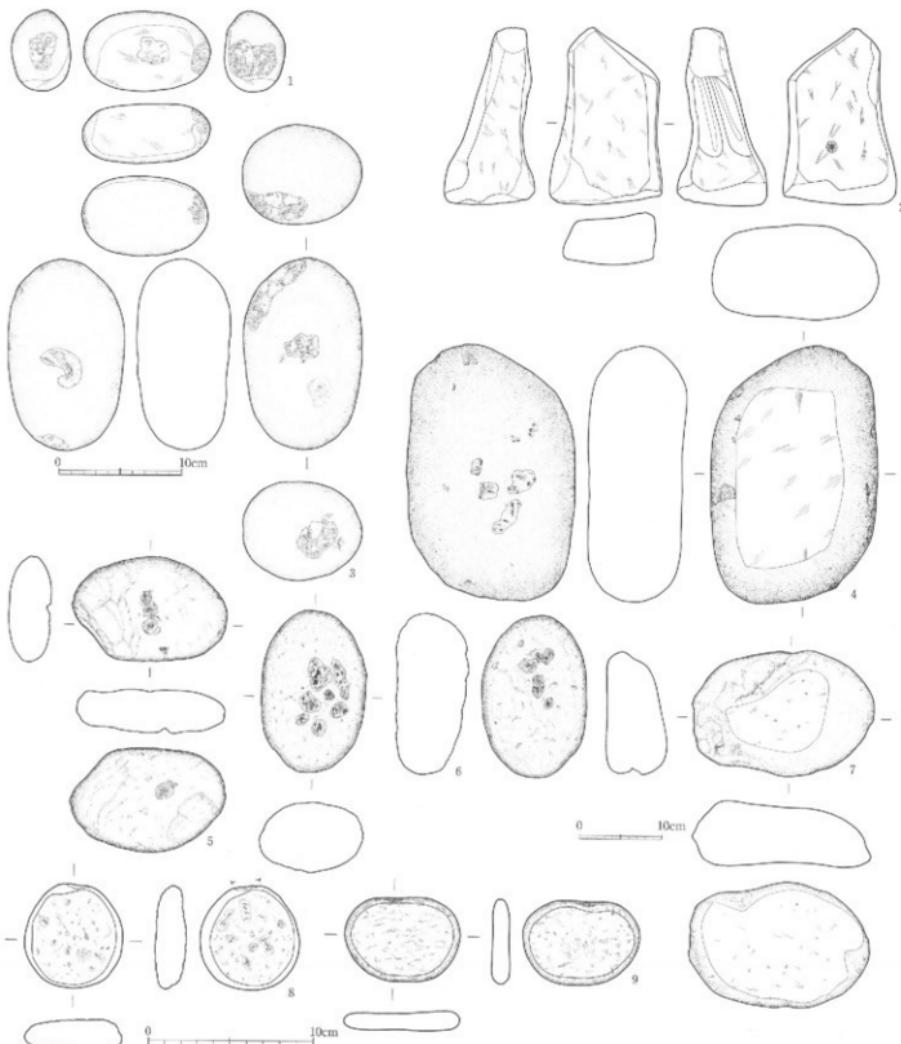
No.	登錄番号	種	判明	施	施	施	施	施	施	考	分類別
1	A-3	陶文1型 直口	片	4区	B16	石器	及同文、龙纹、三字等	打制	-	-	105-1
2	(A-2)	陶文1型 深腹	4区	B15-7	石器	及同文	-	-	-	-	105-2
3	133	石	直口	22区	石器	及同文	打制	52.0	16.0	30.0	石器
4	13	石	直口	9-11区	石器	及同文	打制	73.5	24.0	16.0	石器
5	14	石	直口	9-11区	石器	及同文	打制	98.5	40.0	13.2	石器
6	92	石	直口	24区	石器	及同文	打制	75.0	40.0	13.5	石器
7	30	石	直口	2-23区	石器	及同文	打制	100.5	12.0	56.0	1300.0
8	34	石	直口	2-22区	石器	及同文	打制	148.5	17.0	58.0	1370.0

第113図 他地区IV層出土遺物(4)



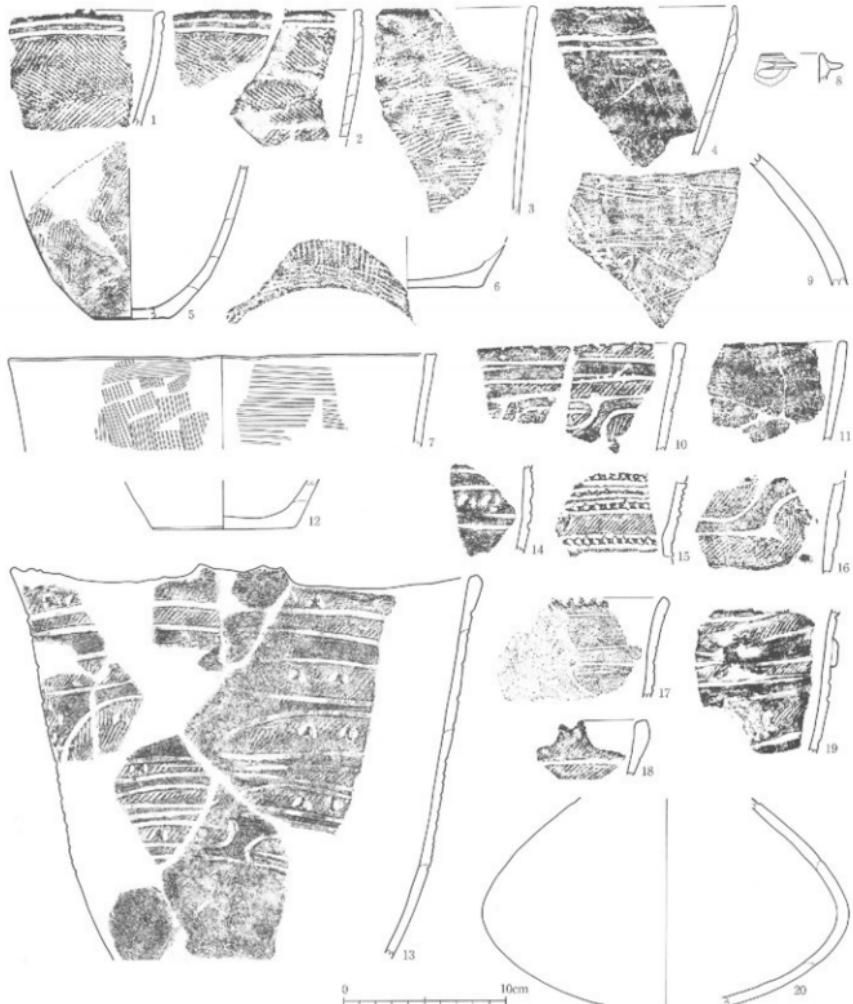
第114図 他地区IV層出土遺物 (5)

No.	地點番号	地 区	層 面	層 位	種 類	形	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	考	写真図版
1 31		1区	A2-25下層陶瓦層		磨石器	163.5	74.5	6.0	775.0	南・西		
2 104		2区	B11-3・8・10・11層		磨石器	158.5	104.5	4.0	1350.0	南・東		
3 114		2区	B12-2・7・11・12層		磨石器	276.0	163.0	10.0	5300.0	南		
4 93		2区	B11-8・12・13・14層		磨石器	160.5	114.0	5.0	1090.0	南・北		
5 110		2区	B11-21・22・23層		磨石器	69.0	50.0	3.0	187.4	南・北		
6 107		2区	B11-5-19・20・21層		磨石器	118.0	107.5	4.0	774.0	南・北・西		
7 97		2区	B11-17・18・19・20・21層		磨石器	120.0	117.0	5.0	1365.0	(南)		
8 142		2区	B12-21・22・23層		磨石器	125.0	89.5	4.0	752.0	南・西		
9 143		2区	B12-21・22・23層		磨石器	114.0	93.0	4.5	717.0	南・西		
10 153		2区	B13-4・9・10・11層		磨石器	122.5	91.0	3.0	631.8	南・西		
11 179	4区	B14-4・9・10・11層			磨石器	118.0	40.5	4.0	319.0	南		
12 192	4区	B16-4・9・10・11層			磨石器	83.0	54.0	3.5	165.0	南		



No.	型式番号	基	区	場	位	積	積 (m ³)	體積 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	備考	写真図版
1	210	4	区	B13	斜面	礫石部	364.0	96.0	47.0	224.0	青・緑・白	
2	217	4	区	B16	中央トレンチ	石板	226.0	136.0	105.0	3250.0	青・白	197-1
3	182	4	区	B13-5-10	斜面	礫石部	152.0	96.0	78.0	1750.0	青・白	
4	222	4	区	B13-5	斜面	礫石部	317.0	200.0	118.0	11500.0	青・白	
5	221	4	区	B16	中央トレンチ	石板	161.5	129.0	52.5	1,160.0	青	
6	189	4	区	B16-2-7	石板	216.0	127.5	89.0	2,965.0	青	106-20	
7	213	4	区	B15	石板	222.5	154.5	83.5	4,388.0	青		
8	216	4	区	B16	中央トレンチ	石板	61.0	60.5	19.5	94.0		106-28
9	181	4	区	B13-5-10-2	斜面	石板	330.0	71.0	11.0	71.0		106-29

第115図 他地区IV層出土遺物 (6)



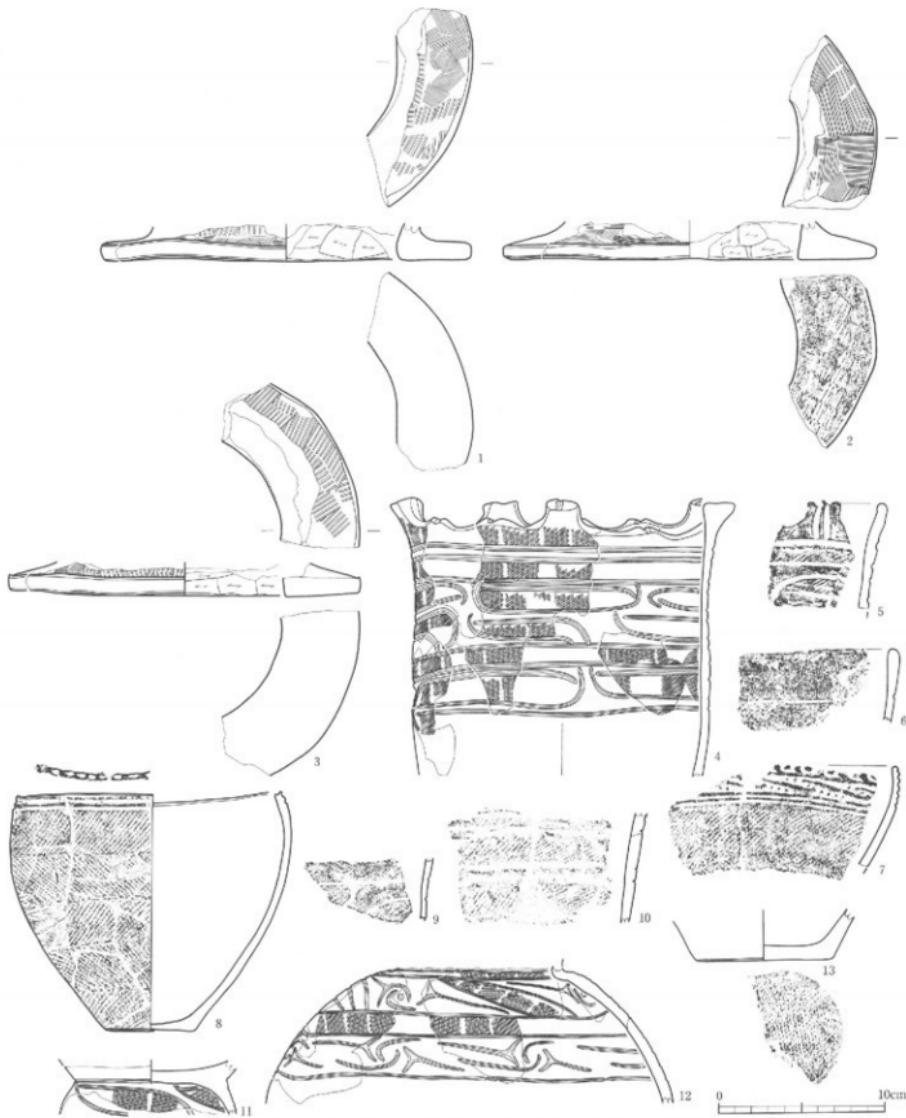
No.	遺物番号	種	別	名	規	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	施	写真枚数
1	JA-5	陶土	器	深鉢	1区		丸。T支脚文・浅鉢文		ミガキ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-3
2	JA-2	陶土	器	深鉢	1区	B2	直脚	L.R網文・沈溝文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-4	
3	JA-2	陶土	器	深鉢	1区			L網文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
4	JA-11	陶土	器	深鉢	1区	B5	T脚	L.R網文・沈溝文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
5	JA-7	陶土	器	深鉢	1区			L網文	L.R網文・ケヌリ	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-		
6	JA-5	陶土	器	深鉢	1区			L網文	ミガキ	ナメ	-	-	-	-	-	-	-	-		
7	IC-2	陶土	器	深鉢	1区			ハゲ文	ハゲ文	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8	ID-2	陶土	器	深鉢	1区			ロクロ	ロクロ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
9	IE-1	陶土	器	深鉢	1区			ハゲ文	ナメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-5	
10	JA-2	陶土	器	深鉢	2区		T脚	L.R網文・沈溝文・口斜削削目文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-6	
11	JA-1	陶土	器	深鉢	2区		T脚	ミガキ	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-7	
12	JA-1	陶土	器	深鉢	2区		T脚	ミガキ	ケヌリ・ミガキ	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	105-8	
13	JA-2	陶土	器	深鉢	2区		T脚	丸。T支脚文・沈溝文・網空文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-9	
14	JA-6	陶土	器	深鉢	2区		T脚	丸。T支脚文・沈溝文・網空文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-10	
15	JA-4	陶土	器	深鉢	2区		T脚	丸。T支脚文・沈溝文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105-11	
16	JA-4	陶土	器	深鉢	2区		T脚	丸。T支脚文・口斜削削目文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
17	JA-2	陶土	器	深鉢	3区			ミガキ	ミガキ文・浅鉢文・網空文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	105-12	
18	JA-1	陶土	器	深鉢	3区			ミガキ	ミガキ文・浅鉢文・沈溝文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	105-13	
19	JA-3	陶土	器	深鉢	3区			ミガキ	ミガキ文・浅鉢文・沈溝文	ミガキ	-	-	-	-	-	-	-	-	105-14	
20	JA-5	陶土	器	金	3区			ミガキ	ミガキ	ケヌリ・ミガキ	ミガキ	-	白鳥財物貯藏	-	-	-	-	-	105-15	

第116図 遺構外出土遺物(1)



No.	器物名	種類	器種	地	文	質	位	形	内	底	外	写真図版
1	2A-2	呂支文鋸	鋸鉢	2区	裏面	サヌリ・ミガキ			ナダ・ミガキ			
2	3A-1	呂支文鋸	鋸鉢	2区		ミガキ			ミガキ			
3	3A-2	呂支文鋸	鋸鉢	2区		ミガキ			ミガキ			
4	3A-3	呂支文鋸	鋸鉢	2区		ミガキ			ミガキ			
5	3A-4	呂支文鋸	鋸鉢	2区		ミガキ			ミガキ			
6	5D-3	上縁付鋸	鋸鉢	3区		ミガキ			ミガキ			
7	5D-3	上縁付鋸	鋸鉢	3区		ミガキ			ミガキ			
8	5D-3	上縁付鋸	鋸鉢	3区		ミガキ			ミガキ			
9	4A-2	呂支文鋸	鋸鉢	1区		ミガキ			ミガキ			
10	4A-7	呂支文鋸	鋸鉢	1区		ミガキ			ミガキ			
11	4B-16	十輪文	鋸鉢	4区	底	目網			ミガキ・黒色透滑			103-12
12	4B-1	十輪文	鋸鉢	4区	底	目網			ミガキ			
13	4B-1	十輪文	鋸鉢	4区	底	目網			ミガキ			
14	1B-1	上縁付鋸	鋸鉢	4区	底	ハヌメ			ナダ			

第117回 遺構外出土遺物（2）



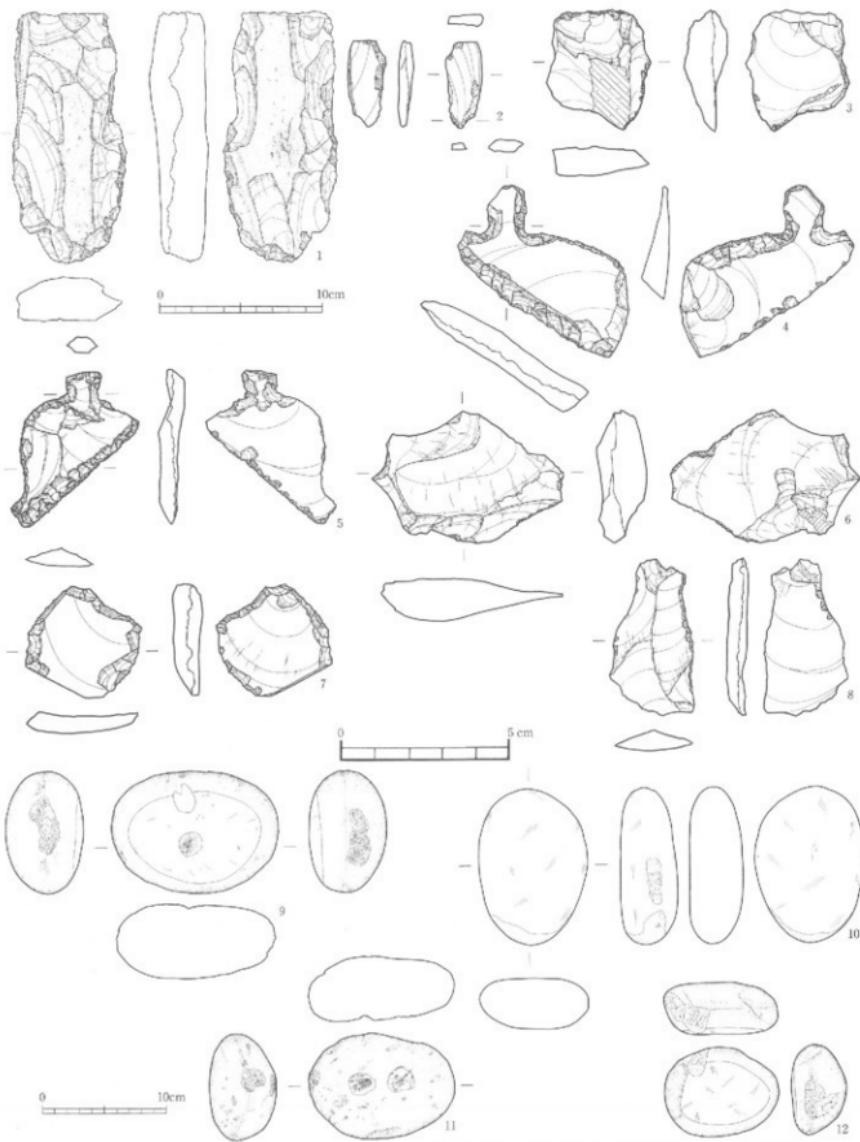
No.	発掘番号	地 図	施 設	地 区	出 土	性 質	内 容	内 面	底 面	端 面	考 證	写真
1	SA-1	上野原 2	石器	4区	1面	ハセメ・ナゲ	ナゲリ	-	-	-	-	1
2	SA-2	上野原 2	石器	4区	1面	ハセメ・ナゲ	ナゲリ	-	-	-	-	2
3	SA-3	上野原 2	石器	4区	1面	ハセメ	ナゲリ	-	-	-	-	3
4	SA-4	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-15	4
5	SA-5	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-16	5
6	SA-6	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-17	6
7	SA-7	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」・「鉈頭文」・「口付導引文」	ナゲ	-	-	105-18	7
8	SA-8	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-19	8
9	SA-9	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-20	9
10	SA-10	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-21	10
11	SA-11	竹付路	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「沈殿文」	ナゲ	-	-	105-22	11
12	SA-12	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「鉈頭文」・「鉈頭二叉文」	ナゲ	-	-	105-23	12
13	SA-13	成吉 1号	石器	5区	2面	石器	「ナゲ」	ナゲ	-	-	105-24	13

第118図 遺構外出土遺物 (3)



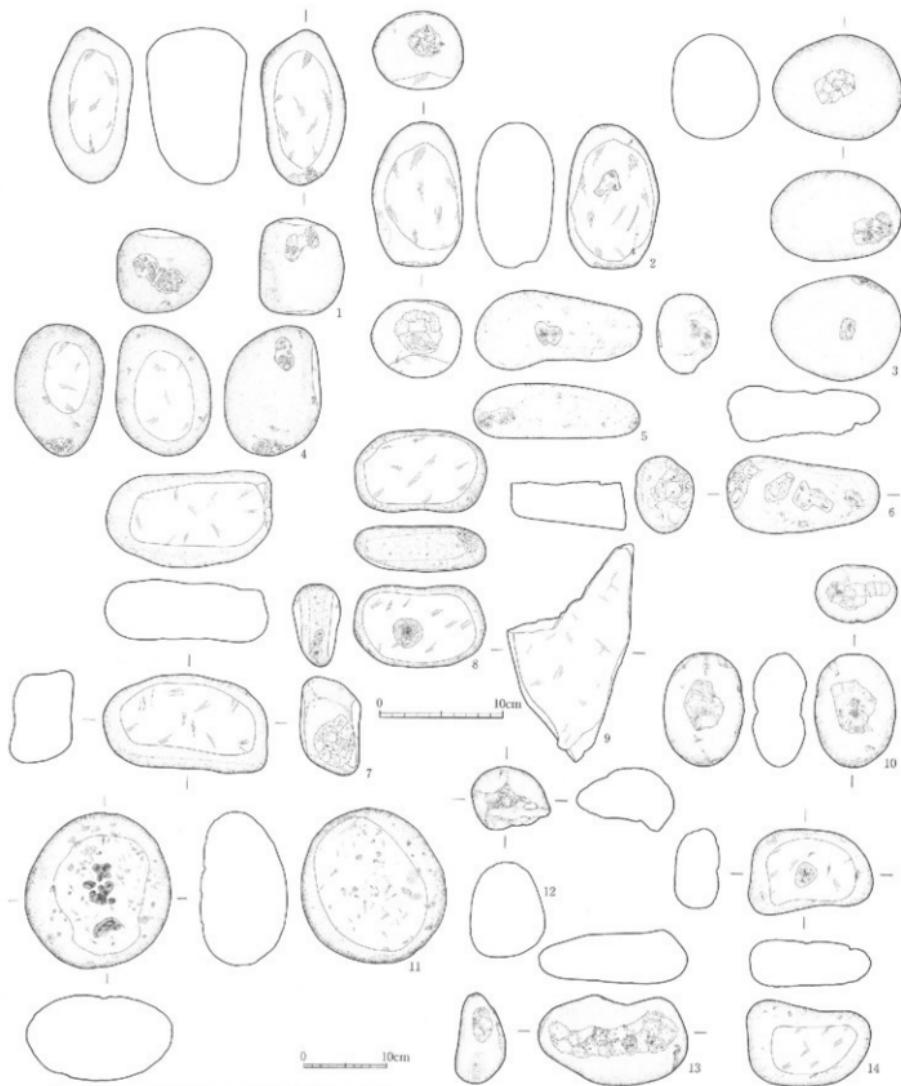
No.	登録番号	種	年	地	区	直	横	外	面	内	直	横	側	厚	参考	写真図版
1	SA-27	陶瓦片	縦	5区		直脚	後脚文・北脚文・助脚	1	ガラ	-	丹波	-	-	105-24		
2	SA-20	陶瓦片	縦	5区		直脚	二段脚文・梁脚文・北脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-25		
3	SA-7	陶瓦片	縦	5区		直脚	LR脚文・北脚文・夏目のある梁脚	1	ガラ	-	-	-	-	105-26		
4	SA-1	陶瓦片	縦	5区		直脚	後脚文・北脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-27		
5	SA-6	陶文・筒瓦	縦	5区		直	北脚文・脚文・側脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-28		
6	SA-5	陶文・筒瓦	縦	5区		直	脚文・側脚文・側脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-29		
7	SA-4	陶文・筒瓦	縦	5区		直	脚文・北脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-30		
8	SA-3	陶文・筒瓦	縦	5区		直	次脚文・L脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-31		
9	SA-9	陶文・筒瓦	縦	5区		直	次脚文・脚文	1	ガラ	-	-	-	-	105-32		
10	SC-1	三脚瓦	縦	5区		直脚	(今守)・(足守)	1	ガラ	-	-	-	-	105-33		
11	SD-7	三脚瓦	縦	5区		直脚	(足下)・(足上)	1	ガラ	-	-	-	-	105-34		
12	SD-1	三脚瓦	縦	5区		直脚	脚	1	ガラ	-	-	-	-	105-35		
No.	登録番号	種	年	地	区	直	横	側	厚	内	直	横	側	厚	参考	写真図版
13	BP-1	土器内腹	砂利	5区		270	310	17	24.0	30.5	12.0	20.2	-	-	105-40	
14	BP-2	土器内腹	砂利	5区		220	380	15	26.0	41.0	17.5	30.0	-	-	105-41	
15	BP-2	土器	砂利	(SA-6)		450	280	49	26.0	22.0	16.0	3.6	新瀬川層	-	105-35	
16	BP-1	土器	砂利	(SA-6)		330.0	250.0	24.7	26.0	22.0	16.0	3.6	新瀬川層	-	105-36	
No.	登録番号	地	区	直	横	側	厚	内	直	横	側	厚	参考	写真図版		
17	BP-6	1区	B9	直	24.0	30.5	12.0	20.2	-	-	-	-	-	105-78		
18	BP-1	1区	B9	直	24.0	31.0	12.0	20.2	-	-	-	-	-	105-79		
19	BP-2	2区	BH1-8	直	26.0	22.0	16.0	3.6	新瀬川層	-	-	-	-	105-12		
20	BP-3	2区	BH1-8	直	27.5	25.5	16.1	3.6	新瀬川層	-	-	-	-	105-13		
21	BP-1	3区	B9	直	25.0	23.0	25.5	6.8	-	-	-	-	-	105-14		

第119図 邊境出土遺物 (4)



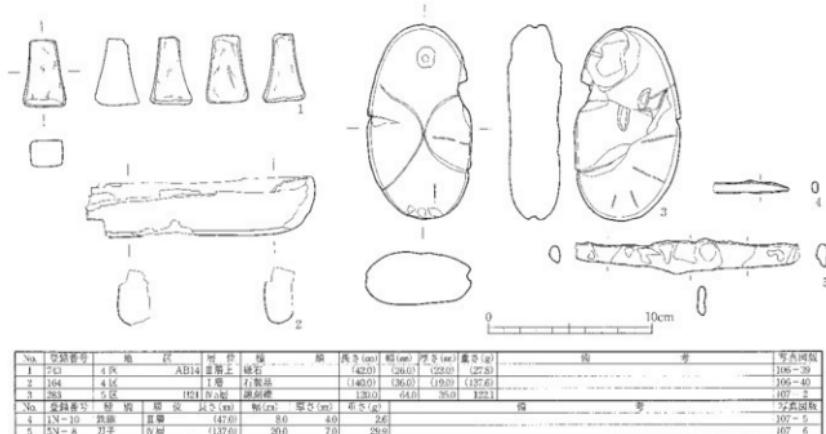
No.	發現番號	區	層	地	類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重さ(g)	考	写真番号
1	122	3区	IVB-7	石壁	石斧	150.0	51.5	24.7	201.7		103-82
2	163	4区	IVB-7	石壁	石斧	26.0	11.0	3.2	15		103-63
3	167	4区	IVB-7	石壁	石片	36.5	31.5	1.2	11.8	兩面打削器	103-19
4	168	5区	IVB-7	石壁	石斧	52.5	28.0	8.5	16.0		103-68
5	271	5区	A21-5	石壁	石斧	51.0	28.0	6.5	7.4		103-69
6	279	5区	B21-5	石壁	石斧	40.0	28.0	6.5	26.8		103-15
7	300	5区	B21-5	石壁	石斧	32.0	34.5	6.5	26.8	兩面打削器	103-90
8	277	3区	B21-5	石壁	石片	47.5	24.0	6.2	5.0	兩面打削器	103-16
9	172	1区	B6-7	石壁	石刀	136.0	100.0	6.5	990.0	刮削器	
10	42	1区	4号房木	石壁	石刀	128.5	89.5	4.5	733.0	刮削器	
11	41	1区	4号房木	石壁	石刀	118.0	87.0	5.5	713.0	刮削器	
12	115	2区	5号房	石壁	石刀	92.0	73.0	4.0	386.1	刮削器	

第120図 漢溝外出土遺物(5)



No.	發現番号	地 区	特 徴	規 則	數	大きさ(w) 幅(cm)	厚さ(h) 高さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	125	3区	113-21	薄板	1	128.0	69.0	6.0	1.114.1	薄・板
2	132	2区	113-3-8	薄板	1	119.0	74.0	6.0	272.4	薄・板・圓
3	157	2区		厚板	1	106.0	86.5	7.0	582.4	厚・圓
4	124	2区	113-21	薄板	1	138.0	78.0	7.0	848.5	薄・板
5	129	2区	113-4-9	薄板	1	134.5	66.0	5.0	545.0	薄・圓
6	169	2区		薄板	1	124.0	63.0	6.0	355.3	薄・圓
7	136	2区	113-21	薄板	1	124.0	63.0	5.0	355.4	薄・板・圓
8	303	5区	113-21	薄板	1	107.0	68.0	3.0	295.0	薄・板・圓
9	299	5区	113-21	薄板	1	130.0	116.0	36.8	730.0	
10	269	5区	113-21	薄板	1	93.0	66.0	4.0	286.6	薄・圓
11	270	5区	113-21	薄板	1	92.0	127.0	10.0	4980.0	薄・圓
12	265	5区	113-21	薄板	1	52.5	65.5	7.0	276.1	薄
13	303	5区	113-21	薄板	1	121.0	74.0	4.0	331.5	薄
14	259	5区	113-21	薄板	1	102.0	71.0	38.0	348.4	薄

第121図 遺構外出土遺物 (6)



第122図 遺構外出土遺物 (7)

[3]まとめ

1. 鋳治屋敷前遺跡は鍛冶屋敷A遺跡の東に隣接しており、名取川と荒川に挟まれた冲積地に位置している。標高は15~17mである。
2. Ⅲ層上面で竪穴住居跡2軒の他土坑、溝跡、掘立柱建物跡柱、河川跡が検出された。竪穴住居跡2軒は、SI-1竪穴住居跡は東壁に、SI-2竪穴住居跡は北壁にカマドが付設されている。前章の鍛冶屋敷A遺跡ではカマドが東壁に付設されたものは平安時代、北壁に付設されたものは奈良時代と考えられたが、本遺跡では出土遺物からもいずれも奈良時代のものであると考えられる。同じⅢ層上面で検出された竪穴住居跡以外の遺構は、山土遺物から奈良時代、平安時代、平安時代以降のものが混在しているものと思われる。中世のものであると考えられる遺物は見られないが、平安時代以降の遺構、特にSD-1溝跡や掘立柱建物跡については、本遺跡の北方200mに所在する官沢跡と関連する遺構である可能性がある。また、鍛冶屋敷A遺跡で検出されたような鍛冶に関係すると考えられる遺構は確認されてはいないが、多量の鉄滓が出土しており、鍛冶屋敷A遺跡と同様の鍛冶関係の遺構が存在していたか、調査区の周辺に存在しているものと考えられる。遺跡周辺の地名が鍛冶屋敷と呼称されていることと全く関係が無いことではないと考えられる。
3. Ⅳa層上面で河川跡が検出された。SR-2河川跡は古代以前のものと考えられるが、5区で灰白色火山灰が堆積する層が検出されており、出土遺物にも平安時代のものが混入していることから平安時代前半には完全に埋まりきっておらず、一部の流路が残っていたことが考えられる。
4. 5区のⅣa層から線刻縦や土偶頭部が出土した。何れも晩期中葉のものであると考えられる。5区のⅣb層は、遺物包含層を形成しているが、範囲は明らかではない。出土遺物は、縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものが混在している。出土状況にも規則性や一括性が認められない。これらのことから、5区のⅣb層は、古代以前に二次的に堆積した遺物包含層であると考えられる。
5. 5区の遺物包含層の下部のV層上面及び4区のV層上面、IVc層上面、2区のIVd層上面、1区のV層上面では、炉跡、土坑、ピット、倒木痕が検出されている。炉跡は4基検出され、2基は石組み炉、2基は地床炉である。2基の石組み炉については1号炉では周囲に掘立柱建物跡や土坑が検出されているが直接の関係は不明であり、

2号炉では周囲に焼け面が検出され、焼土が見られたが、それぞれ周溝などの豎穴住居跡の痕跡は確認できなかった。また、地床炉は3号炉はSR-2河川跡によって、北半部が削平されているが際が検出されており、石組み炉であった可能性もある。3号炉南側、4号炉周辺にピットや周溝などは確認されず、それぞれ豎穴住居跡の痕跡は確認できなかった。

6. 以上のことから、本遺跡と銀治屋敷A遺跡は笊川と名取川に挟まれた地域の自然堤防上に立地する他の遺跡と同様に縄文時代から古代あるいは中世まで集落として営まれた遺跡であることが確認された。

引用・参考文献

- 千葉 仁・工藤 哲司（1986）：「東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書」仙台市文化財調査報告書第91集
波部 紀・吉岡 茂平（1995）：「伊古田遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ－」仙台市文化財調査報告書第193集
手塚 勇他（1986）：「田町貝塚」宮城県文化財調査報告書第111集
吉岡 茂平・森原 信彦他（1996）：「下ノ内浦遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ－」仙台市文化財調査報告書第207集

写 真 図 版



写真1　遺跡周辺の航空写真（1947年撮影）



写真2 鋳冶屋敷A道路全景 (北東→)



写真3 1区SR1河川跡土層断面



写真4 2区SR1上面全景



写真5 SK6断面



写真6 3区SR1上面全景



写真7 3区東壁セクション

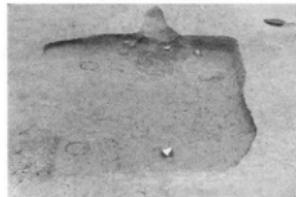


写真8 SI3全景



写真9 SK7遺物出土状況

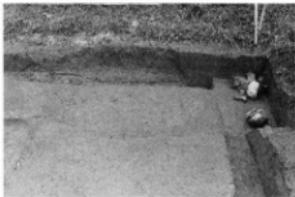


写真10 SX1全景

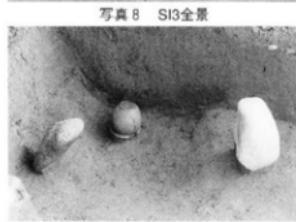


写真11 SX1カマド全景

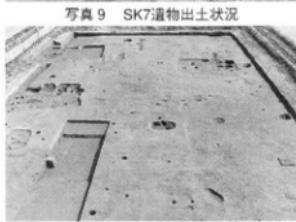


写真12 4区III層上面全景

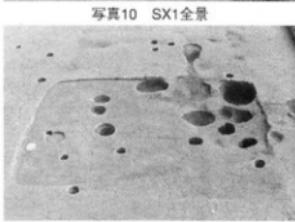


写真13 SI1全景



写真14 SI1貯藏穴1遺物出土状況

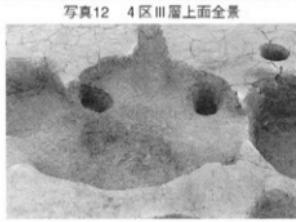


写真15 SI1カマド掘り方全景



写真16 SI2全景



写真17 SI2炉跡



写真18 SI4全景



写真19 SI4カマドソデ石掘り方断面

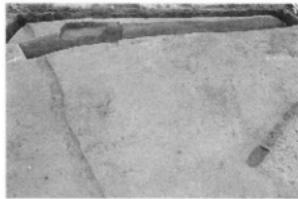


写真20 5区III層上面全景



写真21 5区SD1断面



写真22 1号配石棟出作業



写真23 1号配石全景



写真24 1号配石、配石部

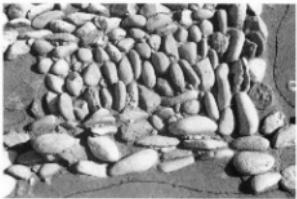


写真25 1号配石、列石部との境



写真26 1号配石断面（南）

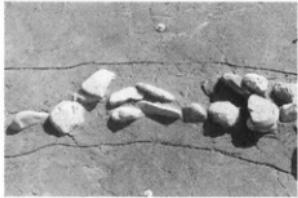


写真27 1号配石、列石部（南）



写真28 1号配石列石断面（北）

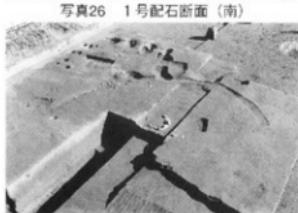


写真29 1号配石掘り方全景

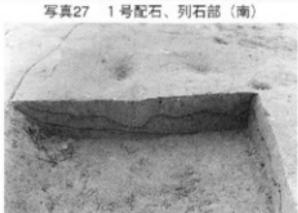


写真30 1号配石断面（南）



写真31 2号配石全景



写真32 3号配石全景



写真33 1号炉全景



写真34 4区IV層中遺物出土状況

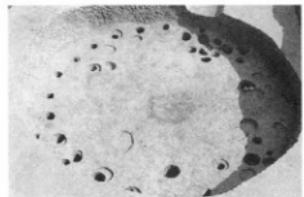


写真35 SI5全景



写真36 SI5断面



写真37 SI5古い炉全景



写真38 SI5遺物出土状況

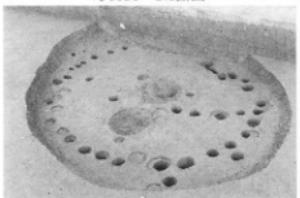


写真39 SI6全景



写真40 SI6断面



写真41 SI6土器出土状況



写真42 SI6土器出土状況



写真43 4区東壁SI6部分



写真44 SK31全景



写真45 SK31土器出土状況



写真46 4区5層上面全景

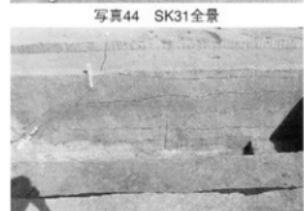


写真47 4区深掘りトレンチ北壁断面

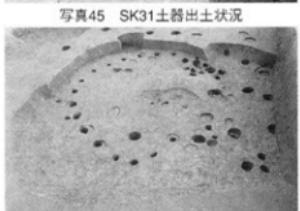


写真48 SX3全景

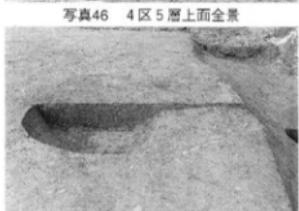


写真49 SK24断面



写真50 SK24全景



写真51 SK25全景



写真52 SB5建物跡



写真53 銀冶窯跡A遺跡 出土遺物(1)

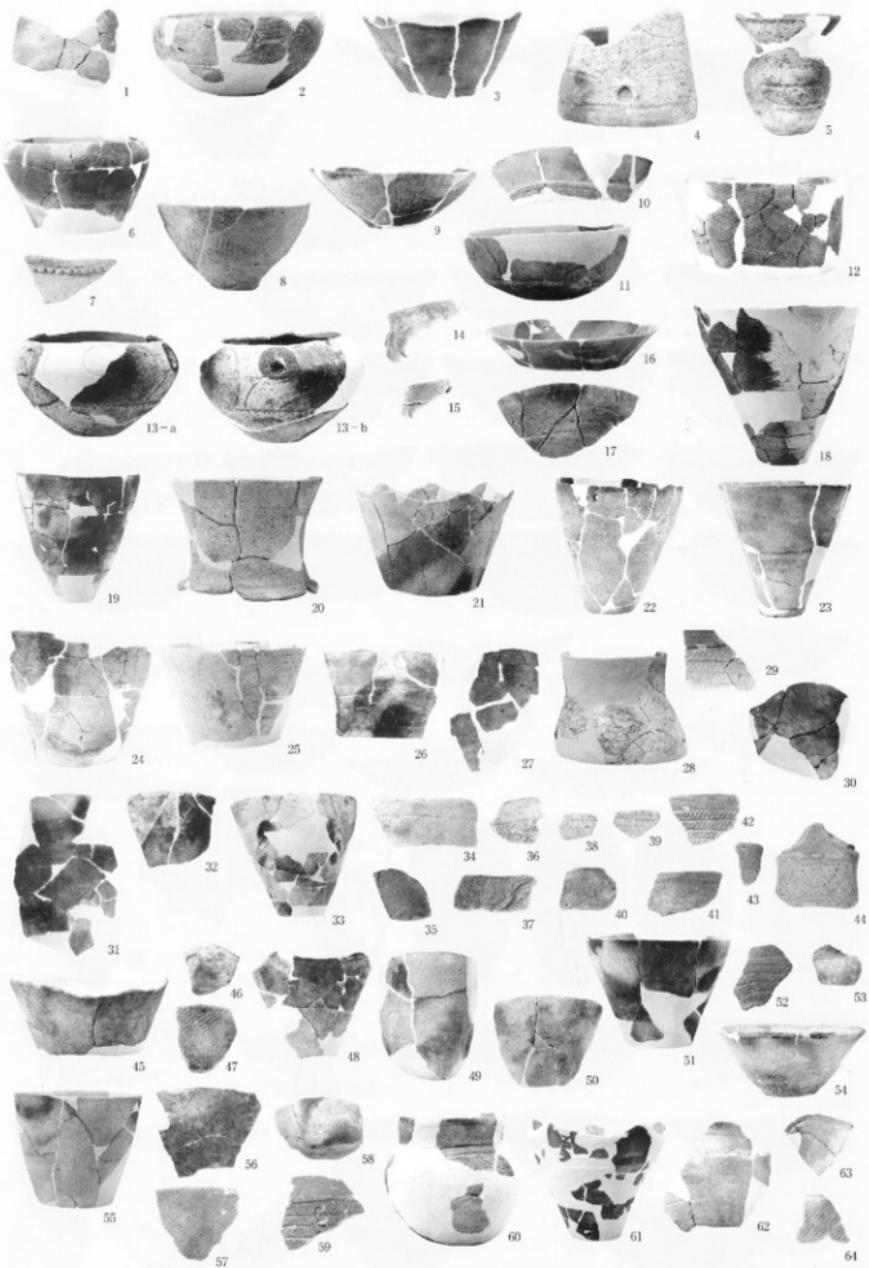


写真54 錫冶屋敷A遺跡 出土遺物(2)

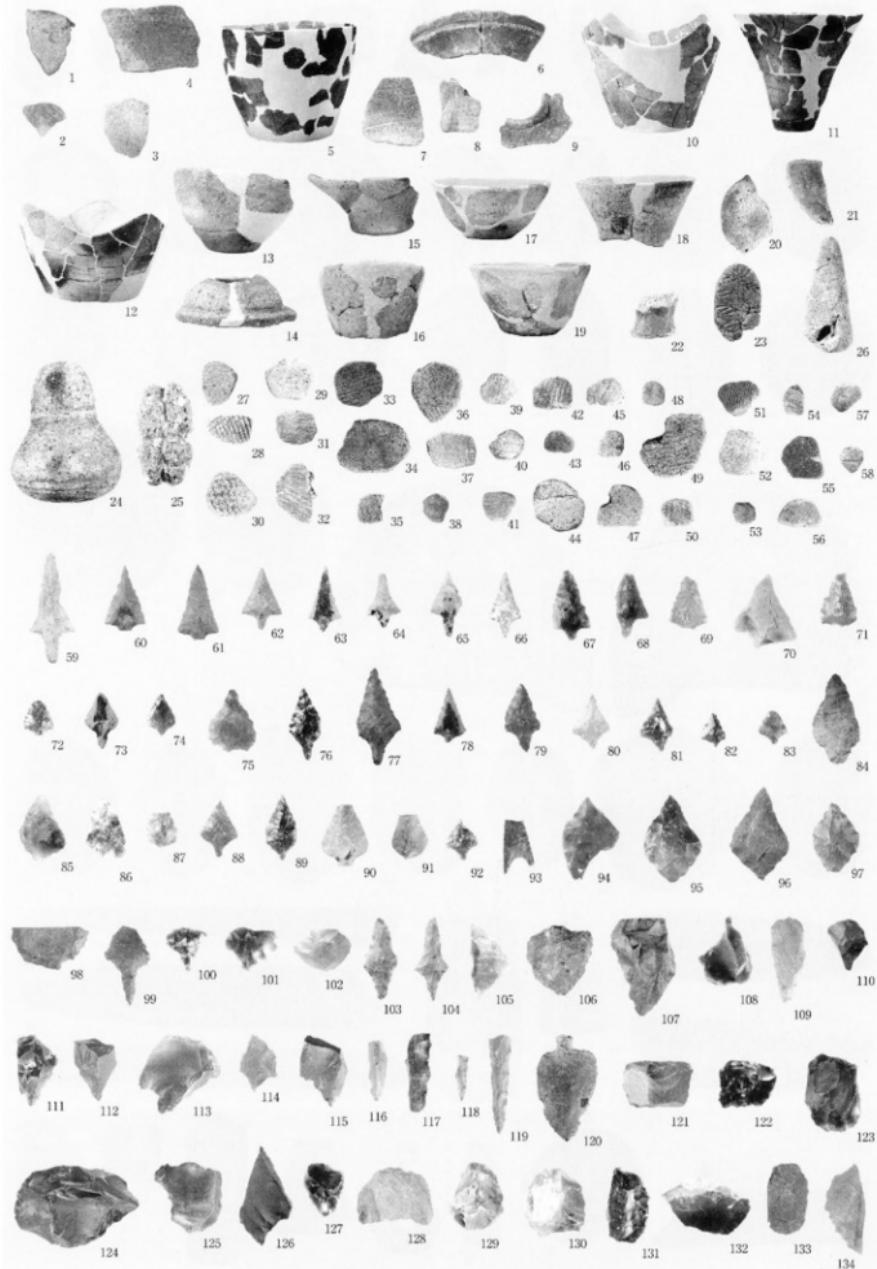


写真55 銀冶屋敷A遺跡 出土遺物(3)

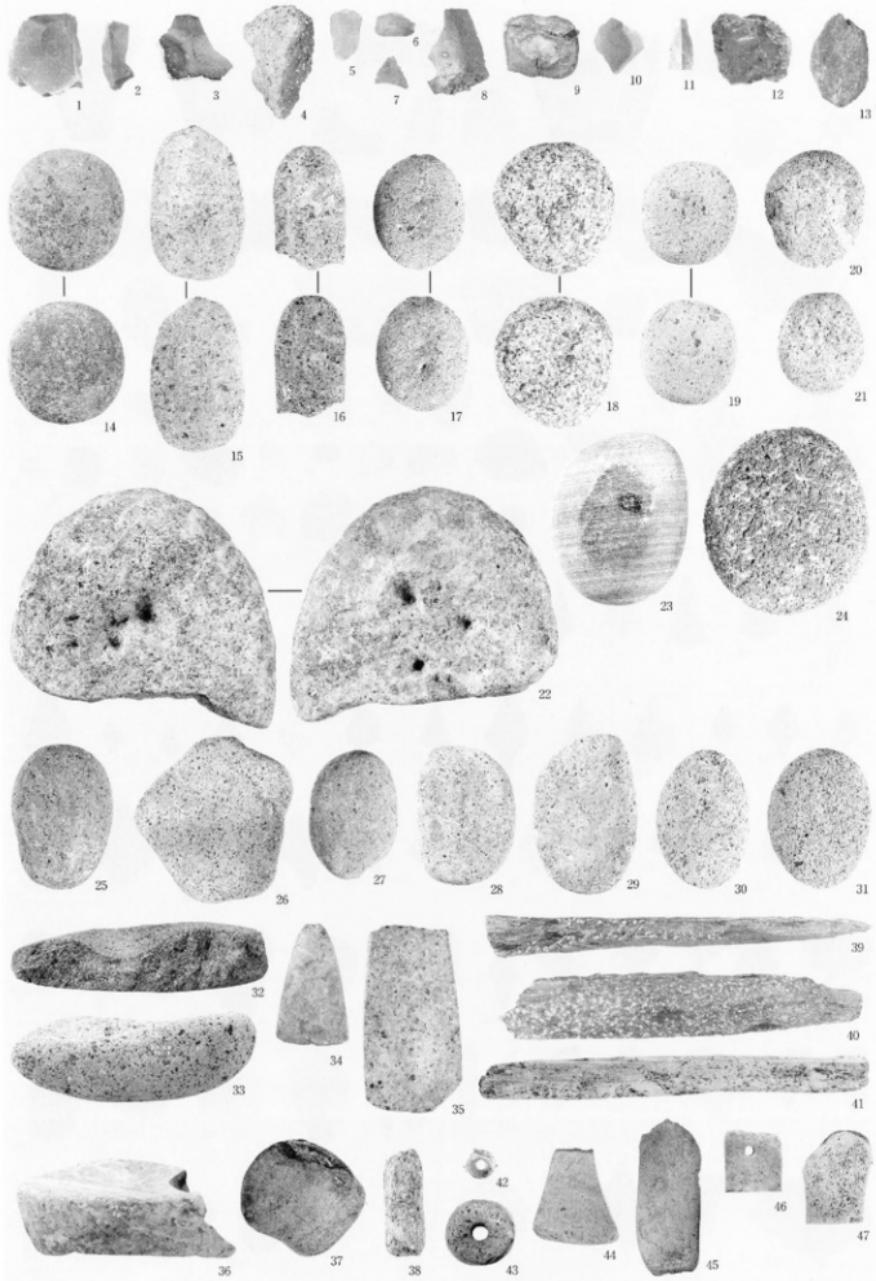


写真56 銅冶屋敷A遺跡 出土遺物(4)

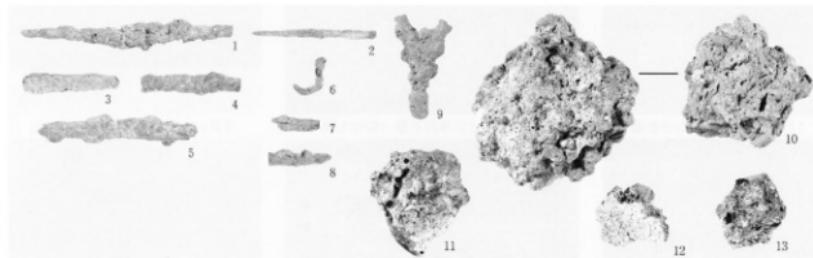


写真57 錫冶屋敷A遺跡出土遺物(5)



写真58 錫冶屋敷前遺跡遠景



写真59 1区SK40全景



写真60 1区SK41全景



写真61 1区SD5全景

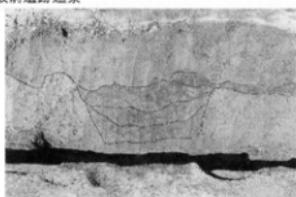


写真62 1区SD5断面



写真63 1区3、4ラインSR1上面



写真64 1区西端部古代面全景



写真65 1区B3区中央トレンチ断面(西)

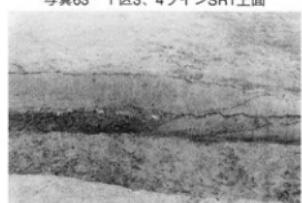


写真66 1区B5深掘トレンチ北壁断面

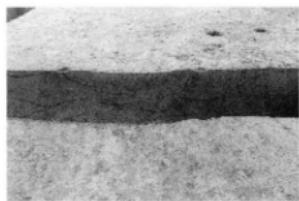


写真67 1区B8区南北トレンチ断面



写真68 2区東部III層～SR2上面

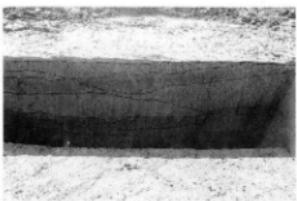


写真69 2区西南トレンチ断面（西）

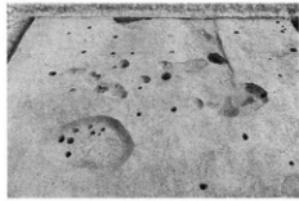


写真70 3区III層上面全景



写真71 SK15全景



写真72 SK15焼土断面

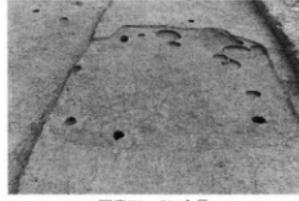


写真73 SI1全景



写真74 SI2全景

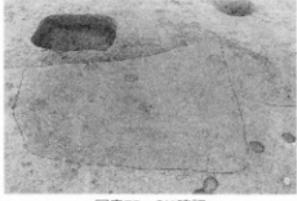


写真75 SI2確認

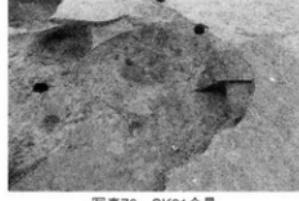


写真76 SK21全景



写真77 SK21断面

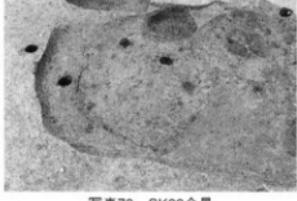


写真78 SK22全景



写真79 SK22断面



写真80 SD3全景



写真81 SD3断面

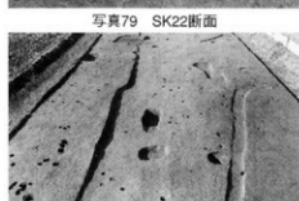


写真82 4区西部III層～SR1上面全景

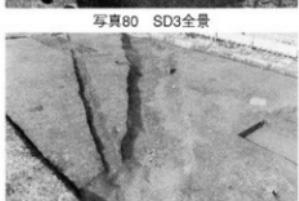


写真83 5区SD1全景



写真84 5区SD1断面



写真85 5区SD2全景



写真86 SX1全景



写真87 5区A20・21 SR2検出状況



写真88 5区荒堀りトレンチ灰白色火山灰堆出状況



写真89 5区SR2断面

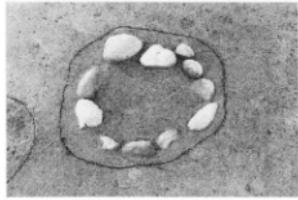


写真90 1号炉検出状況



写真91 1号炉全景



写真92 1号炉掘り方断面



写真93 4区2号炉周辺全景



写真94 2号炉検出状況



写真95 2号炉全景



写真96 2号炉石組



写真97 2号炉石組断面



写真98 2号炉周囲落込全景



写真99 4区3号炉全景



写真100 3区4号炉全景



写真101 4号炉断面

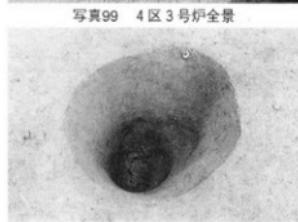


写真102 SK19全景



写真103 錫冶窓敷前遺跡 出土遺物(1)

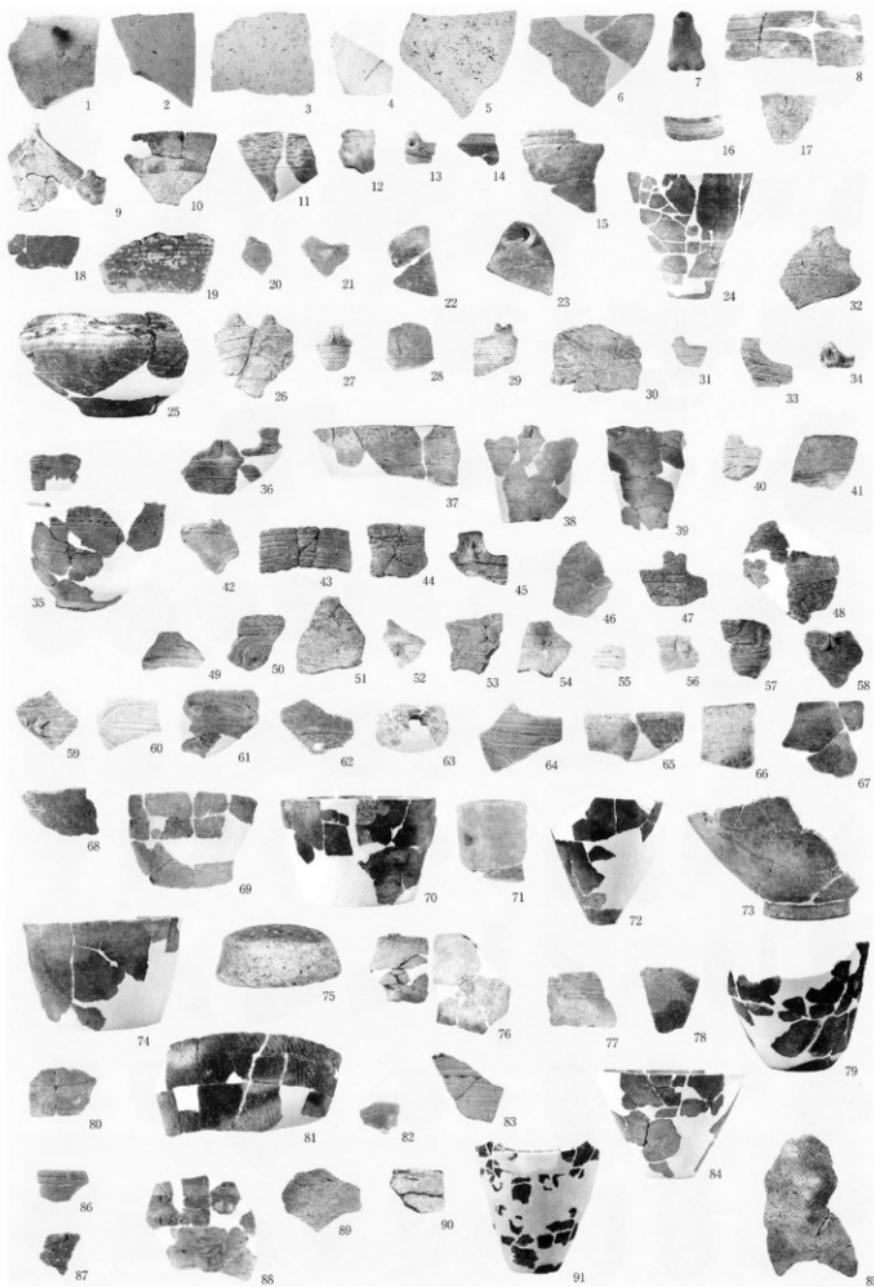


写真104 銀治屋敷前遺跡 出土遺物(2)



写真105 銅冶屋敷前遺跡 出土遺物(3)

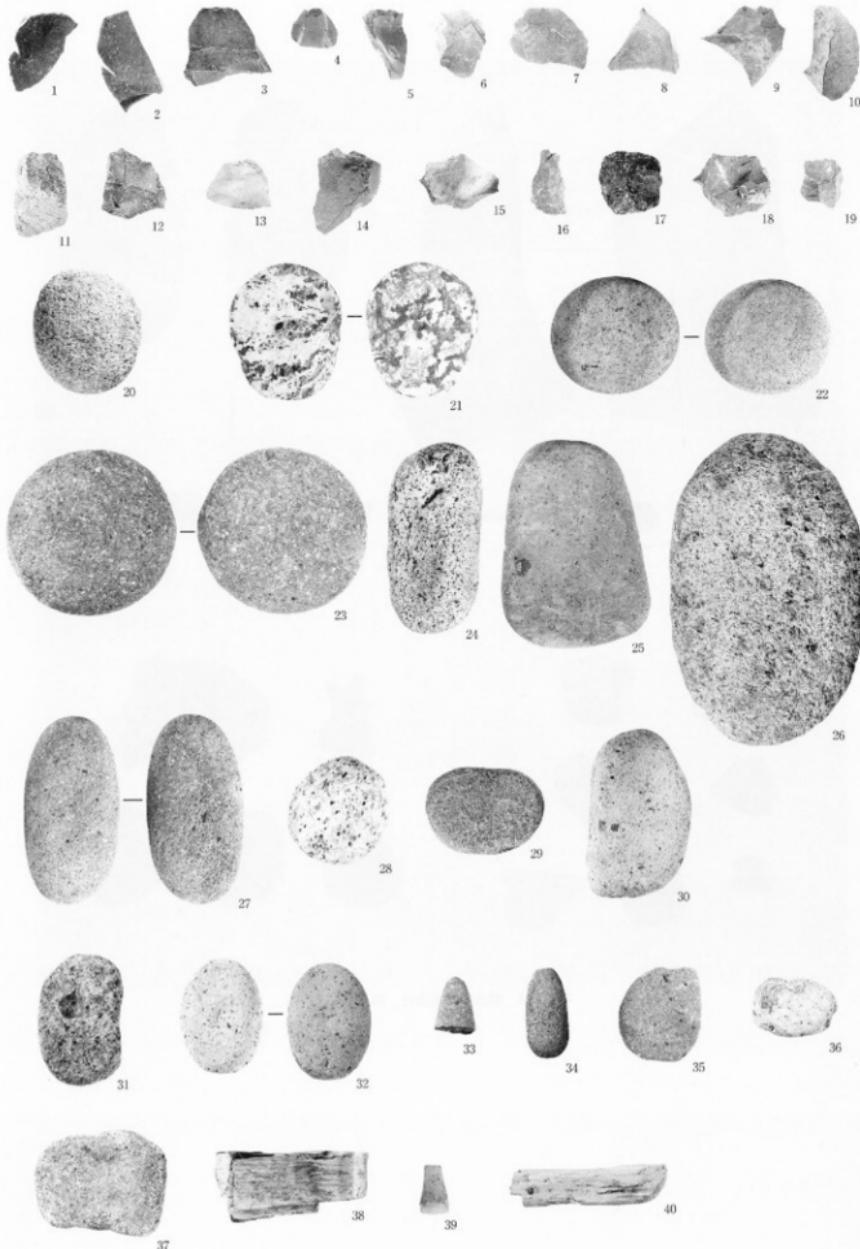


写真106 銀冶屋敷前遺跡 出土遺物(4)

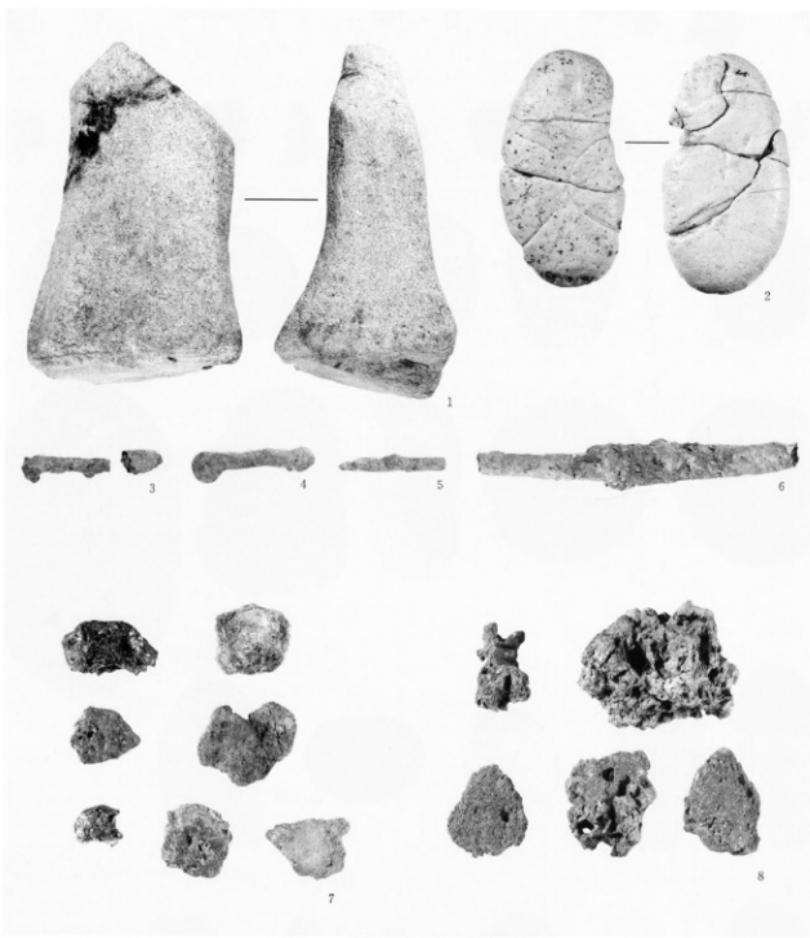


写真107 銀冶屋敷前遺跡 出土遺物(5)

報告書抄録

ふりがな	かじやしきえーいせき・かじやしきまえいせき						
書名	鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡						
圖書名	市道「富田宮沢線」関連遺跡発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第245集						
編著者名	主浜光朗						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022-214-8893~8894						
発行年月日	西暦 2000年3月31日						
所取遺跡名	所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号				
鍛冶屋敷A 遺跡	仙台市 太白区 富田字 京ノ北他	04100	01085	38° 12' 40"	140° 51' 20"	19970701 ~ 19971112	1,550m ² 道路建設
鍛冶屋敷前 遺跡	仙台市 太白区宮沢 字鍛冶屋敷 前他	04100	01511	38° 12' 40"	140° 51' 42"	19970701 ~ 19980206	2,700m ² 道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鍛冶屋敷A 遺跡	集落跡	繩文後期 ・晚期 奈良 平安	堅穴住居跡 土坑 溝跡 掘立柱建物跡 河川跡	繩文土器・土師器 須恵器・瓦 上製品・石器 石製品・鉄製品 鉄滓			
鍛冶屋敷前 遺跡	集落跡	繩文後期 ・晚期 奈良 平安	堅穴住居跡 土坑 溝跡 掘立柱建物跡 河川跡	繩文土器・土師器 須恵器・瓦 土製品・石器 石製品・鉄製品 鉄滓			

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡

—市道「富田富沢線」関連道路発掘調査報告書—

2000年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8893~4

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL263-1166

